DENON

AV サラウンドレシーバー

AVR-3312

取扱説明書

- お買い上げいただき、ありがとうございます。
- ご使用の前に「簡単セットアップガイド」と「取扱説明書」をよくお読みの上、正しくご使用ください。
- お読みになったあとは、いつでも見られるところに「保証書」・「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」と共に大切に保管してください。
- この製品は持ち込み修理対象製品です。
  出張修理をご希望される場合は、別途出張料をご請求させていただくことになりますので、あらかじめご了承願います。詳しくは、保証書の裏面をご覧ください。
- 当社は、環境保全のためにペーパーレス化を推進しております。ご協力とご理解に感謝致します。

ご使用になる前に

安全上のご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずよくお読みください。

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その絵表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例

図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。

感電注意

△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。

分解禁止

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。

電源プラグをコンセントから抜く

●記号は行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。

⚠ 警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

電源プラグをコンセントから抜く

万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く

- 煙や異臭、異音が出たとき
- 落としたり、破損したりしたとき
- 機器内部に水や金属類、燃えやすいものなどが入ったとき

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本体と接続している機器の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、安全を確認してから販売店にご連絡ください。
お客様による修理などは危険ですので絶対におやめください。

必ず実施

ご使用は正しい電源電圧で

表示された電源電圧以外で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

必ず実施

電源コードは大切に

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
電源コードが傷んだら、すぐに販売店に交換をご依頼ください。

必ず実施

電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着しているときは

電源プラグをコンセントから抜いて、乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

火気禁止

火や炎を近づけない

本機の上でろうそくを灯す・タバコの灰皿を使用するなどの火や炎の発生しているものを置かないでください。
火災の原因になります。

禁止

内部に水などの液体や異物を入れない

機器内部に水などの液体や金属類、燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。
火災・感電の原因となります。
特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

水ぬれ禁止

水滴や水しぶきのかかるところに置かない

雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。
水がかかったり、濡れた状態で使用すると火災、感電の原因になります。

分解禁止

ネジを外したり、分解や改造したりしない

内部には電圧の高い部分がありますので、火災・感電の原因となります。
内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。

接触禁止

雷が鳴り出したら

機器や電源プラグには触れないでください。
感電の原因となります。

接触禁止

高温注意

使用中、使用直後に高温となる部分には触らない

使用中、使用直後は上面や高温注意マークの付近には触れないでください。
機器の放熱のために高温となっており、触れた場合にやけどをする恐れがあります。

禁止

乾電池は充電しない

電池の破裂・液漏れにより、火災・けがの原因となります。

水場での使用禁止

風呂・シャワー室では使用しない

火災・感電の原因となります。

水ぬれ禁止

この機器の上に花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品や水などが入った容器、および小さな金属物を置かない

こぼれたり、中に入ったりした場合、火災・感電の原因となります。

⚠注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、
人が軽傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

注意
禁止

付属の電源コードを使用する

他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。
また、付属の電源コードは本機以外には使用しないでください。
電流容量などの違いにより火災・感電の原因となることがあります。

必ず実施
禁止

電源コードは確実に接続し、束ねたまま使用しない

電源コードを接続するときは接続口に確実に差し込んでください。差し込みが不完全な場合、火災・感電の原因となることがあります。
根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントには接続しないでください。その場合、販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。
また、電源コードは束ねたまま使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

禁止

電源コードを熱器具に近付けない

コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

禁止

電源プラグを抜くときは

電源コードを引っ張らずに必ずプラグを持って抜いてください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

ぬれ手禁止

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜く

すぐにコンセントから電源プラグを抜くことができるように設置する

電源のスイッチを切ってもコンセントからは完全に遮断されていません。
万一の事故防止のため、本機をコンセントの近くに置き、すぐにコンセントから電源プラグを抜くことができるようにしてください。

必ず実施

機器の接続は説明書をよく読んでから接続する

テレビ・オーディオ機器・ビデオ機器などの機器を接続する場合は、電源を切り、各々の機器の取扱説明書に従って接続してください。
また、接続には指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したり、コードを延長したりすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

必ず実施

電源を入れる前には音量を最小にする

突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

禁止

長時間音が歪んだ状態で使用しない

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

必ず実施
禁止

電池を交換するときは

- 極性表示に注意し、表示通りに正しく入れる
- 指定以外の電池は使用しない
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない

間違えると電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

禁止

ヘッドホンを使用するときは音量を上げすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聴くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

禁止

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

禁止

次のような場所には置かない

火災・感電の原因となることがあります。

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたるようなところ
- 湿気やほこりの多いところ
- 直射日光のあたるところや暖房器具の近くなど高温になるところ

必ず実施

壁や他の機器から少し離して設置する

放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面や背面から少し隙間をあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

禁止

通風孔をふさがない

内部の温度上昇を防ぐため、通風孔が開けてあります。次のような使いかたはしないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

- あお向けや横倒し、逆さまにする
- 押し入れ・専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い場所に押し込む
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん・布団の上に置いたりして使用する

禁止

この機器に乗ったり、ぶら下がったりしない

特に幼いお子様のいるご家庭では、ご注意ください。倒れたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

禁止

重いものをのせない

機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下したりして、けがの原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜く

移動させるときは

まず電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してからおこなってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜く

長期間の外出・旅行のとき、またはお手入れのときは

安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災・感電の原因となることがあります。

注意

5 年に一度は内部の掃除を

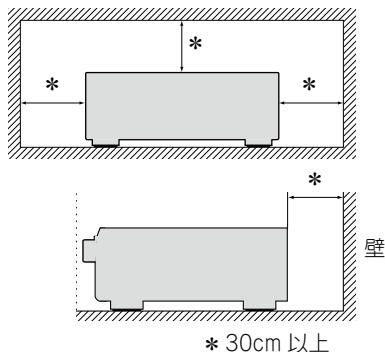
販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。
特に、湿気の多くなる梅雨期の前におこなうと、より効果的です。なお、内部の掃除費用については販売店などにご相談ください。

目次

使用上のご注意

設置について

本機内部の放熱を良くするために、壁や他の機器との間は、十分に離して設置してください。

＊30cm 以上

携帯電話使用時のご注意

本機の近くで携帯電話をご使用になると、雑音が入る場合があります。携帯電話は本機から離れた位置で使用してください。

お手入れについて

- キャビネットや操作パネル部分の汚れは、やわらかい布で軽く拭き取ってください。化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。
- ベンジンやシンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると、変質や変色の原因になりますので使用しないでください。

結露（つゆつき）について

本機を寒いところから急に暖かいところに移動させたり、本機を設置した部屋の温度を暖房などで急に上げたりすると、内部（動作部）に水滴が付くことがあります（結露）。結露したまま本機を使用すると、正常に動作せず、故障の原因となることがあります。結露した場合は、本機の電源を切ったまま 1～2 時間放置してから使用してください。

ステレオ音のエチケット

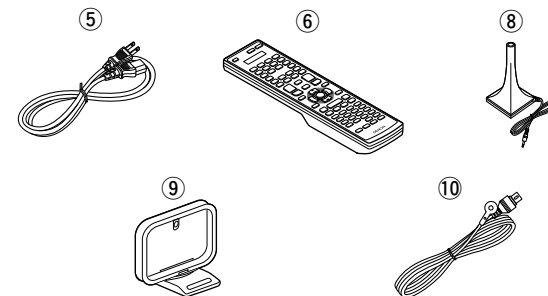
- 隣近所への配慮（おもいやり）を十分にいたしましょう。
- 特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。

付属品を確認する

ご使用の前にご確認ください。

① 簡単セットアップガイド......1
② CD-ROM（取扱説明書）......1
③ 保証書（梱包箱に貼り付けています）......1
④ 製品のご相談と修理·サービス窓口のご案内......1
⑤ 電源コード【本機専用】......1
⑥ リモコン（RC-1156）......1
⑦ 単3形乾電池......2
⑧ セットアップマイク（DM-A409）......1
⑨ AMループアンテナ......1
⑩ FM室内アンテナ......1

⑤ ⑥ ⑧ ⑨ ⑩

基本編
応用編
情報編

本機の特長

ディスクリート回路構成による全 7 チャンネル同一クオリティーのパワーアンプ搭載 (☞154 ページ) (実用最大出力 195W、6 Ω)

本機には、オリジナル音源を忠実にサラウンド再生するために、全チャンネルに同一のクオリティーと同一のパワーを持つパワーアンプを搭載しています。
パワーアンプ回路には、ディスクリート回路構成を採用することによって、高品位なサラウンド再生を実現しています。

インターネットラジオなどのネットワーク機能に加え、AirPlay® 機能を搭載 (☞41、76 ページ)

インターネットラジオを聴いたり、パソコンに保存している音楽ファイルを再生したり、テレビに写真を映したりするなど、さまざまな再生をお楽しみいただけます。
また、本機は AirPlay 機能も搭載していますので、iTunes や iPhone/iPod touch/iPad の音楽をネットワークを通して本機で再生します。

iPhone や iPod touch で本機の基本的な操作がおこなえる“Denon Remote App”に対応 *1

“Denon Remote App” は、iPhone や iPod touch から本機の電源のオン / オフやボリュームコントロール、ソースの切り替えなどの基本操作がおこなえるアプリケーションソフトです。

*1 “Denon Remote App” を iTunes® の App Store からダウンロード (無料) してください。本機を LAN 接続し、同じネットワーク上に Wi-Fi(無線 LAN) にて iPhone/iPod touch を接続する必要があります。

基本的な設定が簡単にできるセットアップウィザード (📖 8 ページ)

テレビ画面に表示する操作ガイドに沿って、誰でも簡単にスピーカーの接続や基本的な設定がおこなえます。

操作性に優れたグラフィカル・ユーザー・インターフェース (☞85 ページ)

本機には、メニュー表示や階層ディレクトリーを視覚的にわかりやすくした“グラフィカル・ユーザー・インターフェース” を搭載しています。階層を表示させることで、自分が何処にいて、何を設定しようとしているのかがわかりやすくなり、操作性を向上させています。

iPhone® や iPod® の再生に対応した USB 端子搭載 (☞18 ページ)

iPod に付属の専用 USB ケーブルを本機の USB 端子に接続すると、iPod の再生や、本機のリモコンで iPod の操作ができます。
また、iPod が接続された状態で、本体の **iPod ▶** ボタンを押すと、すぐに iPod の音楽を再生します。

HDMI (3D、ARC、Deep Color、“x.v.Color”、オートリップシンク) および HDMI コントロール機能対応(☞10 ページ)

本機は、ブルーレイディスクプレーヤーから入力する 3D ビデオ信号を、3D 対応テレビに出力することができます。また、本機とテレビ *2 を接続している HDMI ケーブルを経由してテレビの音声を本機で再生する ARC(Audio Return Channel) 機能にも対応しています。

*2 テレビも ARC 機能に対応していることが必要です。

さまざまなデジタル AV 機器を接続できる HDMI 端子を装備(入力 : 7 系統、出力 2 系統) (☞10 ページ)

本機には 7 系統の HDMI 入力端子を装備しており、ブルーレイディスクプレーヤー、ゲーム、HD ビデオカメラなどのさまざまな HDMI 端子搭載機器との接続ができます。

HDMI2 系統による同時再生(☞10 ページ)

本機には、2 つの HDMI モニター出力を備えています。1 つをプロジェクターに、もう 1 つをテレビに接続し、信号を同時に出力できます。

アナログ映像信号 (SD 解像度) を 1080p(HD 解像度) の信号にアップスケーリングするデジタルビデオプロセッサー搭載(☞8 ページ)

本機には、本機に入力されるアナログ映像信号を 1080p (HD 解像度) 信号にアップスケーリングして HDMI 端子からテレビに出力できる「HDMI ビデオアップスケーリング機能」を搭載しています。これにより本機とテレビの接続が HDMI ケーブル 1 本で済むだけでなく、どの映像ソースでも HD 画質に迫る精細な映像を再現することができます。

ブルーレイディスクプレーヤーの HD オーディオに対応 (☞57 ページ)

本機は、ブルーレイディスクプレーヤーの音声フォーマットである Dolby TrueHD や DTS-HD Master Audio などの高品位デジタル音声フォーマットを再生できます。

Audyssey DSX™(☞60 ページ)

本機は Audyssey DSX™ プロセッサーを搭載しています。本機にフロントハイトスピーカーを接続して Audyssey DSX™ 再生をおこなうことにより、より上下の空間表現力を持った再生をお楽しみいただけます。また、フロントワイドスピーカーを接続することで、よりワイドな左右の空間表現力をもった再生をお楽しみいただけます。

基本編

ここでは、本機の基本的な接続や操作方法について説明しています。

- **接続のしかた　（☞8 ページ）**
- **設定のしかた　（☞24 ページ）**
- **再生のしかた（基本操作）　（☞31 ページ）**
- **リスニングモードを選ぶ（サラウンドモード）　（☞53 ページ）**

機器	項目	ページ	機器	項目	ページ
TV	接続のしかた	☞11、13 ページ	BD	接続のしかた	☞11、14 ページ
	再生のしかた	–		再生のしかた	☞33 ページ
DVD	接続のしかた	☞11、14 ページ	CD	接続のしかた	☞20 ページ
	再生のしかた	☞33 ページ		再生のしかた	☞33 ページ
DVR	接続のしかた	☞11、16 ページ	SAT/CBL	接続のしかた	☞11、15 ページ
	再生のしかた	–		再生のしかた	–
DOCK	接続のしかた	☞17 ページ	iPod	接続のしかた	☞18 ページ
	再生のしかた	☞34 ページ		再生のしかた	☞36 ページ
USB	接続のしかた	☞18 ページ	GAME	接続のしかた	☞10 ページ
	再生のしかた	☞50 ページ		再生のしかた	–
V.AUX	接続のしかた	☞17 ページ	PHONO	接続のしかた	☞20 ページ
	再生のしかた	–		再生のしかた	–
TUNER	接続のしかた	☞19 ページ	NET	接続のしかた	☞22 ページ
	再生のしかた	☞38 ページ		再生のしかた	☞41 ページ

スピーカーの接続については、62 ページ、10 ページ「スピーカーを接続する」をご覧ください。

知っておいてほしいこと

- この取扱説明書では、対応するすべての音声信号方式や映像信号方式の接続方法を説明しています。接続する機器に合わせていずれかの接続方法を選んでください。
- 接続方法によっては、本機の設定が必要なものもあります。詳しくは、各接続項目の説明をご覧ください。
- ご使用になる機器に合わせて、別売りのケーブルをご用意ください。

ご注意

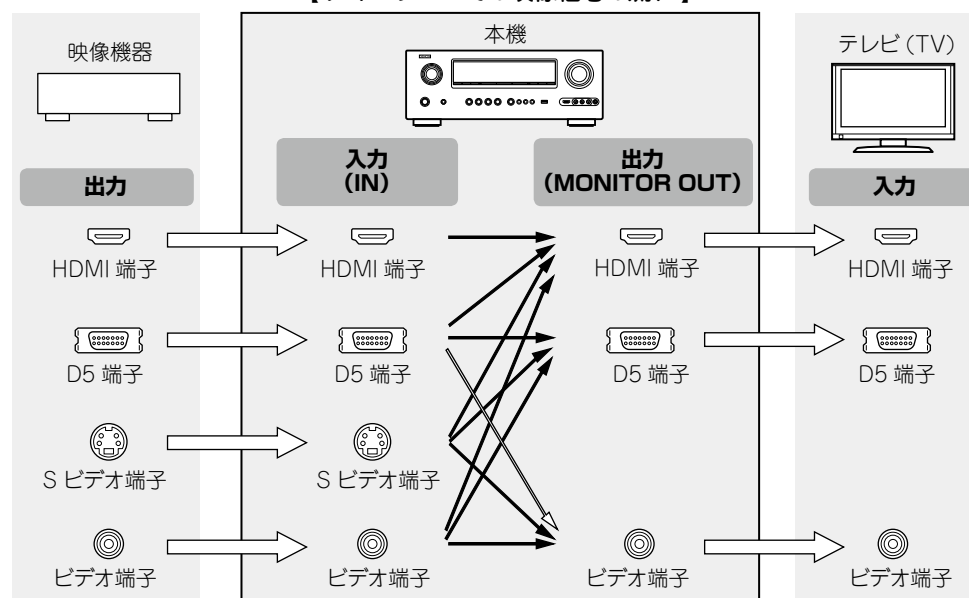
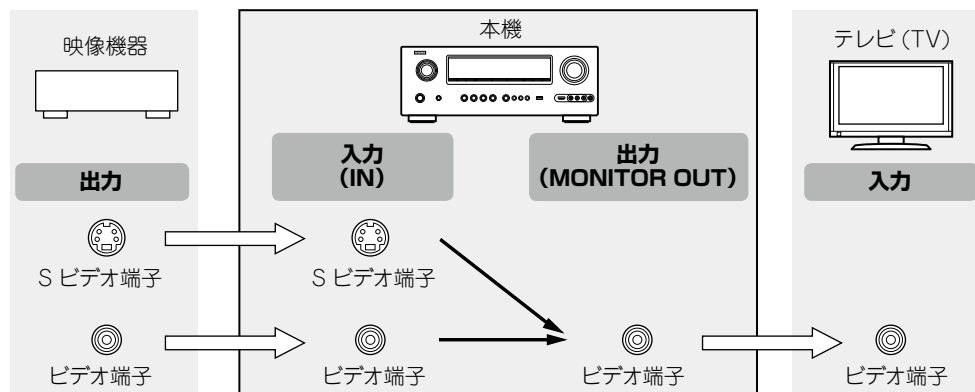
- すべての接続が終わるまで電源プラグをコンセントに差し込まないでください。ただし、セットアップウィザード中（8 ページ）はセットアップウィザードの指示に従って接続してください。（セットアップウィザード中、入出力端子は通電しません。）
- セットアップウィザード（8 ページ）中は、接続する機器の電源をオフにしてください。
- 接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 左右のチャンネルを確かめてから、正しく L と L、R と R を接続してください。
- 接続ケーブルは、電源コードやスピーカーケーブルと一緒に束ねないでください。雑音の原因となることがあります。

入力された映像信号を変換して出力する（ビデオコンバージョン機能）

本機には 4 種類（HDMI、D 端子、S ビデオ、ビデオ）の映像入力端子と 3 種類（HDMI、D 端子、ビデオ）の映像出力端子があります。接続する機器に合わせて使用してください。
この機能は、本機に入力されたさまざまな方式の映像信号を、本機からテレビに出力する映像信号方式に自動的に変換して出力するものです。

【メインゾーンでの映像信号の流れ】

：入力信号が 480i/576i の場合

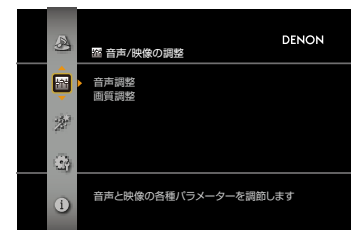
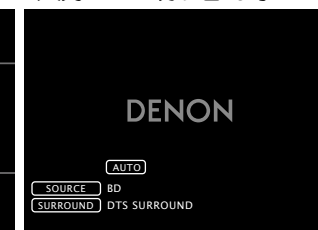
次のページへ

【ゾーン 2 での映像信号の流れ】

必要に応じて設定してください

- ビデオコンバージョン機能を使用しないときに設定します。
  "ビデオコンバート"(☞94 ページ)
- 映像信号の解像度を変更するときに設定します。
  "解像度"(☞94 ページ)

- D5 端子は、コンポーネントビデオ信号とコントロール信号を 1 本のケーブルで伝送できます。
- ビデオコンバージョン機能は、NTSC、PAL、SECAM、NTSC4.43、PAL-N、PAL-M および PAL-60 のフォーマットに準拠しています。
- 本機の HDMI 端子からの映像出力信号の解像度は、メニューの"解像度"(☞94 ページ)で設定します。
- HDMI 対応テレビの解像度は、"HDMI 情報"⇨"モニター 1"または"モニター 2"(☞121 ページ)で確認することができます。

ご注意

- HDMI 信号をアナログ信号に変換することはできません。
- ゲーム機など特殊な映像信号を入力した場合、ビデオコンバージョン機能が動作しないことがあります。
- 480p/576p/1080i/720p/1080p コンポーネントビデオ入力信号は、ビデオ信号には変換できません。

画面表示の例

- メニュー画面
- 状態表示画面
  入力ソース切り替え時　　音量調節時

状態表示：入力ソースの切り替えや音量調節時に、一時的に操作の状態を表示します。

ご注意

- コンピューター解像度(例：VGA)の映像または一部の 3D ビデオコンテンツの再生中は、状態表示画面を表示できません。
- コンピューター解像度(例：VGA)の映像または一部の 3D ビデオコンテンツを再生中にメニュー操作すると、再生映像は、メニュー画面の映像に切り替わります。

HDMI 端子付きの機器を接続する

本機へ HDMI 対応機器を 9 台（7 入力 /2 出力 ）まで接続できます。

HDMI 機能

本機は次の HDMI 機能に対応しています。

- 3D
- Deep Color（☞146 ページ）
- オートリップシンク（☞109 ページ）
- “x.v.Color”、sYCC601 color、Adobe RGB color、Adobe YCC601color（☞145、148 ページ）
- HD オーディオフォーマット
- ARC（Audio Return Channel）
- Content Type
- CEC（HDMI コントロール）

著作権保護システムについて
HDMI 接続を通して BD ビデオや DVD ビデオなどのデジタル映像と音声を再生するためには、プレーヤーとテレビ、プレーヤーと AV アンプなどの双方が HDCP（High-bandwidth Digital Content Protection System）と呼ばれる著作権保護システムに対応している必要があります。HDCP はデータの暗号化と相手機器の認証からなるコピープロテクション技術です。本機は、HDCP に対応しています。 • HDCP に対応していない機器を接続した場合は、映像と音声を正しく出力しません。お手持ちのテレビやプレーヤーなどについては、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

HDMI ケーブルについて

- Deep Color 対応の機器を接続するときは、“ハイスピード HDMI ケーブル”または“イーサネット対応ハイスピード HDMI ケーブル”を使用してください。
- ARC 機能を使用するときは、HDMI 対応の“イーサネット対応標準 HDMI ケーブル”または“イーサネット対応ハイスピード HDMI ケーブル”で接続してください。

HDMI コントロール機能（☞71 ページ）

本機で外部機器を操作したり、外部機器から本機を操作したりすることができます。

ご注意

- 接続する機器や設定によって、HDMI コントロール機能がはたらかない場合があります。
- HDMI コントロール機能に対応していないテレビやブルーレイディスクプレーヤー、DVD プレーヤーは操作できません。

3D 機能について

本機は、HDMI 規格の 3D（3 次元）映像信号の入力 / 出力に対応しています。3D 映像の再生には本機の他に、HDMI 規格の 3D 機能に対応しているプレーヤーとテレビが必要です。また、3D 映像をご覧いただくには、別売りの 3D メガネが必要です。

ご注意

- 3D 映像を再生するときは、本機の取扱説明書と一緒に 3D 映像機器の取扱説明書もご覧ください。
- 本機は 3D ビデオコンテンツの再生中に、メニュー画面や状態表示画面に映像を重ねて表示できます。ただし、一部の 3D ビデオコンテンツではメニュー画面や状態表示画面に映像を重ねて表示できません。
- 3D 情報がない 3D 映像を入力した場合、本機のメニュー画面および状態表示画面を重ねて表示します。
- テレビ側で 2D 映像を 3D 映像へ変換した場合、本機のメニュー画面および状態表示画面は正しく表示しません。本機のメニュー画面および状態表示画面を正しくご覧になりたいときは、テレビの 2D 映像を 3D 映像へ変換する設定をオフにしてください。

ARC（Audio Return Channel）機能について

テレビの音声信号を HDMI ケーブルを経由して本機に伝送し、本機でテレビの音声を再生する機能です。

ご注意

- ARC 機能は、ARC 機能対応のテレビを HDMI 接続したときに動作します。このとき、メニューの“HDMI コントロール”⇨“コントロール”（☞109 ページ）を“オン”に設定してください。
- ARC 機能は、HDMI MONITOR 1 と HDMI MONITOR 2 を両方同時に使用できません。ARC 機能に対応しているテレビと、接続している HDMI MONITOR 端子に合わせて、メニューの“HDMI コントロール”⇨“コントロールモニター”設定（☞110 ページ）を本機でおこなってください。
- ARC 機能に対応していないテレビと接続する場合は、HDMI ケーブルの他に音声ケーブルが必要になります。このときの接続方法は、「テレビを接続する」（☞13 ページ）をご覧ください。

Content Type 機能について

HDMI 規格で追加された機能です。この機能は、出力映像の種類（コンテンツ情報）に適した設定を自動でおこなう機能です。

ご注意

本機では、メニューの“ビデオモード”設定（☞93 ページ）が“オート”のときに Content Type 機能が動作します。

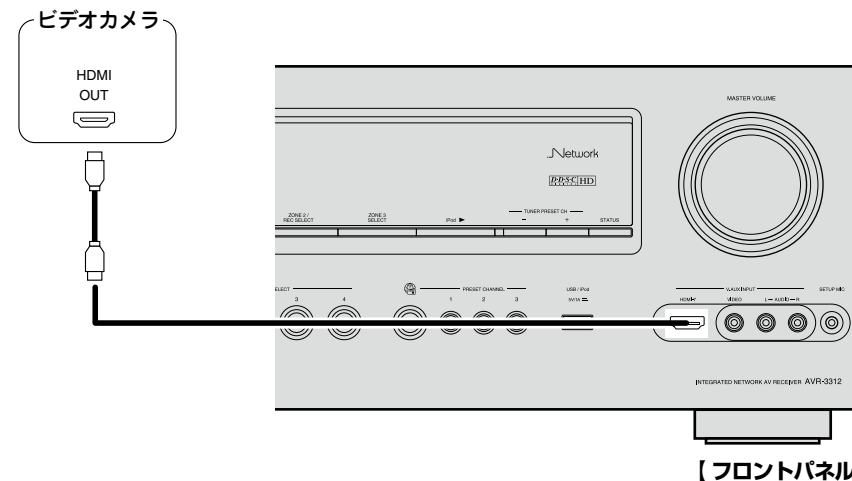
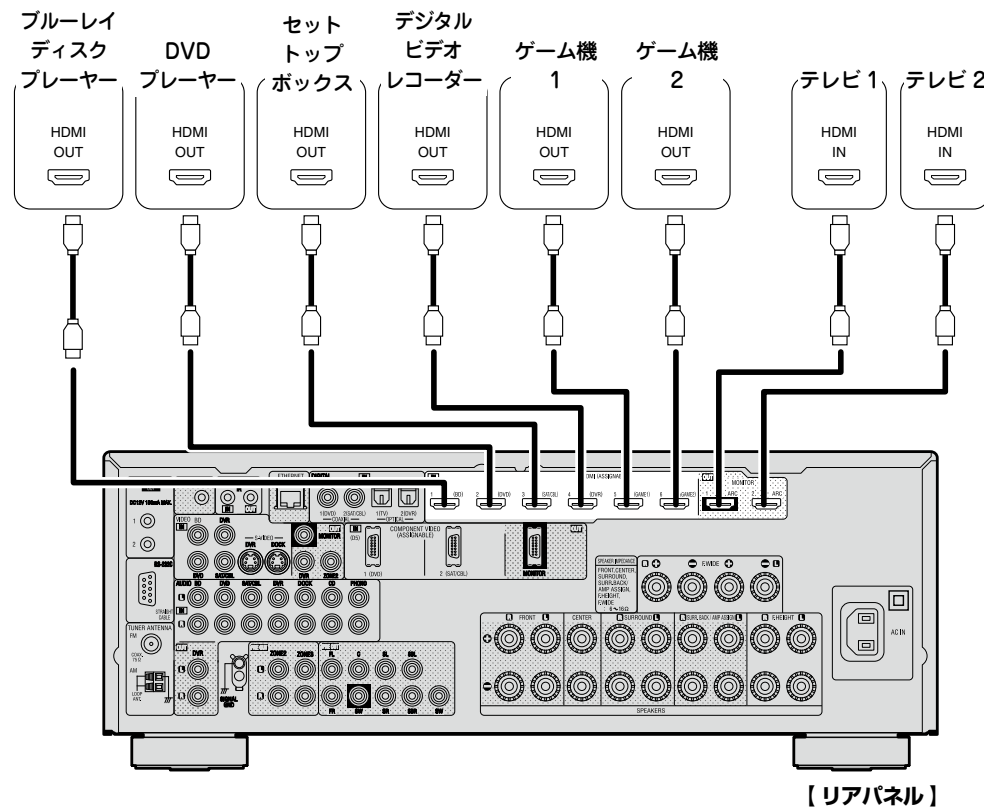
☞ 次のページへ

接続に使用するケーブル

音声＆映像ケーブル（別売り）
HDMI ケーブル

- デジタル映像信号とデジタル音声信号を HDMI ケーブル 1 本で伝送できるインターフェースです。

【 リアパネル 】

【 フロントパネル 】

- 本機とプレーヤーを HDMI ケーブルで接続した場合は、本機とテレビも HDMI ケーブルで接続してください。
- Deep Color（ディープ・カラー）対応の機器を接続するときは、“ハイスピード HDMI ケーブル”または“イーサネット対応ハイスピード HDMI ケーブル”を使用してください。
- プレーヤーの解像度を、テレビが対応している解像度に合わせてください。プレーヤーとテレビの解像度が合っていない場合、映像は出力されません。
- 本機とテレビを HDMI ケーブルで接続しても、テレビが HDMI 音声の再生に対応していない場合は、映像信号のみをテレビに出力します。

ご注意

- HDMI コントロール機能をご使用になる場合は、メニューの“HDMI コントロール” ⇨“コントロール”（☞109 ページ）を“オン”に設定し、HDMI コントロール機能で動作させる HDMI MONITOR 端子をメニューの“HDMI コントロール” ⇨“コントロールモニター”（☞110 ページ）で設定してください。
- HDMI 出力端子からの音声信号（サンプリング周波数、チャンネル数など）は、相手側の機器が入力できる HDMI 音声の仕様に制限されることがあります。

☞ 次のページへ

DVI-D 端子付きの機器に接続するとき

HDMI/DVI 変換ケーブル（別売り）をご使用になると、HDMI の映像信号を DVI 信号に変換して、DVI-D 端子付きの機器に接続することができます。

ご注意

- DVI-D 端子付きの機器と接続する場合、音声は出力されません。音声の接続をおこなってください。
- HDCP に対応していない DVI-D 機器には出力できません。
- 機器の組み合わせによって、映像が出力されない場合があります。

❑HDMI 接続に関する設定

必要に応じて設定してください。詳しくは、各参照ページをご覧ください。

入力端子の割り当て（☞92 ページ）

入力ソースに割り当てられている入力端子を変更するときに設定してください。

HDMI 設定（☞109 ページ）

HDMI の入出力信号に関する設定をします。

- オートリップシンク
- モニター出力
- HDMI 音声出力
- HDMI コントロール

ご注意

HDMI 入力端子から入力した音声信号を本機と HDMI 接続しているテレビに出力するには、HDMI 音声の出力先をテレビに設定してください。
アナログ / デジタル入力端子から入力した音声信号は、HDMI 出力端子（MONITOR）から出力することができません。

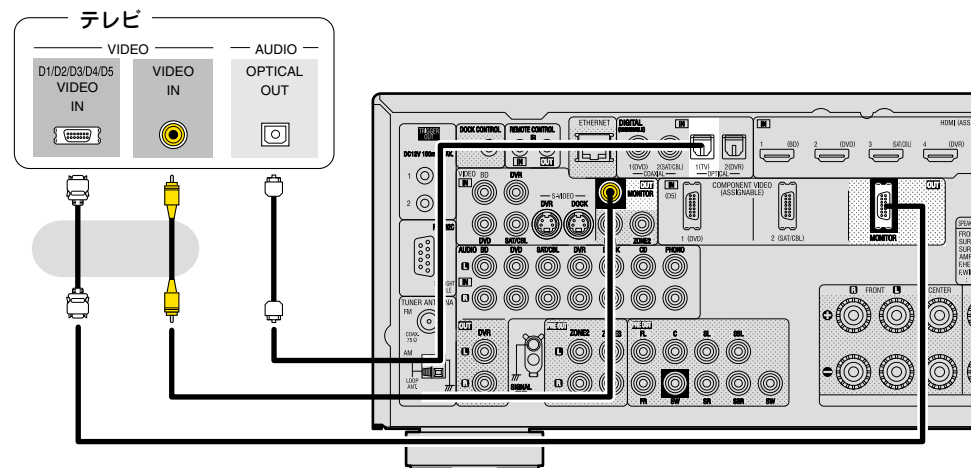
テレビを接続する

ご注意

本機に ARC 機能対応のテレビを接続した場合、光伝送ケーブルの接続は不要です。詳しくは、「ARC（Audio Return Channel）機能について」（☞10 ページ）またはテレビの取扱説明書をご覧ください。

- 接続する機器に合わせて端子を選び、接続してください。
- 映像機器を接続する際には、「入力された映像信号を変換して出力する（ビデオコンバージョン機能）」（☞8 ページ）をご覧ください。
- HDMI 接続のしかたは、「HDMI 端子付きの機器を接続する」（☞10 ページ）をご覧ください。

接続に使用するケーブル

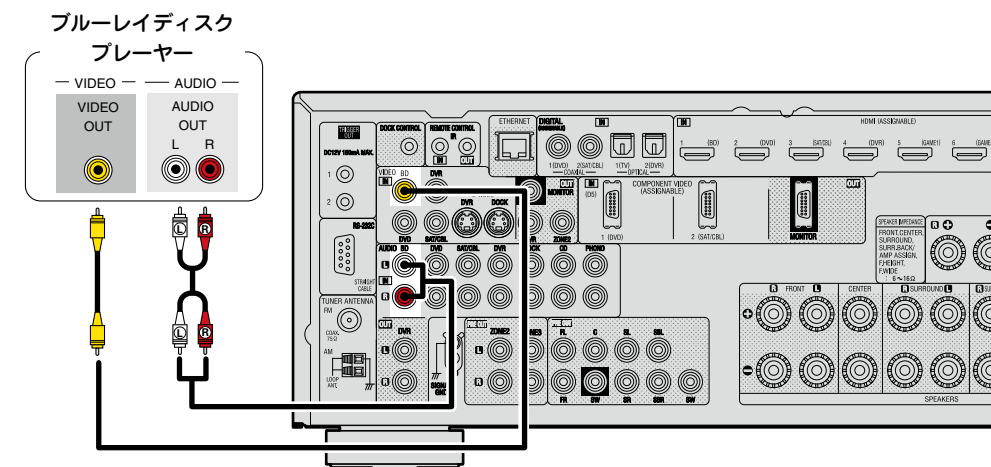
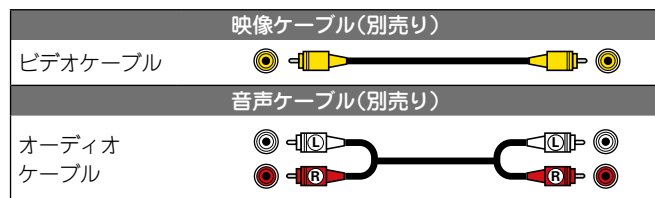
映像ケーブル（別売り）
ビデオケーブル
D 端子ケーブル
音声ケーブル（別売り）
光伝送ケーブル

必要に応じて設定してください

入力ソースに割り当てられているデジタル入力端子または D5 入力端子を変更するときに設定します。

"入力端子の割り当て"（☞92 ページ）

ブルーレイディスクプレーヤーを接続する

- ブルーレイディスクの映像や音楽を楽しむことができます。
- 接続する機器に合わせて端子を選び、接続してください。
- HDMI 接続のしかたは、「HDMI 端子付きの機器を接続する」(☞10 ページ) をご覧ください。

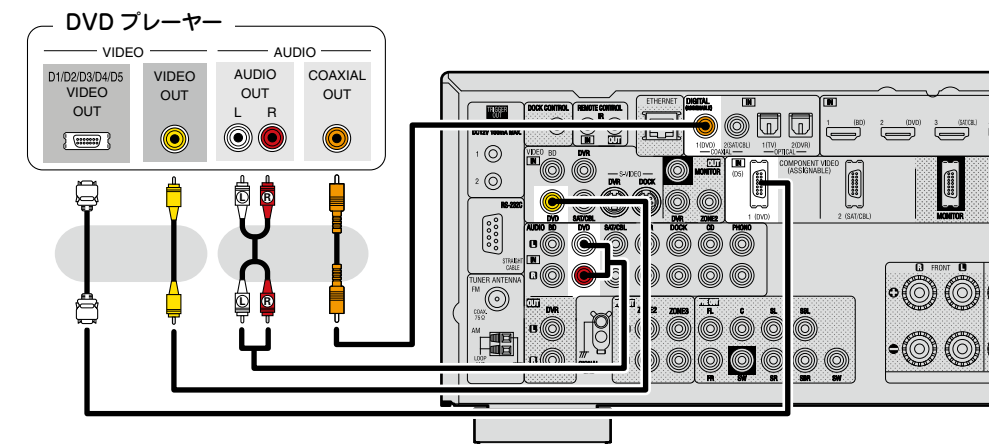
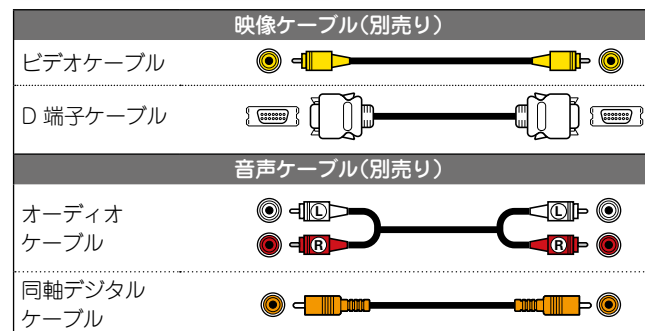
接続に使用するケーブル

必要に応じて設定してください

入力ソースに割り当てられているデジタル入力端子または D5 入力端子を変更するときに設定します。
"入力端子の割り当て"(☞92 ページ)

HD オーディオ (Dolby TrueHD、DTS-HD、Dolby Digital Plus および DTS Express) およびマルチチャンネル PCM 信号を再生する場合は、HDMI 接続をしてください (☞10 ページ「HDMI 端子付きの機器を接続する」)。

DVD プレーヤーを接続する

- DVD の映像や音楽を楽しむことができます。
- 接続する機器に合わせて端子を選び、接続してください。
- HDMI 接続のしかたは、「HDMI 端子付きの機器を接続する」(☞10 ページ) をご覧ください。

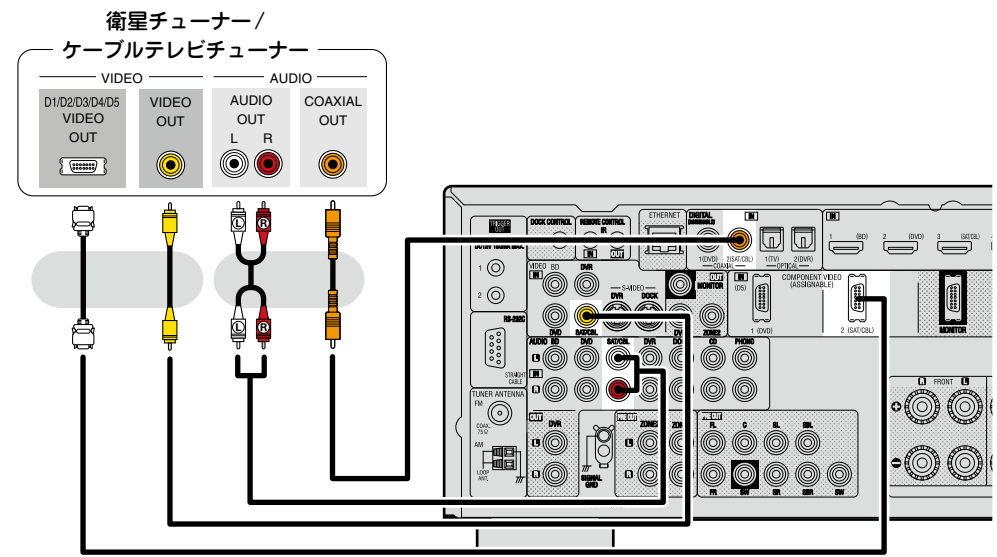
接続に使用するケーブル

必要に応じて設定してください

入力ソースに割り当てられているデジタル入力端子または D5 入力端子を変更するときに設定します。
"入力端子の割り当て"(☞92 ページ)

セットトップボックス（衛星チューナー / ケーブルテレビチューナー）を接続する

- 衛星チューナーやケーブルテレビチューナーの映像を楽しむことができます。
- 接続する機器に合わせて端子を選び、接続してください。
- HDMI 接続のしかたは、「HDMI 端子付きの機器を接続する」（☞10 ページ）をご覧ください。

接続に使用するケーブル

映像ケーブル（別売り）
ビデオケーブル
D 端子ケーブル
音声ケーブル（別売り）
オーディオケーブル
同軸デジタルケーブル

必要に応じて設定してください

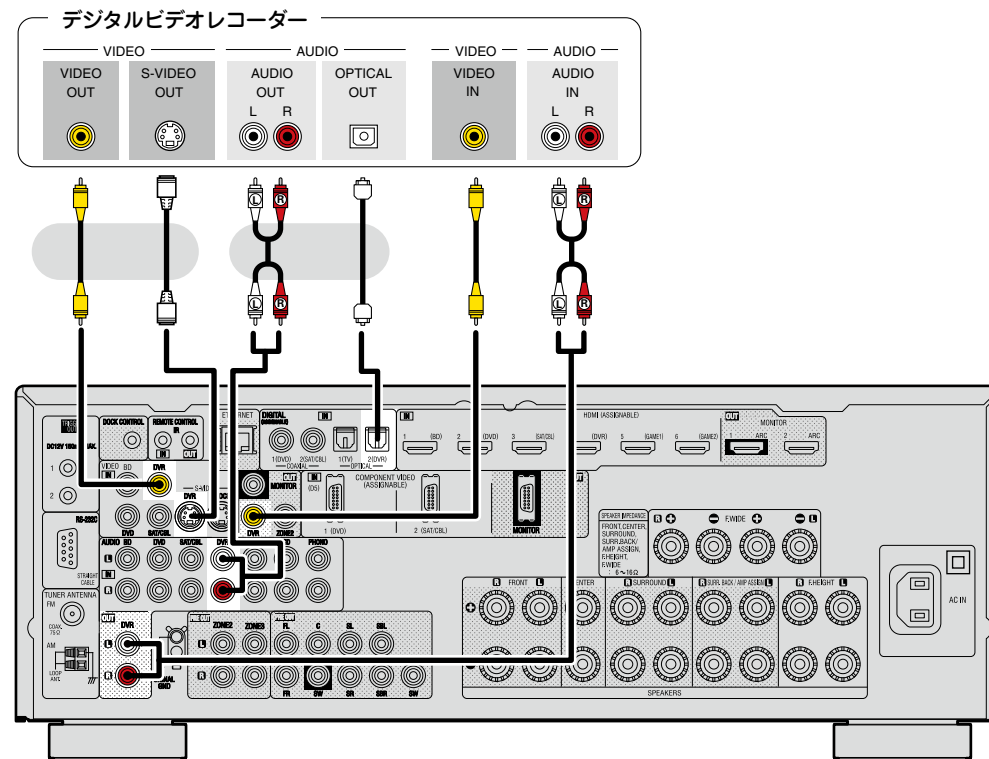
入力ソースに割り当てられているデジタル入力端子または D5 入力端子を変更するときに設定します。

“入力端子の割り当て”（☞92 ページ）

デジタルビデオレコーダーを接続する

- ブルーレイディスクや DVD などに映像を録画することができます。
- 接続する機器に合わせて端子を選び、接続してください。
- アナログ音声を録音する場合は、アナログ接続をしてください。
- 操作のしかたは、「REC OUT モード」(☞75 ページ) をご覧ください。
- HDMI 接続のしかたは、「HDMI 端子付きの機器を接続する」(☞10 ページ) をご覧ください。

接続に使用するケーブル

映像ケーブル（別売り）
ビデオケーブル
S ビデオケーブル
音声ケーブル（別売り）
オーディオケーブル
光伝送ケーブル

必要に応じて設定してください

入力ソースに割り当てられているデジタル入力端子または D5 入力端子を変更するときに設定します。

"入力端子の割り当て"（☞92 ページ）

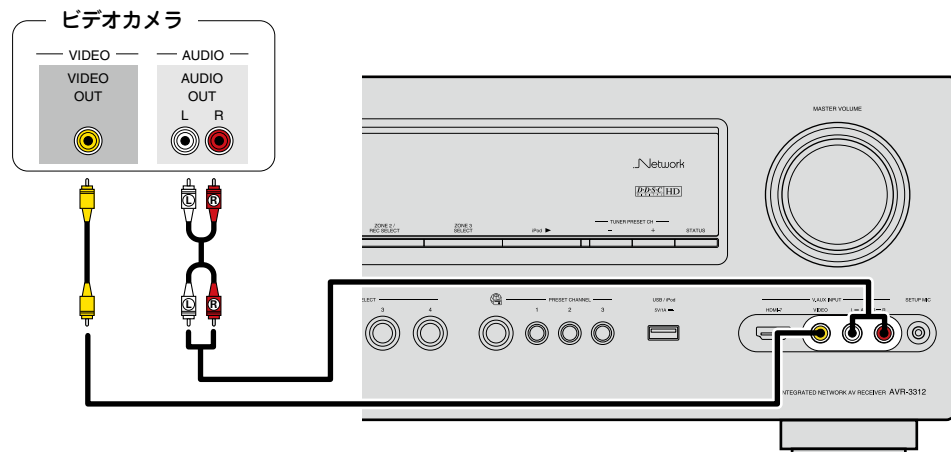
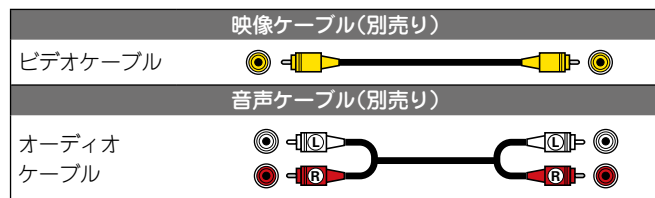
ご注意

本機を通して映像信号を録画する場合は、本機とプレーヤーをビデオケーブルで接続してください。

ビデオカメラを接続する

- ビデオカメラの映像や音声を楽しむことができます。
- HDMI 接続のしかたは、「HDMI 端子付きの機器を接続する」(☞10 ページ) をご覧ください。

接続に使用するケーブル

映像ケーブル（別売り）	
ビデオケーブル	
音声ケーブル（別売り）	
オーディオケーブル	

必要に応じて設定してください

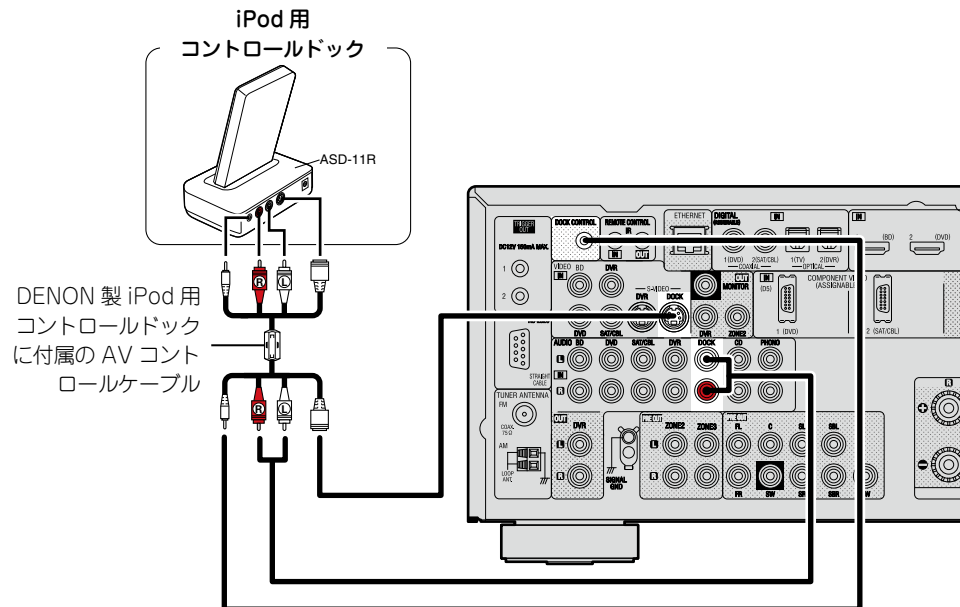
入力ソースに割り当てられているデジタル入力端子または D5 入力端子を変更するときに設定します。
"入力端子の割り当て"(☞92 ページ)

本機の V.AUX 入力端子にゲーム機を接続してもゲームを楽しむことができます。このような場合は、入力ソースを "V.AUX" に設定してください。

ご注意

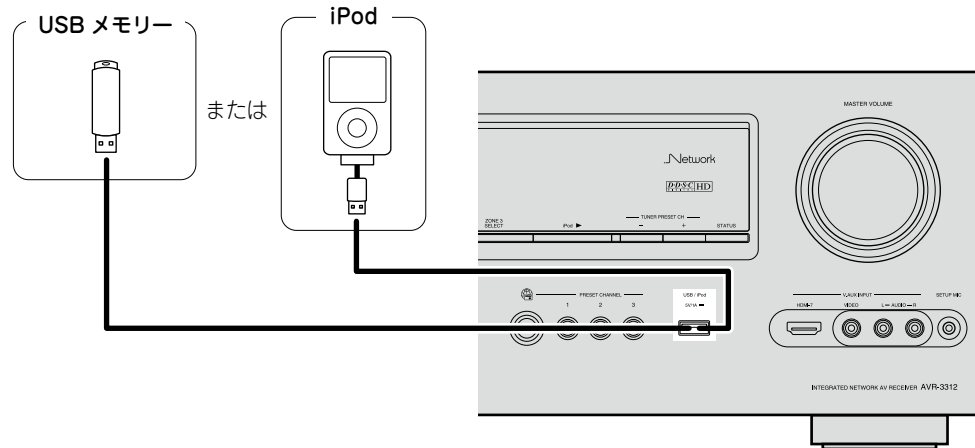
ゲーム機など特殊な映像信号を入力した場合、ビデオコンバージョン機能がはたらかない場合があります。このような場合は、入力と同じ端子のモニター出力をご使用ください。

iPod 用コントロールドックを接続する

- iPod 用コントロールドックを接続すると、iPod 内の映像や音声を楽しむことができます。
- 本機と iPod の接続には、DENON 製 iPod 用コントロールドック（ASD-1R または ASD-11R、別売り）をご使用ください。
- iPod 用コントロールドック側の設定も必要です。詳しくは、iPod 用コントロールドックの取扱説明書をご覧ください。
- 操作のしかたは、「① DENON 製 iPod 用コントロールドックを使用して再生する」（☞34 ページ）をご覧ください。

USB 端子に iPod または USB メモリーを接続する

- iPod や USB メモリー内の音楽を楽しむことができます。
- 操作のしかたは、「② USB 端子に iPod を直接接続して再生する」（☞36 ページ）または「USB メモリーを再生する」（☞50 ページ）をご覧ください。

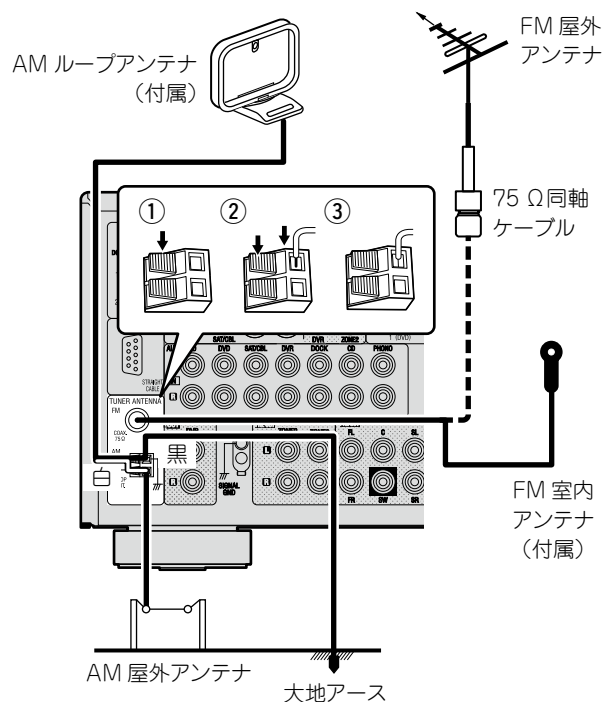
接続に使用するケーブル

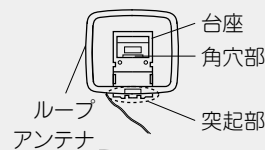
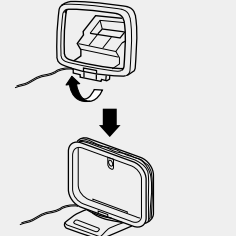
本機と iPod を接続するときは、iPod に付属の USB ケーブルをご使用ください。

- iPod 内のビデオファイルを再生する場合は、DENON 製 iPod 用コントロールドック（ASD-1R または ASD-11R、別売り）を使用してください（☞17 ページ「iPod 用コントロールドックを接続する」）。
- 本機では、第 5 世代以降に発売された iPod および iPod touch、iPod classic、iPod nano を再生することができます。
- すべての USB メモリーに対して、動作および電源の供給を保証するものではありません。USB 接続タイプのポータブル HDD で、AC アダプターを接続して電源が供給できるタイプのものをお使いになる場合は、AC アダプターのご使用をおすすめします。

ご注意

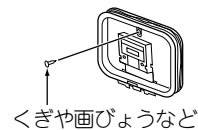
- USB メモリーは USB ハブ経由では動作しません。
- 本機の USB 端子とパソコンを USB ケーブルで接続して使用することはできません。
- USB メモリーを接続するときに、延長ケーブルを使用しないでください。他の機器に電波障害を引き起こす場合があります。
- 本機は iPad の再生には対応していません。本機に iPad を接続しないでください。
- 本機に iPhone を接続するときは、iPhone を本機から 20cm 以上離してください。iPhone を本機に近づけていると、iPhone が電話を受信したときに、本機の音声出力にノイズが入ることがあります。

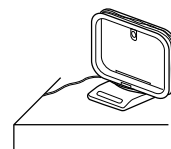
アンテナを接続する

- 本機に付属の FM アンテナや AM ループアンテナを接続すると、ラジオ放送を楽しむことができます。
- アンテナを接続したあとに放送を受信し（☞38 ページ「FM/AM 放送を聴く」）、雑音の少ない位置にテープなどで固定してください。

❑AM ループアンテナの組み立てかた

1 **台座部をループアンテナの後ろから、ループアンテナの下を通して、手前に曲げる。**

2 **突起部を台座の角穴部に、差し込む。**

❑AM ループアンテナの使いかた

壁にかけて使う

組み立てずにそのままお使いください。

置いて使う

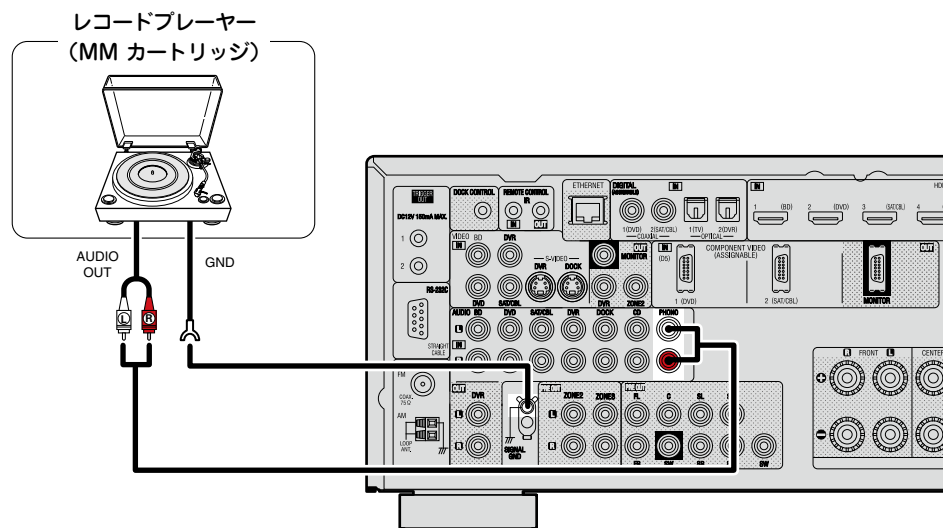
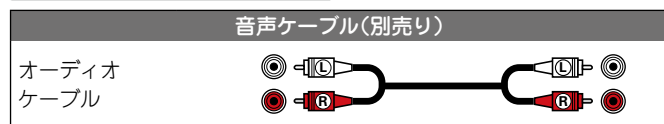
上図のように組み立ててお使いください。

ご注意

- 2 つの FM アンテナを同時に接続しないでください。
- AM ループアンテナ線がリアパネルやネジに接触していないかご確認ください。
- AM や FM の受信感度はアンテナの設置場所や設置方向によって変わります。最もよく受信できるところに設置してください。
- 放送を良好に受信できない場合は、屋外アンテナの設置をおすすめします。詳しくは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。
- ケーブルテレビにご加入の場合は、ケーブルテレビのアンテナで FM 放送を受信できる場合があります。詳しくは、ご加入のケーブルテレビ会社にお問い合わせください。

レコードプレーヤーを接続する

レコードを楽しむことができます。

接続に使用するケーブル

音声ケーブル(別売り)
オーディオケーブル

- 本機は、MM カートリッジ付きのレコードプレーヤーに対応しています。MC カートリッジ付きのレコードプレーヤーを接続される場合は、市販の MC ヘッドアンプまたは昇圧トランスをご使用ください。
- 本機の入力ソースを“PHONO”にし、レコードプレーヤーを接続せずに音量を上げると、“ブーン”という雑音がスピーカーから出力される場合があります。

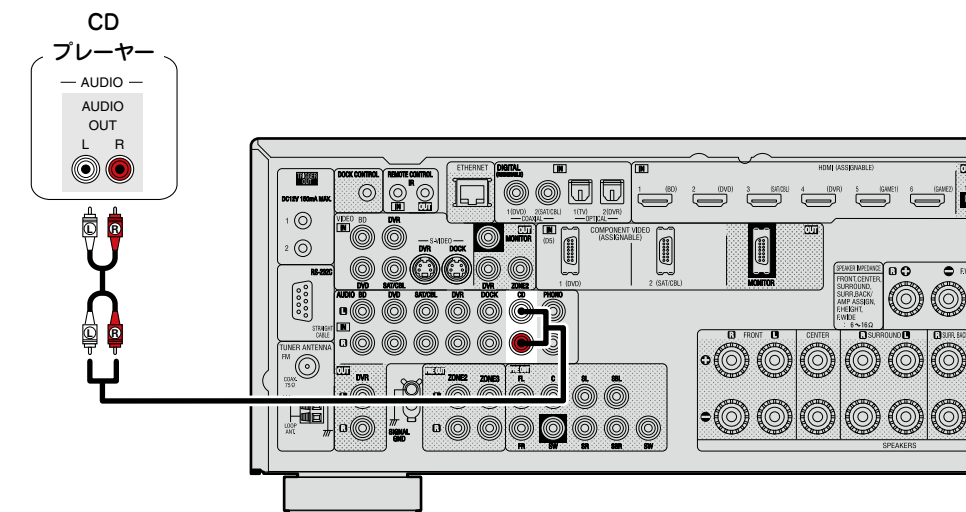
ご注意

本機の SIGNAL GND 端子は、安全アースではありません。雑音が多いときに接続すると、雑音を低減できます。ただし、レコードプレーヤーによっては、アース線を接続すると逆に雑音が大きくなることがあります。このような場合は、アース線を接続する必要はありません。

CD プレーヤーを接続する

- CD を楽しむことができます。
- 接続する機器に合わせて端子を選び、接続してください。

接続に使用するケーブル

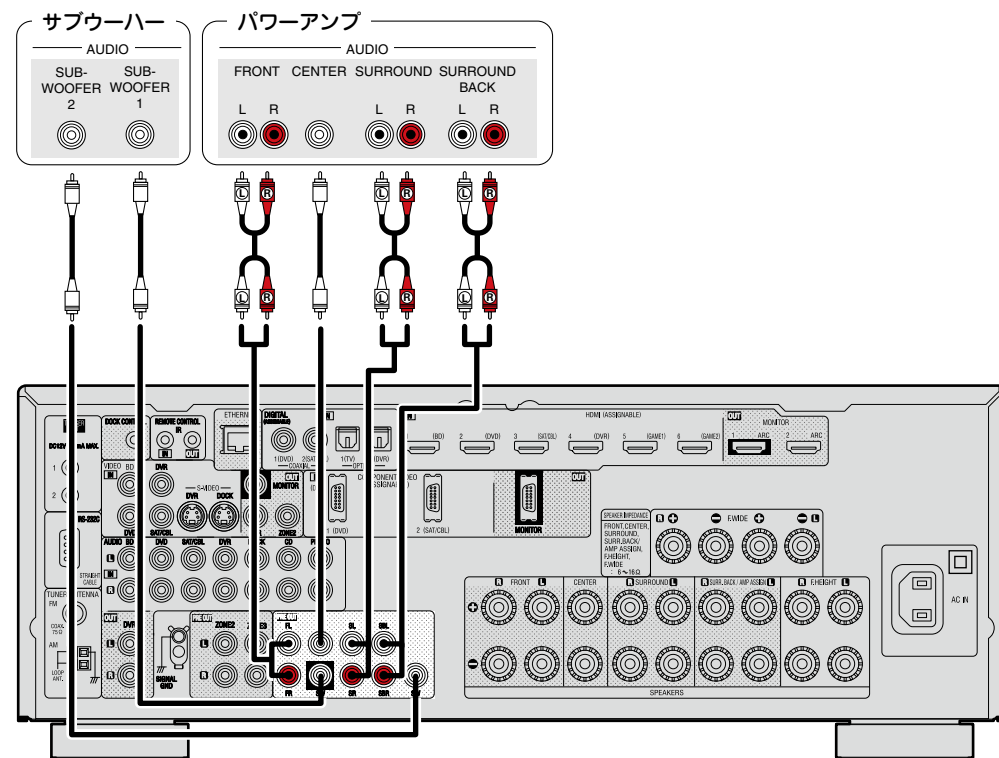
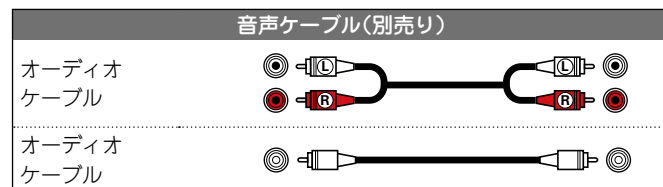
音声ケーブル(別売り)
オーディオケーブル

必要に応じて設定してください

CD プレーヤーを光伝送ケーブルで接続するときは、入力ソースに割り当てられているデジタル入力端子を変更できます。

“入力端子の割り当て”（☞92 ページ）

外部のパワーアンプと接続する

- 市販のパワーアンプを本機の PRE OUT 端子に接続すると、本機をプリアンプとして使用することができます。各チャンネルにパワーアンプを追加することで、さらにサウンドの臨場感を高めることができます。
- ご使用になる端子を選んで接続してください。

接続に使用するケーブル

- サラウンドバックスピーカーを 1 本のみご使用になる場合は、左チャンネル（L）に接続してください。
- サブウーハーの音量は、ご使用のサブウーハー側で調節してください。
- サブウーハーの音量が小さく感じられる場合は、サブウーハーに装備されている音量調節機能を使用して音量を調節してください。

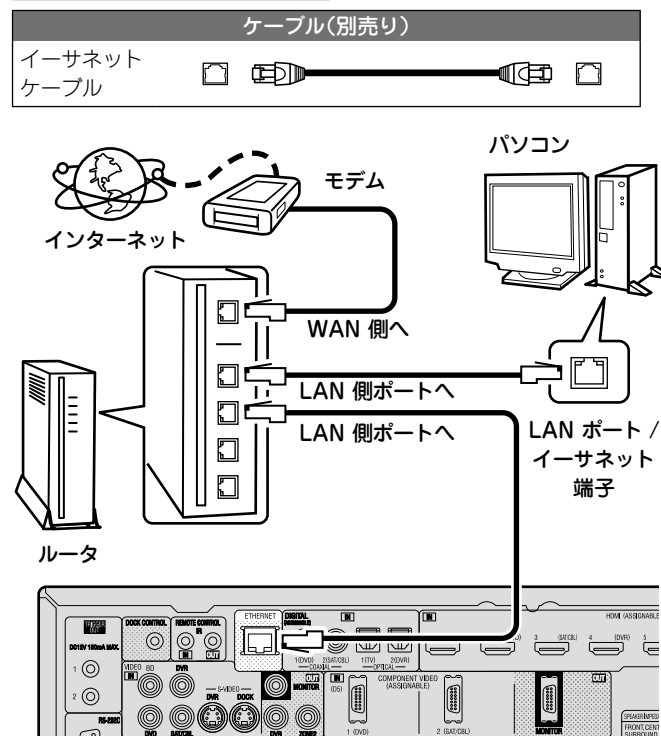
ご注意

PRE OUT 端子に外部のパワーアンプを接続しているときは、スピーカー端子にスピーカーを接続しないでください。

ホームネットワーク（LAN）に接続する

- 本機をホームネットワークに接続すると、パソコンに保存されている音楽ファイルやインターネットラジオの音声などをお楽しみいただけます。また、パソコンからウェブブラウザを使用して本機をコントロールすることができます。
- ネットワーク機能を利用して、最新のファームウェアにアップデートすることができます。
  詳しくは、メニューの"ファームウェアの更新"（☞118ページ）をご覧ください。
- ネットワーク設定が必要です。メニューの"ネットワーク設定"（☞112ページ）をご覧ください。

接続に使用するケーブル

	ケーブル（別売り）
イーサネットケーブル	

インターネットの接続については、ISP（インターネット・サービスプロバイダ）またはパソコン関連販売店にお問い合わせください。

必要なシステム

❑ブロードバンド回線によるインターネット接続

❑モデム

ブロードバンド回線と接続して、インターネットと通信をおこなうための機器です。
ルータと一体型のものもあります。

❑ルータ

本機を使用するにあたって、次の機能が装備されているルータをおすすめします。

- DHCP サーバー内蔵
  LAN 上の IP アドレスを自動的に割り振る機能です。
- 100BASE-TX スイッチ内蔵
  複数の機器を接続するために、100Mbps 以上の速度で、スイッチングハブを内蔵していることをおすすめします。

❑イーサネットケーブル（CAT-5 以上を推奨）

- STP タイプまたは ScTP タイプのシールド LAN ケーブルをお使いください。
- イーサネットケーブルは、シールド付きのノーマルタイプをおすすめします。フラットタイプのケーブルやシールドされていないケーブルをご使用になると、ノイズが他の機器に影響を及ぼす可能性があります。

✎

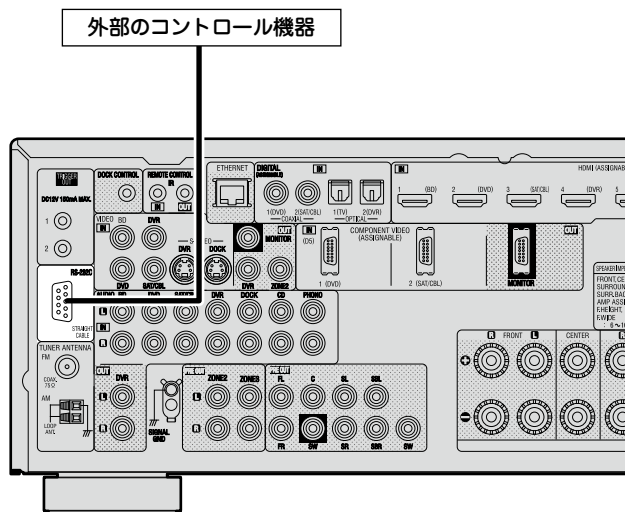
- ネットワークの設定を手動でおこなうタイプの回線で、プロバイダ契約を結んでいる場合は、メニューの"ネットワーク設定"（☞112ページ）をおこなってください。
- ブロードバンドルータ（DHCP 機能）をご使用の場合は、本機が自動的に IP アドレスなどの設定をおこないます。DHCP 機能のないネットワークに本機を接続してご使用になる場合は、メニューの"ネットワーク設定"（☞112ページ）で、IP アドレスなどの設定をおこなってください。
- 手動で設定する場合は、設定内容をネットワーク管理者に確認してください。

ご注意

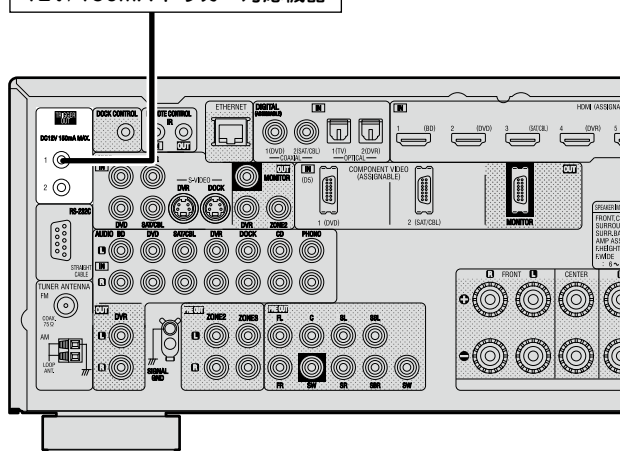
- インターネットに接続するには、ISP と契約する必要があります。
  すでにブロードバンド回線を利用してインターネットに接続されている場合は、新たに契約する必要はありません。
- ISP 業者によって使用できるルータの種類が異なります。詳しくは、ISP 業者またはパソコン関連販売店にお問い合わせください。
- 当社では、お客様のネットワーク環境および接続機器に関する通信エラーや不具合については一切責任を負いかねます。
- 本機は PPPoE に対応していません。PPPoE で設定するタイプの回線契約を結んでいる場合は、PPPoE 対応のルータが必要です。
- イーサネット端子は、直接パソコンの LAN ポート / イーサネット端子と接続しないでください。
- オーディオストリームをおこなう場合は、オーディオストリーム対応のルータを使用してください。

外部のコントロール機器と接続する

RS-232C 端子

外部のコントロール機器を接続すると、外部のコントロール機器から本機をコントロールできます。

あらかじめ次の確認をしてください。
① 本機の電源を入れる。
② 外部のコントロール機器で、本機の電源を切る。
③ 本機がスタンバイ状態になる。

トリガー出力端子

トリガー入力端子を持っている機器を本機に接続すると、その機器の電源を本機の操作に連動させてオン / スタンバイすることができます。
本機のトリガー出力端子からは、最大 12V/150mA の電気信号を出力します。

必要に応じて設定してください

トリガー出力 1 またはトリガー出力 2 端子の出力を連動させる条件を変更するときに設定します。
“トリガーアウト 1” または **“トリガーアウト 2”**（☞118 ページ）

ご注意

- トリガー出力端子の接続には、モノラルのミニプラグケーブルを使用してください。ステレオミニプラグケーブルは使用しないでください。
- 接続する機器のトリガー許容入力レベルが 12V/150mA よりも大きいときや短絡状態のときは、トリガー出力端子を使用できません。このような場合は、本機の電源を切ってからトリガー出力端子の接続を外してください。

設定のしかた

ここではお使いになるスピーカーに最適な設定を自動的におこなう"Audyssey® Auto Setup"と、本機をホームネットワーク(LAN)に接続して使用できるようにする"ネットワーク設定"について説明します。
本機はホームネットワーク(LAN)を介して、パソコンに保存している音楽ファイルやインターネットラジオの再生をお楽しみいただけます。

スピーカーを設定する(Audyssey® Auto Setup)

接続されたスピーカーやリスニングルームの音響特性を測定し、最適な設定を自動的におこないます。この機能を"Audyssey® Auto Setup"と呼びます。
測定は、リスニングエリア全体の複数の位置にセットアップマイクを設置しておこないます。最善の結果を得るためには、6 箇所以上(最大で 8 箇所)の測定をすることをおすすめします。

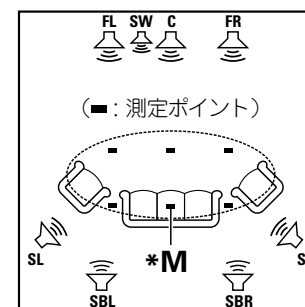
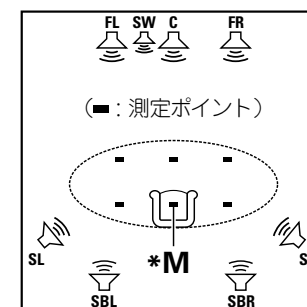
- Audyssey® Auto Setup をおこなうと、MultEQ® XT/Dynamic EQ®/Dynamic Volume® の機能(☞102 ページ)が有効になります。
- 手動でスピーカーを設定したい場合は、メニューの"スピーカーの設定"(☞106 ページ)でおこなってください。

ご注意

- できるだけ部屋を静かにしてください。騒音は測定の妨げとなります。窓を閉め、電化製品(テレビ、ラジオ、エアコン、蛍光灯など)の電源を切ってください。測定の際、これらの騒音の影響を受ける場合があります。
- 測定中、携帯電話はリスニングルーム以外の場所に置いてください。携帯電話の電波が測定を妨げる原因になることがあります。
- セットアップマイクは、Audyssey® Auto Setup が完了するまで、絶対に抜かないでください。
- 測定中は、スピーカーとセットアップマイクの間に立ったり、障害物を置いたりしないでください。正しい測定ができません。
- 測定中に大きなテストトーンを出力しますが、これは正常な動作です。リスニングルーム内の騒音が大きいほどテストトーンの音量が大きくなります。
- 測定中に 🔈 ▲▼ を操作すると、測定を中止します。
- ヘッドホンを接続している場合、測定はできません。Audyssey® Auto Setup をおこなう前に、ヘッドホンのプラグを抜いてください。

セットアップマイクの設置場所について

- 測定は、【例 ①】に示すようにリスニングエリア全体の複数の位置に付属のセットアップマイクを設置しておこないます。最善の結果を得るため、図のように 6 箇所またはそれ以上(最大で 8 箇所)で測定することをおすすめします。
- リスニング環境が【例 ②】に示すように狭い場合でも、リスニングエリア全体の複数の位置で測定すると、より精度が高い設定ができます。

【例 ①】

【例 ②】

FL フロントスピーカー(左)
FR フロントスピーカー(右)
C センタースピーカー
SW サブウーハー
SL サラウンドスピーカー(左)
SR サラウンドスピーカー(右)
SBL サラウンドバックスピーカー(左)
SBR サラウンドバックスピーカー(右)

メインリスニングポイント(* M)について

メインリスニングポイントとは、最もリスナーが座る位置または一人で視聴するときに座る位置です。Audyssey® Auto Setup をはじめる前に、セットアップマイクをメインリスニングポイントに設置してください。Audyssey MultEQ® XT は、この位置から測定した値を用いて、スピーカーの距離、レベル、極性およびサブウーハーの最適なクロスオーバー周波数を計算します。

☞ 次のページへ

1 付属のセットアップマイクを準備する

セットアップマイクを三脚またはスタンドに取り付けて、メインリスニングポイントに設置する。

セットアップマイクを設置する場合は、受音部をリスニング時の耳の高さにあわせて調節してください。

三脚やスタンドがない場合は、背もたれのない椅子などに設置してください。

ご注意

- セットアップマイクを手で持ちながら測定しないでください。
- セットアップマイクを座席の背もたれや壁の近くに置くと、音の反響で正しい測定ができない場合があります。

2 サブウーハーの設定をする

次の設定ができるサブウーハーをご使用の場合のみ、この設定をおこなってください。

❏ ダイレクトモード機能があるサブウーハーの場合

ダイレクトモード機能を“オン”にして、音量とクロスオーバー周波数の設定を無効にしてください。

❏ ダイレクトモード機能がないサブウーハーの場合

次のように設定してください。

- **音量の設定**：“12 時”の位置
- **クロスオーバー周波数の設定**：“最大 / 最高周波数”
- **ローパスフィルターの設定**：“オフ”
- **スタンバイモードの設定**：“オフ”

ご注意

サブウーハーを 2 本使用する際には、Audyssey® Auto Setup を開始する前に、それぞれのサブウーハーの音量を調節する必要があります。
メインリスニングポイントにおいてテストトーンを再生して（☞108 ページ）、それぞれのサブウーハーの音量がほぼ同じになるように、サブウーハー本体の音量レベルを調節してください。

3 リモコンの設定をする

❏ ゾーンモードの設定

ZONE SELECT を押して、ゾーン操作モードを M（メインゾーン）に切り替える。

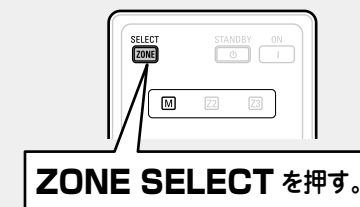
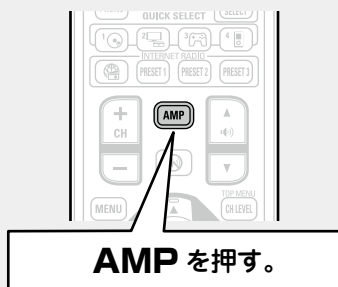
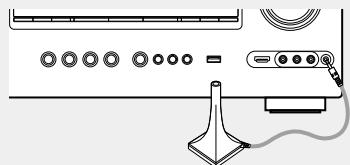
リモコンのゾーン操作モード表示の M が点灯します。

❏ 操作モードの設定

AMP を押して、リモコンをアンプ操作モードにする。

☞ 次のページへ

ステップ 1
準備

ステップ 2
スピーカー検出と測定（メイン）

4 **セットアップマイクを本体の SETUP MIC 端子に接続する。**

セットアップマイクを接続すると、テレビに次のセットアップ画面を表示します。

ここでは、サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネル再生の設定方法について説明しています。
サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネル以外の設定のしかたは、「"アンプの割り当て" の設定」（☞69 ページ）の手順 3、4 をおこなってください。
また、"チャンネルセレクト" で、測定しないチャンネルをあらかじめ設定すると、測定時間を短縮することができます。操作のしかたは、「"チャンネルセレクト" の設定」（☞69 ページ）の手順 6 ～ 12 をおこなってください。

5 **▽ を押して "オートセットアップスタート" を選び、ENTER を押す。**

- ステップ 2 では、メインリスニングポイントの測定をします。
- ここでは、スピーカー接続の有無や大きさ、チャンネルレベル、距離およびクロスオーバー周波数を自動的に計算します。また、リスニングエリア内の音響歪みを補正します。

6 **"測定" を選び、ENTER を押す。**
各スピーカーからテストトーンを出力し、測定を開始します。

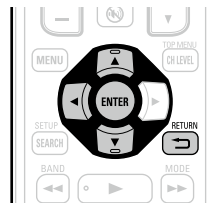
- 測定には数分間かかります。

7 **検出されたスピーカーを表示します。**

- 次の図は、フロントスピーカー / センタースピーカー / サブウーハー / サラウンドスピーカー / サラウンドバックスピーカーを検出したときの表示例です。

ご注意
接続しているスピーカーが表示されない場合は、スピーカーが正しく接続されていないことが考えられます。スピーカーの接続を確認してください。

8 **▽ を押して "次へ→測定" を選び、ENTER を押す。**

ご注意
テレビ画面に "注意 !" が表示された場合
「エラーメッセージについて」（☞29 ページ）をご覧ください。関連する項目を確認し、必要な対処をおこなってください。
エラーが解決したら、再び "Audyssey® Auto Setup" をはじめからおこなってください。

再び Audyssey® Auto Setup をおこなうとき

△▽ を押して "再測定" を選び、**ENTER** を押す。

測定を中止するとき

① **RETURN** を押すと、"オートセットアップを中止しますか？" が表示されます。
② ◁を押して "はい" を選び、**ENTER**を押してください。

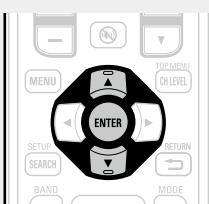
再度スピーカーを設定するとき

ステップ 1 準備 の手順 4 以降の操作をおこなってください。

☞ 次のページへ

ステップ 3
測定（2 箇所目以降）

- ステップ 3 では、メインリスニングポイント以外の複数の箇所(2〜8 箇所)を測定します。
- メインリスニングポイントの 1 箇所のみでも測定可能ですが、複数の箇所を測定すると、リスニングエリア内の音響歪みの補正精度をより高くすることができます。

9 2 箇所目にセットアップマイクを移動させ、△▽ 押して“測定”を選び、ENTER を押す。
2 箇所目の測定をはじめます。
最大 8 箇所まで測定できます。

次のポイント以降の測定を省略する場合は、“次へ→解析” を選んでください。
（ステップ 4 解析 へ進みます。）

10 手順 9 をくり返して 3〜8 箇所を測定する。
8 箇所目の測定が完了すると、“測定が終わりました”を表示します。

ステップ 4
解析

11 ステップ 3 の画面で △▽ を押して“次へ→解析”を選び、ENTER を押す。
測定結果を自動的に解析し、リスニングルームにおける各スピーカーの特性を決定します。

- 解析には数分間かかります。
接続するスピーカーの数と測定箇所が多くなるほど、解析に要する時間は長くなります。

次のページへ

基本編
応用編
情報編

ステップ 5 解析結果の確認

ステップ 6 保存

終了

12 △▽ を押して確認したい項目を選び、ENTER を押す。

- サブウーハーなどでは、実際の距離と異なる値に設定される場合があります。
- 他の項目を確認したいときは、RETURN を押してください。

13 △▽ 押して"次へ→保存"を選び、ENTER を押す。

ご注意

- 接続している状態と異なる結果や"注意！"が表示された場合は、「エラーメッセージについて」（29 ページ）をご覧ください。その後、再度 Audyssey® Auto Setup をおこなってください。
- スピーカーの位置や向きを変えた場合は、最適なイコライザーの補正を得るために、再び Audyssey® Auto Setup をおこなってください。

14 "保存"を選び、ENTER を押す。

測定結果を保存します。

- 保存には 10 秒程度かかります。
- 測定結果を保存しないときは、RETURN を押してください。"オートセットアップを中止しますか？"を表示しますので、◁ を押して"はい"を選んでください。すべての Audyssey® Auto Setup の測定結果を消去します。
- 測定結果の保存中は"保存中です .... お待ちください"を表示します。保存が終了すると、"保存が完了しました　オートセットアップは終了です"を表示します。

ご注意

測定結果の保存中は、絶対に電源を切らないでください。

15 本体の SETUP MIC 端子からセットアップマイクを抜く。

16 Audyssey Dynamic Volume® の設定をする。

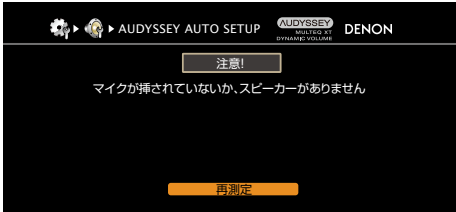
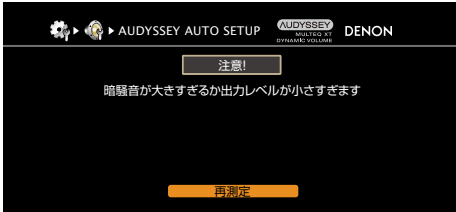
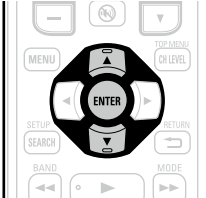
- Dynamic Volume は、本機に入力した音声レベルを常にモニタリングしながら最適な出力音量に調節する機能です。テレビ番組の再生中にコマーシャルの音が急に大きく再生される場合などに、音のダイナミック感や明瞭感を損なうことなく適切なボリュームコントロールを自動的におこないます。

❑ **Dynamic Volume® の設定をするとき**

- △ を押して"はい"を選び、ENTER を押す。
  自動的に"Evening"モードになります。

❑ **Dynamic Volume® の設定をしないとき**

- ▽ を押して"いいえ"を選び、ENTER を押す。

ご注意

Audyssey® Auto Setup をおこなったあとに、スピーカーの接続やサブウーハーの音量を変更しないでください。変更した場合は、最適なイコライザーの補正効果を得るために、再び Audyssey® Auto Setup をおこなってください。

エラーメッセージについて

ご注意

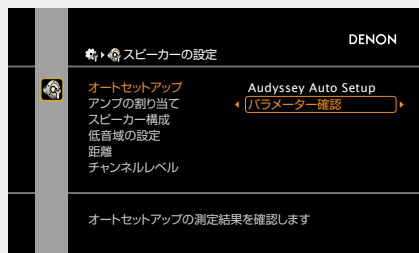
- スピーカーの設置や測定環境などにより Audyssey® Auto Setup を完了できなかった場合に、エラーメッセージを表示します。エラーメッセージが表示された場合は、関連する項目を確認し、必要な対処をおこなってください。その後、再び Audyssey® Auto Setup をおこなってください。
- 再測定後も、接続している状態と異なる結果やエラーメッセージが表示された場合は、接続を間違えている可能性があります。必ず本機の電源を切り、スピーカーの接続を確かめ、最初から測定をやり直してください。
- スピーカーの接続を確認するときは、必ず電源を切ってください。

エラーメッセージ（例）	エラーの内容	エラーの処理方法
AUDYSSEY AUTO SETUP DENON 注意! マイクが挿されていないか、スピーカーがありません 再測定	• 接続しているセットアップマイクが壊れているか、付属以外のセットアップマイクを接続している。 • 接続しているすべてのスピーカーが検出されない。 • フロントスピーカー（左）が正しく検出されない。	• 付属のセットアップマイクを、本体の SETUP MIC 端子に接続してください。 • スピーカーの接続を確認してください。
AUDYSSEY AUTO SETUP DENON 注意! 暗騒音が大きすぎるか出力レベルが小さすぎます 再測定	• 部屋の騒音が大きいため、正しい測定ができない。 • スピーカーやサブウーハーの音量が小さいため、正しい測定ができない。	• 騒音を発生する機器の電源を切るか、機器を遠ざけてください。 • 周囲がより静かなときに再度おこなってください。 • スピーカーの設置や向きを確認してください。 • サブウーハーの音量を調節してください。
AUDYSSEY AUTO SETUP DENON 注意! 1 2 3 4 5 6 フロント右 無し 再測定	• 表示されたスピーカーが検出されない。 （左の画面は、フロント右スピーカーが検出できないことをあらわします。）	• 表示されたスピーカーの接続を確認してください。
AUDYSSEY AUTO SETUP DENON 注意! 1 2 3 4 5 6 フロント右 位相逆 再測定 スキップ	• 表示されたスピーカーの位相が逆である。 （左の画面は、フロント右スピーカーの位相が逆になっていることをあらわします。）	• 表示されたスピーカーの極性を確認してください。 • スピーカーや部屋の環境によっては、正しく接続してもエラーメッセージが表示される場合があります。このような場合は、ΔΥ を押して"スキップ"を選び、**ENTER** を押してください。

基本編
応用編
情報編

パラメーターを確認する

Audyssey® Auto Setupをおこなったあとに、測定結果やイコライザーの種類を確認できます。

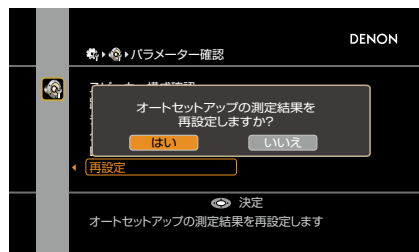
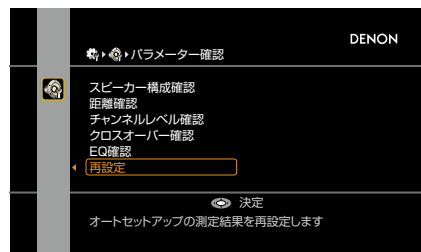
1 **△▽ を押して“パラメーター確認”を選び、ENTER を押す。**

2 **△▽ を押して確認したい項目を選び、ENTER または ▷ を押す。**
スピーカーごとに測定結果を表示します。

スピーカー構成確認	スピーカーの構成を確認します。
距離確認	スピーカーの距離を確認します。
チャンネルレベル確認	スピーカーのチャンネルレベルを確認します。
クロスオーバー確認	スピーカーのクロスオーバー周波数を確認します。
EQ確認	イコライザーの補正カーブを確認します。

- “EQ 確認”を選んだ場合は、△▽ を押して確認したい補正カーブ（“Audyssey”または“Audyssey Flat”）を選び、**ENTER** または ▷ を選んでください。
  △▽ を押すと、各スピーカーの表示を切り替えることができます。

3 **RETURN を押す。**
確認画面に戻ります。手順 2 をくり返しおこなってください。

Audyssey® Auto Setup の設定値に戻すとき

- 各設定を手動で変更した場合でも Audyssey® Auto Setup の測定結果（MultEQ® XT が当初計算した値）に戻すことができます。
- “再設定”を選んで **ENTER** を押すと、“オートセットアップの測定結果を再設定しますか？”というメッセージが表示されますので、“はい”を選び、**ENTER** を押してください。

ネットワークの設定をする（ネットワーク設定）

本機をホームネットワーク（LAN）に接続して、インターネットラジオやパソコンに保存されている音楽ファイルや静止画像（JPEG）ファイルを再生することができます。

1 **イーサネットケーブルを接続する**（☞22 ページ「ホームネットワーク（LAN）に接続する」）。

2 **本機の電源を入れる**（9 ページ「はじめましょう」）。
本機は DHCP 機能によって自動的にネットワークの設定をおこないます。
DHCP 機能がないネットワークに接続するときは、メニューの“ネットワーク接続”（☞112 ページ）の設定をおこなってください。

知っておいてほしいこと

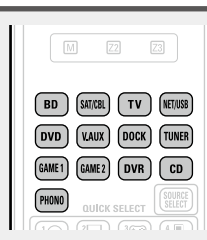
再生する前に、あらかじめ各機器との接続や本機の設定をおこなってください。

ご注意

再生するときは、接続した機器の取扱説明書もご覧ください。

入力ソースを選ぶ

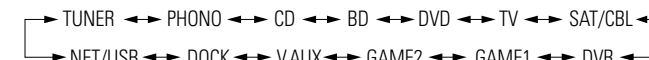
再生する入力ソース選択ボタン（BD、SAT/CBL、TV、NET/USB、DVD、V.AUX、DOCK、TUNER、GAME1、GAME2、DVR、CD または PHONO）を押す。

入力ソースをダイレクトに選べます。

次の操作方法でも入力ソースを選ぶことができます。

❑本体の操作で入力ソースを選ぶ

SOURCE SELECT を回す。

- **SOURCE SELECT** を回すと、入力ソースが次の順序で切り替わります。

TUNER ↔ PHONO ↔ CD ↔ BD ↔ DVD ↔ TV ↔ SAT/CBL ↔ NET/USB ↔ DOCK ↔ V.AUX ↔ GAME2 ↔ GAME1 ↔ DVR

- **iPod ▶** を押すと、本機の入力ソースが“DOCK”または“NET/USB”に切り替わり、接続されている iPod を自動的に再生します（☞37 ページ「iPod 再生機能」）。

☞ 次のページへ

❑"ソース選択"メニューで入力ソースを選ぶ

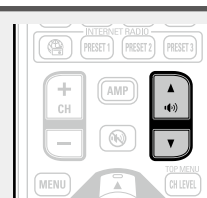
リモコンは、M(メインゾーン)に切り替えて操作してください(☞122 ページ「接続機器を操作する」)。
リモコンが Z2(ゾーン 2)または Z3(ゾーン 3)モードのときは、**SOURCE SELECT** を押しても"ソース選択"メニューは表示されません。

❶ **入力ソース**
ハイライト表示されている入力ソース名を表示します。
❷ **履歴**
最近使用した入力ソースの履歴を 5 つまで表示します。
❸ **各カテゴリーの入力ソースのアイコンを表示します。**

① **SOURCE SELECT**を押す。
"ソース選択"メニューを表示します。
② △▽◁ ▷を押して入力ソースを選び、**ENTER**を押す。
入力ソースを確定し、"ソース選択"メニューを終了します。

- 本機の USB 端子に接続している iPod を入力ソースに選ぶときは"(USB/iPod)"を選んでください。
- 使用しない入力ソースを設定すると、その入力ソースを表示しません。"使用ソースの選択"(☞116 ページ)で設定してください。
- 入力ソースを選ばずに"ソース選択"メニューを終了させる場合は、もう一度 **SOURCE SELECT** を押してください。
- **SOURCE SELECT** を押すと、自動的にアンプ操作モードに移行します(☞122 ページ)。

主音量を調節する

🔊 ▲▼ を押して、音量を調節する。
- メニューの"音量表示"(☞116 ページ)の設定により、音量の表示方式が異なります。

❑"音量表示"の設定(☞116 ページ)が"相対値"のとき

【調節できる範囲】 - - -　-80.5dB ~ 18.0dB

❑"音量表示"の設定(☞116 ページ)が"絶対値"のとき

【調節できる範囲】 0.0 ~ 99.0

- 入力信号やチャンネルレベルの設定などにより、調節できる範囲が異なります。

本体の **MASTER VOLUME** を回しても、主音量を調節できます。

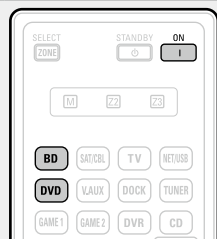
一時的に音を消す(ミューティング)

🔇 を押す。
- 電源表示が緑色で点滅します。
- ディスプレイの"MUTE"表示が点灯します。
- テレビ画面にを表示します。

- メニューの"ミューティングレベル"(☞116 ページ)で設定したレベルまで音量が減衰します。
- ミューティングを解除するときは、もう一度 🔇 を押してください。ミューティング中に主音量を調節しても解除します。

ブルーレイディスクプレーヤーや DVD プレーヤーを再生する

ブルーレイディスクプレーヤーと DVD プレーヤーの再生のしかたを説明します。

1 再生の準備をする。
① テレビやサブウーハー、プレーヤーの電源を入れる。
② テレビの入力を、本機の入力に設定する。
③ プレーヤーにディスクを入れる。

2 ON を押して、本機の電源を入れる。

3 BD または DVD を押して、再生するプレーヤーの入力ソースに切り替える。

4 ブルーレイディスクプレーヤーまたは DVD プレーヤーを再生する。

• あらかじめプレーヤーの設定（言語設定や字幕設定など）をおこなってください。

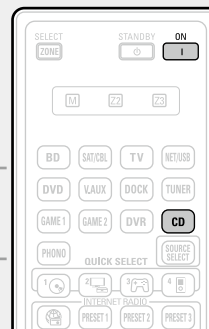
CD プレーヤーを再生する

CD プレーヤーの再生のしかたを説明します。

1 再生の準備をする。
① サブウーハーやプレーヤーの電源を入れる。
② プレーヤーにディスクを入れる。

2 ON を押して、本機の電源を入れる。

3 CD を押して、入力ソースを“CD”に切り替える。

4 CD プレーヤーを再生する。

iPod を再生する

iPod の再生方法は、2 つあります。

① DENON製iPod用コントロールドックを使用して再生する方法
iPod の映像や写真、音楽の再生ができます。
② iPodをUSB端子に直接接続して再生する方法
(☞36ページ)
iPod の音楽のみ再生できます。

① DENON 製 iPod 用コントロールドックを使用して再生する

別売りの DENON 製 iPod 用コントロールドック(ASD-1R または ASD-11R)をお使いになると、iPod の映像や写真、音楽などの再生ができます。

❑iPod の音楽を聴く

1 再生の準備をする。
① DENON製iPod用コントロールドックに、iPodを接続する(☞17ページ「iPod用コントロールドックを接続する」)。
② iPod用コントロールドックにiPodをセットする。

2 ON を押して、本機の電源を入れる。

3 DOCK を押して、入力ソースを "DOCK" に切り替える。

• 手順 4 で "ブラウズモード" を選ぶと、接続している iPod 用コントロールドックによって次の画面を表示します。

【ASD-1R 使用時】　【ASD-11R 使用時】

• "ブラウズモード" のとき、iPod の画面表示は右図のようになります。

ご注意

画面が表示されない場合は、iPod が正しく接続されていない可能性があります。接続をやり直してください。

4 SEARCH を 2 秒以上長押しして、表示モードを選ぶ。

• iPod のデータを表示するモードは 2 つあります。

ブラウズモード　iPod の情報をテレビ画面に表示させて操作するモードです。

• 本機のディスプレイには、半角英数字と一部の記号のみ表示することができます。対応していない文字は、"．(ピリオド)" に置き換えて表示します。

リモートモード　iPod に表示される画面を見ながら、直接 iPod 本体を操作するモードです。

• 本機のディスプレイに "Remote iPod" を表示します。

表示モード		ブラウズモード	リモートモード
再生できるファイル	音楽ファイル	✓	✓
	写真ファイル		✓ *2
	ビデオファイル	✓*1	✓ *2
操作できるボタン	本機のリモコン	✓	✓
	iPod		✓

*1 DENON 製 iPod 用コントロールドック ASD-11R を使用しているときに再生できます。
*2 DENON 製 iPod 用コントロールドック ASD-1R または ASD-11R と iPod の組み合わせによっては、映像が出力されない場合があります。

5 △▽ を押して項目を選び、ENTER または ▷ を押して再生したいファイルを選ぶ。

6 ENTER、▷ または ▶ を押す。
再生をはじめます。

• メニューの "iPod" (☞117 ページ) で、iPod 画面の表示時間(お買い上げ時の設定：30 秒)を設定できます。iPod 画面の表示が消えているときに △▽◁ ▷ を押すと、元の画面に戻ります。
• RESTORER モードを使用すると、圧縮オーディオの低域や高域を拡張してより豊かな再生ができます(☞104 ページ)。お買い上げ時は、"Mode 3" に設定しています。
• ブラウズモードで再生中に本体の **STATUS** を押すと、タイトル名、アーティスト名およびアルバム名を確認できます。

ご注意

• iPod は、**STANDBY** を押して本機の電源をスタンバイ状態にしてから、取り外してください。入力ソースを "DOCK" 以外に切り替えて、iPod を取り外すこともできます。

• iPod の種類またはソフトウェアのバージョンによっては、機能の一部が動作しない場合があります。
• 万一、iPod のデータが消失または損傷しても、当社は一切責任を負いません。

☞ 次のページへ

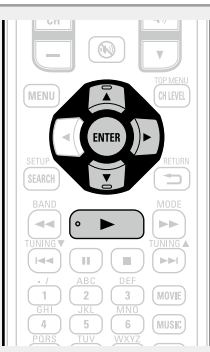
基本編
応用編
情報編

❏ブラウズモードで iPod の映像を見る

DENON 製 iPod 用コントロールドック ASD-11R にビデオ機能対応の iPod を接続すると、ブラウズモードで映像ファイルを再生することができます。

1 **△▽ を押して“ビデオ”を選び、ENTER または ▷ を押す。**

2 **△▽ を押して検索項目またはフォルダを選び、ENTER または ▷ を押す。**

3 **△▽ を押して映像ファイルを選び、ENTER、▷ または ▶ を押す。**
再生をはじめます。

❏リモートモードで iPod の写真や映像を見る

本機では、スライドショーやビデオ機能を搭載している iPod の写真や映像を再生できます。

1 **SEARCH を 2 秒以上長押しして、リモートモードに切り替える。**
本機のディスプレイに“Remote iPod”を表示します。

2 **iPod の画面を見ながら △▽ を押して、“写真”または“ビデオ”を選ぶ。**

- 使用する iPod によっては、iPod 本体を直接操作する必要があります。

3 **再生したい写真または映像が表示されるまで、ENTER を押す。**

iPod の写真や映像をテレビに映し出すには、iPod の“スライドショー設定”または“ビデオ設定”の“TV 出力”を“オン”に設定する必要があります。詳しくは、iPod の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

DENON 製 iPod 用コントロールドック ASD-1R または ASD-11R と iPod の組み合わせによっては、映像が出力されない場合があります。

❏iPod 再生時に使用できるボタン

操作ボタン	機能
MENU	アンプのメニュー表示
△▽◁▷	カーソル操作 / オートサーチ(頭出し、△▽)/ マニュアルサーチ(長押し、△▽)
ENTER (短押し)	確定 / 一時停止
ENTER (長押し)	停止
SEARCH (短押し)	ページ検索モード *
SEARCH (長押し)	ブラウズモードとリモートモードの切り替え
RETURN ⮌	リターン
◀◀ ▶▶ (長押し)	マニュアルサーチ (早戻し / 早送り)
▶	再生 / 一時停止
I◀◀ ▶▶I	オートサーチ(頭出し)
II	一時停止
■	停止
TV I/⏻	テレビの電源オン / スタンバイ (お買い上げ時の設定：SONY)
TV INPUT	テレビの入力切り替え (お買い上げ時の設定：SONY)

- **リピート再生**(☞96 ページ“リピート”)
- **シャッフル再生**(☞96 ページ“シャッフル”)

＊ メニュー画面が表示されているときに **SEARCH** を押して、◁(前のページ)または ▷(次のページ)を押す。
解除するときは、△▽ または **SEARCH** を押してください。

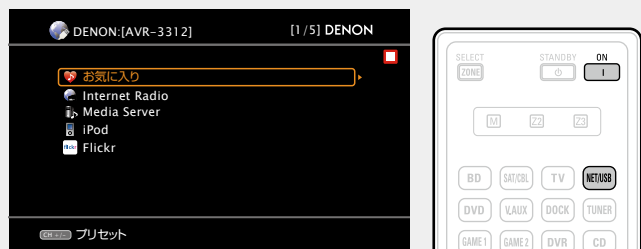
② USB 端子に iPod を直接接続して再生する

iPod に付属の USB ケーブルを使用して、iPod を本機の USB 端子に接続すると、iPod の音楽を楽しむことができます。

- 本機は、iPod（第 5 世代以降）、iPod nano、iPod classic、iPod touch、iPhone の音楽ファイルに対応しています。（iPod shuffle には対応していません。）

1 iPod に付属の USB ケーブルを使用して、iPod を本機の USB 端子に接続する（☞18 ページ「USB 端子に iPod または USB メモリーを接続する」）。

2 ON を押して、本機の電源を入れる。

3 NET/USB を押して、入力ソースを“NET/USB”に切り替える。

4 △▽ を押して“iPod”を選び、ENTER または ▷ を押す。

ご注意

“iPod”が表示されない場合は、iPod が正しく接続されていない可能性があります。接続をやり直してください。

5 SEARCH を 2 秒以上長押しして、表示モードを選ぶ。

- iPod のデータを表示するモードは 2 つあります。

ブラウズモード iPod の情報をテレビ画面に表示させて操作するモードです。

- 本機のディスプレイには、半角英数字と一部の記号のみ表示することができます。対応していない文字は、“.（ピリオド）”に置き換えて表示します。

リモートモード iPod に表示される画面を見ながら、直接 iPod 本体を操作するモードです。

- 本機のディスプレイに“Remote iPod”を表示します。
- リモートモードは、iPod の第 5 世代および iPod nano の第 1 世代には対応していません。

表示モード		ブラウズモード	リモートモード
再生できるファイル	音楽ファイル	✓	✓
	ビデオファイル		＊
操作できるボタン	本機のリモコン	✓	✓
	iPod		✓

＊ 音声のみ再生します。

6 △▽ を押して項目を選び、ENTER または ▷ を押して再生したいファイルを選ぶ。

7 ENTER、▷ または ▶ を押す。

再生をはじめます。

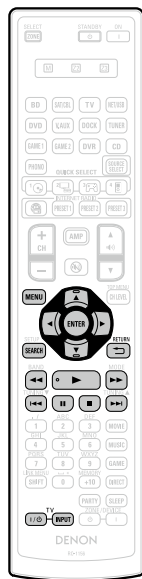
- メニューの“iPod”（☞117 ページ）で、iPod 画面の表示時間（お買い上げ時の設定：30 秒）を設定できます。iPod 画面の表示が消えているときに △▽◁ ▷ を押すと、元の画面に戻ります。
- RESTORER（リストアラー）モードを使用すると、圧縮オーディオの低域や高域を拡張してより豊かな再生ができます（☞104 ページ）。お買い上げ時は、“Mode 3”に設定しています。
- ブラウズモードで再生中に本体の **STATUS** を押すと、タイトル名、アーティスト名およびアルバム名を確認できます。

ご注意

- iPod の種類またはソフトウェアのバージョンによっては、機能の一部が動作しない場合があります。
- 万一、iPod のデータが消失または損傷しても、当社は一切責任を負いません。

☞ 次のページへ

基本編 応用編 情報編

❏iPod 再生時に使用できるボタン

操作ボタン	機能
MENU	アンプのメニュー表示
△▽◁▷	カーソル操作 / オートサーチ（頭出し、△▽）/ マニュアルサーチ（長押し、△▽）
ENTER（短押し）	確定 / 一時停止
ENTER（長押し）	停止
SEARCH（短押し）	ページ検索モード ＊1 / キャラクターサーチ ＊2
SEARCH（長押し）	ブラウズモードとリモートモードの切り替え
RETURN ⮌	リターン
◀◀ ▶▶（長押し）	マニュアルサーチ（早戻し / 早送り）
▶	再生 / 一時停止
I◀◀ ▶▶I	オートサーチ（頭出し）
❚❚	一時停止
■	停止
TV I/⏻	テレビの電源オン / スタンバイ（お買い上げ時の設定：SONY）
TV INPUT	テレビの入力切り替え（お買い上げ時の設定：SONY）

- **リピート再生**（☞96 ページ “リピート”）
- **ランダム再生**（☞96 ページ “シャッフル”）

＊1 メニュー画面が表示されているときに **SEARCH** を押して、◁（前のページ）または ▷（次のページ）を押す。
解除するときは、△▽ または **SEARCH** を 2 回押してください。

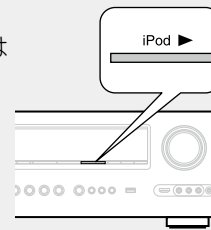
＊2 メニュー画面が表示されているときに **SEARCH** を 2 回押して、◁ ▷ で検索したい頭文字を選ぶ。
検索できないリストの場合は、“ソートできないリストです”を表示します。
解除するときは、△▽ または **SEARCH** を押してください。

リストがアルファベット順に並んでいない場合、キャラクターサーチができないことがあります。

iPod 再生機能

iPod 用コントロールドックを接続しているときや iPod を USB 端子に接続しているときに、本体の **iPod ▶** を押すだけで、iPod の再生ができます。

iPod ▶ を押す。

- 本機の入力ソースが“DOCK” または “NET/USB”に切り替わります。
- iPod の再生をはじめます。

ご注意

iPod 用コントロールドック（“DOCK”）と iPod（“NET/USB”）の両方を接続している場合は、iPod 用コントロールドック（“DOCK”）の再生を優先します。

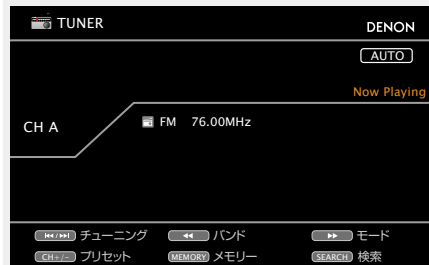
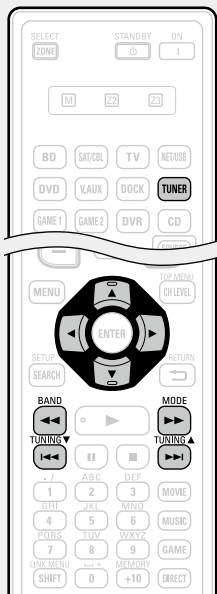
ラジオ放送局を受信する

アンテナの接続については、「アンテナを接続する」(☞19ページ)をご覧ください。

FM/AM 放送を聴く

1 **TUNER を押して、入力ソースを"TUNER"に切り替える。**

2 **BAND を押して、"FM" または "AM"を選ぶ。**

FM	FM 放送を聴くときに選びます。
AM	AM 放送を聴くときに選びます。

3 **放送局を受信する。**

オートチューニング 自動で放送局を受信します。

① **MODE**を押して、本機のディスプレイの"AUTO"表示を点灯させる。
② **TUNING ▲**または**TUNING ▼**を押して、聴きたい放送局を選ぶ。

マニュアルチューニング 手動で放送局を受信します。

① **MODE**を押して、本機のディスプレイの"AUTO"表示を消灯させる。
② **TUNING ▲**または**TUNING ▼**を押して、聴きたい放送局を選ぶ。

- オートチューニングで聴きたい放送局を受信できない場合は、マニュアルチューニングで放送局を受信してください。
- マニュアルチューニング中に **TUNING ▲** または **TUNING ▼** を押し続けると、連続的に受信周波数が変わります。
- メニューの"Tuner"(☞117 ページ)で、チューナー画面の表示時間(お買い上げ時の設定：30 秒)を設定できます。画面の表示が消えているときに △▽◁ ▷ を押すと、元の画面に戻ります。

❑手動でラジオ放送を選局しプリセットする(マニュアルプリセット)

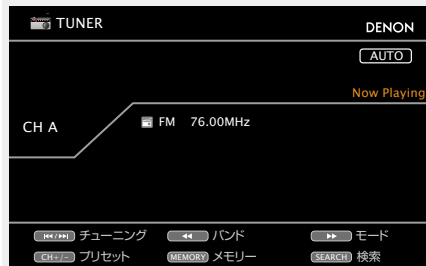
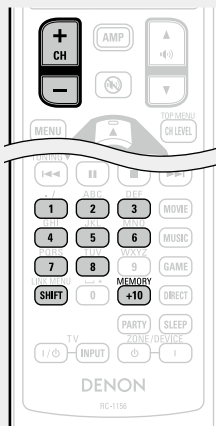
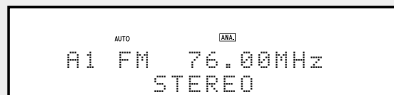
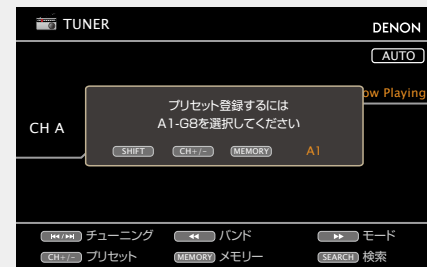
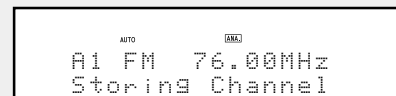
手動でお好みの放送を選局し、プリセットします。
最大 56 局までプリセットできます。

- **メニューの"オートプリセット"(☞96 ページ)をおこなうと、自動で放送局をプリセットできます。**ただし、マニュアルプリセット後に"オートプリセット"をおこなった場合、マニュアルプリセットで設定していた放送局に上書きします。

1 **プリセットしたい放送局を受信する。**

2 **MEMORY を押す。**

【本機のディスプレイ】

A1 FM 76.00MHz
Storing Channel

3 **CH +、CH – または 1 ～ 8 を押してプリセット番号を選ぶ。**
SHIFT を押すとブロックを(A～G)を選択できます。

4 **もう一度 MEMORY を押して、設定を確定する。**

- 続けて他の放送局をプリセットする場合は、手順 1～4 をおこなってください。

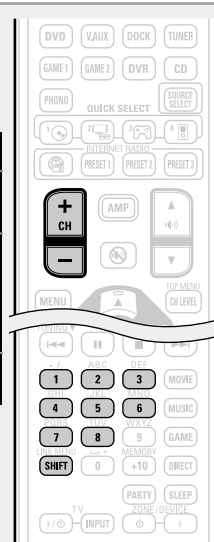
☞次のページへ

お買い上げ時の設定

ブロック（A～G）および チャンネル（1～8）	お買い上げ時の設定
A1～A8	76.00/83.00/89.00/90.00/90.00/90.00/90.00/90.00MHz
B1～B8	522/603/999/1404/1629kHz, 90.00/90.00/90.00MHz
C1～C8	90.00MHz
D1～D8	90.00MHz
E1～E8	90.00MHz
F1～F8	90.00MHz
G1～G8	90.00MHz

プリセットした放送局に名前をつける（プリセットネーム）（☞97 ページ）

❑プリセットした放送局を聴く

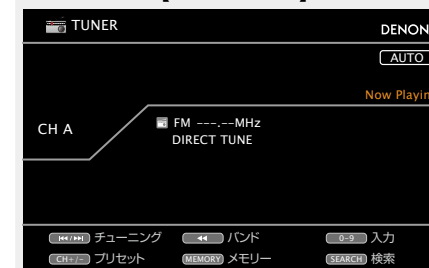
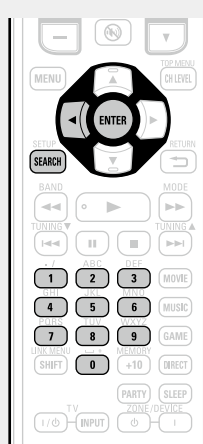
1 **SHIFT を押して、プリセットしたブロック（A～G）を選ぶ。**

2 **CH +, CH – または 1 ~ 8 でプリセットしたチャンネルを選ぶ。**

本体で操作する場合は、次の手順でおこなってください。

- **TUNER PRESET CH +** または **TUNER PRESET CH –** を押して、プリセットした放送局を選ぶ。

❑ダイレクトに放送局を受信する

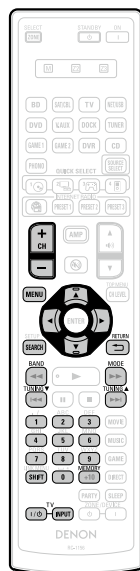
ダイレクトに周波数を入力し、放送局を受信します。

1 **SEARCH を押す。**

2 **0 ~ 9 を押して、周波数を入力する。**

- ◁ を押すと、1 つ前に入力した周波数を取り消すことができます。

3 **入力が完了したら、ENTER を押す。**
放送局を受信します。

☞ 次のページへ

❏FM/AM 放送を受信時に使用できるボタン

操作ボタン	機能
CH +, –	プリセットチャンネルの選択
MENU	アンプのメニュー表示
△▽◁▷	チューナー画面の表示
SEARCH	ダイレクト選局
RETURN	リターン
BAND	FM/AM 受信バンドの切り替え
MODE	サーチモードの切り替え
TUNING ▲▼	選局（アップ / ダウン）
0 ~ 9	プリセットチャンネルの選択（1～8）/ ダイレクト選局（0～9）
SHIFT	プリセットチャンネルブロックの選択
MEMORY	プリセットチャンネルの登録
TV I/⏻	テレビの電源オン / スタンバイ （お買い上げ時の設定：SONY）
TV INPUT	テレビの入力切り替え （お買い上げ時の設定：SONY）

基本編
応用編
情報編

ネットワークオーディオを再生する

インターネットラジオやパソコンに保存されている音楽ファイルや静止画像（JPEG）ファイルを再生することができます。

知っておいてほしいこと

❏インターネットラジオ機能について

- インターネットラジオとは、インターネット上に配信されているラジオ放送です。世界中のインターネットラジオ放送を聴くことができます。
- 本機には、次のインターネットラジオ機能があります。
  - ジャンル別、地域別に選べます。
  - 最大 56 局のインターネットラジオ局をプリセット登録できます（☞44 ページ）。
  - MP3 や WMA（Windows Media Audio）フォーマットのインターネットラジオ放送を聴くことができます。
  - パソコン上の Web ブラウザから当社のインターネットラジオ用の URL にアクセスすると、お気に入りのラジオを登録することができます。
- お客様の機器ごとに管理をしますので、MAC アドレスや E-mail アドレスの登録が必要になります。
  専用 URL：http://www.radiodenon.com
- ラジオ局データベースサービスは、予告なく停止する場合があります。
- 本機のインターネットラジオ局リストは、ラジオ局データベースサービス（vTuner）を利用しています。このデータベースサービスは、本機用に編集および作成されたリストです。

❏メディアサーバー機能について

ネットワークを経由して、本機に接続されたパソコン（メディアサーバー）に保存された音楽ファイルまたはプレイリスト（m3u、wpl）を再生することができます。
本機のネットワークオーディオ再生機能には、次の技術を利用してサーバーに接続できます。
- Windows Media Player Network Sharing Service
- Windows Media DRM10

アルバムアート機能

WMA（Windows Media Audio）、MP3、MPEG-4AAC のファイルで、アルバムアートのデータを持っている場合は、音楽ファイルを再生中にアルバムアートを表示させることができます。

WMA ファイルのアルバムアートは、Windows Media Player（バージョン 11 以上）を使用することで表示できます。

スライドショー機能

メディアサーバーのフォルダ内に保存された静止画像（JPEG）ファイル、および Flickr サイト上の写真をスライドショーで再生することができます。
また、再生するときの表示時間を設定することもできます（☞96 ページ）。

本機では、フォルダに保存されている画像の向きで静止画像（JPEG）ファイルを再生します。

❏ネットワーク内での音楽ファイルと画像ファイルの同時再生機能

音楽ファイル再生後に画像ファイルを再生することで、音楽ファイルと画像ファイルを同時に再生することができます。
また、画像ファイル再生後に音楽ファイルを選択する場合は、音楽再生画面が表示されているときに **SEARCH** を押してください。
音楽ファイルと画像ファイルの同時再生ができます。このとき、メニューの“スライドショー”（☞96 ページ）を“オン”に設定してください。

同時に再生できるネットワークコンテンツは次のとおりです。
- 音楽ファイル：お気に入り、インターネットラジオ、メディアサーバー、USB、iPod ブラウズモード（NET/USB）
- 画像ファイル：メディアサーバー、USB、Flickr

☞ 次のページへ

【各機能で再生できるファイルの種類】

	インターネットラジオ	メディアサーバー *1
WMA (Windows Media Audio)	✓	✓
MP3 (MPEG-1 Audio Layer-3)	✓	✓
WAV		✓
MPEG-4 AAC		✓*2
FLAC (Free Lossless Audio Codec)		✓
JPEG		✓

ネットワーク経由での音楽ファイルの再生には、そのフォーマットの配信に対応したサーバーまたはサーバーソフトウェアが必要です。

*1 メディアサーバーについて
- MP3 ID3 タグ(バージョン 2.*)に対応しています。
- 本機では、MP3 ID3 タグのバージョン 2.3 または 2.4 を使用して、アートワークを表示することができます。
- WMA META タグに対応しています。
- WAV フォーマットの量子化ビット数は、16 ビットです。
- FLAC フォーマットの量子化ビット数は、16 ビットまたは 24 ビットです。

*2 著作権保護のないファイルのみ再生できます。
インターネット上の有料音楽サイトからのダウンロードコンテンツには著作権保護がかかっています。また、パソコンで CD などからリッピングする際に WMA でエンコードすると、パソコンの設定により著作権保護がかかる場合があります。

【再生できるファイルの仕様】

	サンプリング周波数	ビットレート	拡張子
WMA (Windows Media Audio)	32/44.1/48 kHz	48～192 kbps	.wma
MP3 (MPEG-1 Audio Layer-3)	32/44.1/48 kHz	32～320 kbps	.mp3
WAV	32/44.1/48 kHz	–	.wav
MPEG-4 AAC	32/44.1/48 kHz	16～320 kbps	.aac/ .m4a/ .mp4
FLAC (Free Lossless Audio Codec)	32/44.1/48/ 88.2/96 kHz	–	.flac

❑Flickr について

2004 年に開始されたオンラインの写真共有サービスです。本機では、Flickr ユーザーが公開した写真を閲覧することができます。アカウントは必要ありません。
自分で撮影した写真を Flickr のサーバーにアップロードするためにはアカウントが必要です。
詳しくは、Flickr のホームページをご覧ください。
http://www.flickr.com/

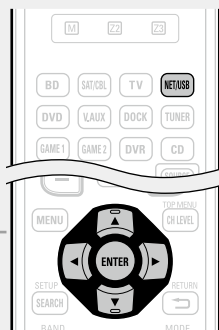
インターネットラジオを聴く

1 再生の準備をする。
① ネットワーク環境を確認してから、本機の電源を入れる（☞22ページ「ホームネットワーク（LAN）に接続する」）。
② 設定が必要な場合は、“ネットワーク接続”（☞112ページ）をおこなう。

2 NET/USB を押して、入力ソースを“NET/USB”に切り替える。

3 △▽ を押して“Internet Radio”を選び、ENTER または ▷ を押す。

• “ソース選択”メニューで を選択すると、“Internet Radio”をダイレクトに選択できます。

4 △▽ を押して再生したい項目を選び、ENTER または ▷ を押す。

5 放送局リストが表示されるまで、手順 4 をくり返す。
放送局リストを表示します。

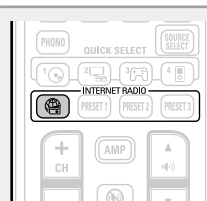
6 △▽ を押して放送局を選び、ENTER または ▷ を押す。
バッファリングが“100％”表示になると、再生がはじまります。

インターネット上には数多くのインターネットラジオ局があり、各ラジオ局から配信される放送や楽曲のビットレートには高低さまざまなものがあります。
一般的に、ビットレートが高いほど高音質になりますが、通信回線やサーバーの混雑具合によってはストリーミングしている音楽や音声が途切れやすくなります。逆にビットレートが低ければ音質は低下しますが、途切れにくくなります。

• 放送局が混雑している場合や放送されていないときには、“ラジオステーションのサーバーが混雑しています”または“接続が途切れました”を表示します。
• 本機ではフォルダ名とファイル名をタイトルのように表示することができます。ディスプレイ表示に対応していない文字は、“.（ピリオド）”に置き換えて表示します。
• RESTORER（リストアラー）モードを使用すると、圧縮オーディオの低域や高域を拡張してより豊かな再生をすることができます（☞104 ページ）。お買い上げ時の設定は“Mode 3”です。
• メニューの“NET/USB”（☞117 ページ）で、表示時間（お買い上げ時の設定：30 秒）を設定することができます。画面の表示が消えているときに △▽◁ ▷ を押すと、元の画面に戻ります。
• 本体の **STATUS** を押すと、タイトル名および放送局名を確認できます。

❑前回再生したインターネットラジオ局を再生する

INTERNET RADIO を押すだけで、前回再生していたラジオ局を再生することができます。

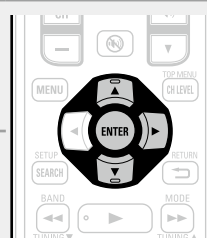
INTERNET RADIO を押す。
入力ソースを“Internet Radio”に切り替え、前回再生していたラジオ局を再生します。

• 本体の **INTERNET RADIO** を押しても、リモコンと同じように操作できます。
• **INTERNET RADIO** を押すと、リモコンの操作モードは自動的にアンプ操作モードに切り替わります（☞122 ページ）。

❑最近再生したインターネットラジオ局を選ぶとき

“Recently Played”から、最近再生したインターネットラジオ局を選ぶことができます。
最大 20 局まで“Recently Played”へ自動的に記憶されます。

1 △▽ を押して“Recently Played”を選び、ENTER または ▷ を押す。

2 △▽ を押して再生したい項目を選び、ENTER または ▷ を押す。

☞ 次のページへ

❏キーワードでインターネットラジオ局を検索する

1 △▽ を押して“文字列による検索” を選び、ENTER または ▷ を押す。

2 文字を入力して、OK を押す。

• 文字の入力方法については、88 ページをご覧ください。

❏インターネットラジオ局をプリセット登録する

インターネットラジオ局をダイレクトに選ぶことができます。

1 登録したいインターネットラジオ局を再生中に、MEMORY を押す。

2 △▽ を押して“プリセット” を選び、ENTER を押す。

3 CH +、CH – または 1 ~ 8 を押してプリセット番号を選ぶ。

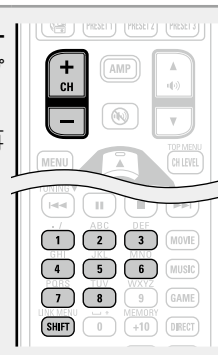
• SHIFT を押すとブロック（A～G）を選択できます。

4 MEMORY を押して設定を登録する。

インターネットラジオ局を登録します。

❏登録したインターネットラジオ局を聴く

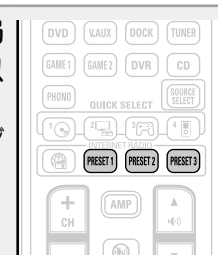
SHIFT を押したあとに CH +、CH – または 1 ~ 8 を押して、登録したプリセット番号を選ぶ。

自動的にインターネットに接続して、再生をはじめます。

PRESET CHANNEL ボタンへの登録方法

• リモコンまたは本体の PRESET 1 ~ 3 ボタンにインターネットラジオ局を 3 つまで登録できます。
• PRESET 1 ~ 3 ボタンには、あらかじめおすすめのインターネットラジオ局がプリセット登録されています。

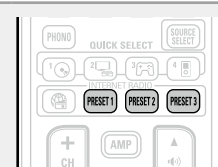
登録したいインターネットラジオ局の再生中に、PRESET 1 ~ 3 を 3 秒以上長押しする。

長押ししたボタンにインターネットラジオ局を登録します。

ご注意

すでにプリセットされている番号に登録すると、前に登録されていた内容は消去されます。

PRESET CHANNEL ボタンに登録したインターネットラジオ局を聴く

登録した PRESET 1 ~ 3 を押す。

次のページへ

❑インターネットラジオ局をお気に入りに登録する

お気に入りに登録するとメニュー画面の先頭にリストアップされますので、選局が容易にできます。

1 **登録したいインターネットラジオ局を再生中に、MEMORY を押す。**

2 **△▽ を押して“お気に入り”を選び、ENTER を押す。**

3 **◁ を押して“登録”を選ぶ。**

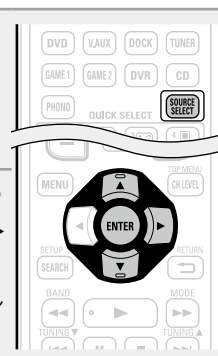
インターネットラジオ局を登録します。

• 登録しない場合は、▷ を押してください。

❑お気に入りに登録したインターネットラジオ局を聴く

1 **SOURCE SELECT を押して“ソース選択”メニューを表示させ、を選ぶ（**☞32 ページ**）。**

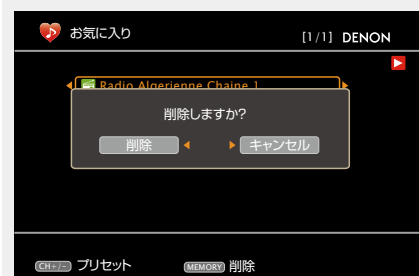
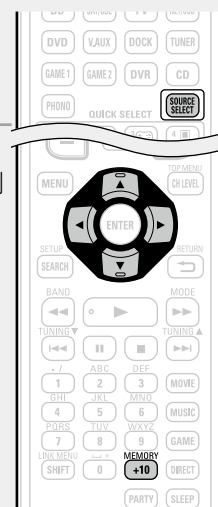
2 **△▽ を押してインターネットラジオ局を選び、ENTER または ▷ を押す。**

自動的にインターネットに接続して、再生をはじめます。

❑お気に入りに登録したインターネットラジオ局を削除する

1 **SOURCE SELECT を押して“ソース選択”メニューを表示させ、を選ぶ（**☞32 ページ**）。**

2 **△▽ を押して削除したいインターネットラジオ局を選び、MEMORY を押す。**

3 **◁ を押して“削除”を選ぶ。**

選んだインターネットラジオ局を削除します。

• 削除しない場合は、▷ を押してください。

❑インターネットラジオ受信時に使用できるボタン

操作ボタン	機能
INTERNET RADIO	前回再生したラジオ局の再生
PRESET 1 ~ 3	プリセットチャンネル（1～3）選択
CH +, –	プリセットチャンネル（A1～G8）選択
MENU	アンプのメニュー表示
△▽◁▷	カーソル操作
ENTER（短押し）	確定
ENTER（長押し）	停止
SEARCH	ページ検索モード *1 / キャラクターサーチ *2
RETURN	リターン
■	停止
1 ~ 8	プリセットチャンネル選択
SHIFT	プリセットチャンネルブロックの選択
MEMORY	お気に入り登録 / プリセットチャンネルの登録
TV I/⏻	テレビ電源オン / スタンバイ（お買い上げ時の設定：SONY）
TV INPUT	テレビ入力切り替え（お買い上げ時の設定：SONY）

*1 メニュー画面が表示されているときに **SEARCH** を押して、◁（前のページ）または ▷（次のページ）を押す。
解除するときは、△▽ または **SEARCH** を 2 回押してください。

*2 メニュー画面が表示されているときに **SEARCH** を 2 回押して、◁ ▷ で検索したい頭文字を選ぶ。
検索できないリストの場合は、“ソートできないリストです”を表示します。
解除するときは、△▽ または **SEARCH** を押してください。

リストがアルファベット順に並んでいない場合、キャラクターサーチができないことがあります。

パソコンに保存されているファイルを再生する

音楽ファイル、画像ファイルおよびプレイリストを再生できます。

1 再生の準備をする。
① ネットワーク環境を確認してから、本機の電源を入れる（☞22ページ「ホームネットワーク（LAN）に接続する」）。
② 設定が必要な場合は、“ネットワーク接続”（☞112ページ）をおこなう。
③ パソコンの準備をする（☞パソコンの取扱説明書）。

2 SOURCE SELECT を押して“ソース選択”メニューを表示させ、を選ぶ（☞32 ページ）。

3 △▽ を押して再生したいファイルのあるサーバーを選び、ENTER または ▷ を押す。

4 △▽ を押して検索項目またはフォルダを選び、ENTER または ▷ を押す。

5 ファイルが表示されるまで、手順 4 をくり返す。

6 △▽ を押してファイルを選び、ENTER または ▷ を押す。
バッファリングが“100%”表示になると、再生がはじまります。

- 音楽ファイルの再生には、必要なシステムとの接続および設定が必要です（☞22 ページ）。
- あらかじめパソコンのサーバーソフトを起動し、ファイルをサーバーコンテンツとして設定してください。詳しくは、サーバーソフトの取扱説明書をご覧ください。
- 静止画像（JPEG）ファイルのサイズによっては、画像が表示されるまでに時間がかかる場合があります。
- 曲の表示順は、サーバーの仕様によって異なります。サーバーの仕様によって、曲の表示順がアルファベット順にならない場合は、頭文字での検索が正しく動作しないことがあります。
- Windows Media Player（バージョン 11 以上）などのトランスコードに対応したサーバーをご使用になる場合は、WMA Lossless ファイルを再生できます。
- RESTORER（リストアラー）モードを使用すると、圧縮オーディオの低域や高域を拡張してより豊かな再生をすることができます（☞104 ページ）。お買い上げ時は、“Mode 3”に設定しています。
- メニューの“NET/USB”（☞117 ページ）で、表示時間（お買い上げ時の設定：30 秒）を設定することができます。画面の表示が消えているときに △▽◁ ▷ を押すと、元の画面に戻ります。
- 本体の **STATUS** を押すと、タイトル名、アーティスト名およびアルバム名を確認できます。

❏プリセットやお気に入りに登録して再生する

音楽ファイルもインターネットラジオと同様の操作で、プリセットやお気に入りに登録して再生することができます（☞44 ページ）。

ご注意

- すでにプリセットされている番号に登録すると、前に登録されていた内容は消去されます。
- 下記の操作をおこなうと、メディアサーバーのデータベースが更新され、プリセットやお気に入りに登録した音楽ファイルが再生できなくなる場合があります。
  - メディアサーバーを停止し、再起動した場合
  - メディアサーバーで音楽ファイルを削除または追加した場合

☞ 次のページへ

❑メディアサーバーに使用できるボタン

操作ボタン	機能
INTERNET RADIO	前回再生したラジオ局の再生
PRESET 1 ~ 3	プリセットチャンネル（1～3）選択
CH +, –	プリセットチャンネル（A1～G8）選択
MENU	アンプのメニュー表示
△▽◁▷	カーソル操作 / オートサーチ（頭出し、△▽）
ENTER（短押し）	確定 / 一時停止
ENTER（長押し）	停止
SEARCH	ページ検索モード ＊1 / キャラクターサーチ ＊2
RETURN ⮌	リターン
▶	再生 / 一時停止
⏮ ⏭	オートサーチ（頭出し）
❚❚	一時停止
■	停止
1 ~ 8	プリセットチャンネルの選択
SHIFT	プリセットチャンネルブロックの選択
MEMORY	お気に入り登録 / プリセットチャンネルの登録
TV I/⏻	テレビ電源オン / スタンバイ（お買い上げ時の設定：SONY）
TV INPUT	テレビ入力切り替え（お買い上げ時の設定：SONY）

- **リピート再生**（☞96 ページ“リピート”）
- **ランダム再生**（☞96 ページ“ランダム”）
- **スライドショー再生**（☞96 ページ“スライドショー”）

＊1 メニュー画面が表示されているときに **SEARCH** を押して、◁（前のページ）または ▷（次のページ）を押す。
解除するときは、△▽ または **SEARCH** を 2 回押してください。

＊2 メニュー画面が表示されているときに **SEARCH** を 2 回押して、◁ ▷ で検索したい頭文字を選ぶ。
検索できないリストの場合は、“ソートできないリストです”を表示します。
解除するときは、△▽ または **SEARCH** を押してください。

リストがアルファベット順に並んでいない場合、キャラクターサーチができないことがあります。

Flickr サイト上の写真を閲覧する

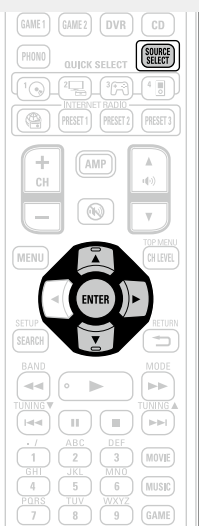
任意のユーザーが共有している写真や Flickr 上のすべての写真を閲覧することができます。

❏任意のユーザーが共有している写真を閲覧する

1 再生の準備をする。

① ネットワーク環境を確認してから、本機の電源を入れる（☞22ページ「ホームネットワーク（LAN）に接続する」）。
② 設定が必要な場合は、"ネットワーク接続"（☞112ページ）をおこなう。

2 SOURCE SELECT を押して"ソース選択"メニューを表示させ、flickr を選ぶ（☞32 ページ）。

3 △▽ を押して"Add Flickr Contact"を選び、ENTER または ▷ を押す。

4 "Contact" に追加したい screen name（スクリーン・ネーム）を入力する。

- 文字の入力方法については、88 ページをご覧ください。

5 "Contact"を入力後、O K を押す。

"Contact" に登録され、Flickr のトップ画面に手順 4 で入力した screen name（スクリーン・ネーム）を表示します。

- 存在しない screen name（スクリーン・ネーム）を入力すると、"入力したコンタクトが見つかりませんでした" が表示されます。screen name（スクリーン・ネーム）を確認し、正しく入力してください。

6 △▽ を押してフォルダを選び、ENTER または ▷ を押す。

Favorites	ご指定のユーザーのお気に入り写真を表示します。
Photostream	公開している写真一覧を表示します。
PhotoSets	フォルダ（写真アルバム）リストを表示します。
Contacts	ご指定のユーザーがコンタクト登録している screen name（スクリーン・ネーム）を表示します。
Remove this Contact	ご指定のユーザーをコンタクトから削除します。

7 △▽ を押してファイルを選び、ENTER または ▷ を押す。

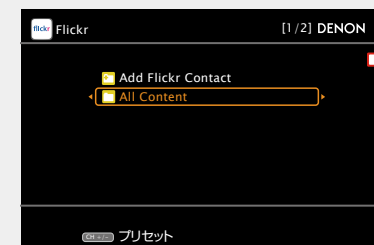
選択したファイルを表示します。

❏Flickr 上のすべての写真を閲覧する

1 再生の準備をする。

① ネットワーク環境を確認してから、本機の電源を入れる（☞22ページ「ホームネットワーク（LAN）に接続する」）。
② 設定が必要な場合は、"ネットワーク接続"（☞112ページ）をおこなう。

2 SOURCE SELECT を押して"ソース選択"メニューを表示させ、flickr を選ぶ（☞32 ページ）。

3 △▽ を押して"All Content" を選び、ENTER または ▷ を押す。

4 △▽ を押してフォルダを選び、ENTER または ▷ を押す。

Interestingness	コメントやお気に入り登録の履歴から、人気のある写真を表示します。
Recent	最近投稿された写真を表示します。
Search by text	キーワードで写真を検索します。

5 △▽ を押してファイルを選び、ENTER または ▷ を押す。

選択したファイルを表示します。

ご注意

写真のファイルフォーマットによっては、閲覧できないものがあります。

☞ 次のページへ

❏Flickr 再生時に使用できるボタン

操作ボタン	機能
INTERNET RADIO	前回再生したラジオ局の再生
PRESET 1 ~ 3	プリセットチャンネル（1 ～ 3）選択
CH +, –	プリセットチャンネル（A1 ～ G8）選択
MENU	アンプのメニュー表示
△▽◁▷	カーソル操作 / オートサーチ（頭出し、△▽）
ENTER（短押し）	確定
ENTER（長押し）	停止
SEARCH	ページ検索モード ＊
RETURN	リターン
■	停止
1 ~ 8	プリセットチャンネルの選択
SHIFT	プリセットチャンネルブロックの選択
TV I/⏻	テレビ電源オン / スタンバイ（お買い上げ時の設定：SONY）
TV INPUT	テレビ入力切り替え（お買い上げ時の設定：SONY）

• **スライドショー再生**
（☞96 ページ “スライドショー”）

＊ メニュー画面が表示されているときに **SEARCH** を押して、◁（前のページ）または ▷（次のページ）を押す。
解除するときは、△▽ または **SEARCH** を押してください。

USB メモリーを再生する

USB メモリーに保存されている音楽ファイルや静止画像を再生することができます。

知っておいてほしいこと

❑USB メモリーについて

本機の USB 端子に USB メモリーを接続すると、USB メモリーに保存された音楽ファイルや静止画像ファイルを再生することができます。また、本機の USB 端子に iPod を直接接続しても、iPod に保存されたファイルを再生することができます。詳しくは、「USB 端子に iPod を直接接続して再生する」(☞36 ページ) をご覧ください。

- 本機は、マスストレージクラスおよび MTP(Media Transfer Protocol) に対応している USB メモリーのみ再生できます。
- USB メモリーのフォーマットは、FAT16 または FAT32 に対応しています。

アルバムアート機能

MP3 形式の音楽ファイルで、アルバムアートのデータを持っている場合は、音楽ファイルを再生中に、アルバムアートを表示させることができます。

スライドショー機能

USB メモリー内に保存された静止画像(JPEG) ファイルを、スライドショーで再生することができます。また、再生するときの表示時間を設定することもできます (☞96 ページ)。

本機では、フォルダに保存されている画像の向きで静止画像(JPEG) ファイルを再生します。

❑ネットワーク内での音楽ファイルと画像ファイルの同時再生機能

音楽ファイル再生後に画像ファイルを再生することで、音楽ファイルと画像ファイルを同時に再生することができます。

また、画像ファイル再生後に音楽ファイルを選択する場合は、音楽再生画面が表示されているときに **SEARCH** を押してください。

音楽ファイルと画像ファイルの同時再生ができます。このとき、メニューの"スライドショー"(☞96 ページ) を"オン"に設定してください。

同時に再生できるネットワークコンテンツは次のとおりです。

- 音楽ファイル : お気に入り、インターネットラジオ、メディアサーバー、USB、iPod ブラウズモード (NET/USB)
- 画像ファイル : メディアサーバー、USB、Flickr

☞ 次のページへ

【各機能で再生できるファイルの種類】

	USB メモリー＊1
WMA (Windows Media Audio)	✓＊2
MP3 (MPEG-1 Audio Layer-3)	✓
WAV	✓
MPEG-4 AAC	✓＊3
FLAC (Free Lossless Audio Codec)	✓
JPEG	✓

＊1 USB メモリーについて
- MP3 ID3 タグ(バージョン 2.＊)に対応しています。
- 本機では、MP3 ID3 タグのバージョン 2.3 または 2.4 を使用して、アートワークを表示することができます。
- WMA META タグに対応しています。
- WAV フォーマットの量子化ビット数は、16 ビットです。
- FLAC フォーマットの量子化ビット数は、16 ビットまたは 24 ビットです。

＊2 MTP に対応した一部のポータブルプレーヤーは、著作権保護のあるファイルを再生できます。

＊3 著作権保護のないファイルのみ再生できます。
インターネット上の有料音楽サイトからのダウンロードコンテンツには著作権保護がかかっています。また、パソコンで CD などからリッピングする際に WMA でエンコードすると、パソコンの設定により著作権保護がかかる場合があります。

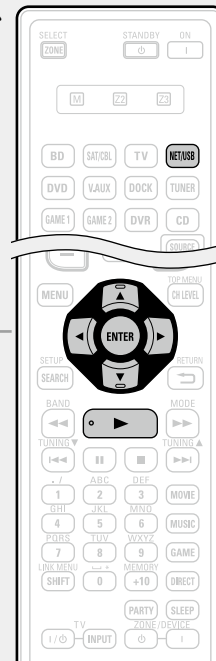
【再生できるファイルの仕様】

	サンプリング周波数	ビットレート	拡張子
WMA (Windows Media Audio)	32/44.1/48 kHz	48～192 kbps	.wma
MP3 (MPEG-1 Audio Layer-3)	32/44.1/48 kHz	32～320 kbps	.mp3
WAV	32/44.1/48 kHz	–	.wav
MPEG-4 AAC	32/44.1/48 kHz	16～320 kbps	.aac/ .m4a/ .mp4
FLAC (Free Lossless Audio Codec)	32/44.1/48/ 88.2/96 kHz	–	.flac

USB メモリーに保存されているファイルを再生する

1 **USB メモリーを USB 端子に接続する(☞18 ページ「USB 端子に iPod または USB メモリーを接続する」)。**

2 **NET/USB を押して入力ソースを"NET/USB"に切り替える。**

3 **△▽ を押して"USB" を選び、ENTER または ▷ を押す。**

- "ソース選択" メニューで を選択すると、"USB/iPod"をダイレクトに選択できます。

4 **△▽ を押して検索項目またはフォルダを選び、ENTER または ▷ を押す。**

5 **△▽ を押してファイルを選び、ENTER、▷ または ▶ を押す。**
再生をはじめます。

- メニューの"NET/USB"(☞117 ページ)で、表示時間(お買い上げ時の設定：30 秒)を設定することができます。画面の表示が消えているときに △▽◁ ▷ を押すと、元の画面に戻ります。
- RESTORER(リストアラー)モードを使用すると、圧縮オーディオの低域や高域を拡張してより豊かな再生をすることができます(☞104 ページ)。お買い上げ時は、"Mode 3" に設定しています。
- USB メモリーが複数のパーティションに分かれている場合は、先頭のパーティションのみを選べます。
- 本機で対応している MP3 ファイルの規格は、「MPEG-1 Audio Layer-3」です。

ご注意

- USB メモリーを本機と接続して使用しているときに、万一 USB メモリーのデータが消失または損傷した場合、当社は一切責任を負いません。
- USB メモリーは USB ハブ経由では動作しません。
- すべての USB メモリーに対して、動作および電源の供給を保証するものではありません。USB 接続タイプのポータブル HDD で、AC アダプターを接続して電源が供給できるタイプのものをお使いになる場合は、AC アダプターのご使用をおすすめします。
- 本機の USB 端子とパソコンを USB ケーブルで接続して使用することはできません。

☞ 次のページへ

❑USB メモリー再生時に使用できるボタン

操作ボタン	機能
INTERNET RADIO	前回再生したラジオ局の再生
PRESET 1 ～ 3	プリセットチャンネル（1 ～ 3）選択
CH +, –	プリセットチャンネル（A1 ～ G8）選択
MENU	アンプのメニュー表示
△▽◁▷	カーソル操作 / オートサーチ（頭出し、△▽）
ENTER（短押し）	確定 / 一時停止
ENTER（長押し）	停止
SEARCH	ページ検索モード ＊1 / キャラクターサーチ ＊2
RETURN ⮌	リターン
▶	再生 / 一時停止
⏮ ⏭	オートサーチ（頭出し）
⏸	一時停止
■	停止
1 ～ 8	プリセットチャンネルの選択
SHIFT	プリセットチャンネルブロックの選択
TV I/⏻	テレビ電源オン / スタンバイ（お買い上げ時の設定：SONY）
TV INPUT	テレビ入力切り替え（お買い上げ時の設定：SONY）

- **リピート再生**（☞96 ページ“リピート”）
- **ランダム再生**（☞96 ページ“ランダム”）
- **スライドショー再生**（☞96 ページ“スライドショー”）

＊1 メニュー画面が表示されているときに **SEARCH** を押して、◁（前のページ）または ▷（次のページ）を押す。
解除するときは、△▽ または **SEARCH** を 2 回押してください。

＊2 メニュー画面が表示されているときに **SEARCH** を 2 回押して、◁ ▷ で検索したい頭文字を選ぶ。
検索できないリストの場合は、“ソートできないリストです”を表示します。
解除するときは、△▽ または **SEARCH** を押してください。

✎

リストがアルファベット順に並んでいない場合、キャラクターサーチができないことがあります。

リスニングモードを選ぶ（サラウンドモード）

本機は、本機に入力される音声信号を、マルチチャンネルサラウンドやステレオで再生することができます。
再生するコンテンツ（映画や音楽など）やお好みに合わせて、リスニングモードを選んでください。

リスニングモードを選ぶ

1 機器を再生する（33～50 ページ**）。**

2 MOVIE、MUSIC、GAME または DIRECT を押して、リスニングモードを選ぶ。

MOVIE　リスニングモードを映画やテレビ番組の再生に適したモードに切り替えます。

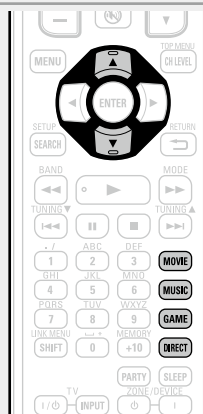
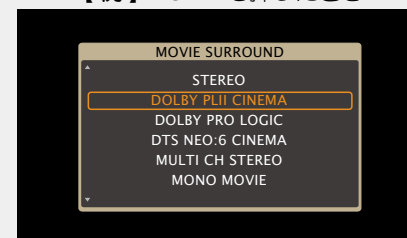
MUSIC　リスニングモードを音楽の再生に適したモードに切り替えます。

GAME　リスニングモードをゲームの再生に適したモードに切り替えます。

DIRECT　リスニングモードをダイレクトまたはピュアダイレクトモードに切り替えます。ダイレクトモードでは、ソースに収録されている音声をそのまま再生します。

- **MOVIE**、**MUSIC** または **GAME** を押すと、それぞれのモードの選択できるリスニングモードを表示します。**MOVIE**、**MUSIC** または **GAME** を押すたびに、リスニングモードが切り替わります。
- この一覧を表示中に ΔV でリスニングモードを選択することもできます。

【例】**MOVIE** を押したとき

次のページへ

❏リスニングモード

- **MOVIE**、**MUSIC**、**GAME** または **DIRECT** ボタンで下記のリスニングモードが選べます。
- メニューの"サラウンドパラメーター"(☞99 ページ)で音場効果を調節すると、よりお好みのサウンドでお楽しみいただけます。

MOVIE

操作ボタン	入力信号		リスニングモード
MOVIE	2 チャンネル *1		STEREO
			DOLBY PLIIx Cinema*2
			DOLBY PLII Cinema*2/ DOLBY PLII Cinema A-DSX*4
			DOLBY Pro Logic*2/ DOLBY Pro Logic A-DSX*4
			DTS NEO:6 Cinema*2/ DTS NEO:6 Cinema A-DSX*4
			DOLBY PLIIz Height*2
			MULTI CH STEREO
			MONO MOVIE
			VIRTUAL
	マルチチャンネル *3		STEREO
		Dolby Digital	DOLBY DIGITAL/ DOLBY DIGITAL A-DSX*4
			DOLBY DIGITAL EX
			DOLBY DIGITAL + PLIIx Cinema
			DOLBY DIGITAL + PLIIz
		Dolby TrueHD	DOLBY TrueHD/ OLBY TrueHD A-DSX*4
			DOLBY TrueHD + EX
			DOLBY TrueHD + PLIIx Cinema
			DOLBY TrueHD + PLIIz
		Dolby Digital Plus	DOLBY DIGITAL Plus/ DOLBY DIGITAL Plus A-DSX*4
			DOLBY DIGITAL Plus + EX
			DOLBY DIGITAL Plus + PLIIx Cinema
			DOLBY DIGITAL Plus + PLIIz

操作ボタン	入力信号		リスニングモード
MOVIE		DTS	DTS SURROUND/ DTS SURROUND A-DSX*4
			DTS ES DSCRT 6.1
			DTS ES MTRX 6.1
			DTS 96/24
			DTS + NEO:6
			DTS + PLIIx Cinema
			DTS + PLIIz
		DTS-HD / DTS Express	DTS-HD HI RES/ DTS-HD HI RES A-DSX*4
			DTS-HD MSTR/ DTS-HD MSTR A-DSX*4
			DTS Express/ DTS Express A-DSX*4
			DTS-HD + NEO:6
			DTS-HD + PLIIx Cinema
			DTS-HD + PLIIz
		PCM マルチチャンネル	MULTI CH IN/ MULTI CH IN A-DSX*4
			MULTI CH IN 7.1
			MULTI IN + Dolby EX
			MULTI IN + PLIIx Cinema
			MULTI IN + PLIIz
		MPEG-2 AAC	MPEG2 AAC
			AAC + Dolby EX
			AAC + PLIIx Cinema
			AAC + PLIIz
	マルチチャンネル *3		MULTI CH STEREO
			MONO MOVIE
			VIRTUAL

*1 2 チャンネルには、アナログ入力も含みます。
*2 2 チャンネルソースを 5.1 または 7.1 チャンネルで再生するモードです。ヘッドホン使用時や、フロントスピーカーのみのスピーカー構成のときには選択できません。
*3 入力信号の音声フォーマットやチャンネル数によっては、選択できないリスニングモードがあります。詳しくは、「入力信号の種類と対応するサラウンドモード」(☞139 ページ)をご覧ください。
*4 このモードは Audyssey DSX™ 処理により、5.1 チャンネルのサラウンドに新しいチャンネルを追加して再生します。
"Audyssey DSX™"(☞103 ページ)で"オン - ハイト -"を選んだ場合はフロントハイトチャンネルを追加し、"オン - ワイド -"を選んだ場合はフロントワイドチャンネルを追加して再生します。

☞ 次のページへ

基本編 応用編 情報編

MUSIC

操作ボタン	入力信号		リスニングモード
MUSIC	2 チャンネル ＊1		STEREO
			DOLBY PLIIx Music ＊2
			DOLBY PLII Music ＊2/ DOLBY PLII Music A-DSX＊4
			DTS NEO:6 Music ＊2/ DTS NEO:6 Music A-DSX＊4
			DOLBY PLIIz Height ＊2
			MULTI CH STEREO
			ROCK ARENA
			JAZZ CLUB
			MATRIX
			VIRTUAL
	マルチチャンネル ＊3		STEREO
		Dolby Digital	DOLBY DIGITAL/ DOLBY DIGITAL A-DSX＊4
			DOLBY DIGITAL EX
			DOLBY DIGITAL + PLIIx Music
			DOLBY DIGITAL + PLIIz
		Dolby TrueHD	DOLBY TrueHD/ DOLBY TrueHD A-DSX＊4
			DOLBY TrueHD + EX
			DOLBY TrueHD + PLIIx Music
			DOLBY TrueHD + PLIIz
		Dolby Digital Plus	DOLBY DIGITAL Plus/ DOLBY DIGITAL Plus A-DSX＊4
			DOLBY DIGITAL Plus + EX
			DOLBY DIGITAL Plus + PLIIx Music
			DOLBY DIGITAL Plus + PLIIz
		DTS	DTS SURROUND/ DTS SURROUND A-DSX＊4
			DTS ES DSCRT 6.1
			DTS ES MTRX 6.1
			DTS 96/24
			DTS + NEO:6
			DTS + PLIIx Music
			DTS + PLIIz
		DTS-HD / DTS Express	DTS-HD HI RES/ DTS-HD HI RES A-DSX＊4
			DTS-HD MSTR / DTS-HD MSTR A-DSX＊4
			DTS Express / DTS Express A-DSX＊4
			DTS-HD + NEO:6
			DTS-HD + PLIIx Music
			DTS-HD + PLIIz
		PCM マルチチャンネル	MULTI CH IN/ MULTI CH IN A-DSX＊4
			MULTI CH IN 7.1
			MULTI IN + Dolby EX
			MULTI IN + PLIIx Music
			MULTI IN + PLIIz
		MPEG-2 AAC	MPEG2 AAC
			AAC + Dolby EX
			AAC + PLIIx Music
			AAC + PLIIz
	マルチチャンネル ＊3		MULTI CH STEREO
			ROCK ARENA
			JAZZ CLUB
			MATRIX
			VIRTUAL

＊1 2 チャンネルには、アナログ入力も含みます。
＊2 2 チャンネルソースを 5.1 または 7.1 チャンネルで再生するモードです。ヘッドホン使用時や、フロントスピーカーのみのスピーカー構成のときには選択できません。
＊3 入力信号の音声フォーマットやチャンネル数によっては、選択できないリスニングモードがあります。詳しくは、「入力信号の種類と対応するサラウンドモード」(☞139 ページ) をご覧ください。
＊4 このモードは Audyssey DSX™ 処理により、5.1 チャンネルのサラウンドに新しいチャンネルを追加して再生します。
“Audyssey DSX™” (☞103 ページ) で“オン - ハイト -” を選んだ場合はフロントハイトチャンネルを追加し、“オン - ワイド -” を選んだ場合はフロントワイドチャンネルを追加して再生します。

☞ 次のページへ

GAME

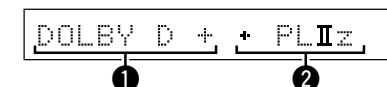
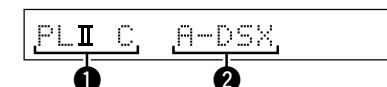
操作ボタン	入力信号		リスニングモード
GAME	2 チャンネル *1		STEREO
			DOLBY PLIIx Game *2
			DOLBY PLII Game *2/ DOLBY PLII Game A-DSX*4
			DOLBY PLIIz Height *2
			MULTI CH STEREO
			VIDEO GAME
			VIRTUAL
	マルチチャンネル *3		STEREO
		Dolby Digital	DOLBY DIGITAL/ DOLBY DIGITAL A-DSX*4
			DOLBY DIGITAL EX
			DOLBY DIGITAL + PLIIz
		Dolby TrueHD	DOLBY TrueHD/ DOLBY TrueHD A-DSX*4
			DOLBY TrueHD + EX
			DOLBY TrueHD + PLIIz
		Dolby Digital Plus	DOLBY DIGITAL Plus/ DOLBY DIGITAL Plus A-DSX*4
			DOLBY DIGITAL Plus + EX
			DOLBY DIGITAL Plus + PLIIz
		DTS	DTS SURROUND/ DTS SURROUND A-DSX*4
			DTS ES DSCRT 6.1
			DTS ES MTRX 6.1
			DTS 96/24
			DTS + NEO:6
			DTS + PLIIz
		DTS-HD / DTS Express	DTS-HD HI RES/ DTS-HD HI RES A-DSX*4
			DTS-HD MSTR/ DTS-HD MSTR A-DSX*4
			DTS Express/ DTS Express A-DSX*4
			DTS-HD + NEO:6
			DTS-HD + PLIIz

操作ボタン	入力信号		リスニングモード
GAME	マルチチャンネル *3	PCM マルチチャンネル	MULTI CH IN/ MULTI CH IN A-DSX*4
			MULTI CH IN 7.1
			MULTI IN + Dolby EX
			MULTI IN + PLIIz
		MPEG-2 AAC	MPEG2 AAC
			AAC + Dolby EX
			AAC + PLIIz
			MULTI CH STEREO
			VIDEO GAME
			VIRTUAL

*1 2 チャンネルには、アナログ入力も含みます。
*2 2 チャンネルソースを 5.1 または 7.1 チャンネルで再生するモードです。ヘッドホン使用時や、フロントスピーカーのみのスピーカー構成のときには選択できません。
*3 入力信号の音声フォーマットやチャンネル数によっては、選択できないリスニングモードがあります。詳しくは、「入力信号の種類と対応するサラウンドモード」(☞139 ページ) をご覧ください。
*4 このモードは Audyssey DSX™ 処理により、5.1 チャンネルのサラウンドに新しいチャンネルを追加して再生します。
“Audyssey DSX™” (☞103 ページ) で “オン - ハイト -” を選んだ場合はフロントハイトチャンネルを追加し、“オン - ワイド -” を選んだ場合はフロントワイドチャンネルを追加して再生します。

DIRECT

操作ボタン	入力信号	リスニングモード
DIRECT	すべて	DIRECT
		PURE DIRECT

❏テレビ画面およびディスプレイの表示について

❶ 使用するデコーダーをあらわします。
• DOLBY DIGITAL Plus デコーダーは、“DOLBY D +” と表示します。
❷ サラウンドバックスピーカーから出力する音声を生成するデコーダーをあらわします。
• “+ PLIIz” はフロントハイトスピーカーからのフロントハイト音声をあらわします。

❶ 使用するデコーダーをあらわします。
❷ Audyssey DSX™処理をあらわします。

AAC ソースの再生について

• AAC 放送再生中に再生チャンネル数などの放送内容が切り替わった場合、音声が途中で途切れる場合があります。
• テレビやデジタルチューナーなどによっては、AAC 出力が “オフ” になっていたり、AAC 信号を PCM 信号に変換する設定になっていたりする場合があります。テレビやデジタルチューナーなどの設定画面で、デジタル音声や AAC 出力の設定をご確認ください。詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

☞ 次のページへ

❑リスニングモードの種類について

ドルビーリスニングモード

リスニングモードの種類	説明
DOLBY PLIIx*1	Dolby PLIIx デコーダーを使用して、2 チャンネルソースをサラウンドバックチャンネルを加えた 6.1/7.1 チャンネルのサラウンドサウンドで再生するモードです。 サラウンドバックチャンネルによって、Dolby Pro Logic II に比べ、より包囲感が向上します。 映画再生に適した“Cinema”モード、音楽再生に適した“Music”モードおよびゲームに最適な“Game”モードがあります。
DOLBY PLII	Dolby PLII デコーダーを使用して、2 チャンネルソースを自然で臨場感のある 5.1 チャンネルのサラウンドサウンドで再生するモードです。
DOLBY Pro Logic	Dolby Pro Logic デコーダーを使用して、2 チャンネルソースを 4.1 チャンネル(フロント左 / センター / フロント右 / サラウンドモノ)のサラウンドサウンドで再生するモードです。
DOLBY PLIIz*2	Dolby PLIIz デコーダーを使用して、2 チャンネルソースをフロントハイトチャンネルを加えた 7.1 チャンネルのサラウンドサウンドで再生するモードです。 フロントハイトチャンネルの追加によって、垂直方向の表現が豊かになり、立体感が向上します。
DOLBY DIGITAL	Dolby Digital で収録されたディスクの再生に適したモードです。
DOLBY DIGITAL EX*1	Dolby Digital EX デコーダーを使用して、Dolby Digital ソースをサラウンドバックチャンネルを加えた 6.1/7.1 チャンネルのサラウンドサウンドで再生するモードです。 サラウンドバックチャンネルが加わることにより、空間表現力や定位感が向上します。
DOLBY TrueHD	Dolby TrueHD で収録されたディスクの再生に適したモードです。
DOLBY DIGITAL Plus	Dolby Digital Plus で収録されたディスクの再生に適したモードです。

*1 メニューの“スピーカー構成”⇨“S. バック”設定(☞106 ページ)が“無し”以外のときに選べます。
*2 メニューの“スピーカー構成”⇨“フロントハイト”設定(☞107 ページ)が“無し”以外のときに選べます。

DTS リスニングモード

リスニングモードの種類	説明
DTS NEO:6	DTS NEO:6 デコーダーを使用して、2 チャンネルソースをサラウンドバックチャンネルを含んだ 6.1/7.1 チャンネルのサラウンドサウンドで再生するモードです。 映画再生に適した“Cinema”モードと、音楽再生に適した“Music”モードがあります。
DTS SURROUND	DTS で収録されたディスクの再生に適したモードです。
DTS ES DSCRT6.1*	DTS-ES で収録されたディスクの再生に適したモードです。 ディスクリート方式で追加されたサラウンドバックチャンネルを独立したチャンネルとして再生します。 すべてのチャンネルが独立しているため、360 度の空間表現力や定位感が拡大します。
DTS ES MTRX6.1*	DTS-ES で収録されたディスクの再生に適したモードです。 ソフトを収録時、マトリクスエンコードにより、サラウンド左 / サラウンド右チャンネルに追加されたサラウンドバックチャンネルを、本機のマトリクスデコーダーによってサラウンド左 / サラウンド右 / サラウンドバックの各チャンネルにデコードして再生します。
DTS 96/24	DTS 96/24 で収録されたディスクの再生に適したモードです。
DTS-HD	DTS-HD で収録されたディスクの再生に適したモードです。
DTS Express	DTS Express で収録されたディスクの再生に適したモードです。

* メニューの“スピーカー構成”⇨“S. バック”設定(☞106 ページ)が“無し”以外のときに選べます。

PCM マルチチャンネルリスニングモード

リスニングモードの種類	説明
MULTI CH IN	このモードは、マルチチャンネルの PCM ソースを入力しているときに選べます。

☞次のページへ

Audyssey DSX リスニングモード

リスニングモードの種類	説明
Audyssey DSX™ (A-DSX)*	このモードは、5.1 チャンネルシステムに新しいチャンネル（フロントワイドまたはフロントハイト）を作り出して再生します。フロントワイド、フロントハイトチャンネルの追加により、より立体感や臨場感のあるサラウンド効果を体感できます。

＊ このモードは"スピーカー構成"（☞106、107 ページ）で"フロントハイト"または"フロントワイド"を"無し"以外に設定し、"センター"を"無し"以外に設定しているときに選べます。

AAC リスニングモード

リスニングモードの種類	説明
MPEG2 AAC	このモードは、地上デジタル放送や BS デジタル放送などで MPEG-2 AAC が配信されているときに選べます。 MPEG-2 AAC により高音質音楽番組やマルチチャンネル音声の映画など、臨場感あふれるサラウンド再生が楽しめます。

DENON オリジナルサラウンドモード

リスニングモードの種類	説明
MULTI CH STEREO	ステレオサウンドをすべてのスピーカーで楽しむモードです。 フロントスピーカー（左 / 右）と同じ音声を、サラウンドスピーカー（左 / 右）およびサラウンドバックスピーカー（左 / 右）から同じレベルでそれぞれ再生します。
ROCK ARENA	アリーナのライブコンサートの雰囲気を楽しむモードです。
JAZZ CLUB	ライブハウスでのライブコンサートの雰囲気を楽しむモードです。
MONO MOVIE	モノラルの映画ソースをサラウンド再生するモードです。 モノラル録音ソースを"MONO MOVIE"モードで再生する場合、片チャンネル（左または右）では音声が片寄るため、両チャンネルに入力してください。
VIDEO GAME	ビデオゲームのサラウンドに適したモードです。
MATRIX	ステレオの音楽ソースに広がり感を加えて楽しむモードです。
VIRTUAL	フロントスピーカーやヘッドホンでサラウンド効果を楽しむモードです。

ステレオリスニングモード

リスニングモードの種類	説明
STEREO	音質調節ができるステレオ再生用のモードです。トーンを調節できます。 • フロントスピーカー（左 / 右）とサブウーハーから音声を出力します。 • マルチチャンネル信号を入力しているときは、2 チャンネルの音声にダウンミックスして再生します。

ダイレクトリスニングモード

リスニングモードの種類	説明
DIRECT	ソースに収録されている音声のまま再生するモードです。 • サラウンドバック信号やフロントハイト信号は生成しません。
PURE DIRECT	"DIRECT"モードよりもさらに高音質の再生をおこなうモードです。 本体のディスプレイをオフにして、アナログビデオ回路を停止します。これにより、音質に影響を与えるノイズ源を抑えます。 • サラウンドバック信号やフロントハイト信号は生成しません。

ダイレクトリスニングモードのとき、次の設定ができません。

• トーンコントロール（☞101 ページ）
• MultEQ® XT（☞102 ページ）
• Dynamic EQ®（☞102 ページ）
• Dynamic Volume®（☞102 ページ）
• RESTORER（リストアラー）（☞104 ページ）

ご注意

• HDMI 信号を再生しているときは、ピュアダイレクト再生モードでも映像を出力します。
• ピュアダイレクト再生モード中は、メニュー画面を表示しません。

応用編

ここでは、本機をより使いこなすことができる機能や操作について説明しています。

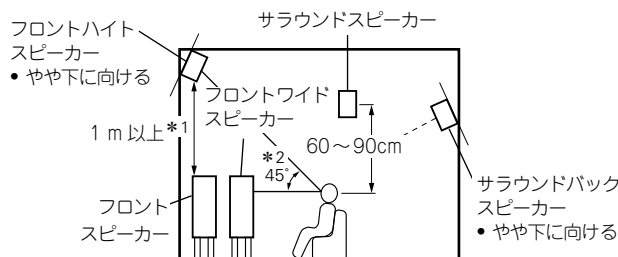
スピーカーを設置 / 接続 / 設定する（応用接続）

この章は、サラウンドバックスピーカーを使う 7.1 チャンネルシステム以外のスピーカーの設置や接続、設定のしかたを説明しています。サラウンドバックスピーカーを使う 7.1 チャンネルシステムの設置や接続、設定については、8 ページ「セットアップウィザード」をご覧ください。

本機の Audyssey® Auto Setup で、接続しているスピーカーの本数を検出し、ご使用になるスピーカーに最適な設定を自動的におこないます。

設置

本機は、サラウンド空間により一層の広がりや奥行きを表現する Audyssey DSX™（145 ページ）および Dolby Pro Logic IIz（146 ページ）に対応しています。
Audyssey DSX™ をご使用になる場合は、フロントワイドスピーカーまたはフロントハイトスピーカーを設置してください。
Dolby Pro Logic IIz をご使用になる場合は、フロントハイトスピーカーを設置してください。

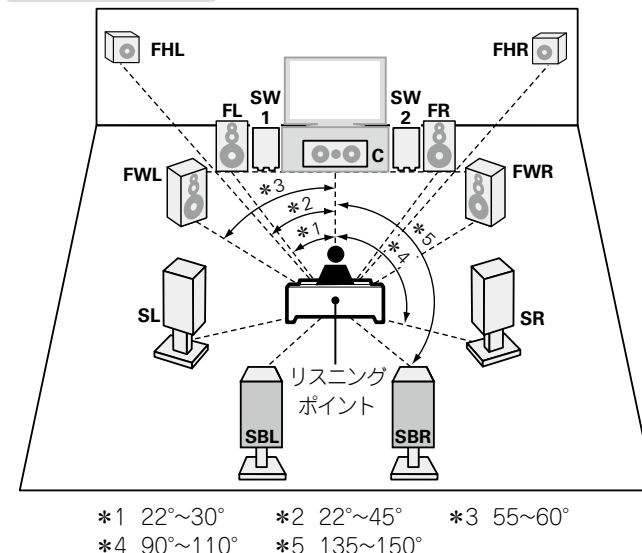
サラウンドスピーカーは、耳の高さより 60～90cm 高い位置に設置することをおすすめします。

【 側面から見た図 】

＊1 Dolby Pro Logic IIz 推奨
＊2 Audyssey DSX™ 推奨

ご注意

音声は、サラウンドバックスピーカー、フロントハイトスピーカー、フロントワイドスピーカーから同時に出力されません。サラウンドモードや Audyssey DSX™ の設定により、スピーカーを切り替えて使用することができます。

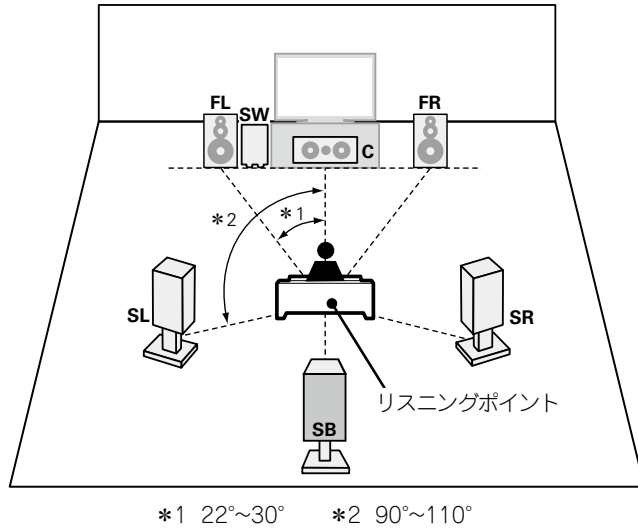
サラウンドバック / フロントハイト / フロントワイドスピーカーを使用して 7.1 チャンネルのスピーカーを設置するとき

＊1 22°~30°　＊2 22°~45°　＊3 55~60°
＊4 90°~110°　＊5 135~150°

【 各スピーカーの呼称について 】

FL	フロントスピーカー（左）	SBL	サラウンドバックスピーカー（左）
FR	フロントスピーカー（右）	SBR	サラウンドバックスピーカー（右）
C	センタースピーカー	FHL	フロントハイトスピーカー（左）
SW	サブウーハー	FHR	フロントハイトスピーカー（右）
SL	サラウンドスピーカー（左）	FWL	フロントワイドスピーカー（左）
SR	サラウンドスピーカー（右）	FWR	フロントワイドスピーカー（右）

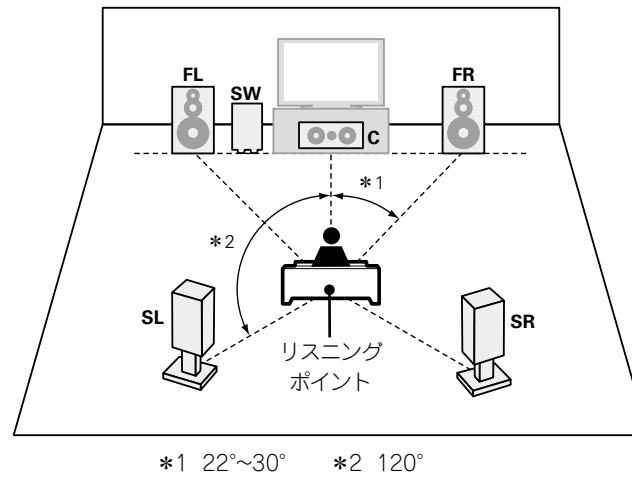
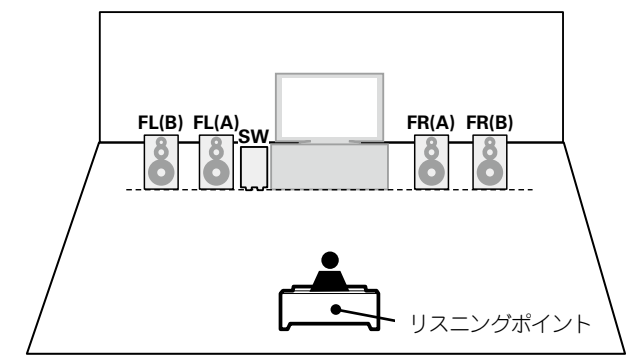
次のページへ

6.1 チャンネルのスピーカーを設置するとき

＊1 22°～30°　＊2 90°～110°

【各スピーカーの呼称について】

FL	フロントスピーカー（左）	**SL**	サラウンドスピーカー（左）
FR	フロントスピーカー（右）	**SR**	サラウンドスピーカー（右）
C	センタースピーカー	**SB**	サラウンドバックスピーカー
SW	サブウーハー		

5.1 チャンネルのスピーカーを設置するとき

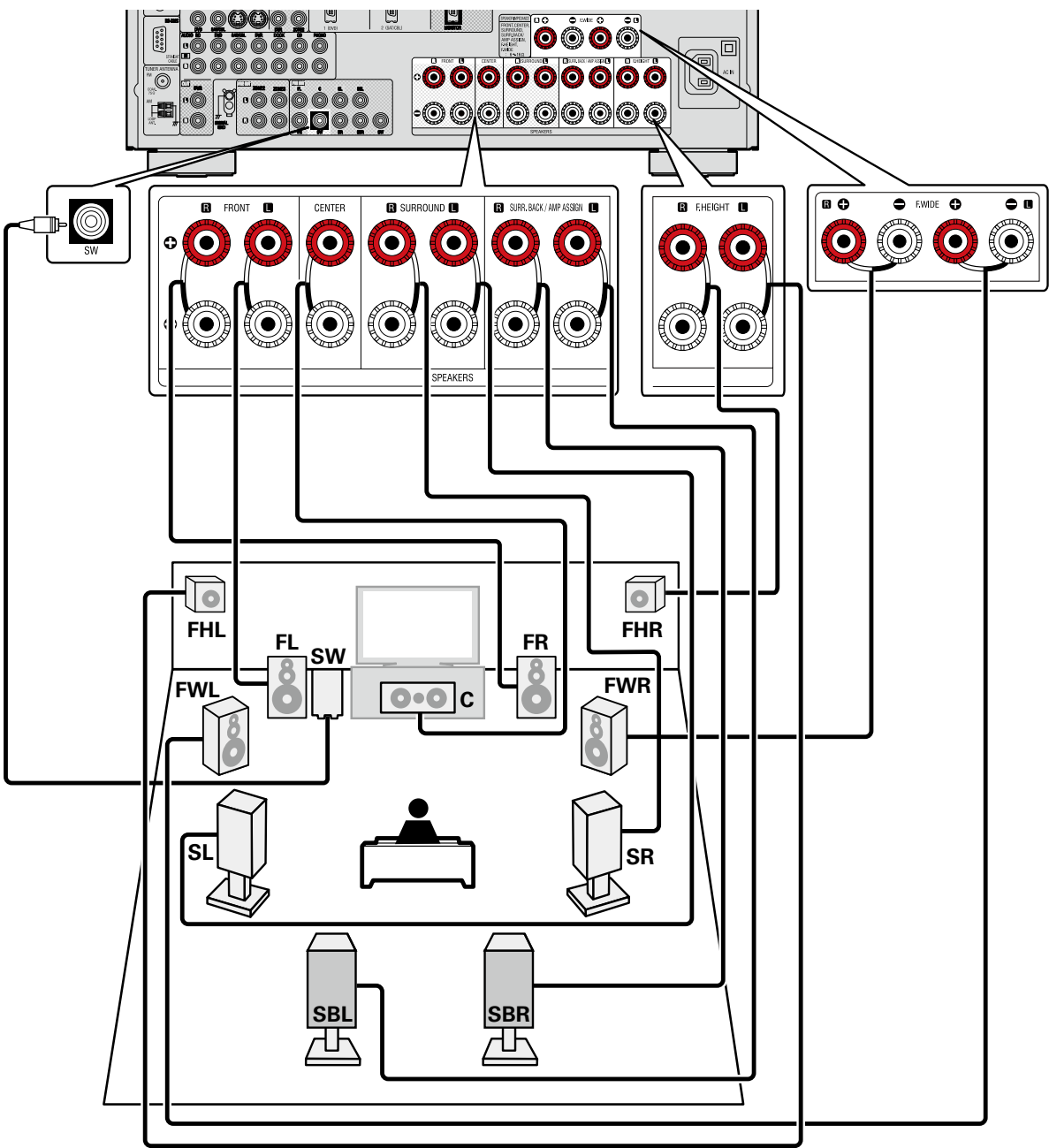
＊1 22°～30°　＊2 120°

フロント A/B のスピーカーを設置するとき

- 7.1 チャンネルスピーカーの接続方法については、 10 ページ「スピーカーを接続する」をご覧ください。
- テレビの接続方法は、 7 ページ「HDMI ケーブル(別売り)で本機とテレビを接続する」をご覧ください。

サラウンドバック / フロントハイト / フロントワイドスピーカーを使用して 7.1 チャンネルのスピーカーを接続する

右図は、サラウンドバック、フロントハイトまたはフロントワイドスピーカーを使用して、7.1 チャンネルの再生をおこなうときの接続例です。
あらかじめすべてのスピーカーを接続しておくと、サラウンドモードや入力信号に応じて、自動的にサラウンドバック、フロントハイトまたはフロントワイドスピーカーを切り替えて音声を再生します。
サラウンドバック、フロントハイトまたはフロントワイドスピーカーを使用して 7.1 チャンネルの再生をおこなう場合は、「"アンプの割り当て" の設定」(☞69 ページ)の手順 3、4 で、"アンプの割り当て" を "NORMAL" に設定してください。

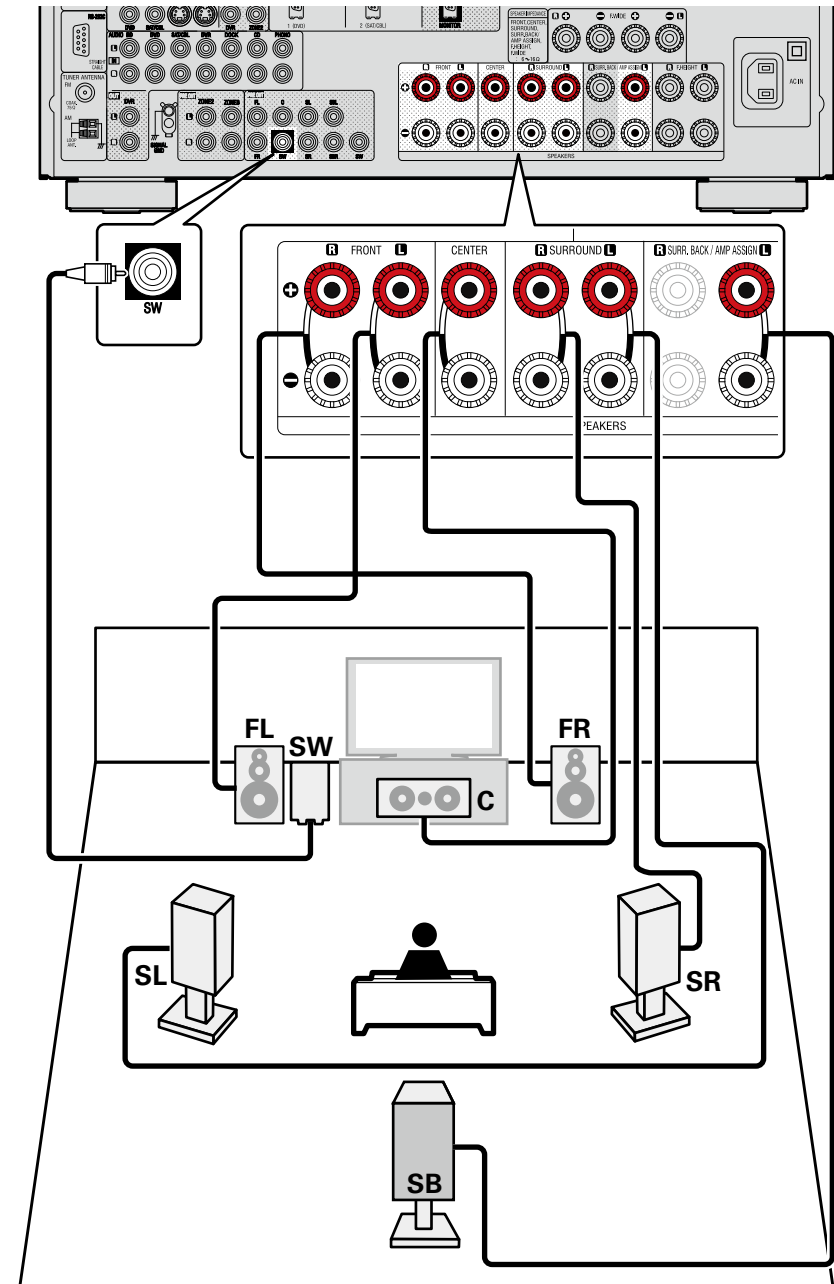
ご注意

- **スピーカーケーブルの接続方法については、 10 ページ「スピーカーを接続する」をご覧ください。**
- **スピーカーケーブルの芯線が、スピーカー端子からはみ出さないように接続してください。芯線がリアパネルやネジに接触したり、＋側と－側が接触したりすると、保護回路が動作します(☞148 ページ「保護回路」)。**
- **通電中は、絶対にスピーカー端子に触れないでください。感電する場合があります。ただし、セットアップウィザード(8 ページ)中はセットアップウィザードの指示に従って接続してください。(セットアップウィザード中、スピーカー端子は通電しません。)**
- **接続するスピーカーは次のインピーダンスのものをご使用ください。**

ご使用になるスピーカー端子	スピーカーインピーダンス
FRONT	6～16 Ω
CENTER	
SURROUND	
SURR.BACK/AMP ASSIGN	
F.HEIGHT	
F.WIDE	

1 本のサラウンドバックスピーカーを使用して 6.1 チャンネルのスピーカーを接続する

サラウンドバックスピーカーを 1 本だけ使用する場合は、SURR.BACK/AMP ASSIGN 端子の“L”側に接続してください。このときのスピーカー設置については、「6.1 チャンネルのスピーカーを設置するとき」(☞61 ページ) をご覧ください。
サラウンドバックスピーカーを使用して 6.1 チャンネルの再生をおこなう場合は、「“アンプの割り当て” の設定」(☞69 ページ) の手順 3、4 で、“アンプの割り当て” を“NORMAL” に設定してください。また、メニューの“スピーカー構成” 設定 (☞106 ページ) で、“S. バック” を“1 台” に設定してください。

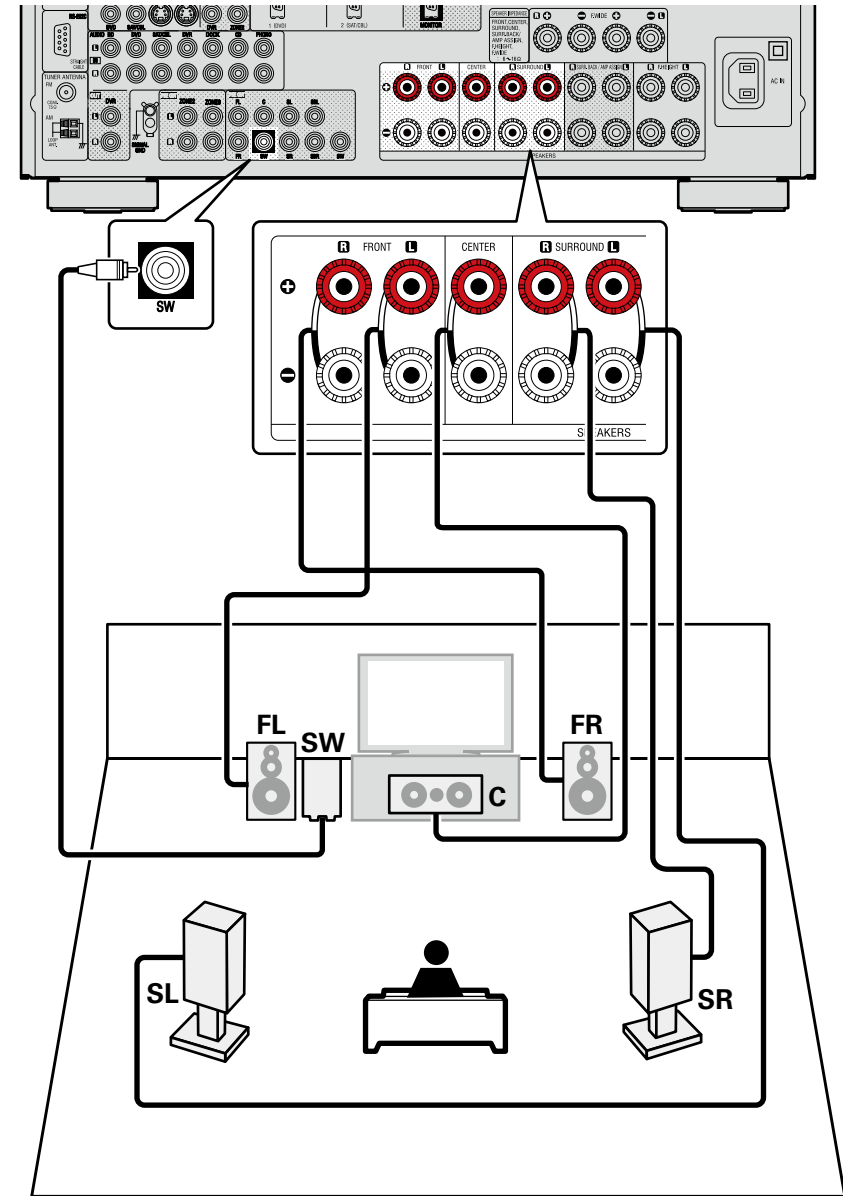
ご注意

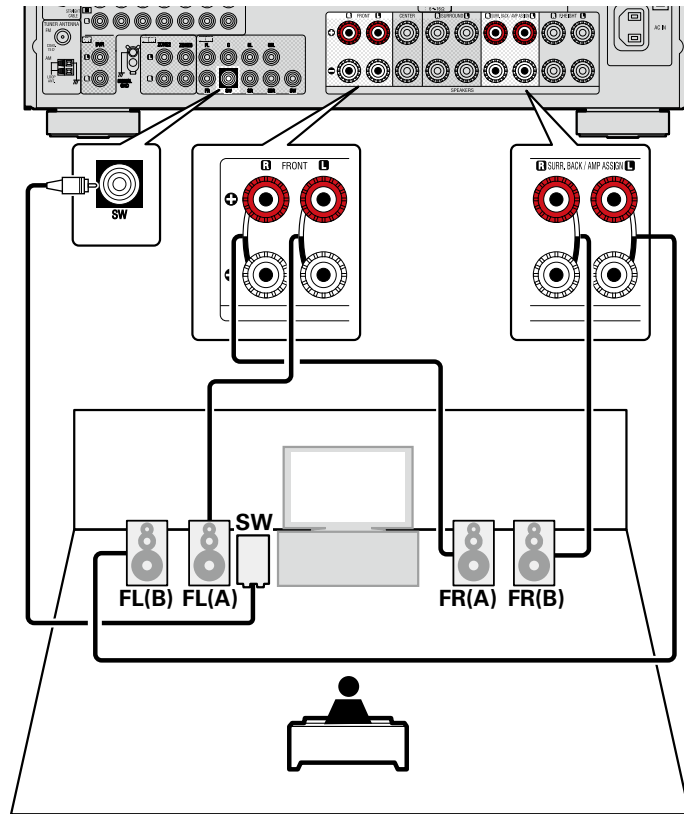
- スピーカーケーブルの接続のしかたについては、10 ページ「スピーカーを接続する」をご覧ください。
- スピーカーインピーダンスについては、62 ページをご覧ください。

5.1 チャンネルのスピーカーを接続する

5.1 チャンネルの再生をおこなう場合は、「"アンプの割り当て" の設定」(☞69 ページ) の手順 3、4 で、"アンプの割り当て"を"NORMAL"に設定してください。
また、メニューの"スピーカー構成" 設定 (☞106 ページ) で、"S. バック" を "無し" に設定してください。

ご注意

- スピーカーケーブルの接続のしかたについては、📖 10 ページ「スピーカーを接続する」をご覧ください。
- スピーカーインピーダンスについては、62 ページをご覧ください。

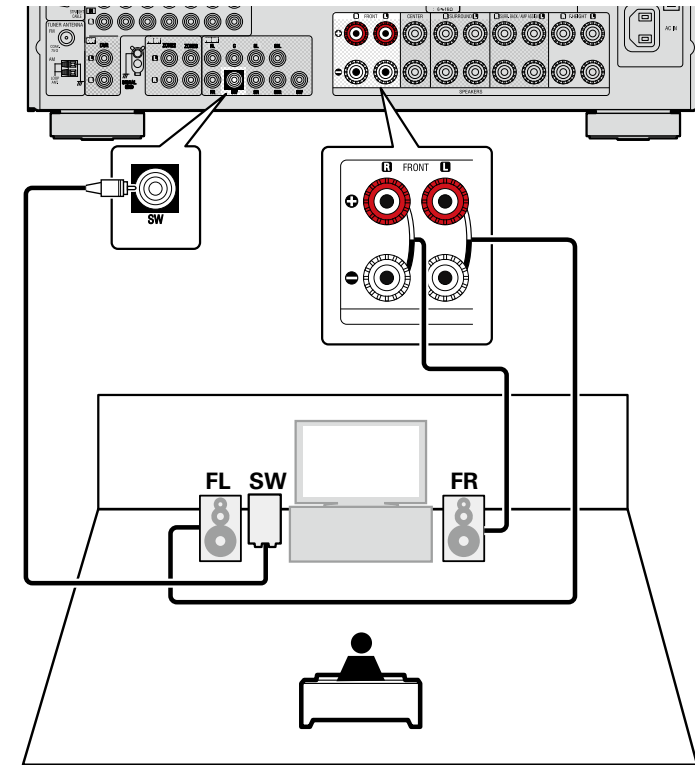
基本編
応用編
情報編

フロント A/B スピーカーを接続する

本機に 2 組目のフロントスピーカーを接続して使用することができます。
このような場合は、「“アンプの割り当て” の設定」（☞69 ページ）の手順 3、4 で、“アンプの割り当て”を“Front B”に設定してください。

- マルチチャンネル再生をおこなう場合は、センター、サラウンド、サラウンドバック、フロントスピーカーおよびサブウーハーを接続してください。
- マルチチャンネル再生にはフロントスピーカー（A）を、2 チャンネル再生にはフロントスピーカー（B）を使用するなど、スピーカーの仕様や再生するソースによってフロントスピーカーを使い分けることができます（☞108 ページ“フロントスピーカーの設定”）。

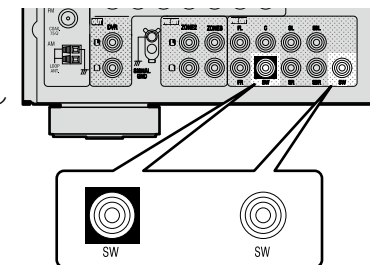
ご注意

- **スピーカーケーブルの接続のしかたについては、10 ページ「スピーカーを接続する」をご覧ください。**
- **スピーカーインピーダンスについては、62 ページをご覧ください。**

2.1 チャンネルのスピーカーを接続する

ご注意

- **スピーカーケーブルの接続のしかたについては、10 ページ「スピーカーを接続する」をご覧ください。**
- **スピーカーインピーダンスについては、62 ページをご覧ください。**

❑サブウーハーを 2 台接続する場合

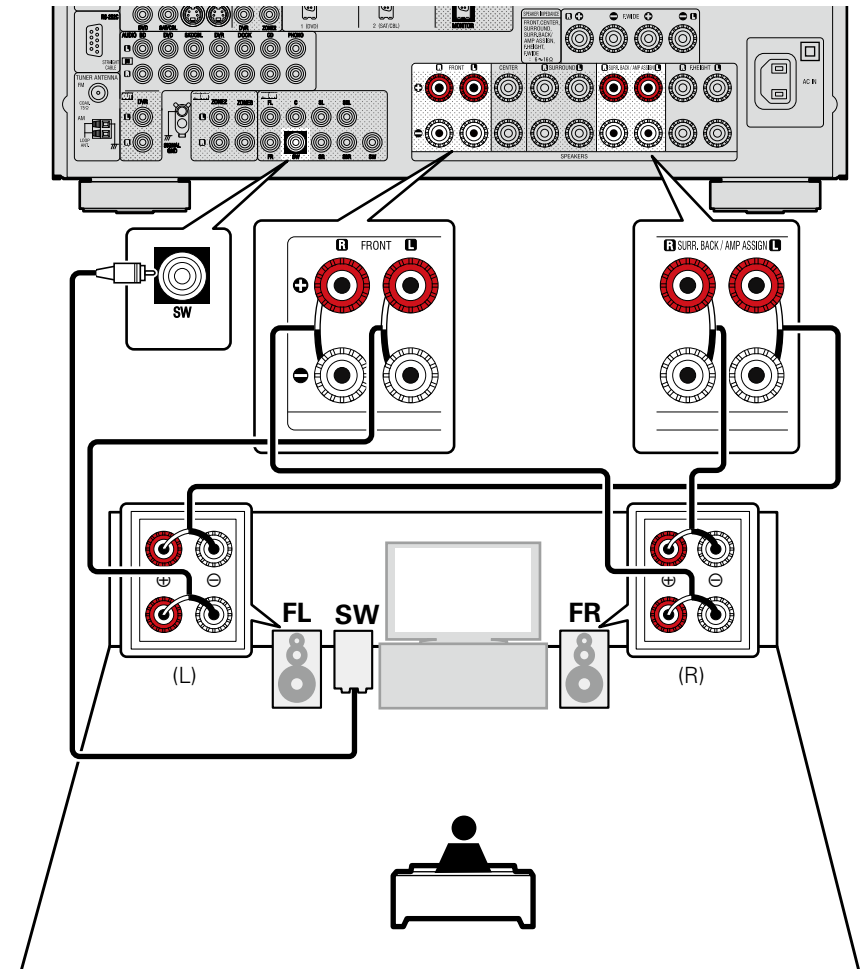
本機にはサブウーハーを 2 台接続することができます。
それぞれのサブウーハー端子からは、同じ信号を出力します。

フロントスピーカーをバイアンプ接続する

フロントスピーカーをバイアンプ接続して使用することができます。
バイアンプ接続は、バイアンプ対応スピーカーのツィーター用端子とウーハー用端子に、別々のアンプを接続する方法です。これによりウーハーの逆起電力（出力されずに戻ってくる電力）がツィーターに流れ込んでツィーターの音質に影響を及ぼすことがないため、より高音質な再生をお楽しみいただくことができます。
このような場合は、「“アンプの割り当て” の設定」（☞69 ページ）の手順 3、4 で、“アンプの割り当て”を“Bi-AMP”に設定してください。

マルチチャンネル再生をおこなう場合は、フロント、センター、サラウンド、サラウンドバックスピーカーおよびサブウーハーを接続してください。

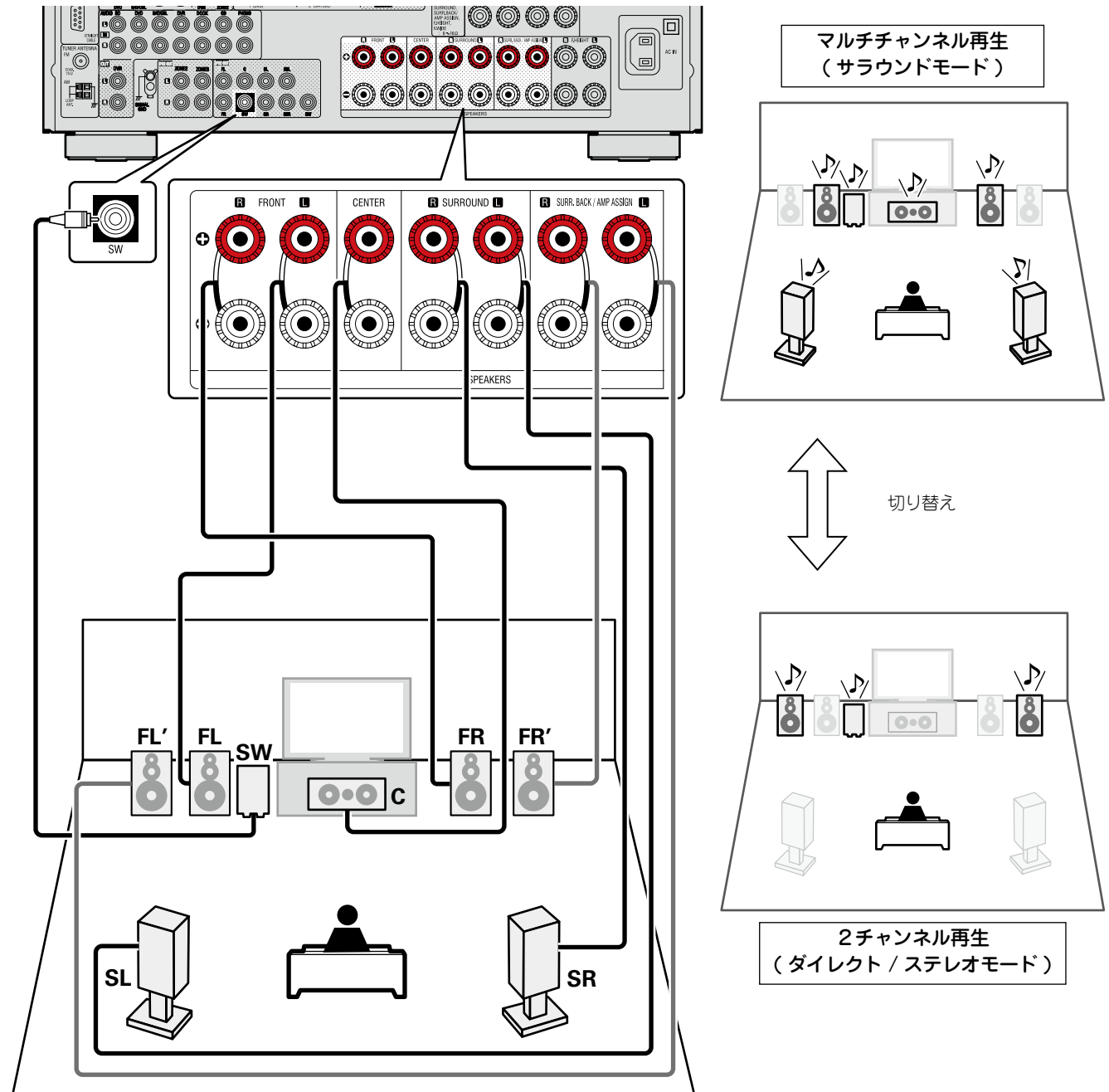
ご注意

- **スピーカーケーブルの接続のしかたについては、10 ページ「スピーカーを接続する」をご覧ください。**
- **スピーカーインピーダンスについては、62 ページをご覧ください。**
- バイアンプ接続に対応したスピーカーをご使用ください。
- バイアンプ接続ではスピーカーのウーハー端子とツィーター端子を接続している短絡板または短絡用ワイヤーを必ず外してください。

基本編
応用編
情報編

5.1 チャンネル +2 チャンネル接続

DIRECT モードや STEREO モードでの 2 チャンネル再生において、別のフロントスピーカーを接続して再生することができます。
サラウンドモードに応じて、マルチチャンネル再生専用のスピーカーと 2 チャンネル再生専用スピーカーを自動的に切り替えて再生します。
このような場合は、「"アンプの割り当て" の設定」(☞69 ページ) の手順 3、4 で、"アンプの割り当て"を"2CH"に設定してください。

ご注意

- スピーカーケーブルの接続のしかたについては、📖 10 ページ「スピーカーを接続する」をご覧ください。
- スピーカーインピーダンスについては、62 ページをご覧ください。

スピーカーを設定する

□ で囲まれている項目は、お買い上げ時の設定です。

ここでは、サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネル以外の設定方法を説明しています。
7.1 チャンネルのサラウンドバックスピーカーの設定方法は、8 ページ「セットアップウィザード」をご覧ください。

あらかじめスピーカーを設置し、本機とスピーカーを接続してください。

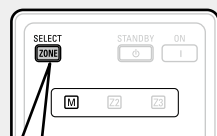
“Audyssey® Auto Setup”の測定前に、次の設定をおこなうことができます。

- アンプの割り当てを変更する（“アンプの割り当て”）
  本機の SURR.BACK/AMP ASSIGN スピーカー端子から出力する信号を、ご使用になるスピーカー環境に合わせて切り替えて出力することができます（69 ページ「“アンプの割り当て”の設定」）。
- 使用するチャンネルを設定する（“チャンネルセレクト”）
  使用しないチャンネルをあらかじめ設定すると、設定したチャンネルの測定をスキップして、測定時間を短縮することができます。また、サブウーハーやサラウンドバックスピーカーの本数を変更することもできます（69 ページ「“チャンネルセレクト”の設定」）。

1 リモコンの設定

このリモコンは各ゾーンの操作と、本機以外の機器の操作ができます。そのため、操作の前に操作をするゾーンと操作をする機器を切り替えてください。
ここではメインゾーンのスピーカーの設定を、本機を操作しておこなうため、次のとおりにリモコンを設定します。

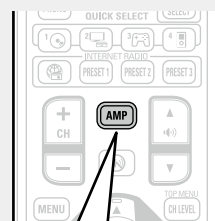
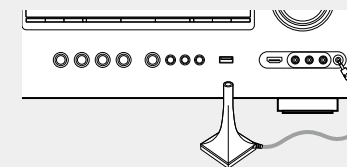
❏ ゾーン操作モードの設定

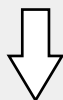
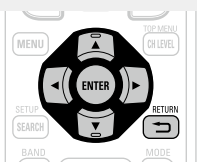
ZONE SELECT を押して、ゾーン操作モードを M（メインゾーン）に切り替える。

リモコンのゾーン操作モード表示の M が点灯します。

❏ 操作モードの設定

AMP を押して、リモコンをアンプ操作モードにする。

2 セットアップマイクを接続する。

次のページへ

3 “アンプの割り当て”の設定

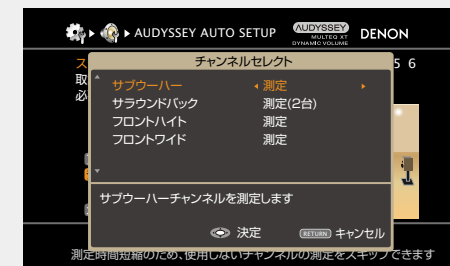
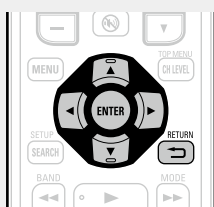
△▽ を押して“アンプの割り当て”を選び ENTER を押す。

4 ◁ ▷ を押して、接続したスピーカーの構成を選ぶ。

NORMAL	サラウンドバック、フロントハイトおよびフロントワイドスピーカーを使用して、7.1 チャンネルで再生するときに設定します。
ZONE2	本機内部のパワーアンプをゾーン 2 用に割り当て、ステレオ音声で出力するときに設定します。
ZONE3	本機内部のパワーアンプをゾーン 3 用に割り当て、ステレオ音声で出力するときに設定します。
Z2/Z3(M)	本機内部のパワーアンプをゾーン 2 用とゾーン 3 用に割り当て、モノラル音声で出力するときに設定します。
Bi-AMP	フロントスピーカーをバイアンプ接続で使用するときに設定します。
2CH	2 チャンネルの DIRECT/STEREO モードで再生時、別のフロントスピーカーを使用して再生するときに設定します。
Front B	2 台目のフロントスピーカーを使用して再生するときに設定します。

5 RETURN ⮌ を押して、“アンプの割り当て” の設定を終了する。

6 “チャンネルセレクト”の設定

△▽ を押して“ チャンネルセレクト ” を選び、ENTER を押す。

次のページへ

7 △▽ を押してチャンネルを選ぶ。

フロント	測定するフロントスピーカーを設定するときに選びます。この場合、手順 8 へ進んでください。 • “フロント” は、メニューの“アンプの割り当て” の設定が“Front B”のときに設定できます。
サブウーハー	使用するサブウーハーを測定するかしないか選択します。この場合、手順 9 へ進んでください。
サラウンドバック	使用するサラウンドバックスピーカーの本数を選択します。この場合、手順 10 へ進んでください。 • “サラウンドバック” は、メニューの“アンプの割り当て”の設定が“NORMAL”のときに設定できます。
フロントハイト	フロントハイトスピーカーを使用しないときに選びます。この場合、手順 11 へ進んでください。 • “フロントハイト” は、メニューの“アンプの割り当て”の設定が“NORMAL”のときに設定できます。
フロントワイド	フロントワイドスピーカーを使用しないときに選びます。この場合、手順 12 へ進んでください。 • “フロントワイド” は、メニューの“アンプの割り当て”の設定が“NORMAL”のときに設定できます。

8 ◁ ▷ を押してフロントスピーカーを選ぶ。

A	フロントスピーカー A を測定するときに選びます。
B	フロントスピーカー B を測定するときに選びます。
A+B	フロントスピーカー A と B を同時に測定するときに選びます。

9 ◁ ▷ でサブウーハーチャンネルを測定するか設定する。

測定	サブウーハーを測定するときに設定します。
スキップ	サブウーハーを測定しないときに設定します。

10 ◁ ▷ でサラウンドバックチャンネルを測定するか設定する。

測定(2台)	サラウンドバックスピーカーを 2 台測定するときに設定します。
測定(1台)	サラウンドバックスピーカーを 1 台測定するときに設定します。
スキップ	サラウンドバックスピーカーを測定しないときに設定します。

11 ◁ ▷ でフロントハイトチャンネルを測定するか設定する。

測定	フロントハイトスピーカーを測定するときに設定します。
スキップ	フロントハイトスピーカーを測定しないときに設定します。

12 ◁ ▷ でフロントワイドチャンネルを測定するか設定する。

測定	フロントワイドスピーカーを測定するときに設定します。
スキップ	フロントワイドスピーカーを測定しないときに設定します。

13 ENTER を押す。

26 ページの ステップ 1 準備 手順 5 へ進む。

ご注意

Audyssey® Auto Setup をおこなったあとに、スピーカーの接続やサブウーハーの音量を変更しないでください。もし変更した場合には、再び Audyssey® Auto Setup をおこなってください。

再生のしかた（応用操作）

便利な機能

HDMI コントロール機能

本機と HDMI コントロール機能対応のテレビやプレーヤーを HDMI ケーブルで接続し、それぞれの機器の HDMI コントロール機能の設定を有効にすると、機器間で相互に制御することができます。

❏HDMI コントロールでできること

- **テレビの電源オフ操作に連動して、本機の電源をオフにできます。**
- **テレビの操作で、音声を出力する機器の切り替えができます。**
  テレビの音声出力の設定操作にて「アンプから音声を出力する」の設定操作をおこなうと、アンプの電源をオンにすることができます。
- **テレビの音量調節操作で、本機の音量の調節ができます。**
- **テレビの入力の切り替え操作に連動して、本機の入力ソースの切り替えができます。**
- **プレーヤーを再生すると、本機の入力ソースがそのプレーヤーの入力ソースに切り替わります。**
- **本機の入力ソースを“TV”にすると、テレビの音声を本機で再生できます（☞10 ページ「ARC（Audio Return Channel）機能について」）。**
- **メニューの“HDMI コントロール”⇨“コントロール”（☞109 ページ）を“オン”に設定している場合、本機の電源がスタンバイ状態のときでも HDMI 入力端子から入力された信号を、HDMI 出力端子に接続されたテレビや他の機器に出力します（パススルー機能）。**

- ARC 機能に対応していないテレビの音声を本機で再生する場合は、光デジタルまたはアナログ接続をしてください（☞13 ページ）。
- パススルー機能を使用するには、HDMI コントロール対応の HDMI 接続機器を接続してください。

☞ 次のページへ

❑設定のしかた

1 **本機の HDMI コントロール機能を有効にする。**
メニューの"HDMI コントロール"⇨"コントロール"(☞109 ページ)を"オン"に設定してください。

2 **HDMI ケーブルで接続しているすべての機器の電源を入れる。**

3 **HDMI ケーブルで接続しているすべての機器の HDMI コントロール機能を有効にする。**
- 接続している機器の設定については、各機器の取扱説明書をご覧ください。
- いずれかの機器の電源プラグを抜いた場合は、手順 2、3 をおこなってください。

4 **テレビの入力を、本機に接続した HDMI 入力に切り替える。**

5 **本機の入力を HDMI 入力のソースに切り替えて、プレーヤーの映像が正しく映るかを確認する。**

6 **テレビの電源をスタンバイにすると、本機とプレーヤーの電源もスタンバイになることを確認する。**

HDMI コントロール機能が正しく動作しない場合は、次の点をご確認ください。
- テレビやプレーヤーが HDMI コントロール機能に対応しているか。
- メニューの"HDMI コントロール"⇨"コントロール"設定(☞109 ページ)が"オン"になっているか。
- メニューの"パワーオフコントロール"設定(☞110 ページ)が"すべて"または"ビデオ"になっているか。
- メニューの"コントロールモニター"設定(☞110 ページ)がテレビを接続したモニター出力になっているか。
- デュアルモニター接続時、メニューの"コントロールモニター"設定(☞110 ページ)が、HDMI コントロールをおこないたいモニターに設定されているか？
- 本機に接続しているすべての機器の HDMI コントロール機能の設定は正しいか。

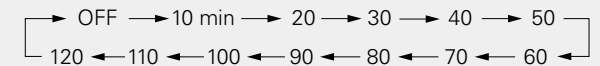
ご注意
- **メニューの"HDMI コントロール"⇨"コントロール"を"オン"に設定しているときは、スタンバイ時の待機電力を多く消費します。**
- HDMI コントロール機能は、HDMI コントロール機能対応のテレビが動作の制御をおこないます。HDMI コントロール機能を使用するときは、必ずテレビを接続してください。
- 接続しているテレビやプレーヤーによっては、動作しない機能があります。あらかじめ各機器の取扱説明書をご覧ください。
- メニューの"パワーオフコントロール"(☞110 ページ)を"オフ"に設定している場合は、接続しているテレビの電源がスタンバイになっても、本機の電源はスタンバイになりません。
- HDMI 機器の接続を追加するなど、接続に関する変更をおこなうと、連動操作が初期化される場合があります。このような場合は設定をやり直してください。
- メニューの"HDMI コントロール"⇨"コントロール"(☞109 ページ)を"オン"に設定している場合は、"入力端子の割り当て"(☞92 ページ)の設定で"TV"に HDMI 端子を割り当てることはできません。
- 次の操作をおこなうと、連動操作が初期化される場合があります。その場合には、手順 2、3 をおこなってください。
  - メニューの"入力端子の割り当て"⇨"HDMI"設定(☞92 ページ)の変更
  - メニューの"モニター出力"(☞109 ページ)の設定変更
  - HDMI で接続している機器の接続変更や機器の増加

スリープタイマー機能

- 設定した時間が経過すると、自動的に電源をスタンバイにすることができます。視聴しながら、おやすみになるときに便利です。
- スリープタイマー機能は、ゾーンごとに設定できます(☞84 ページ「スリープタイマー機能」)。
（ここではメインゾーンの設定のしかたを説明します。）

1 **ZONE SELECT を押して、ゾーン操作モードを M（メインゾーン）に切り替える。**
リモコンのゾーン操作モード表示の M が点灯します。

2 **SLEEP を押して、スリープ時間を設定する。**
ディスプレイの SLEEP 表示が点灯します。

- **SLEEP** を押すたびに、スリープ時間が次の順序で切り替わります。

スリープタイマーの残り時間を確認するには

SLEEP を押す。
ディスプレイに"Sleep：*min"を表示します。
＊ 残り時間

スリープタイマーを解除するとき

SLEEP を押して、"OFF"を選ぶ。
ディスプレイの SLEEP 表示が消灯します。

本機の電源がスタンバイになると、スリープタイマーの設定を解除します。

ご注意
スリープタイマー機能では、本機に接続した機器の電源は切れません。接続した機器の電源を切る場合は、接続した機器側でスリープタイマーの設定をおこなってください。

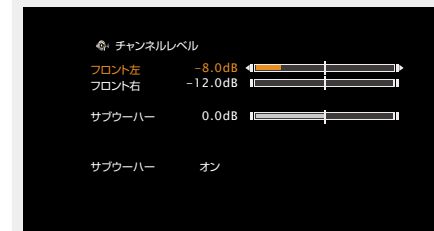
チャンネルレベルを調節する

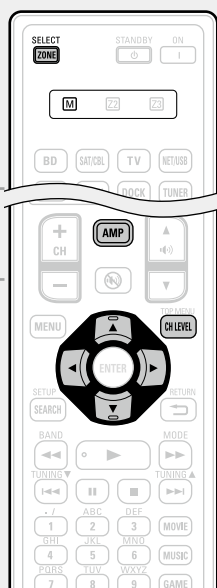
再生するプログラムソースまたはお好みに合わせて、各チャンネルレベルの調節ができます。

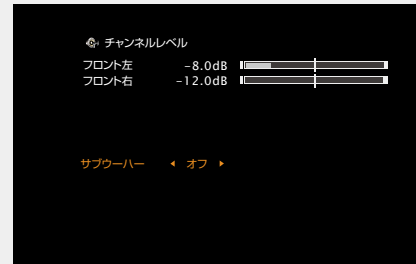
❑スピーカーごとにチャンネルレベルを調節する

1 **ZONE SELECT を押して、ゾーン操作モードを M（メインゾーン）に切り替える。**
リモコンのゾーン操作モード表示の M が点灯します。

2 **AMP を押して、リモコンをアンプ操作モードにする。**

3 **CH LEVEL を押す。**

4 **△▽ を押して、調節するスピーカーを選ぶ。**

- ボタンを押すたびに、チャンネルが切り替わります。

5 **◁ ▷ を押して、チャンネルレベルを調節する。**

- 2 チャンネルの DIRECT または STEREO モードで再生しているときは、サブウーハーの出力をダイレクトに“オフ”にすることができます。
  “サブウーハー” を選び、◁ ▷ を押して“オン” または“オフ” を選んでください。

PHONES 端子にヘッドホンプラグを挿入しているときは、ヘッドホン用のチャンネルレベルを調節できます。

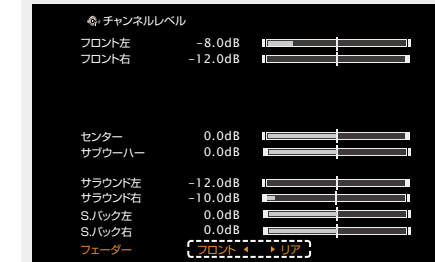
❑チャンネルレベルをまとめて調節する（フェーダー機能）

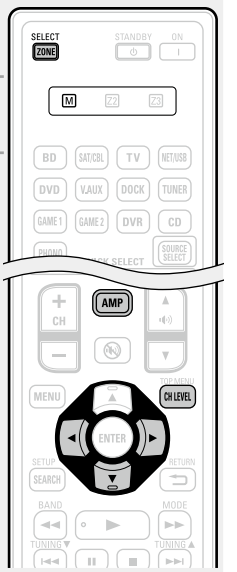
フロント側（フロントスピーカー / フロントハイトスピーカー / フロントワイドスピーカー / センタースピーカー）またはリア側（サラウンドスピーカー / サラウンドバックスピーカー）のスピーカーの音量バランスを調節します。

1 **ZONE SELECT を押して、ゾーン操作モードを M（メインゾーン）に切り替える。**
リモコンのゾーン操作モード表示の M が点灯します。

2 **AMP を押して、リモコンをアンプ操作モードにする。**

3 **CH LEVEL を押す。**

4 **▽ を押して“フェーダー” を選び、◁ ▷ を押して調節するチャンネル（“フロント” または“リア”）を選ぶ。**

5 **◁ ▷ を押して、チャンネルレベルを調節する。**
（◁ : フロント側、▷ : リア側）

- フェーダー機能は、サブウーハーチャンネルにははたらきません。
- 一番小さい値に調節されているスピーカーの音量が、-12dB になるまで調節できます。

クイックセレクト機能

手順 1 の設定内容をまとめて記憶させることができます。

- よく使う設定を **QUICK SELECT 1**～**4** ボタンに記憶させておくと、常に同じ再生環境を簡単に呼び出してお楽しみいただくことができます。
- ゾーンごとに 4 つの設定を記憶させることができます（☞84 ページ「クイックセレクト機能」）。
  ここではメインゾーンのクイックセレクトの設定と操作を説明します。

❏記憶のさせかた

1 **メインゾーンで、次の内容を記憶させたい状態に設定する。**

① 入力ソース*（☞31ページ）
② 音量（☞32ページ）
③ サラウンドモード（☞53ページ）
④ ビデオセレクト（☞93ページ）
⑤ Audyssey設定（Audyssey MultEQ® XT、Audyssey Dynamic EQ®、Audyssey Dynamic Volume®）（☞102ページ）

＊ メインゾーンの“NET/USB” ソースは各コンテンツのメニュー画面までメモリーできます（例：インターネットラジオやメディアサーバー、iPod など）。

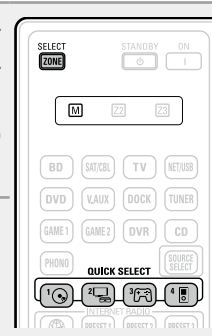
2 **メインゾーンで、ディスプレイに“Memory” が表示されるまで、QUICK SELECT を長押しする。**
現在の設定を記憶します。

【お買い上げ時の設定】

記憶させるボタン	入力ソース	音量
QUICK SELECT 1	BD	-40dB
QUICK SELECT 2	SAT/CBL	-40dB
QUICK SELECT 3	GAME1	-40dB
QUICK SELECT 4	NET/USB (USB/iPod)	-40dB

❏呼び出しかた

1 **ZONE SELECT を押して、ゾーン操作モードを M（メインゾーン）に切り替える。**
リモコンのゾーン操作モード表示の M が点灯します。

2 **呼び出したい設定が記憶されている QUICK SELECT を押す。**

クイックセレクト名を変更するには

本機では、メニュー画面に表示するクイックセレクト名をお好みの名前に変更することができます。
変更のしかたは、メニューの“クイックセレクトネーム”（☞117 ページ）をご覧ください。

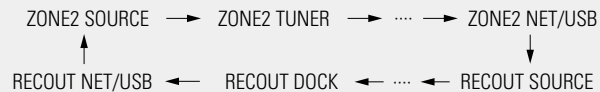
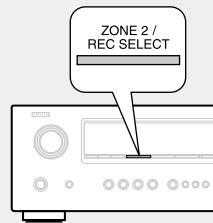
本体の **QUICK SELECT** を押しても、リモコンと同じように操作できます。

REC OUT モード

- 録音 / 録画用端子（DVR 出力端子）を使用すると、再生中の曲を聴きながら、別のプログラムソースを録音 / 録画することができます。
- 接続のしかたは、「デジタルビデオレコーダーを接続する」（☞16 ページ）をご覧ください。

1 **“RECOUT SOURCE”が表示されるまで、ZONE2 / REC SELECT を押す。**

REC 表示が点灯します。

ZONE2 SOURCE → ZONE2 TUNER → ···· → ZONE2 NET/USB
↑ ↓
RECOUT NET/USB ← RECOUT DOCK ← ···· ← RECOUT SOURCE

2 **ZONE2 / REC SELECT を押して、録音 / 録画したい入力ソースを選ぶ。**

3 **録音 / 録画をはじめる。**

- 操作のしかたは、機器の取扱説明書をご覧ください。

- 解除する場合は、ディスプレイに“ZONE2 SOURCE”が表示されるまで、**ZONE2 / REC SELECT** を押してください。
- 録音 / 録画する前に、あらかじめ「試し録音」や「試し録画」をおこなってください。
- デジタル入力端子（OPTICAL/COAXIAL）から入力されたデジタル信号が PCM（2 チャンネル）の場合のみ、アナログ録音用端子に出力します。HDMI 入力信号は、録音出力端子から出力しません。
- REC OUT モードで選ばれた入力ソースは、ゾーン 2 からも出力します。
- REC OUT モード中にリモコンのゾーン 2 モードで操作できるボタンは次のとおりです。
  - ゾーン / デバイス用電源ボタン
  - ミューティングボタン
  - 主音量調節ボタン

ご注意

- あなたが録音したものは、個人で楽しむ場合以外は、著作権者に無断で使用することはできません。
- メニューの“使用ソースの選択”で“使用しない”に設定した入力ソースは選べません（☞116 ページ）。

AirPlay 機能

iTunes のミュージックライブラリを本機で再生することができます。
また、iPhone、iPod touch、iPad の Apple Remote アプリ * を使って、どの部屋からでも iTunes のミュージックライブラリをコントロールすることができます。
ネットワークへの接続については、「ホームネットワーク(LAN)に接続する」(☞22 ページ)をご覧ください。

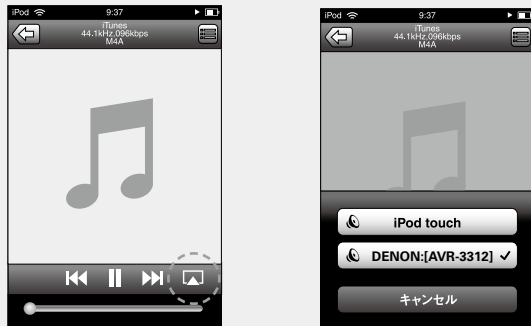
* App Store から無料でダウンロードできます。

❑iPhone、iPod touch、iPad の音楽ファイルを本機で再生する

iPhone、iPod touch、iPad を iOS 4.2.1 以上にアップデートすると、iPhone、iPod touch、iPad の曲を本機へダイレクトにストリーミングすることができます。

1 iPhone、iPod touch、iPad のミュージックまたは iPod アプリを起動する。

2 AirPlay アイコン をタップする。

3 再生したいスピーカー(機器)を選ぶ。

ご注意

AirPlay 機能を使用して再生する場合は、iPhone、iPod touch、iPad または iTunes で設定している音量レベルで出力します。
再生する前に、iPhone、iPod touch、iPad または iTunes の音量を最小にしてから適切な音量に調節してください。

❑iTunes の音楽を本機で再生する

1 本機と同じネットワークに接続しているパソコンに、iTunes10 以降をインストールする。

2 本機の電源を入れる。

あらかじめ、本機の"ネットワークスタンバイ"設定(☞114 ページ)を"オン"にしてください。

ご注意

"ネットワークスタンバイ"を"オン"に設定している場合は、スタンバイ時の待機電力を多く消費します。

3 iTunes を起動し、画面右下の AirPlay アイコン をクリックして、本機を選ぶ。

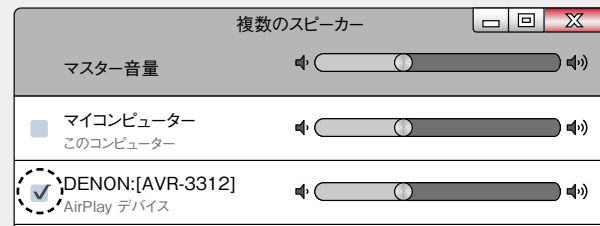
4 iTunes で曲を選んで再生する。

本機で再生をはじめます。

複数のスピーカー(機器)を選択する

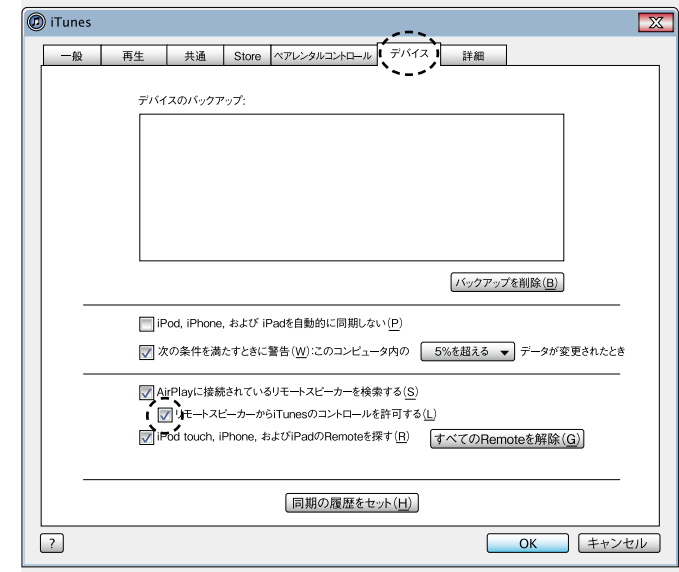
ご家庭にある本機以外の AirPlay 対応のスピーカー(機器)で iTunes の曲を再生することができます。

1 AirPlay アイコン をクリックして、"複数のスピーカー"を選ぶ。

2 再生したいスピーカー(機器)をクリックする。

❑本機のリモコンで iTunes の再生操作をおこなう

本機のリモコンで、iTunes の曲の再生や一時停止、頭出し操作がおこなえます。

1 iTunes の設定のウィンドウで"デバイス"を選択する。

2 "リモートスピーカーから iTunes のコントロールを許可する"にチェックを入れる。

- AirPlay の操作中は、メニュー画面に を表示します。
- AirPlay の再生を開始すると、本機の入力ソースは自動的に"NET/USB"に切り替わります。
- 本機の ◁ を押すか他の入力ソースに切り替えると、AirPlay の再生が停止します。
- 本体の **STATUS** ボタンを押すと、曲名とアーティスト名を確認することができます。

- iTunes の使用方法は、iTunes の"ヘルプ"をご覧ください。
- 画面は、OS やソフトのバージョンによって異なる場合があります。

パーティーモード機能

同じネットワークに接続されているパーティーモード機能を搭載した DENON 製品間で、同じネットワークオーディオ（インターネットラジオ、メディアサーバーまたは iPod ダイレクト）を同時に楽しむことができます。
パーティーモードは、1 台のオーガナイザー（親機）と最大 4 台のアテンディー（子機）で構成します。
ある 1 台がオーガナイザーとしてパーティーモードを開始すると、パーティーモード機能を有効にしている最大 4 台の機器が自動的にアテンディーとしてそのパーティーに参加することができます。パーティーモード機能を利用するには、あらかじめメニューの“パーティーモード機能”（☞114 ページ）を“オン”に設定する必要があります。

❏オーガナイザー（親機）としてパーティーモードを開始する

1 PARTY を押して、オーガナイザーになる。
“パーティーモードを開始しますか？”を表示します。

• ネットワークに接続していない場合は、エラーメッセージを表示します。

2 ◁ ▷ を押して“はい”を選び、ENTER を押す。

• 入力ソースは自動的に“NET/USB”に切り替わり、自動的にアテンディーを選びます。
• オーガナイザーになると、ディスプレイの PARTY ORGANIZER が点灯します。

3 好きな曲を再生する。

パーティーモードを終了するとき

1 パーティーモード中に PARTY を押す。
メニュー画面に“パーティーモードを終了しますか？”を表示します。

2 ◁ ▷ を押して“はい”を選び、ENTER を押す。
“アテンディー機器の電源をオフしますか？”を表示します。

3 ◁ ▷ を押して“はい”または“いいえ”を選び、ENTER を押す。

はい	アテンディー機器の電源を切ってパーティーモードを終了します。
いいえ	アテンディー機器の電源を切らないでパーティーモードを終了します。

❏アテンディー（子機）としてパーティーモードに参加する

• オーガナイザーがパーティーモードを開始すると、自動的に最大 4 台がアテンディーとして選ばれますので、操作は必要ありません。
• アテンディーになると、ディスプレイの PARTY ATTENDEE が点灯します。
入力ソースは自動的に“NET/USB”に切り替わり、オーガナイザーと同じネットワークオーディオの再生を楽しむことができます。
• アテンディーが 4 台に満たない場合は、あとからパーティーモードに参加することもできます。パーティーモードに参加する場合は、次の操作をおこなってください。

1 PARTY を押す。
“パーティーモードを開始しますか？”を表示します。

• ネットワークに接続していない場合は、エラーメッセージを表示します。

2 ◁ ▷ を押して“はい”を選び、ENTER を押す。

3 △▽◁ ▷ と ENTER を押して、再生したい曲を選ぶ。

パーティーモードを終了するとき

1 パーティーモード中に PARTY を押す。
メニュー画面に“パーティーモードを終了しますか？”を表示します。

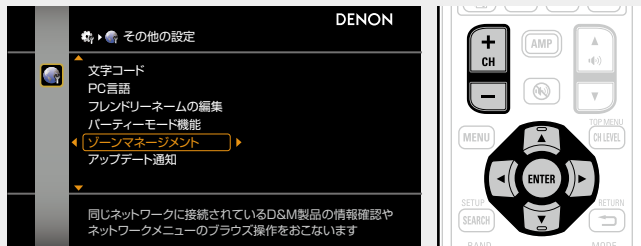
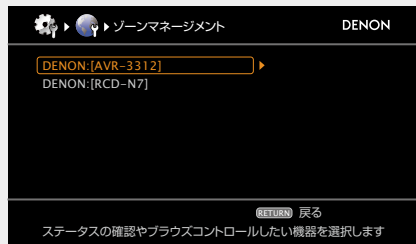
2 ◁ ▷ を押して“はい”を選び、ENTER を押す。
この場合、他の機器のパーティーモードは継続しています。

パーティーモード中は、“Flickr”および“USB”は再生できません。
同じネットワーク内でオーガナイザーは 1 台のみです。新たにパーティーモードを構成する場合は、一旦パーティーモードを終了してください。

ゾーンマネージメント機能

同じネットワークに接続されている機器の状態を表示し、さらに相手先のネットワークメニューのブラウズや音量操作をネットワーク経由でおこなうことができます。
別の部屋にある機器のネットワークサービスの再生をおこなうときに便利です。

ゾーンマネージメント機能は、DENON 製のゾーンマネージメント機能を搭載している機器との組み合わせでのみおこなえます。ゾーンマネージメント機能では、コントロールする相手機器のネットワークのメニュー画面や再生画面を表示しますが、本機では再生できません。
相手先と同じ音楽を本機でも再生したい場合は、パーティーモード機能をご利用ください。

1 △▽ を押して、メニューの“ネットワーク設定”⇨“その他の設定”⇨“ゾーンマネージメント”を選び、ENTER または ▷ を押す。

2 △▽ を押して機器のフレンドリーネームを選び、ENTER または ▷ を押す。

- 本機と同じネットワークに接続された DENON 機器を最大 10 台まで表示できます。

3 △▽ を押して“デバイスコントロール”を選び、ENTER を押す。

デバイスコントロールモードを開始すると、本機のテレビ画面に相手先のネットワークメニューを表示します。

ご注意

- 選んだ機器が、ゾーンマネージメント機能に対応している場合に、“デバイスコントロール”モードを開始します。
- 選んだ機器がパーティーモード中、またはゾーンマネージメントでコントロールしている場合には、”デバイスコントロール”は表示しません。

4 △▽◁ ▷ および ENTER を押して、お好みの曲を選ぶ。

- デバイスコントロールモード中は、コントロールしている機器側のテレビ画面に REMOTE CONTROL を表示し、コントロールされる機器側のテレビ画面には REMOTE を表示します。

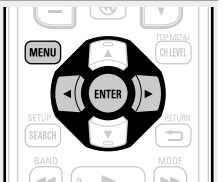
ゾーンマネージメント機能は、DENON 製のゾーンマネージメント機能を搭載している機器との組み合わせでのみおこなえます。

ご注意

- 選んだ機器の音量の操作は、本機の **CH +**（音量を上げる）、**CH –**（音量を下げる）でおこないます。音量レベルを表示しませんので、音量を上げすぎないようにご注意ください。
- アカウントが必要なサービスは、あらかじめ相手先の機器でアカウント設定をおこなってください。また、“デバイスコントロール”モード中は、一部の機器の機能が制限される場合があります。

❑“ デバイスコントロール ” モードを終了するには

1 “デバイスコントロール” モード中に、MENU を押す。

テレビ画面に“デバイスコントロールモードを終了しますか ?”を表示します。

2 ◁ ▷ を押して“はい”を選び、ENTER を押す。

テレビ画面に“リモート機器の電源をオフしますか ?”を表示します。

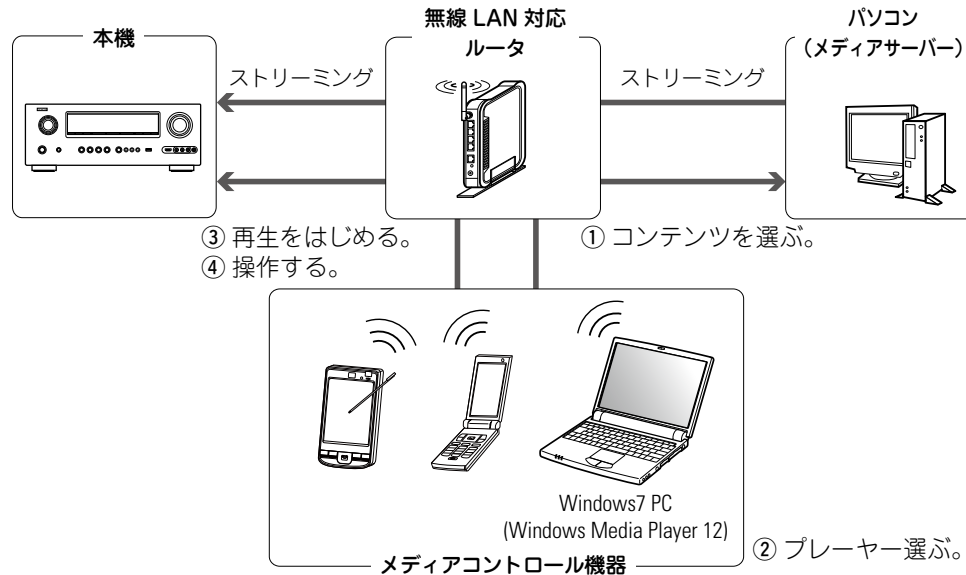
3 ◁ ▷ を押して“ はい ” または“ いいえ ” を選び、ENTER を押す。

はい	相手機器の電源を切って、“デバイスコントロール”モードを終了します。
いいえ	相手機器の電源を切らずに、“デバイスコントロール”モードを終了します。

コントロールされている機器側からも“デバイスコントロール”モードを終了することができます。
① コントロールされている機器で**MENU**を押す。
② テレビ画面に“デバイスコントロールモードを終了しますか?”を表示したら、“はい”を選んで**ENTER**を押す。

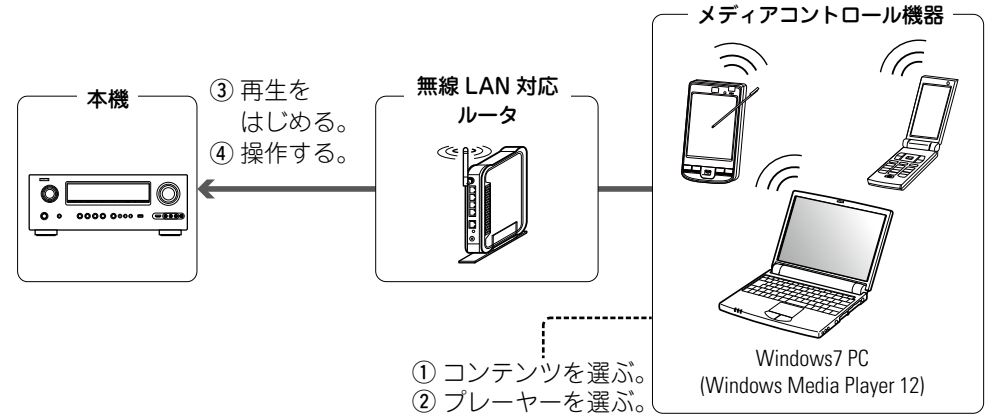
メディアコントロール機器を操作して音楽や静止画像などを再生する

- DLNA（Digital Living Network Alliance）に準拠したメディアコントロール機器を使用します。
- メディアコントロール機器を操作して、同じネットワーク上のパソコン（メディアサーバー）やメディアコントロール機器内のコンテンツを再生することができます。
- メディアコントロール機器での操作には、2 種類の方法があります。

❑パソコン（メディアサーバー）内のコンテンツを再生する

1 **メディアコントロール機器から、同じネットワーク内にあるメディアサーバーをブラウズして、再生したいコンテンツを選ぶ。**

2 **メディアコントロール機器から、ネットワーク内にある製品の中から本機を選ぶ。**
手順 1 で選んだコンテンツの再生をはじめます。

- メディアコントロール機器から本機を選択する際に、本機の名称を“フレンドリーネーム”で表示します（☞114 ページ“フレンドリーネームの編集”）。
- メディアコントロール機器から次の操作ができます。
  - ファイル操作（再生 / 停止 / 一時停止 / トラックサーチ）
  - 再生モード設定（リピート / ランダム）
  - 音量操作

❑メディアコントロール機器内のコンテンツを再生する

1 **メディアコントロール機器の中から再生したいコンテンツを選ぶ。**

2 **メディアコントロール機器から、ネットワーク内にある製品の中から本機を選ぶ。**
手順 1 で選んだコンテンツの再生をはじめます。

- メディアコントロール機器から本機を選択する際に、本機の名称を“フレンドリーネーム”で表示します（☞114 ページ“フレンドリーネームの編集”）。
- メディアコントロール機器から次の操作ができます。
  - ファイル操作（再生 / 停止 / 一時停止 / トラックサーチ）
  - 再生モード設定（リピート / ランダム）
  - 音量操作

- メディアコントロール機器から操作中は、メニュー画面に を表示します。
- 各設定や操作方法については、ご使用になるメディアコントロール機器の取扱説明書をご覧ください。
- メディアコントロール機器から本機を選択する際に、本機の名称を“フレンドリーネーム”で表示します。“フレンドリーネーム”は、他の機器と区別しやすいように、“フレンドリーネームの編集”（☞114 ページ）でお好みの名前に編集することができます。
- メディアコントロール機器から再生を開始する際に、本機は自動的に入力ソースを“NET/USB”に切り替えます。また、“ネットワークスタンバイ”の設定（☞114 ページ）が“オン”のときは、自動的に電源が入ります。

ご注意

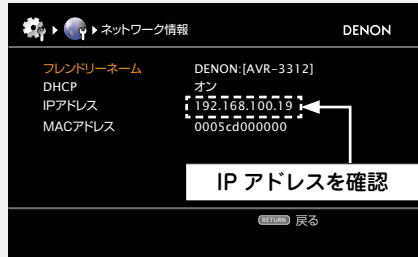
メディアコントロール機器から操作中に、本機でブラウズや再生に関する操作（再生 / 停止 / 一時停止 / トラックサーチ）をおこなうと、メディアコントロール機器との接続が切断されます。また、パーティーモードを開始した場合も、メディアコントロール機器との接続は切断されます。

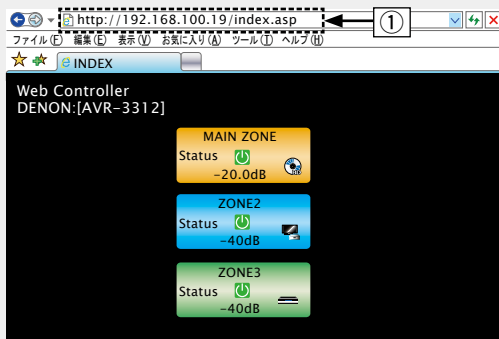
基本編
応用編
情報編

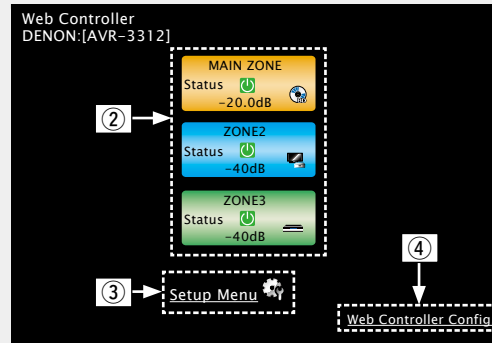
ウェブコントロール機能

ブラウザを使用して、本機を操作することができます。

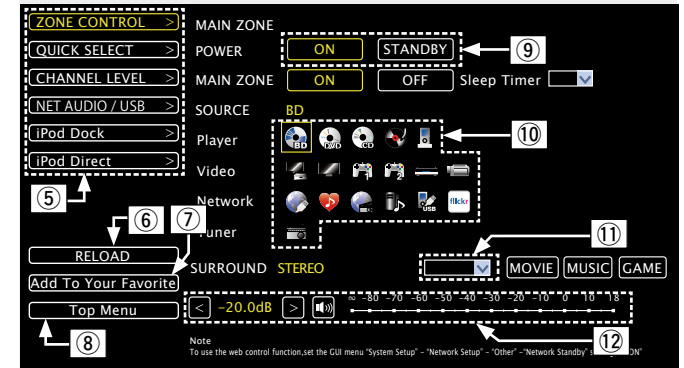
1 **メニューの“ネットワークスタンバイ”設定を“オン”にする**（☞114 ページ）。

2 **メニューの“ネットワーク情報”で、本機の IP アドレスを確認する**（☞115 ページ）。

3 **ブラウザのアドレスに、本機の IP アドレスを入力する。**

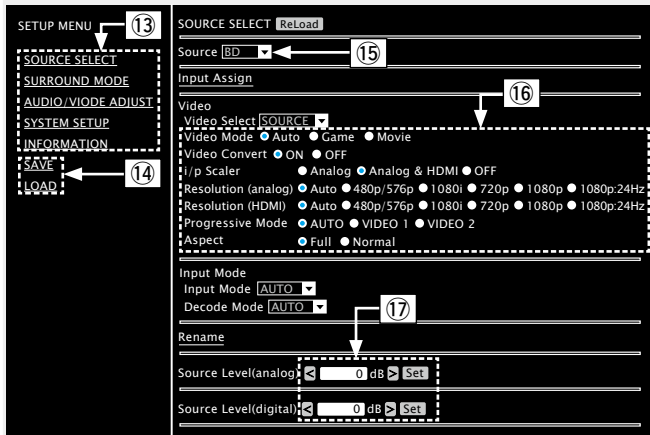
例えば、本機の IP アドレスが“192.168.100.19”の場合は、“http://192.168.100.19/”と入力してください。

① IPアドレスを入力します。

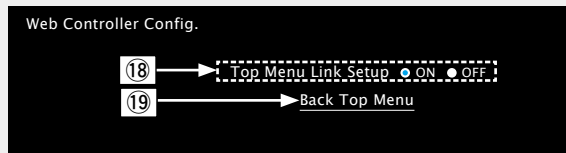
4 **トップメニューが表示されたら、操作したいメニューをクリックする。**

② 各ゾーンを操作するときにクリックします（☞【例1】）。
③ セットアップメニューを操作するときにクリックします（☞【例2】）。
④ ウェブコントロール画面の設定を変更するときにクリックします（☞【例3】）。

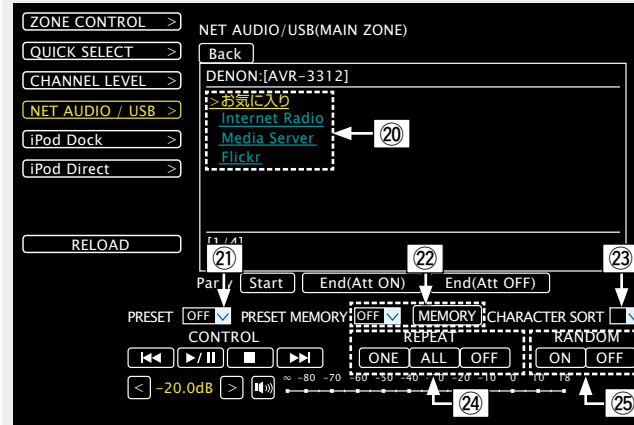
5 **操作する。**

【例 1】メインゾーンコントロール画面

⑤ 各操作をおこなうときにクリックします。
各操作画面になります（☞【例4】）。
⑥ 最新の情報に更新するときにクリックします。
通常は操作するたびに、最新の情報に切り替わります。本体側で操作された場合は、画面は更新されませんので、クリックしてください。
⑦ ブラウザの“お気に入り”に登録するときにクリックします。
誤って、操作していないゾーンのメニュー操作をおこなわないように、ゾーンごとに設定画面をブラウザのお気に入りなどに登録することをおすすめします。
⑧ トップメニューに戻るときにクリックします。
【例3】で“Top Menu Link Setup”を“ON”に設定すると、表示されます。
⑨ 本機の電源操作時にクリックします。
⑩ アイコンをクリックすると、入力ソースが切り替わります。
⑪ “∨”をクリックして、表示される項目からサラウンドモードを選びます。
⑫ 主音量を調節するときに、“<”、“>”または音量表示をクリックする。

☞ 次のページへ

【 例 2】セットアップメニュー画面

⑬ 設定したいメニューをクリックします。
右側の表示が各設定画面になります。
⑭ 設定を保存するときには“SAVE”、設定を呼び出すときには“LOAD”をクリックします。
各操作画面になります。
⑮ “ v ”をクリックして表示される項目から選びます。
⑯ 設定項目をクリックして確定します。
⑰ 数値を入力するか、“<”または“>”をクリックして設定後、“Set”をクリックします。

【 例 3】ウェブ構成画面

⑱ トップメニューのリンク設定をするときに“ON”をクリックします。
設定すると、各操作画面からトップメニューに戻れます。
（お買い上げ時の設定：“OFF”）
⑲ トップメニューに戻るときに、クリックします。

【 例 4】ネットワークオーディオ操作画面

⑳ 操作したいメニューをクリックします。
㉑ “ v ”をクリックして、再生したいプリセットチャンネルを選びます。
㉒ プリセット登録する場合に、“ v ”をクリックして登録したいチャンネルを選択し、“MEMORY”をクリックします。
㉓ 頭文字で検索する場合に、“ v ”をクリックして表示される文字から選びます。
㉔ リピート再生時にクリックします。
㉕ ランダム再生時にクリックします。

各種メモリー機能

❏パーソナルメモリープラス機能

前回使用していたときの設定内容（入力モード、HDMI 出力モード、サラウンドモード、MultEQ® XT、Dynamic EQ®、Dynamic Volume® やオーディオディレイなど）を入力ソースごとに記憶します。

サラウンドパラメーター、トーンコントロールの設定および各スピーカーの音量は、サラウンドモードごとに記憶します。

❏ラストファンクションメモリー

スタンバイにする直前の各種設定を記憶します。
再び電源を入れると、スタンバイにする直前の設定になります。

ゾーン 2/ ゾーン 3(別の部屋)での再生

- 本機を操作してメインゾーン(本機のある部屋)以外の部屋(ゾーン 2、ゾーン 3)で、音声を楽しむことができます。
- メインゾーン、ゾーン 2 およびゾーン 3 で同時に同じソースを再生することはもちろん、別々のソースを再生することもできます。

ゾーン 2 で選んだ入力ソースの音声は、録音用(DVR 出力端子)端子からも出力します。

音声出力

マルチチャンネル再生をおこなうメインゾーン以外の他の部屋で 2 チャンネルの音声を再生することができます。次の 2 通りの方法があります。いずれかを選んでください。

① スピーカー出力によるゾーン再生
② 音声出力によるゾーン再生(PRE OUT)
　外部アンプを使用します。

① スピーカー出力によるゾーン再生

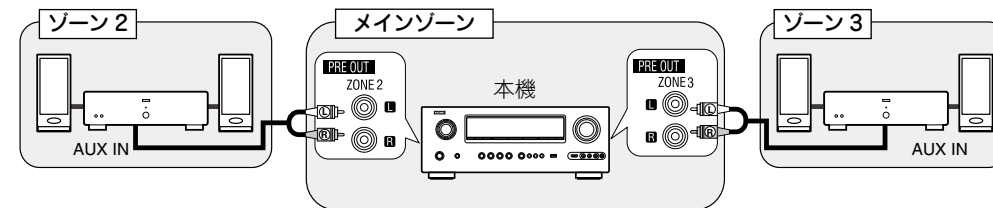
アンプの割り当て機能により本機の SURR.BACK/AMP ASSIGN スピーカー端子からゾーン 2 およびゾーン 3 の音声を出力します。

❑スピーカーの接続と設定

	"アンプの割り当て"の設定(☞106 ページ)と出力する音声信号		スピーカーを接続する
ゾーン 2	ZONE2	出力信号：ステレオ(左 / 右)	ZONE2
ゾーン 3	ZONE3	出力信号：ステレオ(左 / 右)	ZONE3
ゾーン 2 および **ゾーン 3**	Z2/Z3 (M)	出力信号：モノラル	ZONE2 ZONE3

② 音声出力によるゾーン再生 (PRE OUT)

❑音声接続(ゾーン 2、ゾーン 3)

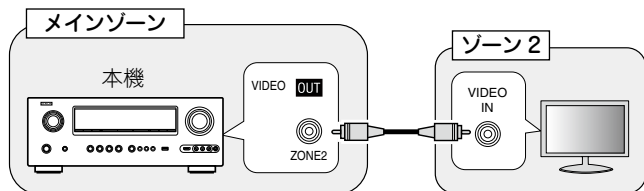
本機のゾーン 2 およびゾーン 3 の音声出力端子の音声をゾーン 2 およびゾーン 3 のアンプに出力し、そのアンプで再生します。

音声の接続については、雑音が発生しないように高品質のピンプラグケーブルのご使用をおすすめします。

ご注意

- デジタル入力端子(OPTICAL/COAXIAL)を割り当てた入力ソースをゾーン 2 またはゾーン 3 で選択した場合、入力されたデジタル信号が PCM(2 チャンネル)のときだけ再生します。
- ゾーン 2、ゾーン 3 では、HDMI 端子から入力されたデジタル音声信号は再生できません。ゾーン 2 およびゾーン 3 再生はアナログ接続をしてください。
- デジタル信号が入力されている場合、ゾーン 2 とゾーン 3 のオーディオ出力端子から雑音が出力されることがあります。

ビデオ出力

映像接続

本機のゾーン 2 映像出力の映像をゾーン 2 のテレビで再生します。

ご注意

- HDMI 端子や D5 端子から入力した映像をゾーン 2 に出力することはできません。
- メニュー画面は出力しません。

再生のしかた

1 **ZONE SELECT を押して、ゾーン操作モードを Z2（ゾーン 2）または Z3（ゾーン 3）に切り替える。**

2 **AMP を押して、リモコンをアンプ操作モードにする。**

3 **ZONE/DEVICE I（ON）を押して、ゾーン 2 またはゾーン 3 の電源を入れる。**

ディスプレイの Z2 または Z3 表示が点灯します。

- 電源がスタンバイ状態のときに 入力ソース選択ボタンを押しても、電源がオンになります。
- **ZONE/DEVICE ⏻** を押すと、ゾーン 2 またはゾーン 3 の電源がオフになります。
- 本体の **ZONE2 ON/OFF** または **ZONE3 ON/OFF** を押しても、ゾーン 2 またはゾーン 3 の電源をオン / オフすることができます。

4 **入力ソース選択ボタンを押して、再生する入力ソースを選ぶ。**

選択した入力ソースの音声を、ゾーン 2 またはゾーン 3 に出力します。

- 本体の **ZONE2 / REC SELECT** または **ZONE3 SELECT** を押してもゾーン 2 またはゾーン 3 の入力ソースを選ぶことができます。
ZONE2 / REC SELECT または **ZONE3 SELECT** を押すたびに、入力ソースが切り替わります。

メインゾーンとゾーン 2 またはメインゾーンとゾーン 3 の両方の電源がオンのときにメインゾーンの電源だけをオフにすることができます。手順 1 の操作で M（メインゾーン）を選んでから **ZONE/DEVICE ⏻** を押してください。

音量の調節

🔊 ▲▼ を押して、音量を調節する。

［調節できる範囲］ - - - -80dB ～ -40dB ～ 18dB
（メニューの“音量表示”の設定（☞116 ページ）が、“相対値”のとき）

［調節できる範囲］ 0 ～ 41 ～ 99
（メニューの“音量表示”の設定（☞116 ページ）が、“絶対値”のとき）

- お買い上げ時は、“音量の上限”（☞116 ページ）を“-10dB（71）”に設定しています。

本体の **ZONE2 / REC SELECT** または **ZONE3 SELECT** を押したあとに **MASTER VOLUME** を回しても、音量を調節することができます。

一時的に音を消す（ミューティング）

🔇 を押す。
メニューの“ミューティングレベル”（☞116 ページ）で設定したレベルまで音量が減衰します。

- ミューティングを解除するときは、もう一度 🔇 を押してください。
- 音量を調節したり、ゾーン 2 の電源をオフにしても解除できます。

メニューの“ゾーンの設定”（☞115 ページ）でゾーン 2 およびゾーン 3 のトーンや音量を調節することができます。

☞ 次のページへ

基本編
応用編
情報編

クイックセレクト機能

ゾーン２またはゾーン３においても、手順１の設定内容をまとめて記憶させることができます。

- よく使う設定を **QUICK SELECT 1**～**4** ボタンに記憶させておくと、常に同じ再生環境を簡単に呼び出してお楽しみいただくことができます。
- 4つの設定を記憶させることができます。

❏記憶のさせかた

1 **ZONE SELECT を押して、ゾーン操作モードを Z2（ゾーン２）または Z3（ゾーン３）に切り替える。**

2 **ゾーン２の操作モード中に次の設定内容を、記憶したい状態にする。**

① 入力ソース（☞83ページ）
② 音量（☞83ページ）

ご注意

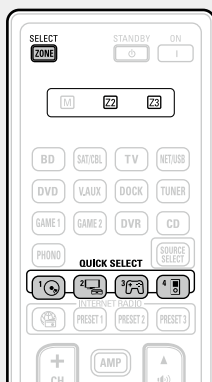
ゾーン２またはゾーン３の“NET/USB”ソースには、コンテンツごと（インターネットラジオやメディアサーバー、iPodなど）のメモリーはできません。

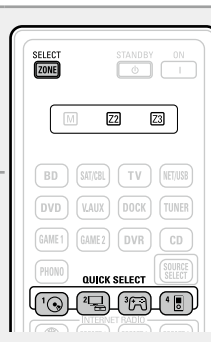
3 **ディスプレイに“Memory”が表示されるまで QUICK SELECT を押す。**

現在の設定を記憶します。

【お買い上げ時の設定】

記憶させるボタン	入力ソース	音量
ZONE2/ZONE3 QUICK SELECT 1	BD	-40dB
ZONE2/ZONE3 QUICK SELECT 2	SAT/CBL	-40dB
ZONE2/ZONE3 QUICK SELECT 3	GAME1	-40dB
ZONE2/ZONE3 QUICK SELECT 4	NET/USB	-40dB

❏呼び出しかた

1 **ZONE SELECT を押して、ゾーン操作モードを Z2（ゾーン２）または Z3（ゾーン３）に切り替える。**

2 **呼び出したい設定が記憶されている QUICK SELECT を押す。**

クイックセレクト名を変更するには

本機では、メニュー画面に表示するクイックセレクト名をお好みの名前に変更することができます。
変更のしかたは、メニューの“クイックセレクトネーム”（☞117ページ）をご覧ください。

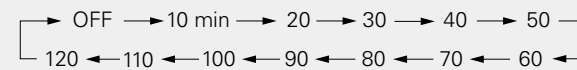
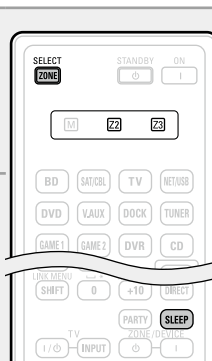
スリープタイマー機能

- ゾーン２またはゾーン３で視聴しながらおやすみになるときに便利です。
- スリープタイマー機能は、ゾーンごとに設定できます。

1 **ZONE SELECT を押して、ゾーン操作モードを Z2（ゾーン２）または Z3（ゾーン３）に切り替える。**

2 **SLEEP を押して、スリープ時間を設定する。**

- **SLEEP** を押すたびに、スリープ時間が次の順に切り替わります。

→ OFF → 10 min → 20 → 30 → 40 → 50
120 ← 110 ← 100 ← 90 ← 80 ← 70 ← 60 ←

スリープタイマーの残り時間を確認するには

SLEEP を押す。
ディスプレイに“Z2 Sleep：＊min”または“Z3 Sleep：＊min”を表示します。
＊ 残り時間

スリープタイマーを解除するとき

SLEEP を押して、“OFF”を選ぶ。

- 本機をスタンバイにしたり、ゾーン２またはゾーン３の電源をオフにしてもスリープタイマーを解除します。
- 設定した時間が経過すると、ディスプレイの Z2 または Z3 表示が消灯します。

ご注意

スリープタイマー機能では、本機に接続した機器の電源は切れません。接続した機器の電源を切る場合は、接続した機器側でスリープタイマーの設定をおこなってください。

詳細設定のしかた

メニュー一覧

メニューの操作をおこなうときは、本機にテレビを接続（☞10 ページ）し、テレビ画面にメニューを表示させてから操作してください。
メニューの操作のしかたは、下表の参照ページをご覧ください。

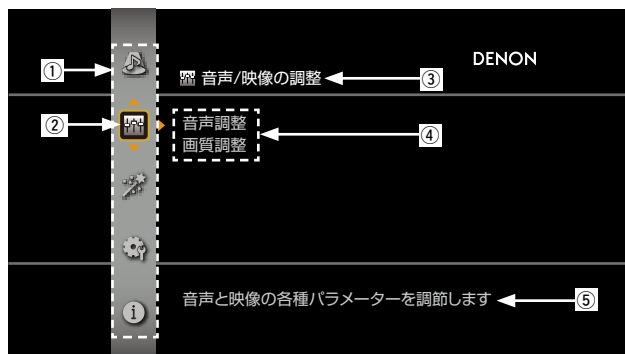
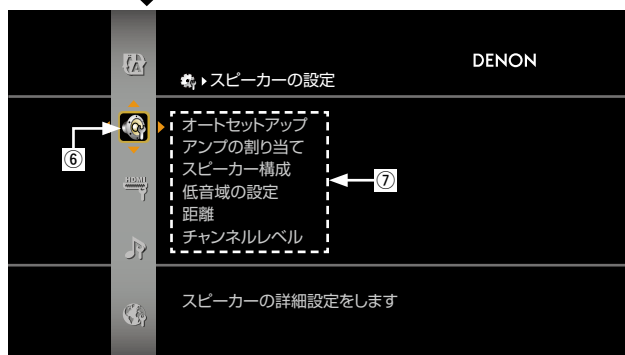
設定項目	詳細項目	内　容	参照ページ
ソース選択 “ソース選択” メニューは、選択している入力ソースによって、表示内容が異なります。	入力端子の割り当て	入力端子の割り当てを変更します。	92
	ビデオ	映像の設定をします。	93
	入力モード	入力モードとデコードモードを設定します。	95
	入力名の変更	選択した入力ソースの表示名を変更します。	95
	ソースレベル	音声入力の再生レベルを補正します。	95
	プレイ	各入力ソースの再生画面を表示します。	95
	静止画像	静止画像の再生に関する設定をします。	96
	再生モード	iPod や USB メモリー、ネットワークソースの再生に関する設定をします。	96
	オートプリセット	自動で FM 放送局をプリセットします。	96
	プリセットスキップ	選局するとき、表示させないプリセットチャンネルをあらかじめ設定します。	96
	プリセットネーム	プリセットした放送局の表示名を変更します。	97
サラウンドモード		リスニングモードを選択します。	53
音声 / 映像の調整	音声調整	音声を調節します。	99
	画質調整	画質を調節します。	104
セットアップウィザード		テレビ画面の案内に沿って基本的な設置 / 接続 / 設定をおこないます。	📖 8
システム設定	スピーカーの設定	スピーカーの大きさや距離、チャンネルレベルなどを設定します。	106
	HDMI 設定	HDMI の映像 / 音声出力に関する設定をします。	109
	音声の設定	音声の再生に関する設定をします。	110
	ネットワーク設定	ネットワークに関する設定をします。	112
	ゾーンの設定	ゾーン2 / ゾーン 3 で再生する音声の設定をします。	115
	その他の設定	その他の設定をします。	116
	言語の設定	テレビ画面に表示する言語を設定します。	120
情報	現在の設定	現在の設定状態を表示します。	121
	音声入力信号	音声入力信号の情報を表示します。	121
	HDMI 情報	HDMI の入出力信号やテレビの情報を表示します。	121
	オートサラウンドモード	オートサラウンドモードに記憶している内容を表示します。	121
	クイックセレクト	クイックセレクト機能で記憶している内容を表示します。	121
	プリセットチャンネル	チューナーまたはネットワークのプリセットチャンネル情報を表示します。	121

一度だけ設定すればよい項目

お買い上げ時などに設定してください。
一度設定していただくと、接続するスピーカーやスピーカーの設置を変更しない限り、設定の必要がありません。

メニュー画面の表示例

代表例を説明します。

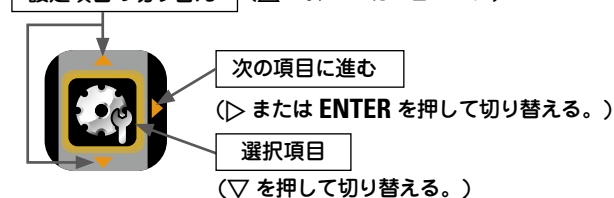
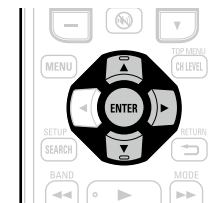
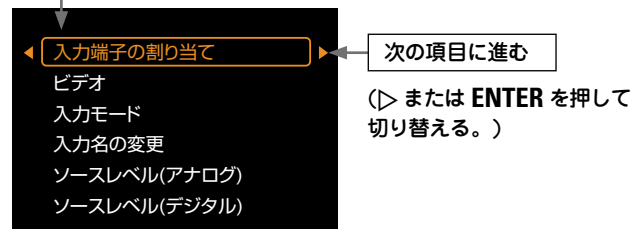
【例 1】メニュー選択画面（トップメニュー）

① GUI メニューの設定アイコン一覧
② 選択中の設定アイコン
③ 選択中の設定項目名
④ 選択中の設定内容一覧
⑤ 選択中の設定項目のガイドテキスト

⑥ 選択した設定アイコン
⑦ 選択した設定内容の選択項目

【例 2】Audyssey® Auto Setup 画面（イラスト付き）

⑧ 階層アイコン
⑨ 操作ガイドテキスト
⑩ 操作ステップ表示
⑪ イラスト
⑫ 操作ボタンガイド
⑬ 選択中の設定項目のガイドテキスト

❑ アイコン

❑ リスト

基本編
応用編
情報編

テレビ画面とディスプレイの表示について

テレビ画面とディスプレイの表示について、代表的な例を説明します。

	テレビ画面	ディスプレイ	説　明
トップメニューの表示	DENON 音声/映像の調整 ② 音声調整 画質調整	A/V Adjust ❷ Setup Wizard	❶ **MENU**を押して、メニュー画面を表示します。 ❷ テレビ画面：選択中の行を表示します。 ディスプレイ：選択中の項目を表示します。 • 設定したい項目に移動するときは、△▽ を押します。
設定を変更するときの表示	入力端子の割り当て [1/2] DENON 初期化 / HDMI / DIGITAL / COMP BD / HDMI1 ① / 無し / 無し DVD / HDMI2 / COAX1 / COMP1 TV / 無し / OPT1 / 無し SAT/CBL / HDMI3 / COAX2 / COMP2 DVR / HDMI4 / OPT2 / 無し GAME1 / HDMI5 / 無し / 無し GAME2 / HDMI6 / 無し / 無し **ENTER** を押す。 入力端子の割り当て [1/2] DENON 初期化 / HDMI / DIGITAL / COMP BD / HDMI1 ② / 無し / 無し DVD / HDMI2 / COAX1 / COMP1 TV / 無し / OPT1 / 無し SAT/CBL / HDMI3 / COAX2 / COMP2 DVR / HDMI4 / OPT2 / 無し GAME1 / HDMI5 / 無し / 無し GAME2 / HDMI6 / 無し / 無し	BD [HDMI1] ❶ DVD [HDMI2] **ENTER** を押す。 BD ◀HDMI1 ▶ ❸	❶ テレビ画面：選択中の行を表示します。 ディスプレイ：選択中の項目を表示します。 • 設定したい項目に移動するときは、△▽ を押します。 ❷ **ENTER**を押して、設定したい項目を選びます。 ❸ 設定を変更できる項目には、項目名の両端に ◀ ▶ を表示します。◁ ▷を押して、設定を変更します。
お買い上げ時の設定に戻すときの表示	入力名の変更 [1/2] DENON 初期化 ① TUNER / TUNER PHONO / PHONO CD / CD BD / BD DVD / DVD TV / TV SAT/CBL / SAT/CBL **ENTER** を押す。 入力名の変更 [1/2] DENON 設定を初期値に戻しますか? はい / いいえ ②	Default ❶ TUN <TUNER > **ENTER** を押す。 Default? Yes or No:◀No ❷	❶ △を押して“初期化”を選び、**ENTER**を押して設定します。 ❷ ◁を押して“はい”を選び、**ENTER**を押します。

文字入力について

本機は、次の画面に表示する名前をお好みに合わせて変更することができます。

- "プリセットネーム"(☞97 ページ)
- "入力名の変更"(☞95 ページ)
- "ゾーン名の変更"(☞117 ページ)
- "クイックセレクトネーム"(☞117 ページ)

文字の入力には、次の 3 通りの方法があります。

文字入力方式の種類

入力方式	操作の概要
キーボード画面で入力する	• リモコンで操作します。 • テレビ画面に表示される文字を選んで、文字を入力します。
数字ボタンで入力する（数字ボタン入力画面）	• リモコンで操作します。 • 1 つのボタンに複数の文字が割り当ててあり、ボタンを押すたびに文字が切り替わります。
カーソルボタンで入力する（数字ボタン入力画面）	• リモコンで操作します。 • △▽◁ ▷ と **ENTER** で文字を入力します。

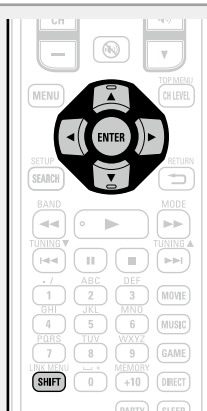
キーボード画面で名前を入力する

❑キーボード入力画面

① 文字入力部(最大8文字。ただし、"クイックセレクトネーム"のみ16文字)
② カーソル
③ キーボード部
④ 大文字/小文字の切り替え
⑤ スペース入力キー
⑥ カーソル移動キー
⑦ 挿入キー
⑧ 削除キー
⑨ OKキー
⑩ 操作ボタンガイド

❑入力のしかた

1 文字の入力をおこなう画面を表示する(☞85 ページ「メニュー一覧」)。

2 変更したい文字を選ぶ。
① △▽◁ ▷ を押して ← または → を選ぶ。
② **ENTER** を押して、変更したい文字にカーソルを合わせる。
ENTER を押すたびに、カーソルが 1 文字ずつ移動します。

3 △▽◁ ▷ を押して、入力したい文字を選び、**ENTER** を押す。

- 入力できる文字の種類は、次のとおりです。

> 【英大文字 / 数字 / 記号】
> ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
> 0123456789
> ! " # $ % & ' ( ) * + , ; < = >
> 【英小文字 / 数字 / 記号】
> abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
> 0123456789
> . @ - _ / : ˜ ? [\ ] ^ ` { | }

- 文字を入力中に **SHIFT** を押すと、大文字と小文字を切り替えることができます。

4 手順 2、3 をくり返して、名前を変更する。

5 △▽◁ ▷ を押して O K を選び、**ENTER** を押す。

☞ 次のページへ

数字ボタンで名前を入力する

❑数字ボタン入力画面の表示

① 文字入力部（最大8文字。ただし、“クイックセレクトネーム”のみ16文字）
② 操作ボタンガイド

❑入力のしかた

数字ボタンで入力する

1 **文字の入力をおこなう画面を表示する（☞85 ページ「メニュー一覧」）。**

2 **キーボード入力画面の表示中に、SEARCH を押す。**
数字ボタン入力画面に切り替わります。

- キーボード入力画面の表示中に **0～9** を押しても、数字ボタン入力画面に切り替わります。

3 **◁ ▷ を押して変更したい文字にカーソルを合わせ、入力したい文字が表示されるまで、数字ボタン（0～9）を押す。**

- 入力できる文字の種類は、次のとおりです。

ボタン	文字
1	1 . @ - _ / : ˜
2 (ABC)	A B C a b c 2
3 (DEF)	D E F d e f 3
4 (GHI)	G H I g h i 4
5 (JKL)	J K L j k l 5
6 (MNO)	M N O m n o 6
7 (PQRS)	P Q R S p q r s 7
8 (TUV)	T U V t u v 8
9 (WXYZ)	W X Y Z w x y z 9
0	0（空白）! “ # $ % & ’ ( ) ＊ + , ; < = > ? [\ ] ^ ` { l }

- 文字を入力中に **SHIFT** を押すと、大文字と小文字を切り替えることができます。
- 同じボタンに割り当てられている文字を続けて入力するときは、文字を入力したあとに ▷ を押してカーソルを右に移動させ、次の文字を入力してください。
- 別のボタンに割り当てられている文字を続けて入力するときは、続けて別のボタンを押すと、自動的にカーソルを移動し、文字を確定します。

4 **手順 3 をくり返して名前を変更し、ENTER を押して入力した文字を確定する。**

例：入力ソース“DVD”を“DENON”に変更する場合

① “V”にカーソルを合わせる。　DVD
② 3 (DEF) を2回押す。
“V”が“E”に変わります。　DED
③ 6 (MNO) を2回押す。
自動的に“E”を確定し、“D”が“N”に変わります。　DEN
④ ▷を押す。
“N”を確定します。　DEN■
⑤ 6 (MNO) を3回押す。
“O”を入力します。　DENO
⑥ ▷を押す。
“O”を確定します。　DENO■
⑦ 6 (MNO) を2回押す。
“N”を入力します。　DENON
⑧ **ENTER**を押して、入力ソース名を確定する。

☞ 次のページへ

カーソルボタンで入力する

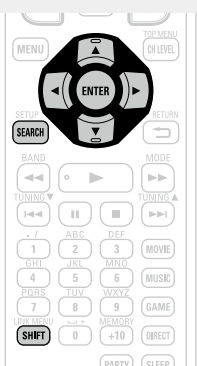
1 **文字の入力をおこなう画面を表示する（☞85ページ「メニュー一覧」）。**

2 **キーボード入力画面表示中に、SEARCH を押す。**
数字ボタン入力画面に切り替わります。

3 **◁ ▷ を押して、変更したい文字にカーソルを合わせる。**

4 **△▽ を押して文字を変更し、ENTER を押す。**

- 入力できる文字の種類は、次のとおりです。

【英大文字】
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
【英小文字】
abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
【記号】! “ # $ % & ‘ ( ) ＊ + , - . / :
; < = > ? @ [\ ] ^ _ ` { | } ˜
【数字】0123456789（空白）

- 文字を入力中に **SHIFT** を押すと、大文字と小文字を切り替えることができます。

5 **手順 3、4 をくり返して名前を変更し、ENTER を押して入力した文字を確定する。**

ソース選択

GUI

現在選択している入力ソースに関する設定をします。
•設定を変更しなくてもご使用いただけます。必要に応じて設定してください。

メニューの操作のしかた

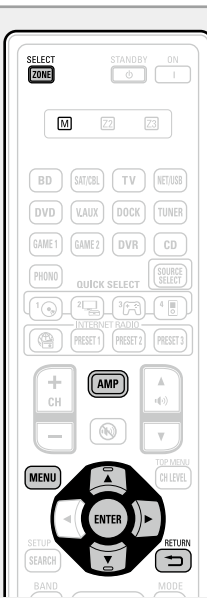
1 **ZONE SELECT を押して、ゾーン操作モードを M（メインゾーン）に切り替える。**
リモコンのゾーン操作モード表示の M が点灯します。

2 **AMP を押して、リモコンをアンプ操作モードにする。**

3 **MENU を押す。**
テレビ画面にメニューを表示します。

4 **△▽ を押して、設定または操作したいメニューを選ぶ。**

5 **ENTER または ▷ を押して、設定を確定する。**

•前の項目に戻るときは、**RETURN** ⮌ を押してください。
•メニューを終了するときは、メニュー表示中に **MENU** を押してください。メニュー表示が消えます。

知っておいてほしいこと

❑本書内の入力ソースの表示について

本書では、各項目で設定できる入力ソース名を次のようにあらわしています。

BD | DVD | TV | SAT/CBL | DVR | GAME1 | GAME2 | V.AUX | DOCK | NET/USB | Favorites | Internet Radio | Media Server | USB/iPod | Flickr | TUNER | PHONO | CD

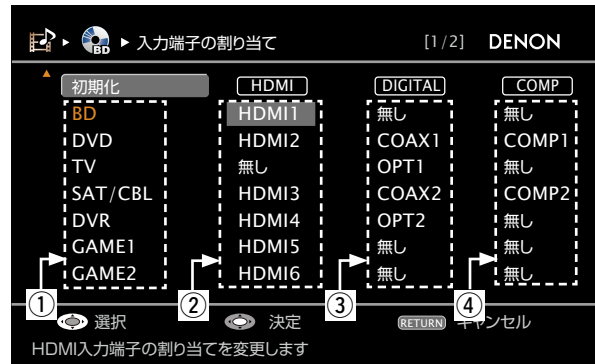
ご注意

メニューの“使用ソースの選択”（☞116 ページ）で、“使用しない” に設定した入力ソースは選べません。

“ソース選択”メニューでできること

入力端子の割り当て

"入力端子の割り当て"メニュー画面の表示例

この画面は、メニューの"ソース選択" ⇨"入力ソース" ⇨"入力端子の割り当て" を選択したときに表示します。
この"入力端子の割り当て" メニューでは、①各入力ソースに対して、お買い上げ時の設定で割り当てられている② HDMI 端子、③デジタル端子、④ D 端子を変更することができます。

"入力端子の割り当て"メニューの操作のしかた

1 △▽◁ ▷ を押して、設定したい項目へカーソルを移動させ、ENTER を押す。

2 ◁ ▷ を押して、入力端子を割り当てる。

3 ENTER を押して、設定を確定する。

設定項目	設定内容
HDMI 入力ソースに割り当てられている HDMI 入力端子を変更するときに設定します。 BD DVD TV SAT/CBL DVR GAME1 GAME2 V.AUX DOCK	**HDMI1/HDMI2/HDMI3/HDMI4/HDMI5/HDMI6/HDMI7**：選択した入力ソースに、いずれかの HDMI 入力端子を割り当てます。 **無し**：選択した入力ソースに HDMI 入力端子を割り当てません。 • 各入力ソースのお買い上げ時の設定は、次のとおりです。

入力ソース	BD	DVD	TV	SAT/CBL	DVR
お買い上げ時の設定	HDMI1	HDMI2	無し	HDMI3	HDMI4

入力ソース	GAME1	GAME2	V.AUX	DOCK
お買い上げ時の設定	HDMI5	HDMI6	HDMI7	無し

- HDMI 入力端子の割り当てができない入力ソースには、"---"を表示します。
- "HDMI" で割り当てた映像信号と、メニューの"入力端子の割り当て" ⇨ "DIGITAL" で割り当てた音声信号を組み合わせて再生する場合は、"入力モード"（☞95 ページ）を"デジタル"に設定してください。
- アナログ端子およびデジタル端子から入力された音声信号は、テレビに出力しません。
- 入力ソースの"DOCK"に HDMI 入力端子を割り当てていても、iPod 用コントロールドックが接続されているときは、S ビデオ入力端子が有効になります。
- メニューの"HDMI コントロール" ⇨"コントロール"（☞109 ページ）を"オン" に設定している場合は、"TV" に"HDMI" を割り当てることはできません。

☞ 次のページへ

設定項目	設定内容

DIGITAL
入力ソースに割り当てられているデジタル入力端子を変更するときに設定します。

BD DVD TV SAT/CBL DVR GAME1 GAME2 V.AUX DOCK CD

COAX1、2（同軸デジタル入力端子）/**OPT1、2**（光デジタル入力端子）：選択した入力ソースに、いずれかのデジタル入力端子を割り当てます。
無し：選択した入力ソースにデジタル入力端子を割り当てません。

• 各入力ソースのお買い上げ時の設定は、次のとおりです。

入力ソース	BD	DVD	TV	SAT/CBL	DVR
お買い上げ時の設定	無し	COAX1	OPT1	COAX2	OPT2

入力ソース	GAME1	GAME2	V.AUX	DOCK	CD
お買い上げ時の設定	無し	無し	無し	無し	無し

COMP
（コンポーネントビデオ）
入力ソースに割り当てられている D5 入力端子を変更するときに設定します。

BD DVD TV SAT/CBL DVR GAME1 GAME2 V.AUX DOCK

COMP1、2（D5 入力端子）：選択した入力ソースに D5 入力端子を割り当てます。
無し：選択した入力ソースに D5 入力端子を割り当てません。

• 各入力ソースのお買い上げ時の設定は、次のとおりです。

入力ソース	BD	DVD	TV	SAT/CBL	DVR
お買い上げ時の設定	無し	COMP1	無し	COMP2	無し

入力ソース	GAME1	GAME2	V.AUX	DOCK
お買い上げ時の設定	無し	無し	無し	無し

• D5 入力端子の割り当てができない入力ソースには、“---”を表示します。
• 入力ソースの“DOCK”に D5 入力端子を割り当てていても、iPod 用コントロールドックが接続されているときは、S ビデオ入力端子が有効になります。

初期化
“入力端子の割り当て”で設定した内容をお買い上げ時の設定に戻します。

はい：お買い上げ時の設定に戻します。
いいえ：お買い上げ時の設定に戻しません。

“初期化”を選んで **ENTER** を押すと、“設定を初期値に戻しますか？”というメッセージが表示されますので、“はい”または“いいえ”を選び、**ENTER** を押してください。

ビデオ

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

映像に関する設定をします。
＊ “TV”、“GAME1” および“GAME2” は、各入力ソースに“HDMI”（☞92 ページ）または“COMP”（☞93 ページ）を割り当てているときに設定できます。

設定項目	設定内容

ビデオセレクト
今聴いている音声に好きな映像を組み合わせて再生します。

SOURCE：入力ソースの映像と音声を再生します。
BD/DVD/TV/SAT/CBL/DVR/GAME1/GAME2/V.AUX/DOCK：見たい映像の入力ソースを選びます。今聴いている音声に、選択した入力ソースの映像を組み合わせて再生します。入力ソースごとに設定できます。

“TV”、“GAME1”および“GAME2”は、各入力ソースに“COMP”を割り当てているときのみ選べます。

ご注意
• HDMI 入力信号は選べません。
• メニューの“使用ソースの選択”（☞116 ページ）で、“使用しない”に設定した入力ソースは選べません。

ビデオモード
映像コンテンツの種類に合わせて映像処理のしかたを設定します。

オート：HDMI のコンテンツ情報に基づく映像処理を自動でおこないます。
ゲーム：ゲームコンテンツに適した映像処理をおこないます。
ムービー：通常の映像処理をおこないます。

• “ビデオモード” の設定が“オート” の場合は、入力されたコンテンツに応じてモードが切り替わります。
• 同じソースを同じ部屋で、メインゾーン（音声と映像）とゾーン 2（音声のみ）の両方を使用して再生すると、メインゾーンの音声とゾーン 2 の音声がずれて聞こえることがありますが、故障ではありません。このような場合は、“ゲーム” モードに設定すると、タイミングのずれを少なく抑えることができます。

☞ 次のページへ

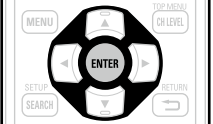
設定項目	設定内容
ビデオコンバート 入力された映像信号を接続されたテレビに合わせて自動的に変換します（☞8 ページ「入力された映像信号を変換して出力する（ビデオコンバージョン機能）」）。 	**オン**：入力された映像信号を変換します。 **オフ**：入力された映像信号を変換しません。 • ゲーム機などの非標準ビデオ信号を入力した場合、ビデオコンバージョン機能が動作しない場合があります。このような場合は、“ビデオコンバート”を“オフ”に設定してください。 • “ビデオコンバート”を“オフ”に設定すると、ビデオコンバージョン機能ははたらきませんので、本機とテレビの接続に同じ種類の映像ケーブルを使用してください。
i/p スケーラー 入力ソースの解像度を設定した解像度に変換します。 	**アナログ**：アナログ映像入力信号に対して、i/p スケーラー機能を使用します。 **アナログ &HDMI**：アナログ映像入力信号と HDMI 入力信号の両方に対して、i/p スケーラー機能を使用します。 **HDMI**：HDMI 映像入力信号に対して i/p スケーラー機能を使用します。 **オフ**：i/p スケーラー機能を使用しません。 • “アナログ &HDMI”および“HDMI”は、HDMI 入力端子を割り当てている入力ソースに対して設定できます。 • 各入力端子が割り当てられている入力ソースによって、設定項目が異なります。 • i/p スケーラー機能は、入力された信号が x.v.Color、3D、sYCC601 color、Adobe RGB color、Adobe YCC601 color およびコンピュータ解像度のときは効果がありません。
解像度 出力する解像度を設定します。 “解像度”の設定は、アナログビデオ入力時と HDMI 入力時にそれぞれの HDMI 出力に対しておこなえます。 	**オート**：HDMI 出力端子に接続しているテレビのパネル画素数を自動的に検出し、適切な解像度で出力します。 **480p/576p /1080i/720p/1080p/1080p:24Hz**：出力したい解像度を選びます。 • “i/p スケーラー”の設定が“オフ”以外のときに設定できます。 • “i/p スケーラー”の設定が“アナログ &HDMI”のときは、アナログ映像入力信号と HDMI 映像入力信号の解像度をそれぞれ設定できます。 • 1080p/24Hz の映像をお楽しみいただくときは、1080p/24Hz の映像信号に対応しているテレビを使用してください。 • “1080p:24Hz”に設定すると、フィルムソース（24Hz）のときに、フィルムライクな映像を楽しむことができます。ビデオソースやミックスソースの場合は、“1080p”に設定することをおすすめします。 • 50Hz の信号を 1080p/24Hz へ変換することはできません。1080p/50Hz の解像度で出力します。

設定項目	設定内容
プログレッシブモード 映像素材に最適なプログレッシブモードを選択します。 BD DVD TV* SAT/CBL DVR GAME1* GAME2* V.AUX DOCK	**オート**：映像の素材を自動的に検出し、適切なモードを設定します。 **ビデオ 1**：ビデオ素材の再生に適しています。 **ビデオ 2**：ビデオ素材や 30 フレームのフィルム素材の再生に適しています。 “i/p スケーラー”の設定が“オフ”以外のときに設定できます。
アスペクト HDMI 端子へ出力する、映像信号のアスペクト比（縦横比）を設定します。 BD DVD TV* SAT/CBL DVR GAME1* GAME2* V.AUX DOCK NET/USB	**フル**：16：9 のアスペクト比で出力します。 **ノーマル**：4：3 のアスペクト比で出力します。 “i/p スケーラー”の設定が“オフ”以外のときに設定できます。

＊ “TV”、“GAME1” および“GAME2” は、各入力ソースに“HDMI”（☞92 ページ）または“COMP”（☞93 ページ）を割り当てているときに設定できます。

入力モード（音声）

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

各入力ソースの音声入力モードとデコードモードを設定します。
選択できる入力モードは、入力ソースによって異なります。

設定項目	設定内容
入力モード 各入力ソースの音声入力モードを設定します。 通常は、"オート"に設定することをおすすめします。	**オート**：本機に入力されている信号を自動的に検出して再生します。 **HDMI**：HDMI 入力端子からの入力信号のみを再生します。 **デジタル**：デジタル入力端子からの入力信号のみを再生します。 **アナログ**：アナログ入力端子からの入力信号のみを再生します。 • "HDMI" は、メニューの"入力端子の割り当て"（92 ページ）で"HDMI"を割り当てた入力ソースのときに選択できます。 • "デジタル" は、メニューの"入力端子の割り当て"（93 ページ）で"DIGITAL"を割り当てた入力ソースのときに選択できます。 • 入力ソースが"TV"、"GAME1"および"GAME2"のときは、"アナログ"に設定できません。 • デジタル信号を正しく入力すると、ディスプレイの DIG. 表示が点灯します。DIG. 表示が点灯しない場合は、デジタル入力端子の割り当て"入力端子の割り当て"（92 ページ）や接続を確認してください。 • メニューの"HDMI コントロール" ⇨"コントロール" の設定が"オン" で、HDMI MONITOR 端子に ARC 対応テレビを接続している場合、入力ソース"TV"の入力モードは ARC 固定になります。
デコードモード 入力ソースの音声をデコードするモードを設定します。 BD / DVD / TV / SAT/CBL / DVR / GAME1 / GAME2 / V.AUX / DOCK / CD	**オート**:デジタル入力信号の種類を識別し、自動的にデコードして再生します。 **PCM**：PCM 信号が入力されたときだけデコードして再生します。 **DTS**：DTS 信号が入力されたときだけデコードして再生します。 • メニューの"入力端子の割り当て" 設定（92 ページ）で"HDMI" または"DIGITAL"に割り当てた入力ソースのときに選択できます。 • 通常は、"オート"に設定してください。"PCM" や"DTS"は、それぞれの入力信号を再生するときに設定してください。

入力名の変更

選択した入力ソースの表示名を変更します。

設定項目	設定内容
入力名の変更 選択した入力ソースの表示名を変更します。	• 8 文字まで入力できます。 • 文字の入力方法については、88 ページをご覧ください。
初期化 変更した入力ソース名をお買い上げ時の設定に戻します。	**はい**：お買い上げ時の設定に戻します。 **いいえ**：お買い上げ時の設定に戻しません。 "初期化" を選んで **ENTER** を押すと、"設定を初期値に戻しますか？" というメッセージが表示されますので、"はい" または"いいえ" を選び、**ENTER** を押してください。

ソースレベル（音声）

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

• 選択した入力ソースの音声入力の再生レベルを補正します。
• ソースによって再生レベルに差があるときなどに設定してください。

設定内容
-12dB～+12dB（0dB）

メニューの"入力端子の割り当て" 設定（92 ページ）で、"HDMI" または"DIGITAL" を割り当てた入力ソースに対しては、アナログ入力レベルとデジタル入力レベルを別々に調節することができます。

プレイ

各入力ソースの再生画面を表示します。

DOCK / NET/USB / Favorites / Internet Radio / Media Server / USB/iPod / Flickr / TUNER

静止画像

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

静止画像の再生に関する設定をします。

設定項目	設定内容
スライドショー スライドショーの設定をします。 NET/USB	**オン**：静止画像を順番に表示します。 **オフ**：スライドショーの再生をしません。
スライド間隔 スライドショーで再生するときの画像 1 枚あたりの表示時間を設定します。 NET/USB	**5s**～**60s**

再生モード

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

❑ 入力ソース：“DOCK”

設定項目	設定内容
リピート リピート再生モードを設定します。 DOCK	**すべて**：すべての曲をリピート再生します。 **1 曲**：再生中の曲をリピート再生します。 **オフ**：リピート再生モードをキャンセルします。
シャッフル シャッフル再生モードを設定します。 DOCK	**曲**：曲をシャッフル再生します。 **アルバム**：アルバムをシャッフル再生します。 **オフ**：シャッフル再生モードをキャンセルします。

❑ 入力ソース：“NET/USB”

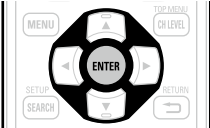
設定項目	設定内容
リピート リピート再生モードを設定します。 Media Server USB/iPod	**すべて**：再生中のフォルダの中の曲をリピート再生します。 **1 曲**：再生中の曲をリピート再生します。 **オフ**：リピート再生モードをキャンセルします。
ランダム ランダム再生モードを設定します。 Media Server USB/iPod	**オン**：ランダム再生モードを有効にします。 **オフ**：ランダム再生モードをキャンセルします。

オートプリセット

自動で FM 放送を選局し、プリセットします。

設定項目	設定内容
スタート FM 放送の選局をはじめます。 TUNER	“オートプリセット” でお好みの FM 放送を選局できない場合は、「手動でラジオ放送を選局しプリセットする（マニュアルプリセット）」（☞38 ページ）でお好みの放送を選局してください。

プリセットスキップ

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

選局するとき、表示させないプリセットチャンネルをあらかじめ設定します。

設定項目	設定内容
A～G 表示させないプリセットメモリーブロック（A ～ G）またはプリセットチャンネル（1 ～ 8）を設定します。 TUNER	**すべて**：選択したブロックの表示の設定をします。“スキップ” に設定すると、そのブロックに含まれているすべてのプリセットチャンネルを表示しません。 • **オン**：選択されたプリセットメモリーブロックの 1 から 8 のプリセットチャンネルをすべて “オン” に設定します。 • **スキップ**：選択されたプリセットメモリーブロックの 1 から 8 のプリセットチャンネルをすべて “スキップ” に設定します。 **1～8**：選択したチャンネルの表示の設定をします。 • **オン**：選択したチャンネルを表示します。 • **スキップ**：選択したチャンネルを表示しません。 1 から 8 のプリセットチャンネルを “スキップ” に設定すると、ブロック（A～G）ごとにスキップすることができます。

プリセットネーム

プリセットチャンネルの表示名を変更します。
プリセットした放送局名を入力して、表示させることができます。

設定項目	設定内容
A1～G8 選択したチャンネルの表示名を変更します。 TUNER	• 8 文字まで入力できます。 • 文字の入力方法については、88 ページをご覧ください。
初期化 変更されたプリセット名をお買い上げ時の設定に戻します。	**はい**：お買い上げ時の設定に戻します。 **いいえ**：お買い上げ時の設定に戻しません。 "初期化" を選んで **ENTER** を押すと、"設定を初期値に戻しますか？" というメッセージが表示されますので、"はい" または "いいえ" を選び、**ENTER** を押してください。

音声 / 映像の調整

サラウンド音声の音場効果や画質を調節できます。

メニューの操作のしかた

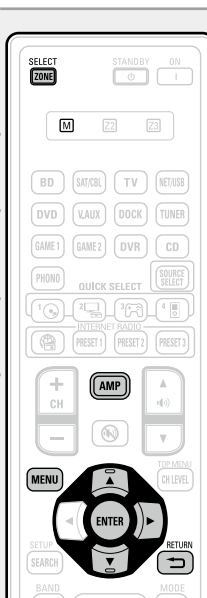
1 **ZONE SELECT を押して、ゾーン操作モードを M（メインゾーン）に切り替える。**
リモコンのゾーン操作モード表示の M が点灯します。

2 **AMP を押して、リモコンをアンプ操作モードにする。**

3 **MENU を押す。**
テレビ画面にメニューを表示します。

4 **△▽ を押して、設定または操作したいメニューを選ぶ。**

5 **ENTER または ▷ を押して、設定を確定する。**

- 前の項目に戻るときは、**RETURN** ⮌ を押してください。
- メニューを終了するときは、メニュー表示中に **MENU** を押してください。メニュー表示が消えます。

"音声 / 映像の調整"メニューでできること

音声調整（☞99 ページ）
- ❑ サラウンドパラメーター（☞99 ページ）
- ❑ トーンコントロール（☞101 ページ）
- ❑ Audyssey 設定（☞102 ページ）
- ❑ A-DSX Soundstage（☞103 ページ）
- ❑ マニュアル EQ（☞103 ページ）
- ❑ RESTORER（☞104 ページ）
- ❑ オーディオディレイ（☞104 ページ）

画質調整（☞104 ページ）

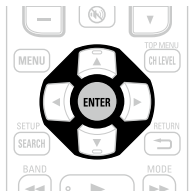
基本編
応用編
情報編

音声調整

❑サラウンドパラメーター

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

サラウンド音声の音場効果をお好みにあわせて調節できます。
調節できる項目（パラメーター）は、再生している信号や選択しているサラウンドモードによって異なります。
調節できる各項目については、「サラウンドモードとパラメーター一覧表」（☞136 ページ）をご覧ください。

ご注意

- 設定項目の中には再生停止中に設定できないものがあります。設定は再生中におこなってください。
- サラウンドモードが“PURE DIRECT”のとき、サラウンドパラメーターは設定できません。

設定項目	設定内容
モード 再生するソースに合わせてモードを選びます。	❑ **PLⅡx または PLⅡ モードのとき** **Cinema**：映画ソースに適したモードです。 **Music**：音楽ソースに適したモードです。 **Game**：ゲームに適したモードです。 **Pro Logic**：ドルビープロロジック再生モードです（PLⅡ モードのみ）。 ❑ **PLⅡz モードのとき** **Height**：ドルビー PLⅡz フロントハイトの再生モードです。 ❑ **DTS NEO:6 モードのとき** **Cinema**：映画ソースに適したモードです。 **Music**：音楽ソースに適したモードです。 • メニューの“サラウンドパラメーター”⇨“PLⅡz Height”の設定（☞100 ページ）が“オン”のときは、自動的に“Height”モードになります。 • “Music”モードは、ステレオ音楽成分を多く含む映画ソースにも効果的です。
シネマ EQ 映画のせりふの高域成分をやわらげ、聴きやすくします。	**オン**：“シネマ EQ”を使用します。 **オフ**：“シネマ EQ”を使用しません。
DRC ダイナミックレンジ（静かな音と大きな音のレベル差）を圧縮します。	**オート**：再生するソースによってダイナミックレンジの圧縮を自動でオン / オフします。Dolby TrueHD ソースのときに設定できます。 **弱** / **中** / **強**：ダイナミックレンジの圧縮量を設定します。 **オフ**：ダイナミックレンジを圧縮しません。
ダイナミックレンジ圧縮 ダイナミックレンジ（静かな音と大きな音のレベル差）を圧縮します。	**オフ**：ダイナミックレンジを圧縮しません。 **弱** / **中** / **強**：ダイナミックレンジの圧縮量を設定します。
LFE 低域信号（LFE）レベルを調節します。	**-10dB～0dB** 各ソースを正しく再生するために、次の値に設定することをおすすめします。 • Dolby Digital ソース：“0dB” • DTS の映画ソース：“0dB” • DTS の音楽ソース：“-10dB”
センターイメージ センターチャンネルの音声を左右に振り分け、前方の音場イメージを広げます。	**0.0～1.0（0.3）**
パノラマ フロント左右チャンネルの音場をサラウンドチャンネルまで拡大し、前方の音場イメージを広げます。	**オン**：設定します。 **オフ**：設定しません。
ディメンション 音場イメージの中心を前方または後方にシフトし、再生バランスを調節します。	**0～6（3）**
センター幅 センターチャンネルの音声を左右に振り分け、前方の音場イメージを広げます。	**0～7（3）**
ディレイタイム 遅延時間を調節し、音場イメージを広げます。	**0ms～300ms（30ms）**
エフェクトレベル エフェクトレベルを調節します。	**1～15（10）** サラウンド信号の定位感や位相感が不自然に感じる場合は、低いレベルに設定してください。

☞ 次のページへ

設定項目	設定内容
ルームサイズ 音場空間の大きさのイメージを設定します。	**小**：小さな音場空間のイメージ **やや小**：やや小さな音場空間のイメージ **標準**：標準的な音場空間のイメージ **やや大**：やや大きな音場空間のイメージ **大**：大きな音場空間のイメージ **ご注意** "ルームサイズ"は、再生する部屋の大きさを表すものではありません。
Height ゲイン フロントハイトチャンネルの音量をコントロールします。	**弱**：フロントハイトチャンネルの音量を小さくします。 **中**：フロントハイトチャンネルを標準音量で出力します。 **強**：フロントハイトチャンネルの音量を大きくします。 **ご注意** "Height ゲイン"は、次の設定のときに表示します。 • メニューの"スピーカー構成" ⇨"フロントハイト" の設定(☞107 ページ)が"無し"以外のとき • サラウンドモードが"PLIIz" または PLIIz のデコーダーを使用しているとき
PLIIz Height フロントハイトチャンネルを設定します。	**オン**：フロントハイトチャンネルを使用します。 **オフ**：フロントハイトチャンネルを使用しません。 **ご注意** • "PLIIz Height" は、メニューの"スピーカー構成" ⇨"フロントハイト" 設定(☞107 ページ)が"無し"以外のときに表示します。 • 再生する HD オーディオソースに、フロントハイトチャンネルが含まれている場合は、"PLIIz Height" を表示しません。このような場合は、PLIIz モードでデコードせずに、入力信号のままフロントハイトチャンネルを再生します。
AFDM **(オートフラグディテクトモード)** ソースのサラウンドバックチャンネル信号を検出して自動的に最適なサラウンドモードを設定します。	**オン**：設定します。 **オフ**：設定しません。 **【例】Dolby Digital ソフト(EX フラグ (識別信号) あり)の再生** • "AFDM" を"オン" に設定すると、サラウンドモードは自動的に"DOLBY D+PLIIx CINEMA" モードになります。 • Dolby Digital EX モードで再生する場合は、"AFDM"を"オフ"、メニューの"サラウンドパラメーター" ⇨"サラウンドバック" を"MTRX ON" に設定してください。 ✎ Dolby Digital EX ソースには、EX フラグ (識別信号) が含まれていないものがあります。"AFDM" を"オン" に設定していても、再生モードが自動的に切り替わらない場合は、メニューの"サラウンドパラメーター" ⇨"サラウンドバック" を"MTRX ON" または"PLIIx CINEMA" に設定してください。
サラウンドバック サラウンドバックチャンネルの生成方法 (デコード方法) を設定します。	❏ **2 チャンネルソースのとき** **オン**：サラウンドバックチャンネルを使用します。 **オフ**：サラウンドバックチャンネルを使用しません。 ❏ **マルチチャンネルソースのとき** サラウンドバックチャンネルのデコード方法を設定します。 **オン** *1：DTS-HD の 5.1 チャンネルソースを、DTS が推奨する 7.1 チャンネル出力に変換して再生します。 **MTRX ON**：サラウンドチャンネル信号から Dolby Digital EX デコーダーを使用し、サラウンドバックチャンネル信号を生成して再生します。 **ES MTRX** *2：DTS ソースのサラウンドチャンネル信号から DTS-ES デコーダーを使用し、サラウンドバックチャンネル信号を生成して再生します。 **PLIIx CINEMA** *3：Dolby Pro Logic IIx Cinema モードでデコードし、サラウンドバック信号を生成して再生します。 **PLIIx MUSIC**：Dolby Pro Logic IIx Music モードでデコードし、サラウンドバック信号を生成して再生します。 **オフ**：サラウンドバックチャンネルを再生しません。 *1 DTS-HD の 5.1 チャンネルソースを再生中に選べます。 *2 DTS ソースを再生中に選べます。 *3 メニューの"スピーカー構成" ⇨"S. バック" の設定(☞106 ページ)が"2 台"のときに選べます。 ✎ 再生中のソースにサラウンドバック信号が含まれている場合は、AFDM 機能によりデコーダーの種類を自動的に選択します。お好みのデコードに切り替えるには、メニューの"AFDM" を"オフ" に設定してください。 **ご注意** メニューの"スピーカー構成" ⇨"S. バック" 設定(☞106 ページ) が"無し"のとき、"サラウンドバック"は表示しません。

☞ 次のページへ

設定項目	設定内容
スピーカー DENON オリジナルサラウンドモードの再生時に、音声を出力するスピーカーを設定します。	**サラウンドバック**：サラウンドバックスピーカーから音声を出力します。 **ハイト**：フロントハイトスピーカーから音声を出力します。 **ワイド**：フロントワイドスピーカーから音声を出力します。 **オフ**：サラウンドバックスピーカー、フロントハイトスピーカーおよびフロントワイドスピーカーから音声を出力しません。 ご注意 メニューの"スピーカー構成"（☞106 ページ）で"無し"以外に設定しているスピーカーのみ選択できます。
サブウーハー サブウーハー出力のオン / オフを設定します。	**オン**：出力します。 **オフ**：出力しません。 ご注意 サラウンドモードが"DIRECT"モード（☞53 ページ）で、メニューの"SW モード"設定（☞107 ページ）が"LFE+ メイン"のときに設定できます。
初期化 "サラウンドパラメーター"で設定された内容をお買い上げ時の設定に戻します。	**はい**：お買い上げ時の設定に戻します。 **いいえ**：お買い上げ時の設定に戻しません。 "初期化"を選んで **ENTER** を押すと、"設定を初期値に戻しますか？"というメッセージが表示されますので、"はい"または"いいえ"を選び、**ENTER** を押してください。

❑トーンコントロール

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

トーンを調節します。

設定項目	設定内容
トーンコントロール トーンコントロール機能のオン / オフを設定します。	**オン**：低音や高音のトーンを調節できます。 **オフ**：トーンを調節せずに再生します。 メニューの"Dynamic EQ®"（☞102 ページ）設定が"オフ"のときに設定できます。 ご注意 • "トーンコントロール"の設定は、ゾーン 2 およびゾーン 3 には反映しません。 • サラウンドモードが"DIRECT"モードのとき、トーンの調節はできません。
低音 低音を調節します。	**-6dB～+6dB** メニューの"トーンコントロール"の設定が"オン"のときに設定できます。
高音 高音を調節します。	**-6dB～+6dB** メニューの"トーンコントロール"の設定が"オン"のときに設定できます。

❏Audyssey 設定

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

Audyssey MultEQ® XT、Audyssey Dynamic EQ® および Audyssey Dynamic Volume® の設定をします。
これらの設定は、Audyssey® Auto Setup をおこなったあとに設定できます。
Audyssey 技術に関する詳細な情報については、145 ページをご覧ください。

ご注意

- Audyssey® Auto Setup をおこなっていない場合、または Audyssey® Auto Setup をおこなったあとにスピーカーの設定を変えると、Dynamic EQ®/Dynamic Volume® を選択できず、"Audyssey® Auto Setup を実行してください"を表示します。
このような場合は、再度 Audyssey® Auto Setup をおこなうか、"再設定"（☞30 ページ）をおこなって Audyssey® Auto Setup 実行後の設定に戻してください。
- サンプリング周波数が 96kHz を越える HD オーディオを再生している場合、"Audyssey 設定"は設定できません。

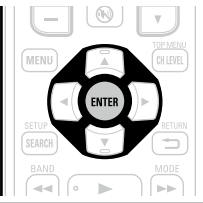
設定項目	設定内容
MultEQ® XT MultEQ® XT は、Audyssey® Auto Setup の測定結果に基づき、リスニング環境における時間特性と周波数特性の両方を補正します。 3 種類の補正カーブから選択します。"Audyssey"に設定することをおすすめします。 MultEQ® XT の設定は、Dynamic EQ® や Dynamic Volume® を動作させるために必要です。	**<u>Audyssey</u>**：すべてのスピーカーの周波数特性を最適に補正します。 **Audyssey Byp.L/R**：フロントスピーカー以外のスピーカーの周波数特性を最適に補正します。 **Audyssey Flat**：すべてのスピーカーの周波数特性が均一になるように補正します。 **マニュアル**：メニューの"マニュアル EQ"（☞103 ページ）で調節された周波数特性を適用します。 **オフ**："MultEQ® XT"を使用しません。 • Audyssey® Auto Setup をおこなうと、"Audyssey"、"Audyssey Byp. L/R"および"Audyssey Flat"が選択できます。 • Audyssey® Auto Setup 後は自動的に"Audyssey"になります。 • "Audyssey"、"Audyssey Byp. L/R"または"Audyssey Flat"が選ばれたときは、ディスプレイの 表示が点灯します。 • Audyssey® Auto Setup をおこなったあと、測定したスピーカーの本数を増やさずに、スピーカーの構成、距離、チャンネルレベルおよびクロスオーバー周波数などの設定を変更した場合は、ディスプレイの AUDYSSEY MULTEQ XT 表示が点灯します。 **ご注意** • メニューの"EQ カスタマイズ"（☞111 ページ）で、"使用しない"に設定したイコライザーは選択できません。 • ヘッドホン使用時、"MultEQ® XT"の設定は自動的に"オフ"になります。

"MultEQ® XT"、"Dynamic EQ®"および"Dynamic Volume®"の設定は、入力ソースごとに記憶します。

設定項目	設定内容
Dynamic EQ® 人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、音量レベルを下げた際に発生する音質の低下を防ぎます。 Dynamic EQ® は MultEQ® XT と連動して動作します。	**<u>オン</u>**："Dynamic EQ®"を使用します。 **オフ**："Dynamic EQ®"を使用しません。 "オン"に設定すると、ディスプレイの AUDYSSEY MULTEQ XT DYN EQ または AUDYSSEY MULTEQ XT DYN VOL 表示が点灯します。 **ご注意** メニューの"Dynamic EQ®"の設定が"オン"のときは、"トーンコントロール"（☞101 ページ）の調節はできません。
リファレンスオフセット Audyssey Dynamic EQ® は、一般的なフィルム（映画など）のミキシングレベルをリファレンスとしています。音量レベルが 0dB から下げられた際にミキシング特性・サラウンド効果を常にコンテンツが作成された本来の特性に自動的に維持します。しかし、フィルムのリファレンスはミュージックやテレビ番組などフィルム以外のコンテンツの作成には使用されていない場合もあります。Dynamic EQ は、フィルム作成時に使用される標準のリファレンスレベルを使用せずに作成されたコンテンツに対してオフセットレベルの設定（5dB/10dB/15dB）が可能です。右記が推奨の設定レベルになります。	**<u>0dB</u>**（フィルムリファレンス）：お買い上げ時の設定です。映画などのコンテンツに最適です。 **5dB**：クラッシック音楽のような非常に広いダイナミックレンジを持ったコンテンツに適しています。 **10dB**：ジャズなどの広めのダイナミックレンジを持ったミュージックコンテンツやテレビ番組に適しています。 **15dB**：ポップやロックなどの非常に高い音量レベルのコンテンツや、圧縮されたダイナミックレンジを持つコンテンツに適しています。 メニューの"Dynamic EQ®"設定（☞102 ページ）が"オン"のときに設定できます。
Dynamic Volume® テレビや映画などで再生するコンテンツ内における音量レベルの変化（静かな音のシーンと大きな音のシーンの間など）をお好みの音量設定値に自動的に調節します。	**Midnight**：音量レベルを最大に設定します。すべての音を一定の大きさにします。 **Evening**：音量レベルを中間に設定します。平均的な音より大きな音と小さな音を調節します。 **Day**：音量レベルを最小に設定します。非常に大きな音と非常に小さな音を調節します。 **<u>オフ</u>**："Dynamic Volume®"を使用しません。 • "Dynamic Volume®"を"Midnight"、"Evening"または"Day"に設定すると、ディスプレイの AUDYSSEY MULTEQ XT DYN VOL 表示が点灯します。 • Audyssey® Auto Setup（☞24 ページ）で"Dynamic Volume®"を"はい"に設定した場合は、自動的に"Evening"になります。

❑A-DSX Soundstage

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

Audyssey DSX™ の設定とサウンドステージのパラメーターを調節します。

設定項目	設定内容
Audyssey DSX™ 新たなチャンネルを追加し、包み込むようなサラウンドサウンドを提供します。	**オン - ハイト -**：フロントハイトチャンネルを生成する Audyssey DSX™ を設定します。 **オン - ワイド -**：フロントワイドチャンネルを生成する Audyssey DSX™ を設定します。 **オフ**：Audyssey DSX™ を設定しません。
ステージハイト フロントハイトスピーカー使用時サウンドステージの高さを調節します。	**-10～+10（0）** • “Audyssey DSX™” は、フロントハイトスピーカーまたはフロントワイドスピーカーをご使用のときに設定できます。 • “Audyssey DSX™” は、センタースピーカーを使用しているときに有効です。 • “Audyssey DSX™” はサラウンドモードが PLIIz Height 以外のスタンダードモードのときに有効です。 • 再生する HD オーディオソースに、フロントハイトチャンネルやフロントワイドチャンネルが含まれている場合は、“A-DSX Soundstage” は使用できません。この場合、入力信号のままそれぞれのチャンネルを再生します。 **Audyssey Dynamic Surround Expansion (A-DSX)について** Audyssey DSX™ は、既存の 5.1ch システムに新しいチャンネルを加えることによりサラウンド効果・印象を高め、より大きなサラウンド空間を実現する新しいサラウンド拡張技術です。人間の聴覚特性の研究で、サラウンド効果を高める要素として大きく 2 つのポイントがあげられます。最も重要なポイントは臨場感のあるサラウンド空間の構成にはフロント（前方向）部分に横の広がり（ワイドチャンネル）を作ることです。次に重要なポイントとしてはサラウンド空間に奥行き感を作る為には認知（聴くことが）出来る音響信号でフロント（前方向）部分に高さの広がり（ハイトチャンネル）を作ることとされています Audyssey DSX™ はこの 2 つの重要な要素からワイドチャンネル（Wide channel）、ハイトチャンネル（Height channel）それぞれペアで作り出します。また Audyssey DSX™ は単純にチャンネルを追加するだけではなく、既存のフロントやサラウンド、サラウンドバックとの組み合わせることで更に効果を高める”Surround Envelopment Processing（サラウンド・エンベロープメント・プロセッシング）” という技術を開発し Audyssey DSX™ の中に取り入れています。
ステージウィドス フロントワイドスピーカー使用時にサウンドステージの広がりを調節します。	**-10～+10（0）**

❑マニュアル EQ

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

グラフィックイコライザーを使用して、各スピーカーの音色を調節します。
“マニュアル EQ” は、“MultEQ® XT” の設定（☞102 ページ）が“マニュアル” のときに設定できます。

設定項目	設定内容
カーブコピー MultEQ® XT の“Audyssey Flat” の補正カーブをコピーします。	**はい** **いいえ** • “カーブコピー” は、Audyssey® Auto Setup をおこなったあとに表示します。 • “カーブコピー” を選んで **ENTER** を押すと、“MultEQ XT の“Audyssey Flat” の補正カーブをコピーしますか？” というメッセージが表示されますので、“はい” または“いいえ” を選び、**ENTER** を押してください。
初期化 “マニュアル EQ” で設定した内容をお買い上げ時の設定に戻します。	**はい**：お買い上げ時の設定に戻します。 **いいえ**：お買い上げ時の設定に戻しません。 “初期化” を選んで **ENTER** を押すと、“設定を初期値に戻しますか？” というメッセージが表示されますので、“はい” または“いいえ” を選び、**ENTER** を押してください。
調節チャンネル 各スピーカーの音色を調節します。	① スピーカーの音色の調節方法を選択する。 **すべて**：すべてのスピーカーの音色を一緒に調節します。 **左右**：左右のスピーカーの音色を一緒に調節します。 **各スピーカー**：スピーカーごとに音色を調節します。 ② スピーカーを選択する。 ③ 調節する周波数帯を選択する。 **63Hz/125Hz/250Hz/500Hz/1kHz/2kHz/4kHz/8kHz/16kHz** • “左右” や“各スピーカー” を選んだときは、調節するスピーカーを選んでください。 ④ レベルを調節する。 **-20.0dB～+6.0dB（0.0dB）**

❏RESTORER

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

MP3、WMA（Windows Media Audio）や MPEG-4 AAC などの圧縮オーディオフォーマットは、人間の耳には聞こえにくい部分の信号を省いてデータ量を減らしています。RESTORER は、圧縮処理をするときに省かれた信号を生成し、圧縮する前の音に近い状態に復元する機能です。同時に低音域の量感の補正もおこないますので、圧縮オーディオ信号をより豊かに再生することができます。

設定内容
オフ：RESTORER を使用しません。 **Mode 1**（RESTORER 64）：高域が極端に少ない圧縮音声ソースに対して、最適なモードです。 **Mode 2**（RESTORER 96）：圧縮音声全般に対して、低域と高域を適切に補正します。 **Mode 3**（RESTORER HQ）：高域が十分にある圧縮音声ソースに対して、最適なモードです。

- アナログ入力や PCM 信号（fs = 44.1/48kHz）が入力されたときに設定できます。
- “RESTORER”の設定は、各入力ソースごとに記憶します。
- 入力ソース“iPod”および“NET/USB”のお買い上げ時の設定は、“Mode 3”です。その他のお買い上げ時の設定は、すべて“オフ”です。
- “オフ”以外に設定すると、ディスプレイの RSTR 表示が点灯します。
- サラウンドモードが“DIRECT”および“PURE DIRECT”モードのときは設定できません。

❏オーディオディレイ

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

映像を見ながら、音声の出力を遅らせる時間を調節します。

設定内容
0ms～200ms

- メニューの“オートリップシンク”の設定（☞109 ページ）が“オン”のとき、およびオートリップシンク対応のテレビを接続しているときは、0 ～ 100ms の範囲で設定できます。
- “オーディオディレイ”の設定は、入力ソースごとに記憶します。
- メニューの“ビデオモード”（☞93 ページ）が“オート”または“ゲーム”モードのときは、ゲームモード用のオーディオディレイ値を設定することができます。

画質調整

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

画質を調整できます。

- 入力ソースが BD DVD TV SAT/CBL DVR GAME1 GAME2 V.AUX DOCK NET/USB のときに設定できます。
- 上記以外の入力ソースでは、メニューの“ビデオセレクト”を選択しているときに設定できます。この場合、元の入力ソースの設定が呼び出されます。
- メニューの“ビデオコンバート”の設定（☞94 ページ）が“オン”のときに設定できます。
- “TV”、“GAME1”および“GAME2”は、メニューの“入力端子の割り当て”で“HDMI”（☞92 ページ）または“COMP”（☞93 ページ）を割り当てているときに設定できます。

設定項目	設定内容
コントラスト 映像の明暗の差を調節します。	-6～+6（0）
ブライトネス 映像の明るさを調節します。	0～+12
クロマレベル 色の濃さを調節します。	-6～+6（0）
色合い 緑色と赤色のバランスを調節します。	-6～+6（0）
DNR 映像全体のノイズを軽減します。	オフ / 弱 / 中 / 強
エンハンサー 映像の輪郭を強調します。	0～+12

- “DNR”および“エンハンサー”は、HDMI 出力に効果があります。
- “画質調整”で設定した値は、入力ソースごとに記憶します。

システム設定

GUI

Audyssey® Auto Setup の設定内容を変更する場合や、音声、映像、表示などの設定を変更するときに設定します。

- Audyssey® Auto Setup をおこなったあとにスピーカーの設定を変えると、MultEQ® XT、Dynamic EQ® および Dynamic Volume® の選択ができなくなります（☞102 ページ）。
- 設定を変更しなくてもお使いいただけます。必要に応じて設定してください。

メニューの操作のしかた

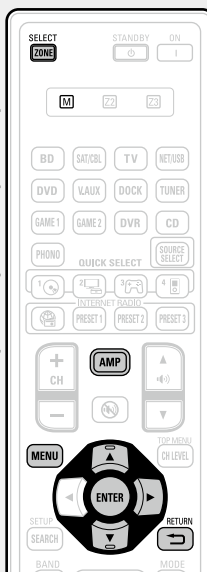
1 **ZONE SELECT を押して、ゾーン操作モードを M（メインゾーン）に切り替える。**
リモコンのゾーン操作モード表示の M が点灯します。

2 **AMP を押して、リモコンをアンプ操作モードにする。**

3 **MENU を押す。**
テレビ画面にメニューを表示します。

4 **△▽ を押して、設定または操作したいメニューを選ぶ。**

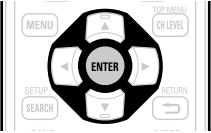
5 **ENTER または ▷ を押して、設定を確定する。**

- 前の項目に戻るときは、**RETURN** ⮌ を押してください。
- メニューを終了するときは、メニュー表示中に **MENU** を押してください。メニュー表示が消えます。

“システム設定”メニューでできること

スピーカーの設定

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

スピーカーを手動で設定する場合や Audyssey® Auto Setup で測定した内容を変更するときにおこなってください。

- Audyssey® Auto Setup をおこなったあとにスピーカーの設定を変えると、MultEQ® XT、Dynamic EQ® および Dynamic Volume® の選択ができなくなります（☞102 ページ）。
- システム設定を変更しなくてもお使いいただけます。必要に応じて設定してください。

設定項目	設定内容
アンプの割り当て ご使用のスピーカーシステムに合わせて、パワーアンプの使用方法を選びます。	**NORMAL**：サラウンドバック、フロントハイトおよびフロントワイドスピーカーを使用して、7.1 チャンネルで再生するときに設定します。 **ZONE2**：本機内部のパワーアンプをゾーン 2 用に割り当て、ステレオ音声で出力するときに設定します。 **ZONE3**：本機内部のパワーアンプをゾーン 3 用に割り当て、ステレオ音声で出力するときに設定します。 **Z2/Z3(M)**：本機内部のパワーアンプをゾーン 2 用とゾーン 3 用に割り当て、モノラル音声で出力するときに設定します。 **Bi-AMP**：フロントスピーカーをバイアンプ接続で使用するときに設定します。 **2CH**：2 チャンネルの DIRECT/STEREO モードで再生時、別のフロントスピーカーを使用して再生するときに設定します。 **Front B**：2 台目のフロントスピーカーを使用して再生するときに設定します。2 チャンネル再生またはマルチチャンネル再生モードによって、使用するフロントスピーカー A と B を切り替えて再生することができます。この設定を選んだ場合、メニューの“フロントスピーカーの設定”（☞108 ページ）もおこなってください。
スピーカー構成 スピーカーのあり・なしや低音域再生能力によるスピーカーの大きさの分類を選びます。 **ご注意** “大”と“小”の選択は、スピーカーの外形で判断せずに、メニューの“クロスオーバー周波数”（☞108 ページ）で設定した周波数を基準とした低域再生能力で判断してください。	**フロント**：フロントスピーカーの大きさを設定します。 • **大**：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • **小**：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 • “サブウーハー”の設定が“無し”の場合、“フロント”の設定は自動的に“大”になります。 • “フロント”の設定が“小”の場合、“センター”、“サラウンド”、“S. バック”、“フロントハイト”および“フロントワイド”を“大”に設定することはできません。
	センター：センタースピーカーの有無や大きさを設定します。 • **大**：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • **小**：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 • **無し**：センタースピーカーを使用しません。 “フロント”の設定が“小”の場合、“大”は表示しません。
スピーカー構成 （つづき）	**サブウーハー**：サブウーハーの有無を設定します。 • **有り**：サブウーハーを使用します。 • **無し**：サブウーハーを使用しません。 “フロント”の設定が“小”の場合、“サブウーハー”の設定は自動的に“有り”になります。
	サラウンド：サラウンドスピーカーの有無や大きさを設定します。 • **大**：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • **小**：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 • **無し**：サラウンドスピーカーを使用しません。 • “サラウンド”の設定が“大”のとき、“S. バック”、“フロントハイト”および“フロントワイド”を“大”に設定できます。 • “サラウンド”の設定が“無し”のとき、“S. バック”、“フロントハイト”および“フロントワイド”の設定は自動的に“無し”になります。
	S. バック：サラウンドバックスピーカーの有無や大きさ、本数を設定します。 • **大**：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • **小**：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 • **無し**：サラウンドバックスピーカーを使用しません。 • **2 台**：サラウンドバックスピーカーを 2 本使用します。 • **1 台**：サラウンドバックスピーカーを 1 本のみ使用します。この設定を選んだときは、サラウンドバックスピーカーを左（L）チャンネルに接続してください。 “S. バック”を“無し”以外に設定しても、再生するソースによっては、サラウンドバックスピーカーから音声が出力されない場合があります。このような場合は、メニューの“サラウンドパラメーター”⇨“サラウンドバック”（☞100 ページ）を“オフ”以外に設定してください。 **ご注意** “S. バック”は、メニューの“アンプの割り当て”設定（☞106 ページ）が“NORMAL”のときに設定できます。

☞ 次のページへ

設定項目	設定内容
スピーカー構成 （つづき）	**フロントハイト**：フロントハイトスピーカーの有無や大きさを設定します。 • **大**：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • **小**：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 • **無し**：フロントハイトスピーカーを使用しません。 ご注意 "フロントハイト" は、メニューの"アンプの割り当て" 設定（☞106 ページ）が"NORMAL"のときに設定できます。
	フロントワイド：フロントワイドスピーカーの有無や大きさを設定します。 • **大**：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • **小**：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 • **無し**：フロントワイドスピーカーを使用しません。 ご注意 "フロントワイド" は、メニューの"アンプの割り当て" 設定（☞106 ページ）が"NORMAL"のときに設定できます。
低音域の設定 サブウーハーや LFE 信号の低音域再生に関する設定をします。	**SW モード**：サブウーハーで再生する低音域信号を設定します。 • **LFE**：サブウーハー用の信号に、スピーカーの大きさを"小" に設定しているチャンネルの低音域信号を加えて出力します。 • **LFE+ メイン**：サブウーハー用の信号に、すべてのチャンネルの低音域信号を加えて出力します。 • "SW モード" は、メニューの"スピーカー構成" ⇨"サブウーハー" 設定（☞106 ページ）が"有り"のときに設定できます。 • 音楽ソースや映画ソースを再生して、量感のある低音域が得られるモードを選んでください。 • 常にサブウーハーから低音域を出力したい場合は、"LFE+ メイン"に設定してください。 ご注意 メニューの"スピーカー構成"⇨"フロント"、"センター"設定が"大"で、なおかつ"SW モード" の設定が"LFE" の場合は、入力信号やサラウンドモードによってサブウーハーから音声が出力されない場合があります。
	LFE 用ローパスフィルター：LFE 信号の再生帯域を設定します。サブウーハーでの再生周波数を変更する場合に設定します。 • **80Hz**/**90Hz**/**100Hz**/**110Hz**/**120Hz**/**150Hz**/**200Hz**/**250Hz**

設定項目	設定内容
距離 リスニングポイントからスピーカーまでの距離を設定します。 あらかじめリスニングポイントから各スピーカーまでの距離を測定しておいてください。	**単位**：距離の単位を設定します。 • **メートル** / **フィート**
	ステップ：距離の最小可変幅を設定します。 • **0.1m**/**0.01m** • **1ft**/**0.1ft**
	初期化："距離" で設定した内容をお買い上げ時の設定に戻します。 • **はい**：お買い上げ時の設定に戻します。 • **いいえ**：お買い上げ時の設定に戻しません。 "初期化" を選んで **ENTER** を押すと、"設定を初期値に戻しますか？" というメッセージが表示されますので、"はい" または"いいえ" を選び、**ENTER** を押してください。
	フロント左 / **フロント右** / **センター** / **サブウーハー** / **サラウンド左** / **サラウンド右** /**S. バック左** */**S. バック右** */**F. ハイト左** /**F. ハイト右** / **F. ワイド左** /**F. ワイド右**：距離を設定するスピーカーを選びます。 ＊ メニューの"スピーカー構成" ⇨"S. バック" 設定（☞106 ページ）が"1 台"のときは、"S. バック"を表示します。 • **0.00m ～ 18.00m** / **0.0ft ～ 60.0ft**：距離を設定します。 • メニューの"アンプの割り当て"（☞106 ページ）および"スピーカー構成"（☞106 ページ）の設定により、選択できるスピーカーが異なります。 • お買い上げ時の設定： フロント左 / フロント右 / センター / サブウーハー /F. ハイト左 / F. ハイト右 /F. ワイド左 /F. ワイド右：3.6 メートル（12.0 フィート） サラウンド左 / サラウンド右 /S. バック左 /S. バック右：3.00 メートル（10.0 フィート） • 各スピーカーに設定した距離の差は、6.00 メートル（20.0 フィート）以下になるように設定してください。 ご注意 メニューの"スピーカー構成"（☞106 ページ）で、"無し" に設定したスピーカーは表示しません。

☞ 次のページへ

基本編
応用編
情報編

設定項目	設定内容
チャンネルレベル 各スピーカーから出力されるテストトーンの音量が同じになるように設定します。	**テストトーン開始**：テストトーンを出力します。 • **フロント左 /F. ハイト左 / センター /F. ハイト右 / フロント右 /F. ワイド右 / サラウンド右 /S. バック右 */S. バック左 */ サラウンド左 /F. ワイド左 / サブウーハー**：テストトーンを出力するスピーカーを選びます。 ＊ メニューの“スピーカー構成” ⇨“S. バック” 設定（106 ページ）が“1 台”のときは、“S. バック”を表示します。 • **-12.0dB～+12.0dB（0.0dB）**：音量を調節します。 “チャンネルレベル” を調節すると、調節した値をすべてのサラウンドモードに対して設定します。サラウンドモードごとにチャンネルレベルを調節したい場合は、73 ページをご覧ください。 **ご注意** • メニューの“スピーカー構成” 設定（106 ページ）で、“無し” に設定したスピーカーは表示しません。 • 本体の PHONES 端子にヘッドホンを挿入している場合は、“チャンネルレベル”を表示しません。
	初期化：“チャンネルレベル” で設定した内容をお買い上げ時の設定に戻します。 • **はい**：お買い上げ時の設定に戻します。 • **いいえ**：お買い上げ時の設定に戻しません。 “初期化” を選んで **ENTER** を押すと、“設定を初期値に戻しますか？” というメッセージが表示されますので、“はい” または“いいえ” を選び、**ENTER** を押してください。

設定項目	設定内容
クロスオーバー周波数 各チャンネルからサブウーハーに出力する低音域信号の上限の周波数を設定します。クロスオーバー周波数は、スピーカーの低音域の再生能力に合わせて設定してください。	**40Hz/60Hz/80Hz/90Hz/100Hz/110Hz/120Hz/150Hz/200Hz/250Hz**：すべてのスピーカーのクロスオーバー周波数を設定します。スピーカーのクロスオーバー周波数については、スピーカーの取扱説明書をご覧ください。 **スピーカー別**：スピーカーごとにクロスオーバー周波数を設定します。 • **フロント / センター / サラウンド /S. バック / フロントハイト / フロントワイド**：クロスオーバー周波数を設定するスピーカーを選びます。 • **40Hz/60Hz/80Hz/90Hz/100Hz/110Hz/120Hz/150Hz/200Hz/250Hz**：クロスオーバー周波数を設定します。 • “クロスオーバー周波数” は、メニューの“低音域の設定” ⇨“SW モード” 設定（107 ページ）が“LFE+ メイン” のとき、または“小” に設定しているスピーカーがあるときに設定できます。 • クロスオーバー周波数は、通常“80Hz”に設定してください。ただし、小型スピーカーをご使用になる場合は、より高い周波数に設定することをおすすめします。 • “小” に設定しているスピーカーからは、クロスオーバー周波数以下の音声をカットして出力します。カットした低音域は、サブウーハーまたはフロントスピーカーから出力します。 • メニューの“SW モード”（107 ページ）の設定により、“スピーカー別”で設定できるスピーカーが異なります。 • “LFE” の場合は、“スピーカー構成” で“小” に設定しているスピーカーの設定ができます。“大” に設定しているスピーカーのときは、“フルバンド”が表示され、設定できません。 • “LFE+ メイン” の場合は、スピーカーの大きさに関係なく設定ができます。
フロントスピーカーの設定 再生モードごとに使用するフロントスピーカーを設定します。 **ご注意** メニューの“アンプの割り当て”設定（106 ページ）が“Front B”のときに設定できます。	**2CH DIRECT/STEREO**：ダイレクト再生（2 チャンネル）、ステレオ再生およびピュアダイレクト再生（2 チャンネル）時に使用するフロントスピーカーをあらかじめ設定します。 • **A**：フロントスピーカー A を使用します。 • **B**：フロントスピーカー B を使用します。 • **A+B**：フロントスピーカー A と B の両方を使用します。
	MULTI CH：ダイレクト再生（2 チャンネル）、ステレオ再生およびピュアダイレクト再生（2 チャンネル）以外の再生モード時に使用するフロントスピーカーをあらかじめ設定します。 • **A**：フロントスピーカー A を使用します。 • **B**：フロントスピーカー B を使用します。 • **A+B**：フロントスピーカー A と B の両方を使用します。

HDMI 設定

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

HDMI の映像出力や音声出力に関する設定をします。

設定項目	設定内容
オートリップシンク 出力する音声と映像の時間のずれを自動的に補正します。	**オン**：補正します。 **オフ**：補正しません。
HDMI 音声出力 HDMI の音声の出力先を設定します。	**アンプ**：本機に接続したスピーカーで再生します。 **TV**：本機に接続したテレビで再生します。 • HDMI 音声出力を "TV" に設定することで、HDMI 入力端子からの音声信号を HDMI 出力端子に出力することができます。 アナログ入力端子やデジタル入力端子（OPTICAL）から入力される音声信号を、HDMI 出力端子に出力することはできません。 • HDMI コントロール機能がはたらいているときは、本機に接続したテレビの音声設定を優先します（71 ページ「HDMI コントロール機能」）。
モニター出力 HDMI のモニター出力を設定します。	**オート（デュアル）**：MONITOR 1 または MONITOR 2 端子に接続されたテレビを自動的に認識して使用します。 **モニター 1**：MONITOR 1 端子に接続されたテレビを常に使用します。HDMI MONITOR 2 端子に接続されたテレビからは映像を出力しません。 **モニター 2**：MONITOR 2 端子に接続されたテレビを常に使用します。HDMI MONITOR 1 端子に接続されたテレビからは映像を出力しません。 • モニター 1 およびモニター 2 端子にテレビを接続した場合、"解像度" の設定（94 ページ）が "オート" のときは、両方のテレビが対応している解像度で出力します。 • メニューの "解像度" 設定（94 ページ）が "オート" 以外のときは、"HDMI 情報" ⇨ "モニター 1" および "モニター 2"（121 ページ）で、ご使用のテレビが対応している解像度を確認してください。 **ご注意** 接続しているモニターによっては、"オート（デュアル）" に設定すると正しく表示されない場合があります。このようなときは、"モニター 1" または "モニター 2" を選んでください。

設定項目	設定内容
HDMI コントロール HDMI 接続した HDMI コントロール対応機器と連動して操作できます。	**コントロール**：HDMI コントロール機能の設定をします。 • **オン**：HDMI コントロール機能を使用します。 • **オフ**：HDMI コントロール機能を使用しません。 • HDMI コントロール機能に対応していない機器と接続した場合は、"HDMI コントロール" ⇨ "コントロール" を "オフ" に設定してください。 • 接続した機器の設定方法は、各機器の取扱説明書をご覧ください。 • HDMI コントロール機能については、「HDMI コントロール機能」（71 ページ）をご覧ください。 **ご注意** • **"HDMI コントロール" ⇨ "コントロール" を "オン" に設定している場合は、スタンバイ時の待機電力を多く消費します。** 長期間本機を使用しない場合は、電源コードをコンセントから抜くことをおすすめします。 • HDMI コントロール機能は、HDMI コントロール機能対応のテレビが動作の制御をおこないます。HDMI コントロール機能を使用するときは、必ずテレビを接続してください。 • "HDMI コントロール" ⇨ "コントロール" の設定を変更した場合は、変更後必ず接続機器の電源を切り、電源を入れ直してください。
	スタンバイ時の HDMI 入力：電源がスタンバイのときに、HDMI 信号を入力する HDMI 端子を設定します。 • **最後のソース**：前回使用していた入力ソースのままスタンバイします。 • **HDMI1 / HDMI2 / HDMI3 / HDMI4 / HDMI5 / HDMI6 / HDMI7**：それぞれの入力端子に割り当てた入力ソースでスタンバイします。 "スタンバイ時の HDMI 入力" は、メニューの "HDMI コントロール" ⇨ "コントロール" 設定（109 ページ）が "オン" のときに設定できます。

次のページへ

設定項目	設定内容
HDMI コントロール（つづき）	**コントロールモニター**：HDMI コントロールで連動するテレビと接続する端子を設定します。 • **モニター 1**：MONITOR 1 端子に接続したテレビと連動します。 • **モニター 2**：MONITOR 2 端子に接続したテレビと連動します。 • "コントロールモニター"は、メニューの"HDMI コントロール"⇨"コントロール"設定（☞109 ページ）が"オン"のときに設定できます。 • ARC 機能は、"コントロールモニター"で設定された端子のみ対応します。
	パワーオフコントロール：本機と外部機器の電源オフを連動します。 • **すべて**：本機の入力ソースに関わらず、テレビの電源をオフにすると、自動的に本機の電源がスタンバイになります。 • **ビデオ**：本機の入力ソースが BD/DVD/TV/SAT/CBL/DVR/GAME1/GAME2/V.AUX/DOCK のときに、テレビの電源をオフにすると、自動的に本機の電源がスタンバイになります。 • **オフ**：本機はテレビの電源に連動しません。 "パワーオフコントロール"は、メニューの"HDMI コントロール"⇨"コントロール"設定（☞109 ページ）が"オン"のときに設定できます。

音声の設定

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

音声の再生に関する設定をします。

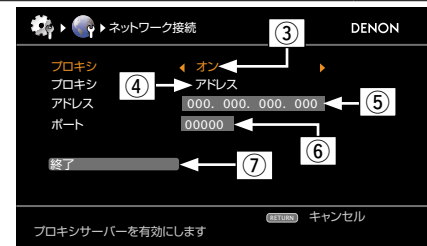
設定項目	設定内容
2ch ダイレクト / ステレオ 2 チャンネルのダイレクト再生およびステレオ再生時に使用するスピーカーの設定をします。	**設定**：2 チャンネルのダイレクト再生またはステレオ再生時に使用するスピーカーの設定方法を選びます。 • **基本**："スピーカーの設定"（☞106 ページ）の設定内容を適用します。 • **変更**：2 チャンネル用の設定をします。この設定を選択した場合は、次の設定をおこなってください。
	フロント：フロントスピーカーの大きさを設定します。 • **大**：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • **小**：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 メニューの"スピーカー構成"⇨"サブウーハー"設定（☞106 ページ）が"無し"のときは、自動的に"大"になります。
	サブウーハー：サブウーハーの有無を設定します。 • **有り**：サブウーハーを使用します。 • **無し**：サブウーハーを使用しません。 メニューの"スピーカー構成"⇨"サブウーハー"設定（☞106 ページ）が"無し"のときは、自動的に"無し"になります。また、"フロント"の設定が"小"のときは、自動的に"有り"になります。
	SW モード：サブウーハーで再生する低音域信号を設定します。 • **LFE**："2ch ダイレクト / ステレオ"⇨"フロント"の設定を"大"に設定した場合は、サブウーハーから LFE 信号のみを出力します。また、"2ch ダイレクト / ステレオ"⇨"フロント"の設定を"小"に設定した場合は、LFE 信号にフロントチャンネルの低音域信号を加えて、サブウーハーから出力します。 • **LFE+ メイン**：LFE 信号に、フロントチャンネルの低音域信号を加えて、サブウーハーから出力します。 "2ch ダイレクト / ステレオ"⇨"サブウーハー"の設定が"有り"のときに設定できます。

☞ 次のページへ

基本編 応用編 情報編

設定項目	設定内容
2ch ダイレクト / ステレオ （つづき）	**クロスオーバー**：各チャンネルからサブウーハーに出力する、低音域信号の上限の周波数を設定します。 • **40Hz/60Hz/80Hz/90Hz/100Hz/110Hz/120Hz/150Hz/200Hz/250Hz** • "2ch ダイレクト / ステレオ" ⇨ "サブウーハー" の設定が "有り" のときに設定できます。 • "2ch ダイレクト / ステレオ" ⇨ "フロント" の設定が "大" で、"SW モード" の設定が "LFE" のときは、"フルバンド" が表示され、設定できません。
	距離フロント左 / 距離フロント右：距離を設定するスピーカーを選びます。 • **0.00m ～ 18.00m (3.60m)/0.0ft ～ 60.0ft (12.0ft)**：メインリスニングポイントからスピーカーまでの距離を設定します。 各スピーカーに設定した距離の差は、6.00 メートル（20.0 フィート）以下になるように設定してください。
	レベル FL/ レベル FR：レベルを調節するスピーカーを選びます。 • **-12.0dB ～ +12.0dB (0.0dB)**：各チャンネルのレベルを調節します。
オートサラウンドモード 入力信号の種類ごとにサラウンドモードの設定を記憶します。	**オン**：記憶します。入力信号の種類に対して、最後に設定したサラウンドモードで、自動再生します。 **オフ**：記憶しません。入力信号が変化してもサラウンドモードは切り替わりません。 • オートサラウンドモードは、次の 4 種類の入力信号に対して、最後に設定したサラウンドモードを記憶します。 ① アナログや PCM の 2 チャンネル信号 ② Dolby Digital や DTS、AAC などの 2 チャンネル信号 ③ Dolby Digital や DTS、AAC などのマルチチャンネル信号 ④ PCM のマルチチャンネル信号 • ピュアダイレクト再生中は、入力信号が変化してもサラウンドモードは切り替わりません。

設定項目	設定内容
EQ カスタマイズ "MultEQ® XT" イコライザーを選択しているとき、使用しないイコライザーを表示しないように設定します。 "使用しない" に設定したイコライザーは、**QUICK SELECT** に記憶させることができません。また、呼び出すこともできません。	**Audyssey Byp. L/R**："Audyssey Byp L/R" イコライザーを使用しないときに設定します。 • **使用する** • **使用しない** "Audyssey® Auto Setup" をおこなったあとに、"Audyssey Byp. L/R" の設定ができます。
	Audyssey Flat："Audyssey Flat" イコライザーを使用しないときに設定します。 • **使用する** • **使用しない** "Audyssey® Auto Setup" をおこなったあとに、"Audyssey Flat" の設定ができます。
	マニュアル："マニュアル" イコライザーを使用しないときに設定します。 • **使用する** • **使用しない**
バイリンガルモード AAC ソースやドルビーデジタルの二重音声の出力内容を設定します。	**主音声**：主音声のみ出力します。 **副音声**：副音声のみ出力します。 **主 / 副**：主音声は左チャンネルから、副音声は右チャンネルから出力します。 **主＋副**：主音声と副音声をミックスして出力します。 このモードは、二重音声のソースを再生中のみ有効です。

ネットワーク設定

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

ネットワークに関する設定をします。

設定項目	設定内容
ネットワーク接続 有線 LAN の設定をします。	“ネットワーク接続”は、DHCP 機能のないネットワークに接続する場合のみ設定してください。 ① メニューの“ネットワーク接続”で“詳細設定”を選び、**ENTER** を押す。 ② △▽◁ ▷ で“DHCP” を“ オフ ” に 設 定し、**ENTER** を押す。 DHCP 機能を無効にします。
ネットワーク接続 （つづき）	③ △▽◁ ▷ または **0 ~ 9** でアドレスを入力し、**ENTER** を押す。 • **IP アドレス**：入力する IP アドレスは下記の範囲で設定してください。下記以外の IP アドレスではネットオーディオ機能を使用することができません。 CLASS A：10.0.0.0～10.255.255.254 CLASS B：172.16.0.0～172.31.255.254 CLASS C：192.168.0.0～192.168.255.254 • **サブネットマスク**：xDSL モデムやターミナルアダプターを直接本機に接続している場合は、プロバイダから書面などで通知されたサブネットマスクを入力します。通常は 255.255.255.0 が入ります。 • **デフォルトゲートウェイ**：ゲートウェイ（ルータ）に接続している場合は、その IP アドレスを入力します。 • **プライマリーDNS、セカンダリーDNS**：プロバイダから書面などで通知された DNS アドレスが 1 つの場合は、“プライマリーDNS” に入力してください。2 つ以上の場合は、1 つを“セカンダリーDNS” に入力してください。 ④ ▽ で“終了”を選び、**ENTER** を押す。 設定が完了します。 • プロキシ経由でネットワークに接続している場合は、“プロキシ” を選び、**ENTER** を押してください（☞113 ページ “プロキシの設定”）。 • ブロードバンドルータ（DHCP 機能）をお使いの方は、本機の初期設定で DHCP 機能が“オン” になっていますので、“IP アドレス” と“プロキシ” の設定は必要ありません。 • DHCP 機能のないネットワークに本機を接続してお使いになるときには、ネットワークの設定をおこなう必要があります。この場合、ネットワークに関する知識が必要となります。詳しくは、ネットワーク管理者などにお問い合わせください。 • インターネットに接続できない場合は、もう一度接続や設定を確認してください（☞22 ページ）。 • インターネットの接続についてわからない場合は、ISP（インターネット・サービスプロバイダ）またはパソコン関連販売店にお問い合わせください。 • IP アドレスの入力中に設定をキャンセルしたいときは、**RETURN** を押してください。

☞ 次のページへ

設定項目	設定内容
ネットワーク接続 （つづき）	**プロキシの設定**：インターネットにプロキシサーバーを経由して接続する場合に設定します。 ① メニューの"ネットワーク接続"で"詳細設定"を選び、**ENTER** を押す。 ② △▽ で"プロキシ"を選び、**ENTER** を押す。

設定項目	設定内容
ネットワーク接続 （つづき）	 ③ ◁ ▷ で"プロキシ"を"オン"に設定し、▽ を押す。 プロキシサーバーを有効にします。 ④ ◁ ▷ でプロキシサーバーの入力方法を選び、▽ を押す。 **アドレス**：アドレスで入力する場合に選びます。 **ネーム**：ドメイン名で入力する場合に選びます。 ⑤ △▽◁ ▷ または **0 ~ 9** でプロキシサーバーのアドレスまたはドメイン名を入力し、**ENTER** を押す。 手順 ④ で"アドレス"を選んだ場合：アドレスを入力します。 手順 ④ で"ネーム"を選んだ場合：ドメイン名を入力します。 • 文字入力の方法については 88 ページをご覧ください。 ⑥ △▽◁ ▷ または **0 ~ 9** でプロキシサーバーのポート番号を入力し、**ENTER** を押す。 ⑦ ▽ で"終了"を選び、**ENTER** を押す。 設定が完了します。

次のページへ

設定項目	設定内容
その他の設定 スタンバイ時のネットワークのオン / オフ設定やパソコンの言語を設定します。	**ネットワークスタンバイ**：スタンバイ時のネットワーク機能のオン / オフを設定します。 • **オン**：スタンバイ時でも、ネットワーク機能を停止しません。ネットワーク対応のコントローラーを使用して本機を操作できます。 • **オフ**：スタンバイ時に、ネットワーク機能を停止します。 ウェブコントロール機能(☞80 ページ) をご使用になるときは"オン"に設定してください。 ご注意 **"ネットワークスタンバイ"を"オン"に設定している場合は、スタンバイ時の待機電力を多く消費します。**
	文字コード：文字が正しく表示されない場合に、USB メモリーで再生する MP3 ID3-Tag の文字コードタイプを設定します。 • **オート**：文字コードタイプを自動で選びます。 • **ラテン語**：ISO 8859-1 の Latin-1 を選びます。 • **日本語**：シフト JIS を選びます。 "オート" に設定したときに文字が正しく表示されない場合は、"ラテン語"または"日本語"に設定してください。
	PC 言語：パソコンの言語を選びます。 • **アラビア語 / 中国語 (簡体字)/ 中国語 (繁体字)/ チェコ語 / デンマーク語 / オランダ語 / 英語 / フィンランド語 / フランス語 / ドイツ語 / ギリシャ語 / ヘブライ語 / ハンガリー語 / イタリア語 / 日本語 / 韓国語 / ノルウェー語 / ポーランド語 / ポルトガル語 / ポルトガル語 (ブラジル)/ ロシア語 / スペイン語 / スウェーデン語 / トルコ語**
	フレンドリーネームの編集："フレンドリーネーム" とは、ネットワーク上に表示される本機の名称です。63 文字まで入力できます。お買い上げ時のフレンドリーネームは、"DENON:[AVR-3312]" です。 • 文字入力の方法については, 88 ページをご覧ください。 **初期化**：編集した"フレンドリーネーム"をお買い上げ時の設定に戻します。 • **はい**：設定をお買い上げ時の設定に戻します。 • **いいえ**：設定をお買い上げ時の設定に戻しません。 "初期化" を選んで **ENTER** を押すと、"設定を初期値に戻しますか？" というメッセージが表示されますので、"はい" または"いいえ" を選び、**ENTER** を押してください。 MENU / ENTER / SETUP / SEARCH / TOP MENU / CH LEVEL / RETURN

設定項目	設定内容
その他の設定 （つづき）	**パーティーモード機能**：パーティーモード機能を設定します。 • **オン**：パーティーモード機能を有効にします。 • **オフ**：パーティーモード機能を無効にします。 パーティーモード機能については、「パーティーモード機能」(☞77 ページ) をご覧ください。
	パーティースタートレベル：パーティーモードを開始するときの音量を設定します。 • **前回の音量**：パーティーモードを開始する前と同じ主音量です。 • **- - -(0)**：常に消音状態でパーティーモードを開始します。 • **-80dB～18dB（1～99）**：お好みの音量でパーティーモードを開始します。 • メニューの"パーティーモード機能"が"オン"のときに設定できます。 • メニューの"音量表示" (☞116 ページ) の設定が"絶対値" のときは、0 ～99 で表示します。 • メニューの"音量の上限" (☞116 ページ) で設定されている上限値まで設定できます。
	ゾーンマネージジメント：詳しくは、「ゾーンマネージメント機能」(☞78 ページ) をご覧ください。

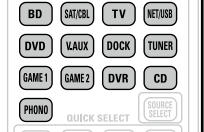
☞ 次のページへ

設定項目	設定内容
その他の設定 （つづき）	**アップデート通知**：“ファームウェアの更新”で最新のファームウェアがリリースされている場合に、本機のメニュー画面に通知メッセージを表示します。通知メッセージは、電源オン時に約 20 秒間表示します。この機能をご使用になるときは、インターネットブロードバンドに接続してください（☞22 ページ）。 • **オン**：アップデートの通知を表示します。 • **オフ**：アップデートの通知を表示しません。 • 通知メッセージが表示されている間に **ENTER** を押すと、“アップデートの確認”画面が表示されます。（“ファームウェアの更新”の詳細は、118 ページをご覧ください。） • 通知メッセージを閉じるには、**RETURN** を押してください。 **アップグレード通知**：“新機能の追加”でダウンロード可能なファームウェアがリリースされている場合に、本機のメニュー画面に通知メッセージを表示します。通知メッセージは、電源オン時に約 20 秒間表示します。この機能をご使用になるときは、インターネットブロードバンドに接続してください（☞22 ページ）。 • **オン**：アップグレードの通知を表示します。 • **オフ**：アップグレードの通知を表示しません。 • 通知メッセージが表示されている間に **ENTER** を押すと、“新機能の追加”画面が表示されます。（“新機能の追加”の詳細は、119 ページをご覧ください。） • 通知メッセージを閉じるには、**RETURN** を押してください。
ネットワーク情報 ネットワークの情報を表示します。	**フレンドリーネーム** /**DHCP =オン**または**オフ** /**IP アドレス** /**MAC アドレス**

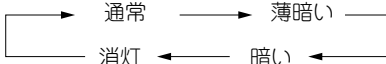
ゾーンの設定

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

• マルチゾーン（ゾーン 2、ゾーン 3）で再生する音声の設定をします。
• “ゾーン 2 の設定”は“アンプの割り当て”設定（☞106 ページ）で“ZONE2”を選択しているときに表示します。
• “ゾーン 3 の設定”は“アンプの割り当て”設定（☞106 ページ）で“ZONE3”を選択しているときに表示します。

設定項目	設定内容
低音 低音のトーンを調節します。	**-10dB～+10dB (0dB)**
高音 高音のトーンを調節します。	**-10dB～+10dB (0dB)**
ハイパスフィルター 低音が歪んで聞こえるときに、低域成分をカットして出力します。	**オン**：低域成分をカットして出力します。 **オフ**：低域成分をカットしません。
左レベル 左チャンネルの出力レベルを調節します。	**-12dB～+12dB (0dB)** “左レベル”は、“チャンネル”の設定（☞115 ページ）が“ステレオ”のときに設定できます。
右レベル 右チャンネルの出力レベルを調節します。	**-12dB～+12dB (0dB)** “右レベル”は、“チャンネル”の設定（☞115 ページ）が“ステレオ”のときに設定できます。
チャンネル マルチゾーンから出力する信号を設定します。	**ステレオ**：ステレオ信号を出力します。 **モノラル**：モノラル信号を出力します。 メニューの“アンプの割り当て”（☞106 ページ）を“Z2/Z3(M)”に設定すると、“チャンネル”の設定は自動的に“モノラル”になります。
音量レベル 音量出力レベルを設定します。	**可変**：本機やリモコンで音量の調節ができます。 **-40dB (41)**：音量は常に -40dB になります。外部のアンプで音量を調節する場合に設定します。 **0dB (81)**：音量は常に 0dB になります。外部のアンプで音量を調節する場合に設定します。 メニューの“アンプの割り当て”（☞106 ページ）が“ZONE2”、“ZONE3”または“Z2/Z3(M)”のとき、“音量レベル”は“可変”になります。

設定項目	設定内容
音量の上限 音量の上限を設定します。	**オフ**：設定しません。 **-20dB (61)/-10dB (71)/0dB (81)** メニューの"音量表示"設定(☞116 ページ)が"絶対値"のときは、0～99 の範囲で表示します。
電源オン時の音量 ゾーン 2 の電源を入れたときの音量を設定します。	**前回の音量**：記憶している音量になります。 **- - -(0)**：常に電源を入れたときは消音状態になります。 **-80dB～18dB (1～99)**：設定した音量になります。 メニューの"音量表示"設定(☞116 ページ)が"絶対値"のときは、0～99 の範囲で表示します。
ミューティングレベル ミューティング時の音量の減衰量を設定します。	**消音**：消音状態になります。 **-40dB**：現在の音量から 40dB 下げて再生します。 **-20dB**：現在の音量から 20dB 下げて再生します。

その他の設定

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

その他の設定をします。

設定項目	設定内容
音量の設定 メインゾーン(本機のある部屋)の音量に関する設定をします。	**音量表示**：音量の表示方法を設定します。 • **相対値**：- - -dB(最小)、-80.5dB～18dB の範囲で表示します。 • **絶対値**：0(最小)～ 99 の範囲で表示します。 • "音量表示"を設定すると、"音量の上限"や"電源オン時の音量"の表示方法も切り替わります。 • "音量表示"の設定は、すべてのゾーンに対して適用します。
	音量の上限：音量の上限を設定します。 • **オフ**：音量の上限を設定しません。 • **-20dB (61)/-10dB (71)/0dB (81)**
	電源オン時の音量：電源をオンにしたときの音量を設定します。 • **前回の音量**：前回使用したときの音量になります。 • **- - - (0)**：常に消音状態になります。 • **-80dB～18dB (1～99)**：設定した音量になります。
	ミューティングレベル：ミューティング時の音量の減衰量を設定します。 • **消音**：消音状態になります。 • **-40dB**：現在の音量から 40dB 下げて再生します。 • **-20dB**：現在の音量から 20dB 下げて再生します。
使用ソースの選択 使用しない入力ソースを表示しないように設定します。	**TUNER/PHONO/CD/BD/DVD/TV/SAT/CBL/DVR/GAME1/GAME2/V.AUX/DOCK/NET/USB**：使用しない入力ソースを選びます。 • **使用する** • **使用しない** ご注意 • 各ゾーンで使用中の入力ソースの設定はできません。 • "使用しない"に設定した入力ソースは、入力ソース選択ボタンを操作しても選択できません。 BD SAT/CBL TV NET/USB DVD V.AUX DOCK TUNER GAME1 GAME2 DVR CD PHONO QUICK SELECT SOURCE SELECT

☞ 次のページへ

設定項目	設定内容
GUI テレビ画面の表示に関する設定をします。	**スクリーンセーバー**：スクリーンセーバーの表示を設定します。 • **オン**：メニューの表示中、NET/USB、iPod およびチューナー画面を表示中に何も操作をしない状態が 5 分以上続くとスクリーンセーバー画面に切り替わります。△▽◁ ▷ を押すと、スクリーンセーバーを解除し、スクリーンセーバー表示前の画面を表示します。 • **オフ**：使用しません。
	壁紙：再生停止中などに背景に表示する壁紙を設定します。 • **ピクチャー**：背景をピクチャー画面(DENON ロゴ)にします。 • **黒色**：背景を黒色にします。 • **灰色**：背景を灰色にします。 • **青色**：背景を青色にします。
	フォーマット：ご使用になるテレビに合わせて出力する映像信号方式を設定します。 • **NTSC**：NTSC 方式で出力します。 • **PAL**：PAL 方式で出力します。 "フォーマット"は、次の操作でも設定できます。このとき、メニュー画面は表示されません。 1. 通常の画面を表示しているときに、本体の **PRESET 1** と **PRESET 3** を 3 秒以上長押しする。 ディスプレイに"∗Video Format"を表示します。 2. 本体の **TUNER PRESET CH +**、**–** を押して映像信号方式を設定する。 3. 本体の **INTERNET RADIO** を押して、設定を終了する。 ご注意 接続されたテレビの映像方式と異なる方式に設定すると、映像は正しく表示されません。
	操作内容の表示：サラウンドモードや入力モード切り替えなどの操作時に、各状態を表示します。 • **オン**：表示します。 • **オフ**：表示しません。
	主音量表示：主音量調節時に主音量レベルを表示します。 • **下**：画面下に表示します。 • **上**：画面上に表示します。 • **オフ**：表示しません。 主音量表示が映画の字幕に重なって見づらい場合は、"上"に設定してください。

設定項目	設定内容
GUI （つづき）	**NET/USB**：入力ソースが"NET/USB"のときに、NET/USB 画面の表示時間を設定します。 • **常に表示**：常に表示します。 • **30 秒**：30 秒間表示します。 • **10 秒**：10 秒間表示します。 • **オフ**：表示しません。
	iPod：入力ソースが"DOCK"または"iPod（USB）"のときに、iPod 画面の表示時間を設定します。 • **常に表示**：常に表示します。 • **30 秒**：30 秒間表示します。 • **10 秒**：10 秒間表示します。 • **オフ**：表示しません。
	Tuner：入力ソースが"TUNER"のときに、チューナー画面の表示時間を設定します。 • **常に表示**：常に表示します。 • **30 秒**：30 秒間表示します。 • **10 秒**：10 秒間表示します。 • **オフ**：表示しません。
リモコン設定ガイド 付属のリモコンに登録可能なプリセットコードを検索して表示させることができます。	「プリセットコードを登録する」（123 ページ）をご覧ください。
クイックセレクトネーム 画面に表示される"クイックセレクトネーム"をお好みの名前に変更します。	• 16 文字まで入力できます。 • 文字の入力方法については、88 ページをご覧ください。
ゾーン名の変更 画面に表示されるゾーンの表示名を、お好みの名前に変更します。	• 10 文字まで入力できます。 • 文字の入力方法については、88 ページをご覧ください。

次のページへ

設定項目	設定内容
トリガーアウト 入力ソースやサラウンドモードなどに対して、トリガーアウト 1/2 を動作させる条件を選びます。 トリガーアウトについては、「トリガー出力端子」(☞23 ページ) をご覧ください。	**トリガーアウト 1/2** ❑ **ゾーン(メインゾーン / ゾーン 2/ ゾーン 3)に対して設定するとき** "オン" に設定されたゾーンの電源に連動して、トリガーアウトが動作します。 ❑ **入力ソースに対して設定するとき** "オン" に設定された入力ソースが選ばれたときに、トリガーアウトが動作します。 「ゾーンに対して設定するとき」で"オン" に設定されたゾーンに対して有効です。 ❑ **サラウンドモードに対して設定するとき** "オン" に設定されたサラウンドモードが選ばれたときに、トリガーアウトが動作します。 「ゾーンに対して設定するとき」で"メインゾーン" が"オン"、「入力ソースに対して設定するとき」で"オン" に設定されている入力ソースが選ばれているときに有効です。 ❑ **HDMI モニターに対して設定するとき** "オン" に設定された HDMI モニターが選ばれたときに、トリガーアウトが動作します。 「ゾーンに対して設定するとき」で"メインゾーン" が"オン"、「入力ソースに対して設定するとき」で"オン" に設定されている入力ソースが選ばれているときに有効です。 • **オン**：出力の条件にします。 • **- - -**：条件にしません。
ディスプレイの明るさ 本体のディスプレイの明るさを調節します。	**通常**：通常の明るさです。 **薄暗い**：薄暗くします。 **暗い**：暗くします。 **消灯**：ディスプレイを消灯します。 本体の **DIMMER** を押しても、ディスプレイの明るさを調節できます。**DIMMER** を押すたびに、次の順序で明るさが切り替わります。 通常 → 薄暗い → 暗い → 消灯 → 通常

設定項目	設定内容
設定の保護 設定した内容を変更できないようにロックします。	**オン**：設定した内容をロックします。 **オフ**：設定した内容をロックしません。 設定を解除するときは、"設定の保護"を"オフ"に設定してください。 **ご注意** "設定の保護" を"オン" に設定すると、次の設定が変更できなくなります。また、次の設定に関連するボタンを操作すると、ディスプレイに"SETUP LOCKED!"を表示します。 • メニュー操作　• チャンネルレベル
ファームウェアの更新 ファームウェアをアップデートします。 **ご注意** ファームウェアの更新をおこなったあとにネットワークへの接続ができない場合は、メニューの「ネットワーク設定」(☞112 ページ) で、ネットワークへもう一度接続してください。	**アップデートの確認**：ファームアップウェアが最新かどうかの確認ができます。また、アップデートする場合のおよそのアップデート時間を確認できます。 **スタート**：アップデートを実行します。 アップデートを開始すると、電源表示が赤色に点灯し、メニュー画面はシャットダウンします。 アップデート中は、ディスプレイに経過時間を表示します。 アップデートが完了すると、電源表示が緑色に点灯し、通常の状態に戻ります。 • アップデートに失敗しても、本機は自動的にアップデートを再試行します。それでもアップデートできない場合は、下記のいずれかのメッセージがディスプレイに表示されます。このような場合は、設定やネットワーク環境の確認をおこなった上で、再度アップデートしてください。

ディスプレイ表示	説　明
Updating fail	アップデートに失敗しました。
Login failed	サーバーへのログインに失敗しました。
Server is busy	サーバーが混雑しています。しばらく時間をおいてから、やり直してください。
Connection fail	サーバーへの接続に失敗しました。
Download fail	ファームウェアのダウンロードに失敗しました。

☞ 次のページへ

設定項目	設定内容
新機能の追加 本機にダウンロード可能な新機能を表示し、アップグレードします。 ご注意 新機能の追加をおこなったあとにネットワークへの接続ができない場合は、メニューの「ネットワーク設定」(☞112 ページ) で、ネットワークへもう一度接続してください。	**アップグレード**：アップグレードを実行します。 アップグレードを開始すると、電源表示が赤色に点灯し、メニュー画面はシャットダウンします。 アップグレード中は、ディスプレイに経過時間を表示します。 アップグレードが完了すると、電源表示が緑色に点灯し、通常の状態に戻ります。 • アップグレードができなかった場合は、ディスプレイに"ファームウェアの更新" と同様のメッセージが表示されます。この場合は、ネットワーク環境を確認し、再度アップデートしてください。 **アップグレードステータス**：アップグレードによって追加された機能の一覧を表示します。 アップグレードをご利用になる場合の詳細については、当社ホームページをご覧ください。 お手続きが完了すると、このメニューに"登録完了" と表示され、アップグレードすることができます。お手続きされていない場合は、"- - - - - - -"を表示します。 お手続きの際には、この画面に表示されている ID 番号が必要になります。 本体の **TUNER PRESET +** と **TUNER PRESET –** を 3 秒以上長押しすると、ID 番号をディスプレイに表示させることもできます。

"ファームウェアの更新"および"新機能の追加"をおこなったときのご注意

- これらの機能を使用するためには、インターネットブロードバンドに接続できる環境と設定が必要です(☞22 ページ)。
- アップデート / アップグレードが終わるまで、絶対に電源を切らないでください。
- アップデート / アップグレードが完了するまでに、ブロードバンド接続でも 1 時間程度の時間がかかります。
- 一旦アップデート / アップグレードを開始すると、本機は完了するまで通常の操作ができなくなります。また、本機に設定したパラメーターなどのバックアップデータが初期化される場合があります。
- アップデートやアップグレード中に更新が失敗した場合は、本体の **ON/STANDBY** を 5 秒以上長押しするか、電源コードを挿入し直してください。ディスプレイに"Update Retry" が表示され、失敗したところから更新を再開します。それでも失敗が続く場合は、ネットワークの環境を確認してください。

- "ファームウェアの更新" および"新機能の追加" に関する情報は、その計画が明らかになるたびに当社ホームページなどで告知する予定です。
- "ファームウェアの更新" や"新機能の追加" で利用可能な新しいファームウェアがリリースされるとメニュー画面に通知メッセージを表示します。表示させたくない場合は、"アップデート通知" (☞115 ページ)および"アップグレード通知" (☞115 ページ)を"オフ" に設定してください。

設定項目	設定内容
メンテナンスモード DENON のサービスエンジニアやカスタムインストーラーからメンテナンスを受けるときに使用します。	ご注意 DENON のサービスエンジニアやカスタムインストーラーから指示があった場合のみご使用ください。

言語の設定

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

テレビ画面に表示する言語を設定します。

設定内容
日本語 / English

“言語の設定”は、次の操作でも設定できます。この設定中は、テレビ画面にメニューを表示しません。ディスプレイの表示を見ながら設定してください。

1. 通常の画面を表示しているときに、本体の **PRESET 1** と **PRESET 3** を 3 秒以上長押しする。
   ディスプレイに“∗Video Format”を表示します。
2. **STATUS** を押して“∗GUI Language”を選ぶ。
3. 本体の **TUNER PRESET CH +**、**–** を押して言語を設定する。
4. 本体の **INTERNET RADIO** を押して設定を終了する。

情報

本機の設定状態や入力信号などの情報を表示します。

項目	設定内容
現在の設定 現在の設定状態を表示します。 ご注意 表示する内容は、入力ソースによって異なります。	❏ **メインゾーン** メインゾーンの設定状態を表示します。 **選択ソース** / **ネーム** / **サラウンドモード** / **入力モード** / **デコードモード** / **HDMI**/ **デジタル** / **コンポーネント** / **ビデオセレクト** / **ビデオモード** / **Content Type**（コンテンツ・タイプ） など
	❏ **ゾーン 2/3** ゾーン 2 またはゾーン 3 の設定状態を表示します。 **電源** / **選択ソース** / **音量レベル**
音声入力信号 音声入力信号の情報を表示します。	**サラウンドモード**：設定しているサラウンドモード **信号**：入力信号の種類 **fs**：入力信号のサンプリング周波数 **フォーマット**：入力信号のチャンネル数（フロント / サラウンド /LFE の有無） **オフセット**：ダイアログノーマライゼーションの補正値 **フラグ**：サラウンドバックチャンネルを含む信号を入力しているときに表示します。入力信号が Dolby Digital EX、DTS-ES Matrix のときは“MATRIX”、DTS-ES Discrete 信号などのときは“DISCRETE”を表示します。 **ダイアログノーマライゼーション機能について** Dolby Digital ソースの再生中、自動的に動作します。 この機能は、プログラムソースごとに異なる標準信号レベルを自動的に補正します。 補正値は、本体の **STATUS** を押しても確認できます。 Dial.Norm Offset　 – 4dB 数字は補正値です。変更できません。
HDMI 情報 HDMI 入出力信号や HDMI モニターの情報を表示します。	**信号情報** • **解像度** / **カラースペース** / **ビット数**
	モニター 1 / **モニター 2** • **インターフェース** / **対応解像度**

項目	設定内容
オートサラウンドモード オートサラウンドモードに記憶している内容を表示します。	**アナログ /PCM 2ch**/ **デジタル 2ch**/ **デジタル 5.1ch**/ **マルチチャンネル**
クイックセレクト 「クイックセレクト機能」(☞74 ページ) に記憶している内容を表示します。	**Quick Select 1**/**Quick Select 2**/**Quick Select 3**/ **Quick Select 4**/ **Z2 Quick Select 1**/**Z2 Quick Select 2**/ **Z2 Quick Select 3**/**Z2 Quick Select 4** **Z3 Quick Select 1**/**Z3 Quick Select 2**/ **Z3 Quick Select 3**/**Z3 Quick Select 4** • **ネーム** / **音量レベル** / **選択ソース** / **ビデオセレクト** / **MultEQ® XT**/**Dynamic EQ®**/**Dynamic Volume®**/ **オートサラウンドモードアナログ /PCM 2ch**/ **オートサラウンドモードデジタル 2ch**/ **オートサラウンドモードデジタル 5.1ch**/ **オートサラウンドモードマルチチャンネル**
プリセットチャンネル プリセットチャンネルの情報を表示します。 TUNER NET/USB	**プリセット 1～3** **A1 ～ A8**/**B1 ～ B8**/**C1 ～ C8**/**D1 ～ D8**/**E1 ～ E8**/**F1 ～ F8**/ **G1～G8** “プリセット 1～3” は、入力ソースが“NET/USB” のときに表示します。

リモコンで接続機器を操作する

付属のリモコンにプリセットコードを登録すると、各社の機器の操作ができるようになります。

接続機器を操作する

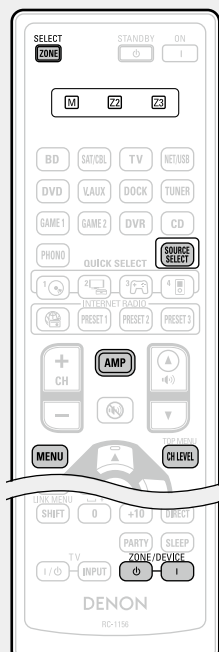
1 **ZONE SELECT を押して、操作するゾーンを選ぶ。**

選択したゾーン操作モード表示が点灯します。

- **ZONE SELECT** を押すたびに、モードが切り替わります。

M　メインゾーンの操作をするときに選びます。

Z2　ゾーン 2 の操作をするときに選びます。

Z3　ゾーン 3 の操作をするときに選びます。

2 **入力ソース選択ボタンを押して、入力ソースを選ぶ（31 ページ）。**

- 手順 1 で選択したゾーンの入力ソースを切り替えます。
- リモコンの操作モードを次の表のように切り替えます。

入力ソース選択ボタン	本機の入力ソース	操作モード リモコンで操作できる機器
AMP	–	本機（アンプ操作）＊2
BD ＊1	BD	**BD** ボタンに登録している機器
SAT/CBL ＊1	SAT/CBL	**SAT/CBL** ボタンに登録している機器
TV ＊1	TV	**TV** ボタンに登録している機器
NET/USB	NET/USB	• ネットワーク機能 • USB 端子に接続した iPod または USB メモリー
DVD ＊1	DVD	**DVD** ボタンに登録している機器
V.AUX ＊1	V.AUX	**V.AUX** ボタンに登録している機器
DOCK	DOCK	iPod 用コントロールドック
TUNER	TUNER	本機（チューナー操作）
GAME1 ＊1	GAME1	**GAME1** ボタンに登録している機器
GAME2 ＊1	GAME2	**GAME2** ボタンに登録している機器
CD ＊1	CD	**CD** ボタンに登録している機器
PHONO	PHONO	本機（アンプ操作）＊2

＊1　このボタンにプリセットコードを登録すると、本機のリモコンでお手持ちの機器の操作がおこなえます。
＊2　このモードでは、iPod、USB メモリー、iPod 用コントロールドック、ネットワーク機能およびチューナーの操作が可能です。

SOURCE SELECT を押すと、自動的にアンプ操作モードに移行します。

ご注意

リモコンがアンプ操作モード以外のときに、下記の動作をおこなう場合は、**AMP** を押してリモコンをアンプ操作モードに切り替えてください。

- **MENU**を押して、本機のメニュー操作をおこなうとき
- **CH LEVEL** を押して、本機のチャンネルレベルを設定するとき
- **ZONE/DEVICE I** または **ZONE/DEVICE ⏻** を押して、各ゾーンの電源オン / オフを切り替えるとき

3 **本機または入力ソースを切り替えた機器の操作をおこなう。**

- 詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。また、iPod、チューナー、ネットワーク機能および USB メモリーの操作については、次のページをご覧ください。
  - iPod（35、37 ページ）
  - チューナー（40 ページ）
  - ネットワーク機能（45、47、49 ページ）
  - USB メモリー（52 ページ）

プリセットコードを登録する

付属のリモコンにプリセットコードを登録すると、お手持ちのDVD プレーヤーやテレビなど各社の機器の操作ができるようになります。
プリセットコードの登録には、メニューの"リモコン設定ガイド"(☞117 ページ)を使用してください。このメニューでは、付属のリモコンに登録可能なプリセットコードを検索して、表示させることができます。

❑機器の操作に使用できる主なボタン

① **ZONE/DEVICE I**、**ZONE/DEVICE ⏻**
各機器の電源オン / オフを切り替えます。
② △▽◁ ▷、**ENTER**、**RETURN** ⮌
各機器のメニュー操作をします。
③ **MENU**、**SETUP**、**TOP MENU**
各機器のメニューを表示します。
④ ▶、■、❚❚、◀◀、▶▶、❙◀◀、▶▶❙
⑤ 数字ボタン（**0**〜**9**、**+10**）
⑥ **CH +**、**CH –**
⑦ **TV I/⏻**、**TV INPUT**
テレビの操作をおこないます。
このボタンは、どのモードのときでも有効です。

各機器のリモコン操作の詳細については、35、37、40、45、47、49、52、126、127 ページをご覧ください。

❑お買い上げ時に設定されているプリセットコード

お買い上げ時の設定では、各入力ソース切り替えボタンに次の機器を登録しています。ご使用になる機器に合わせて変更できます。

入力ソース選択ボタン	カテゴリー	ブランド	プリセットコード
BD	ブルーレイディスクプレーヤー	DENON	32258
SAT/CBL	衛星チューナー（セットトップボックス）	DirecTV	01377
TV	テレビ	SONY	10810
DVD	DVD プレーヤー	DENON	32134
V.AUX	デジタルカメラ（DVD レコーダー）	Panasonic	21378
DOCK ＊	iPod 用コントロールドック	DENON	72516
GAME1	ケーブルテレビ（セットトップボックス）	Motorola	01376
GAME2	ケーブルテレビ（セットトップボックス）	Scientific Atlanta	01877
DVR	DVD レコーダー	Tivo	20739
CD	CD プレーヤー	DENON	42867

＊ iPod 用コントロールドックを使用しない場合は、**DOCK** に他の機器のプリセットコードを登録できます。

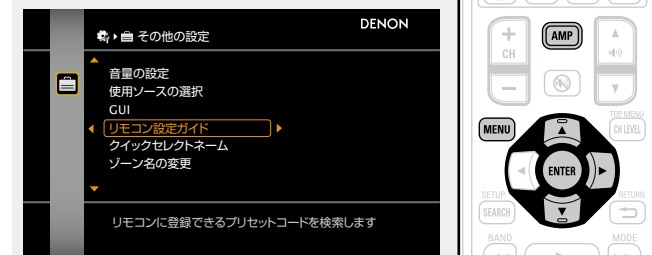
ご注意

NET/USB、**TUNER** および **PHONO** にはプリセットコードを登録できません。

1 **ZONE SELECT** を押して、ゾーン操作モードを M（メインゾーン）に切り替える。
リモコンのゾーン操作モード表示の M が点灯します。

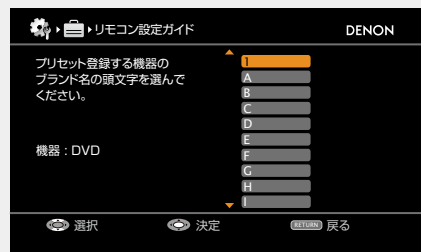
2 **AMP** を押して、リモコンをアンプ操作モードにする。

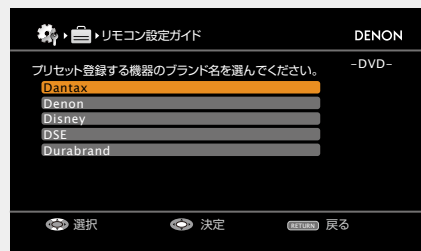
3 **MENU** を押す。
テレビ画面にメニューを表示します。

4 △▽ を押して、メニューの"システム設定"⇨"その他の設定"⇨"リモコン設定ガイド"を選び、**ENTER** または ▷ を押す。

5 △▽ を押してプリセット登録したい機器のカテゴリーを選び、**ENTER** を押す。

• "TV"、"TV/DVD"、"TV/VCR"カテゴリーは、**TV** ボタンのみプリセットコードの登録ができます。

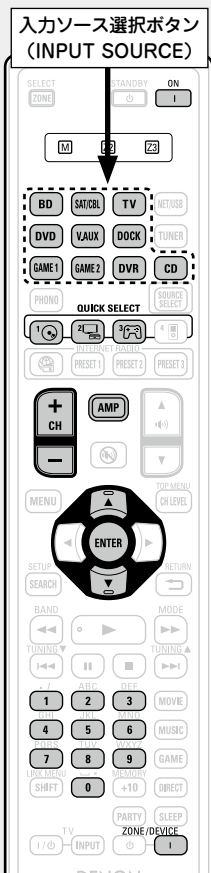
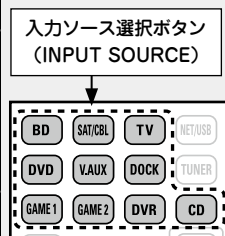
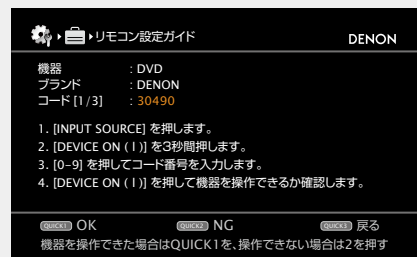
次のページへ

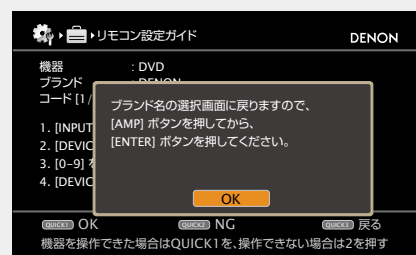
6 △▽ を押してブランド名の頭文字を選び、ENTER を押す。

- 頭文字は、1、A～Z で表示します。（各カテゴリーで、ブランドが存在する頭文字のみ表示します。）
  数字ではじまるブランド名は、“1” を選んでください。

7 △▽ を押してブランド名を選び、ENTER を押す。

- ブランド名が複数ページある場合は、**CH +** または **CH –** を押すと、ページを切り替えることができます。

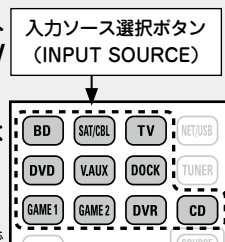
入力ソース選択ボタン（INPUT SOURCE）

ご注意

リストにご希望のブランド名が表示されない場合は、本機に付属のリモコンで、ご使用の機器を操作することはできません。このような場合は、ご使用の機器に付属のリモコンを使用して操作してください。

8 リモコンコードとリモコンのプリセット登録の操作手順を表示します。

ご注意

ブランド名の選択を間違えたときは、**QUICK SELECT 3** を押してください。次の画面を表示します。

AMP を押して **ENTER** を押すと手順 7 に戻ります。

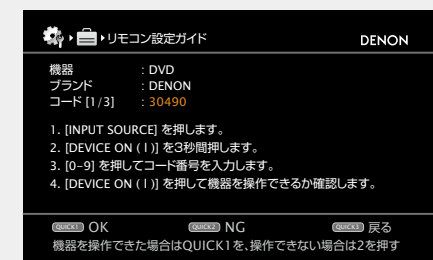
9 プリセット登録したい機器の入力ソース選択ボタン（**BD**、**SAT/CBL**、**TV**、**DVD**、**V.AUX**、**DOCK**、**GAME1**、**GAME2**、**DVR** または **CD**）を押す。

入力ソース選択ボタン（INPUT SOURCE）

- **TV** ボタンへ登録できるカテゴリーは、“TV”、“TV/DVD”、“TV/VCR” のみです。

10 **ZONE/DEVICE I** を 3 秒以上長押しする。

ゾーン操作モード表示が 2 回点滅します。

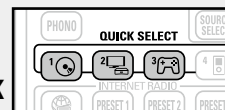
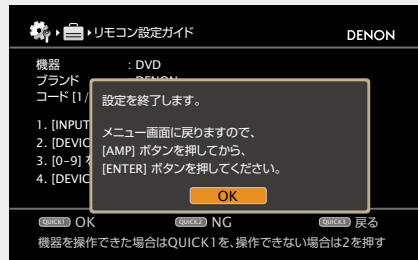
11 **0 ~ 9** を押して 5 桁のコードを入力する。

ボタンの入力は、10 秒以上の間隔をあけずにおこなってください。

- 正しく登録できたとき
  → ゾーン操作モード表示が 2 回点滅します。
- 正しく登録できなかったとき
  → ゾーン操作モード表示がゆっくりと 1 回点滅します。
  手順 9 から操作をやり直してください。
- 番号を間違えて入力した場合
  → **ON** を 1 回押し、手順 9 から操作をやり直してください。

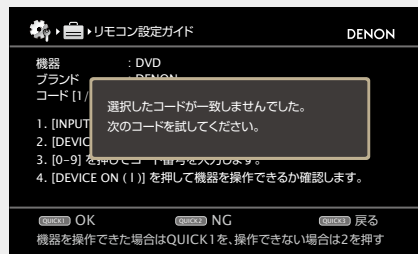
12 ご使用の機器の操作をおこない、操作できるか確認する。

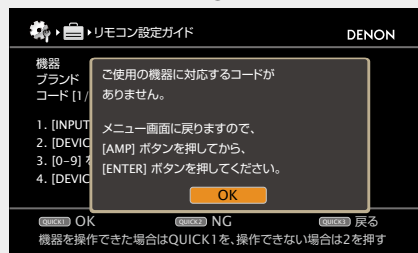
- 機器を操作できた場合は、**QUICK SELECT 1** を押す。
  → 手順 13 へ進んでください。
- 機器を操作できない場合は、**QUICK SELECT 2** を押す。
  → 手順 14 へ進んでください。

- ご使用の機器の操作については、「機器を操作する」（☞126 ページ）をご覧ください。

☞ 次のページへ

13 次の画面を表示し、プリセットコードの登録を完了します。

- メニュー画面に戻りますので、**AMP** を押したあと、**ENTER** を押してください。

14 次のいずれかの画面を表示します。

①

- 上記の画面を約 3 秒間表示後、自動的に次のプリセット登録画面に進みます。

②

【① の画面が表示された場合】
次に表示されるプリセットコードで動作する可能性があります。プリセット登録画面に進みますので、手順 9～12 をくり返しおこなってください。

【② の画面が表示された場合】
本機に付属のリモコンで、ご使用の機器を操作できません。ご使用の機器に付属のリモコンを使用してください。メニュー画面に戻りますので、**AMP** を押してから **ENTER** を押してください。

メーカーによってはプリセットコードを数種類持っています。動作しない場合は別のコードを入力してください。

ご注意

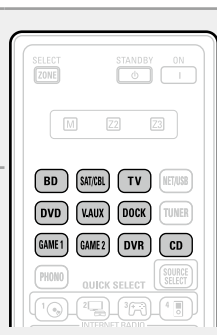
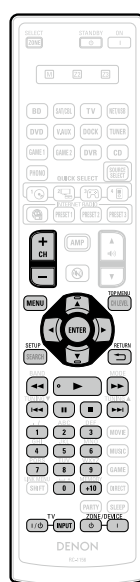
お手持ちの機器の形式や年式によって、操作できないボタンがあります。

機器を操作する

付属のリモコンは、本機以外のコンポーネント製品も操作できます。

1 操作したい機器のプリセットコードが登録してある入力ソース選択ボタンを押す（☞122ページ）。

2 機器を操作する。

• 詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

❏ブルーレイディスクプレーヤー / HD DVD プレーヤー /DVD プレーヤー

操作ボタン	機能
CH +, –	チャンネルの切り替え（アップ / ダウン）
MENU	（ポップアップ）メニュー
TOP MENU	トップメニュー
△▽◁▷	カーソル操作
ENTER	確定
SETUP	セットアップ
RETURN ⮌	リターン
◀◀ ▶▶	マニュアルサーチ（早戻し / 早送り）
▶	再生
◀◀ ▶▶I	オートサーチ（頭出し）
❚❚	一時停止
■	停止
0 ~ 9, +10	タイトルまたはチャプターの選択 / チャンネルの選択
TV I/⏻	テレビの電源オン / スタンバイ（お買い上げ時の設定：SONY）
TV INPUT	テレビの入力切り替え（お買い上げ時の設定：SONY）
ZONE/DEVICE I	電源オン ＊
ZONE/DEVICE ⏻	電源スタンバイ ＊

＊ 機器によっては、電源オン / スタンバイの動作になる場合があります。

❏CD プレーヤー /CD レコーダー

操作ボタン	機能
△▽◁▷	カーソル操作
ENTER	確定
◀◀ ▶▶	マニュアルサーチ（早戻し / 早送り）
▶	再生
I◀◀ ▶▶I	オートサーチ（頭出し）
❚❚	一時停止
■	停止
0 ~ 9, +10	曲の選択
TV I/⏻	テレビの電源オン / スタンバイ（お買い上げ時の設定：SONY）
TV INPUT	テレビの入力切り替え（お買い上げ時の設定：SONY）
ZONE/DEVICE I	電源オン ＊
ZONE/DEVICE ⏻	電源スタンバイ ＊

＊ 機器によっては、電源オン / スタンバイの動作になる場合があります。

☞ 次のページへ

❏DVD レコーダー / デジタルビデオレコーダー(PVR)/ ビデオデッキ

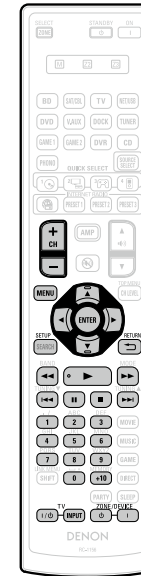
操作ボタン	機能
CH +, –	チャンネルの切り替え（アップ / ダウン）
MENU	メニュー表示
△▽◁▷	カーソル操作
ENTER	確定
SETUP	セットアップ
RETURN ⮌	リターン
◀◀ ▶▶	マニュアルサーチ（早戻し / 早送り）
▶	再生
I◀◀ ▶▶I	オートサーチ(頭出し)
II	一時停止
■	停止
0 ~ 9, +10	タイトルまたはチャプターの選択 / チャンネルの選択
TV I/⏻	テレビの電源オン / スタンバイ（お買い上げ時の設定：SONY）
TV INPUT	テレビの入力切り替え（お買い上げ時の設定：SONY）
ZONE/DEVICE I	電源オン ＊
ZONE/DEVICE ⏻	電源スタンバイ ＊

＊ 機器によっては、電源オン / スタンバイの動作になる場合があります。

❏テレビ

操作ボタン	機能
CH +, –	チャンネルの切り替え（アップ / ダウン）
MENU	メニュー表示
△▽◁▷	カーソル操作
ENTER	確定
SETUP	セットアップ
RETURN ⮌	リターン
◀◀ ▶▶	マニュアルサーチ（早戻し / 早送り）
▶	再生
I◀◀ ▶▶I	再生
II	一時停止
■	停止
0 ~ 9, +10	チャンネルの選択
TV I/⏻	テレビの電源オン / スタンバイ（お買い上げ時の設定：SONY）
TV INPUT	テレビの入力切り替え（お買い上げ時の設定：SONY）
ZONE/DEVICE I	電源オン ＊
ZONE/DEVICE ⏻	電源スタンバイ ＊

＊ 機器によっては、電源オン / スタンバイの動作になる場合があります。

❏衛星チューナー(SAT)/ ケーブルテレビ(CBL)/IP テレビ / セットトップボックス

操作ボタン	機能
CH +, –	チャンネルの切り替え（アップ / ダウン）
MENU	メニュー表示
△▽◁▷	カーソル操作
ENTER	確定
SETUP	ガイド
RETURN ⮌	リターン
◀◀ ▶▶	マニュアルサーチ（早戻し / 早送り）
▶	再生
I◀◀ ▶▶I	オートサーチ(頭出し)
II	一時停止
■	停止
0 ~ 9, +10	チャンネルの選択
TV I/⏻	テレビの電源オン / スタンバイ（お買い上げ時の設定：SONY）
TV INPUT	テレビの入力切り替え（お買い上げ時の設定：SONY）
ZONE/DEVICE I	電源オン ＊
ZONE/DEVICE ⏻	電源スタンバイ ＊

＊ 機器によっては、電源オン / スタンバイの動作になる場合があります。

リモコンを使用するゾーンを指定する

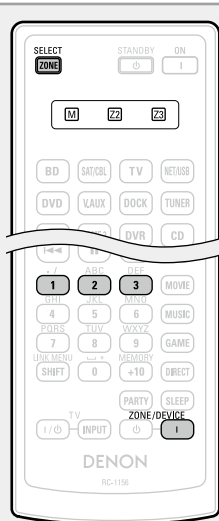
ZONE SELECT を押したときに、設定したゾーンのみリモコンで操作できるようになります。

1 **ZONE/DEVICE I を 3 秒以上長押しする。**
ゾーン操作モード表示が 2 回点滅します。

2 **ZONE SELECT を押す。**
ゾーン操作モード表示が 2 回点滅します。

3 **1 ~ 3 を押して使用するゾーンを設定する。**
ゾーン操作モード表示が 2 回点滅します。

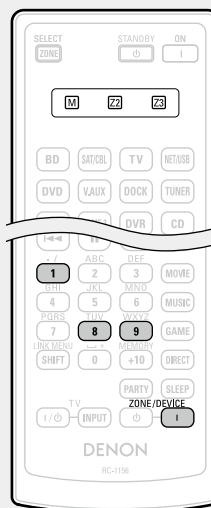
【設定できる項目】

1 “メインゾーン”のみ使用するとき
2 “メインゾーン”/“ゾーン2”を使用するとき
3 “メインゾーン”/“ゾーン2”/“ゾーン3”を使用するとき（お買い上げ時の設定）

リモコンの全設定を初期化する

すべての設定が、お買い上げ時の設定に戻ります。

1 **ZONE/DEVICE I を 3 秒以上長押しする。**
ゾーン操作モード表示が 2 回点滅します。

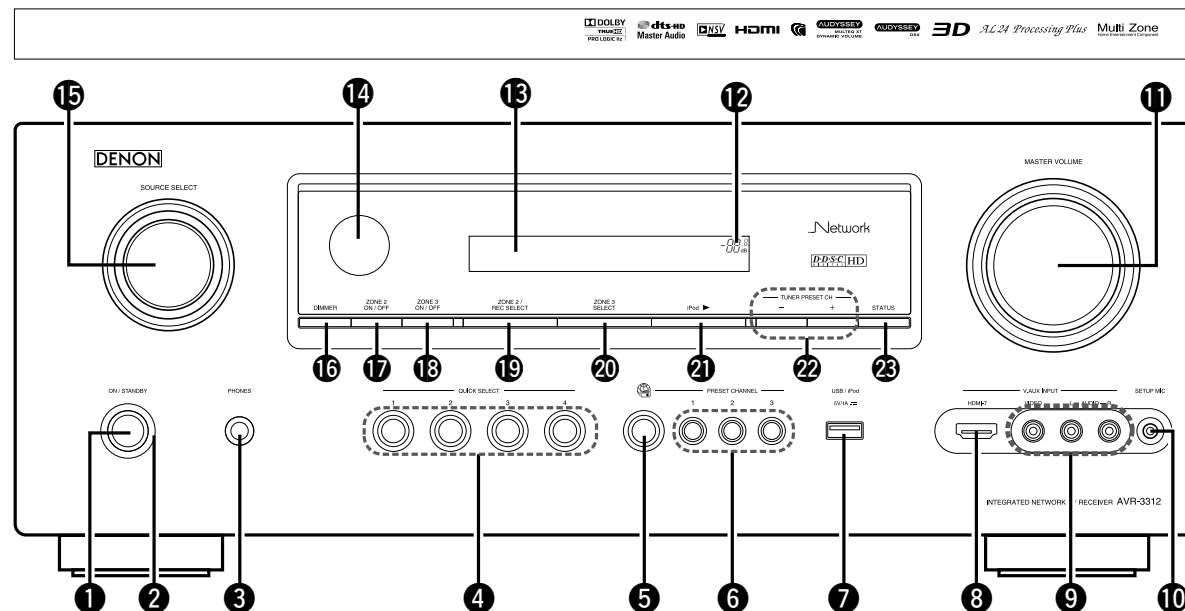
2 **9、8、1 の順に押す。**
リモコンのゾーン操作モード表示の M が 4 回点滅します。
すべての設定がお買い上げ時の設定に戻ります。

基本編
応用編
情報編

情報編

ここでは本機に関するさまざまな情報を記載しています。
必要に応じてご覧ください。

各部の名前

フロントパネル

各部のはたらきなど詳しい説明については、( )内のページをご覧ください。

❶ **電源ボタン(ON/STANDBY)** ··········· (📖 9)
本機の電源をオン / スタンバイに切り替えます。

❷ **電源表示** ··········· (📖 9)

❸ **ヘッドホン端子(PHONES)**
ヘッドホンのプラグを差し込むと、スピーカーおよび PRE OUT 端子から音が出なくなります。

ご注意
ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。

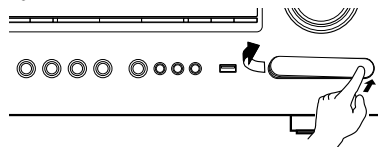
❹ **クイックセレクトボタン(QUICK SELECT)** ··········· (74、84)

❺ **インターネットラジオボタン(📻)** ··········· (43)

❻ **プリセットチャンネルボタン(PRESET CHANNEL1～3)** ··········· (44)

❼ **USB/iPod端子** ··········· (18)

❽ **HDMI入力端子** ··········· (11)

❾ **V.AUX入力端子(V.AUX INPUT)** ··········· (17)
V.AUX 入力端子をご使用になるときは、カバーを取り外してください。

❿ **セットアップマイク端子(SETUP MIC)** ··········· (25、68)

⓫ **主音量調節つまみ(MASTER VOLUME)** ··········· (32)

⓬ **主音量表示**

⓭ **ディスプレイ** ··········· (131)

⓮ **リモコン受光部** ··········· (134)

⓯ **入力ソース切り替えつまみ(SOURCE SELECT)** ··········· (31、83)

⓰ **ディマーボタン(DIMMER)** ··········· (118)

⓱ **ゾーン2用電源ボタン(ZONE2 ON/OFF)** ··········· (83)

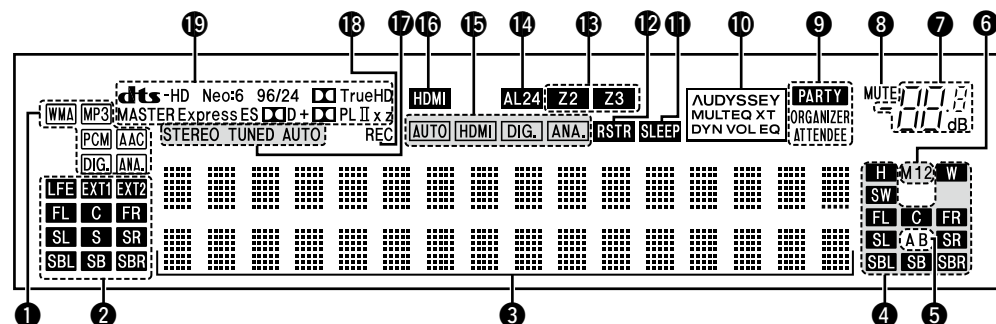
⓲ **ゾーン3用電源ボタン(ZONE3 ON/OFF)** ··········· (83)

⓳ **ゾーン2選択/録音出力切り替えボタン(ZONE2 / REC SELECT)** ··········· (75、83)

⓴ **ゾーン3選択ボタン(ZONE3 SELECT)** ··········· (83)

㉑ **iPod再生ボタン(iPod ▶)** ··········· (37)

㉒ **チューニングプリセットボタン(TUNER PRESET CH +、-)** ··········· (39)

㉓ **ステータスボタン(STATUS)** ··········· (121)

ディスプレイ

❶ **入力信号表示**

❷ **入力信号チャンネル表示**
デジタル信号が入力されているときに点灯します。
再生しているHDオーディオソースに拡張チャンネル(フロント / センター / サラウンド / サラウンドバック /LFE以外のチャンネル)が含まれる場合は、EXT1 表示が点灯します。拡張チャンネルが2種類以上含まれる場合は、EXT1 と EXT2 表示が点灯します。

❸ **インフォメーションディスプレイ**
入力ソース名、サラウンドモード、設定値などを表示します。

❹ **出力信号チャンネル表示**
スピーカーから音声が出力されているときに点灯します。

❺ **フロントスピーカー表示**
フロントスピーカーA、Bの設定に合わせて点灯します。

❻ **モニター出力表示**
HDMIモニター出力の設定に合わせて点灯します。"オート(デュアル)" に設定されているときは、接続状態に合わせて点灯します。

❼ **主音量表示**

❽ **ミュート表示**
ミューティング中に点灯します(☞32 ページ)。

❾ **パーティー表示**
パーティーモード中に点灯します(☞77 ページ「パーティーモード機能」)。

- **ORGANIZER**
オーガナイザー(親機)としてパーティーモードを開始しているときに点灯します。
- **ATTENDEE**
アテンディー(子機)としてパーティーモードに参加しているときに点灯します。

❿ **AUDYSSEY®表示**
"MultEQ® XT"(☞102 ページ)、"Dynamic EQ®"(☞102 ページ)および"Dynamic Volume®"(☞102 ページ)の設定により、次のように点灯します。

表示	説明
AUDYSSEY MULTEQ XT DYN VOL	"MultEQ® XT"、"Dynamic EQ®"および"Dynamic Volume®"の設定が"オン"のとき
AUDYSSEY MULTEQ XT DYN EQ	"MultEQ® XT"および"Dynamic EQ®"の設定が"オン"、"Dynamic Volume®"の設定が"オフ"のとき
AUDYSSEY MULTEQ XT	"MultEQ® XT"の設定が"オン"、"Dynamic EQ®"および"Dynamic Volume®"の設定が"オフ"のとき

⓫ **スリープタイマー表示**
スリープタイマーを設定しているときに点灯します(☞72 ページ)。

⓬ **RESTORER(リストアラー)表示**
RESTORER(リストアラー)モードが選ばれているときに点灯します(☞104 ページ)。

⓭ **マルチゾーン表示**
ゾーン2またはゾーン3(別の部屋)の電源が入っているときに点灯します(☞83 ページ)。

⓮ **AL24表示**
AL24 Processing Plusが動作しているときに点灯します(☞145 ページ)。

⓯ **入力モード表示**
各入力ソースの音声入力モードの設定により点灯します(☞95 ページ)。

⓰ **HDMI表示**
HDMI接続で再生しているときに点灯します。

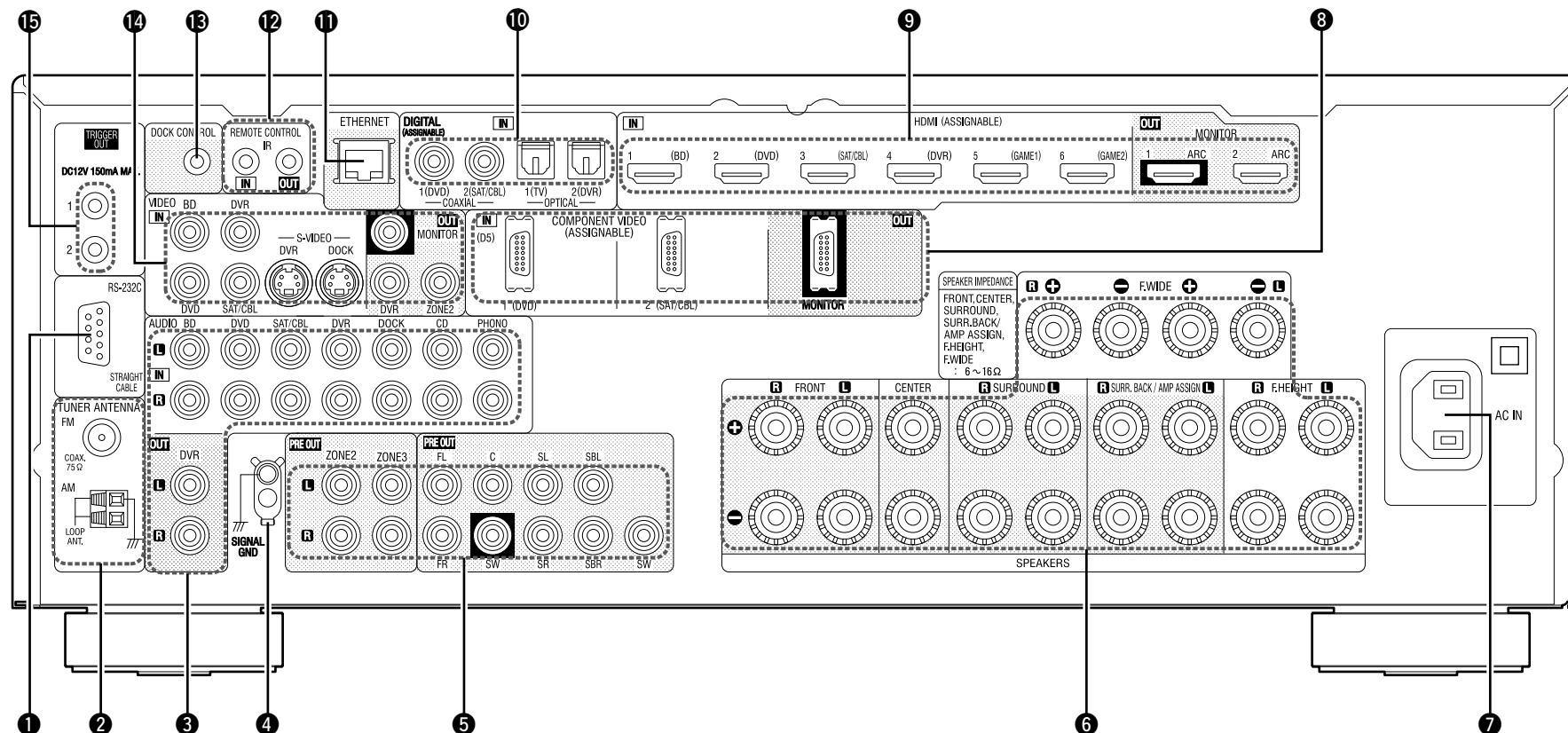
⓱ **チューナー受信モード表示**
入力ソースが"TUNER"のとき、放送局の受信状態により点灯します。

STEREO: FMモードで、アナログステレオ放送を受信したときに点灯します。
TUNED: 放送を受信したときに点灯します。
AUTO: オートチューニングモードのときに点灯します(☞38 ページ)。

⓲ **録音出力ソース表示**
REC OUTモードが選ばれているときに点灯します(☞75 ページ)。

⓳ **デコーダー表示**
各デコーダーが動作しているときに点灯します。

リアパネル

詳しい説明については、( )内のページをご覧ください。

❶ RS-232C 端子 ……………………………………（23）
❷ FM/AMアンテナ端子（TUNER ANTENNA）…………（19）
❸ アナログ音声端子
（AUDIO）……………………………（14、15、16、17、20）
❹ アース端子（SIGNAL GND）………………………（20）
❺ プリアウト端子（PRE OUT）
…………………（📖 10、21、62、63、64、65、66、67）
❻ スピーカー端子（SPEAKERS）
…………………（📖 10、62、63、64、65、66、67）
❼ ACインレット（AC IN）……………………………（📖 9）
❽ コンポーネントビデオ/D5端子
（COMPONENT VIDEO）……………………（13、14、15）
❾ HDMI端子 ……………………………………………（📖 7、10）
❿ デジタル音声端子（DIGITAL）……………（13、14、15、16）
⓫ イーサネット端子（ETHERNET）……………………（22）
⓬ リモートコントロール端子（REMOTE CONTROL）
将来的な拡張用端子です。
⓭ ドックコントロール端子（DOCK CONTROL）…………（17）
⓮ ビデオ/S ビデオ端子
（VIDEO/S-VIDEO）……………………（13、14、15、16、17）
⓯ トリガー出力端子（TRIGGER OUT）……………………（23）

ご注意

端子内部のピンには絶対に触れないでください。静電気を引き起こし、故障の原因になることがあります。

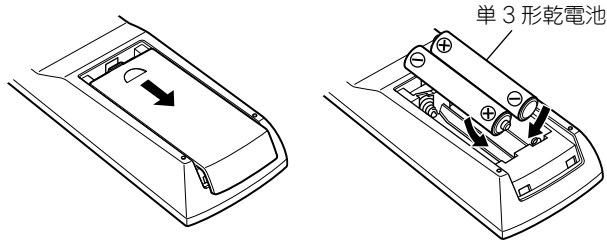
リモコン

各部のはたらきなど詳しい説明については、( )内のページをご覧ください。

次のページへ

乾電池の入れかた

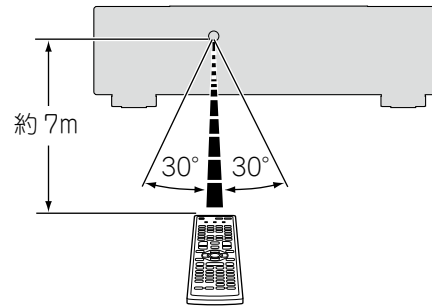
① 裏ぶたを矢印の方法へスライドさせて取り外す。

② 乾電池（2本）を乾電池収納部の表示に合わせて正しく入れる。

③ 裏ぶたを元どおりにする。

ご注意

- リモコンには単 3 形乾電池をご使用ください。
- リモコンを本機の近くで操作しても本機が動作しないときは、新しい乾電池と交換してください。（付属の乾電池は動作確認用です。早めに新しい乾電池と交換してください。）
- 乾電池は、リモコンの乾電池収納部の表示どおりに ⊕ 側・⊖ 側を合わせて正しく入れてください。
- 破損・液漏れの恐れがありますので、
  - 新しい乾電池と使用済みの乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 違う種類の乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 乾電池は充電しないでください。
  - 乾電池をショートさせたり、分解や加熱または火に投入させたりしないでください。
  - 電池を直射日光のあたるところや暖房器具の近くなど高温になるところに置かないでください。
- 万一、乾電池の液漏れがおこったときは、乾電池収納部内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。
- リモコンを長期間使用しないときは、乾電池を取り出してください。
- 不要になった乾電池を廃棄するときは、お住まいの地域の条例に従って処理をしてください。
- 充電式電池をお使いの場合、正しく動作しない場合があります。

リモコンの使いかた

リモコンはリモコン受光部に向けてご使用ください。

ご注意

- リモコン受光部に、直射日光やインバーター式蛍光灯の強い光または赤外線があたると、誤動作をしたり、リモコンが操作できなくなったりする場合があります。
- 3D 映像機器を構成している各ユニット（モニター、3D 視聴用メガネ、3D 信号伝送ユニットなど）間の信号の伝送を無線通信（赤外線通信など）でおこなっている 3D 映像機器をお使いの場合、その無線通信の影響によって本機のリモコンが効かなくなることがあります。そのときは 3D 通信の各ユニットの向きと距離を調節して、本機のリモコンの動作に影響がないことを確認してください。

基本編
応用編
情報編

❑ 登録商標について（☞135 ページ）
❑ サラウンド（☞136 ページ）
❑ 映像信号とモニター出力の関係（☞142 ページ）
❑ 用語の解説（☞145 ページ）

登録商標について

本製品は、次の技術を採用しています。（順不同）

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic およびダブル D 記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

本機は DTS, Inc. からのライセンス契約に基づき製造されています。米国特許第 5,451,942 号、5,956,674 号、5,974,380 号、5,978,762 号、6,226,616 号、6,487,535 号、7,212,872 号、7,333,929 号、7,392,195 号、7,272,567 号その他、米国内および国外特許もしくは特許出願物。DTS のロゴ、シンボル、DTSHD および DTS-HDMaster Audio は、DTS, Inc. の商標です。DTS, Inc.©1996-2008 DTS, Inc. 版権所有。

HDMI

HDMI、HDMI ロゴおよび High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing, LCC の商標または登録商標です。

本機は、Audyssey Laboratories™ からのライセンス契約に基づき製造されています。米国共同で外国特許審議中。Audyssey MultEQ® XT は、Audyssey Laboratories の登録商標です。Dynamic EQ® は、Audyssey Laboratories の登録商標です。Audyssey Dynamic Volume® は、Audyssey Laboratories の登録商標です。Audyssey DSX™ は、Audyssey Laboratories の商標です。

“Made for iPod” and “Made for iPhone” mean that an electronic accessory has been designed to connect specifically to iPod, or iPhone, respectively, and has been certified by the developer to meet Apple performance standards.
Apple is not responsible for the operation of this device or its compliance with safety and regulatory standards. Please note that the use of this accessory with iPod, or iPhone, may affect wireless performance.
AirPlay, the AirPlay logo, iPhone, iPod, iPod classic, iPod nano, iPod shuffle, and iPod touch are trademarks of Apple Inc., registered in the U.S. and other countries. iPad is a trademark of Apple Inc.

- iPhone、iPod、iPod classic、iPod nano、iPod shuffle および iPod touch は、著作権のないコンテンツまたは法的に複製、再生を許諾されたコンテンツを個人が私的に複製、再生するために使用許諾されるものです。著作権の侵害は法律上禁止されています。

Windows Media and the Windows logo are trademarks or registered trademarks of Microsoft Corporation in the United States and/or other countries.

This item incorporates copy protection technology that is protected by U.S. patents and other intellectual property rights of Rovi Corporation. Reverse engineering and disassembly are prohibited.

サラウンド

本機に内蔵のデジタル信号処理回路のはたらきにより、プログラムソースを映画館と同じ臨場感でサラウンド再生をお楽しみいただけます。

サラウンドモードとパラメーター一覧表

この表は、各サラウンドモードのときに再生できるスピーカーと、各サラウンドモードのときに調節できるサラウンドパラメーターを示したものです。

表の中の記号について

○ 音声を出力するチャンネル、または設定できるサラウンドパラメーターを示します。
◎ 音声を出力するチャンネルを示します。ただし、メニューの"スピーカー構成"(☞106ページ)の設定により出力するチャンネルが異なります。

サラウンドモード (☞53 ページ)	チャンネル出力							サラウンドパラメーター (☞99 ページ)		
	フロント 左 / 右	センター	サラウンド 左 / 右	サラウンド バック 左 / 右	フロント ハイト 左 / 右	フロント ワイド 左 / 右	サブ ウーハー	モード (☞99 ページ)	シネマ EQ. (☞99 ページ)	DRC*2 (☞99 ページ)
DIRECT/PURE DIRECT(2 チャンネル)*1	○						◎*3			○
DIRECT/PURE DIRECT(マルチチャンネル)*1	○	◎	◎	◎*4	◎*4	◎*4	◎			○
STEREO	○						◎			○
MPEG2 AAC	○	◎	◎	◎	◎*5		◎		○*6	
MULTI CH IN	○	◎	◎	◎	◎*5		◎		○*6	
DOLBY PRO LOGIC IIz	○	◎	◎		◎		◎	○*7	○	○
DOLBY PRO LOGIC IIx	○	◎	◎	◎			◎	○	○*8	○
DOLBY PRO LOGIC II	○	◎	◎				◎	○	○*9	○
DOLBY PRO LOGIC	○	◎	◎				◎	○	○*9	○
DOLBY PRO LOGIC II A-DSX	○	◎	◎		◎*10	◎*11	◎	○	○*9	○
DOLBY PRO LOGIC A-DSX	○	◎	◎		◎*10	◎*11	◎	○	○*9	○
DTS NEO:6	○	◎	◎	◎			◎	○	○*8	○
DTS NEO:6 A-DSX	○	◎	◎		◎*10	◎*11	◎	○	○*8	○
Audyssey DSX™	○	◎	◎		◎*10	◎*11	◎		○	○
DOLBY DIGITAL	○	◎	◎	◎	◎*5		◎		○*6	
DOLBY DIGITAL Plus	○	◎	◎	◎	◎*5		◎		○*6	
DOLBY TrueHD	○	◎	◎	◎	◎*5		◎		○*6	○
DTS SURROUND	○	◎	◎	◎	◎*5		◎		○*6	
DTS 96/24	○	◎	◎	◎	◎*5		◎		○*6	
DTS-HD	○	◎	◎	◎	◎*5		◎		○*6	
DTS Express	○	◎	◎	◎	◎*5		◎		○*6	
MULTI CH STEREO	○	◎	◎	◎*12	◎*13	◎*14	◎			○
ROCK ARENA	○	◎	◎	◎*12	◎*13	◎*14	◎			○
JAZZ CLUB	○	◎	◎	◎*12	◎*13	◎*14	◎			○
MONO MOVIE	○	◎	◎	◎*12	◎*13	◎*14	◎			○
VIDEO GAME	○	◎	◎	◎*12	◎*13	◎*14	◎			○
MATRIX	○	◎	◎	◎*12	◎*13	◎*14	◎			○
VIRTUAL	○						◎			○

*1 PURE DIRECT モードで再生中、サラウンドパラメーターはDIRECT モードと同様になります。
*2 この項目は、Dolby TrueHD 信号を再生時に選択できます。
*3 メニューの"SW モード"設定 (☞110 ページ) が"LFE+ メイン"のときに、サブウーハーから音声を出力します。
*4 各チャンネルの入力信号が含まれる場合に音声を出力します。
*5 メニューの"サラウンドパラメーター"⇨"PLIIz Height"設定 (☞100 ページ) が"オン"のときに、フロントハイトスピーカーから音声を出力します。
*6 この項目は、メニューの"サラウンドパラメーター"⇨"サラウンドバック"設定 (☞100 ページ) が"PLIIx Music"以外のときに設定できます。
*7 このサラウンドモードを選択したときは、メニューの"サラウンドパラメーター"⇨"モード"設定 (☞99 ページ) が"Height"モードで固定になります。
*8 この項目は、メニューの"サラウンドパラメーター"⇨"モード"設定 (☞99 ページ) が"Cinema"のときに設定できます。
*9 この項目は、メニューの"サラウンドパラメーター"⇨"モード"設定 (☞99 ページ) が"Cinema"または"Pro Logic"のときに設定できます。
*10 メニューの"Audyssey DSX™"設定 (☞103 ページ) が"オン - ハイト -"のときに、フロントハイトスピーカーから音声を出力します。
*11 メニューの"Audyssey DSX™"設定 (☞103 ページ) が"オン - ワイド -"のときに、フロントワイドスピーカーから音声を出力します。
*12 メニューの"サラウンドパラメーター"⇨"スピーカー"設定 (☞101 ページ) が"サラウンドバック"のときに、サラウンドバック"スピーカーから音声を出力します。
*13 メニューの"サラウンドパラメーター"⇨"スピーカー"設定 (☞101 ページ) が"ハイト"のときに、フロントハイトスピーカーから音声を出力します。
*14 メニューの"サラウンドパラメーター"⇨"スピーカー"設定 (☞101 ページ) が"ワイド"のときに、フロントワイドスピーカーから音声を出力します。

サラウンドモード（☞53 ページ）	サラウンドパラメーター（☞99 ページ）										
	ダイナミックレンジ圧縮 ＊15（☞99 ページ）	LFE ＊16（☞99 ページ）	ディレイタイム（☞99 ページ）	エフェクトレベル（☞99 ページ）	ルームサイズ（☞100 ページ）	Height ゲイン ＊17（☞100 ページ）	PLIIz Height ＊18（☞100 ページ）	AFDM ＊16（☞100 ページ）	サラウンドバック（☞100 ページ）	スピーカー（☞101 ページ）	サブウーハー（☞101 ページ）
DIRECT/PURE DIRECT（2 チャンネル）＊1	○										○＊3
DIRECT/PURE DIRECT（マルチチャンネル）＊1	○	○									
STEREO	○	○									
MPEG2 AAC		○				○	○		○		
MULTI CH IN		○				○	○		○		
DOLBY PRO LOGIC IIz	○					○	○				
DOLBY PRO LOGIC IIx	○								○		
DOLBY PRO LOGIC II	○						○		○		
DOLBY PRO LOGIC	○						○		○		
DOLBY PRO LOGIC II A-DSX	○										
DOLBY PRO LOGIC A-DSX	○										
DTS NEO:6	○								○		
DTS NEO:6 A-DSX	○										
Audyssey DSX™	○	○					○				
DOLBY DIGITAL	○	○				○	○	○	○		
DOLBY DIGITAL Plus	○	○				○	○	○	○		
DOLBY TrueHD		○				○	○	○	○		
DTS SURROUND	○	○				○	○	○	○		
DTS 96/24	○	○				○	○	○	○		
DTS-HD	○	○				○	○	○	○		
DTS Express	○	○				○	○		○		
MULTI CH STEREO	○	○								○	
ROCK ARENA	○	○		○	○					○	
JAZZ CLUB	○	○		○	○					○	
MONO MOVIE	○	○		○	○					○	
VIDEO GAME	○	○		○	○					○	
MATRIX	○	○	○						○	○	
VIRTUAL	○	○									

＊1 PURE DIRECT モードで再生中、サラウンドパラメーターは DIRECT モードと同様になります。
＊3 メニューの"SW モード"設定（☞110 ページ）が"LFE+ メイン"のときに、サブウーハーから音声を出力します。
＊15 Dolby Digital または DTS 信号を再生時に選択できます。
＊16 この項目は、Dolby Digital、DTS または DVD オーディオを再生時に選択できます。.
＊17 この項目は、メニューの"サラウンドパラメーター"⇨"PLIIz Height"（☞100 ページ）が"オン"のときに選択できます。
＊18 メニューの"スピーカー構成"⇨"フロントハイト"設定（☞107 ページ）が"無し"のとき、この項目を選択できません。

サラウンドモード（☞53 ページ）	サラウンドパラメーター（☞99 ページ）				トーンコントロール *19（☞101 ページ）	Audyssey 設定 *20（☞102 ページ）			Audyssey DSX™ *20（☞103 ページ）	RESTORER *23（☞104 ページ）
	PRO LOGIC II/IIx Music モードのみ			NEO:6 Music モードのみ						
	パノラマ（☞99 ページ）	ディメンション（☞99 ページ）	センター幅（☞99 ページ）	センターイメージ（☞99 ページ）		MultEQ® XT（☞102 ページ）	Dynamic EQ® *21（☞102 ページ）	Dynamic Volume® *22（☞102 ページ）		
DIRECT/PURE DIRECT（2 チャンネル）*1										
DIRECT/PURE DIRECT（マルチチャンネル）*1										
STEREO					○	○	○	○		○
MPEG2 AAC					○	○	○	○	○	
MULTI CH IN					○	○	○	○	○	
DOLBY PRO LOGIC IIz					○	○	○	○		○
DOLBY PRO LOGIC IIx	○	○	○		○	○	○	○	○	○
DOLBY PRO LOGIC II	○	○	○		○	○	○	○	○	○
DOLBY PRO LOGIC	○	○	○		○	○	○	○	○	○
DOLBY PRO LOGIC II A-DSX	○	○	○		○	○	○	○	○	○
DOLBY PRO LOGIC A-DSX	○	○	○		○	○	○	○	○	○
DTS NEO:6				○	○	○	○	○	○	○
DTS NEO:6 A-DSX				○	○	○	○	○	○	○
Audyssey DSX™					○	○	○	○	○	
DOLBY DIGITAL					○	○	○	○	○	
DOLBY DIGITAL Plus					○	○	○	○	○	
DOLBY TrueHD					○	○	○	○	○	
DTS SURROUND					○	○	○	○	○	
DTS 96/24					○	○	○	○	○	
DTS-HD					○	○	○	○	○	
DTS Express					○	○	○	○	○	
MULTI CH STEREO					○	○	○	○		○
ROCK ARENA					○*24	○	○	○		○
JAZZ CLUB					○	○	○	○		○
MONO MOVIE					○	○	○	○		○
VIDEO GAME					○	○	○	○		○
MATRIX					○	○	○	○		○
VIRTUAL					○	○	○	○		○

*1 PURE DIRECT モードで再生中、サラウンドパラメーターは DIRECT モードと同様になります。
*19 メニューの“Dynamic EQ®”設定（☞102 ページ）が“オン”のとき、この項目を設定できません。
*20 入力信号のサンプリング周波数が 96kHz を超過する HD Audio の場合、このサラウンドパラメーターを設定できません。
*21 メニューの“MultEQ® XT”設定（☞102 ページ）が“オフ”または“マニュアル”のとき、この項目を設定できません。
*22 メニューの“Dynamic EQ®”設定（☞102 ページ）が“オフ”のとき、この項目を設定できません。
*23 この項目は、入力信号がアナログ、PCM 48kHz または 44.1kHz のときに設定できます。
*24 このモードのときは、低音が +6dB、高音が +4dB になります。（お買い上げ時の設定）

❑入力信号の種類と対応するサラウンドモード

この表は、各サラウンドモードのときに再生できる入力信号を示したものです。入力するソースの音声信号をご確認の上、サラウンドモードを選んでください。

表の中の記号について

● お買い上げ時に設定されているサラウンドモードを示します。
◎ メニューの“サラウンドパラメーター”⇨“AFDM”設定(☞100ページ)が“オン”のときに、固定するサラウンドモードを示します。
○ 選択できるサラウンドモードを示します。

サラウンドモード (☞53 ページ)	注意	入力信号の種類とフォーマット																		
			PCM		DTS-HD		DTS					DOLBY		DOLBY DIGITAL				MPEG-2 AAC		
		ANALOG	PCM (マルチチャンネル)	PCM (2 チャンネル)	DTS-HD Master Audio	DTS-HD High Resolution Audio	DTS EXPRESS	DTS ES DSCRT (フラグあり)	DTS ES MTRX (フラグあり)	DTS (5.1 チャンネル)	DTS 96/24	DOLBY TrueHD	DOLBY DIGITAL Plus	DOLBY DIGITAL EX (フラグあり)	DOLBY DIGITAL EX (フラグなし)	DOLBY DIGITAL (5.1/5/4/3 チャンネル)	DOLBY DIGITAL (2 チャンネル)	AAC (5.1 チャンネル)	AAC (2 チャンネル)	AAC (1+1 チャンネル)
DTS SURROUND																				
DTS-HD MSTR	＊1				●															
DTS-HD HI RES	＊1					●														
DTS ES DSCRT6.1	＊2＊3							●												
DTS ES MTRX6.1	＊2＊3								●◎											
DTS SURROUND	＊1							○	○	●										
DTS 96/24	＊1										●									
DTS (–HD) + PLIIx CINEMA	＊2＊4				○	○	○		○	○	○									
DTS (–HD) + PLIIx MUSIC	＊2＊3				○	○	○		○	○	○									
DTS (–HD) + PLIIz	＊2＊5				○	○	○	○	○	○	○									
DTS EXPRESS	＊1						●													
DTS (–HD) + NEO:6	＊2＊3				○	○	○		○	○	○									
DTS NEO:6 CINEMA	＊1	○		○													○		○	
DTS NEO:6 MUSIC	＊1	○		○													○		○	
DTS NEO:6 CINEMA A-DSX		○		○													○		○	
DTS NEO:6 MUSIC A-DSX		○		○													○		○	
Audyssey DSX™					○	○	○	○	○	○	○									

＊1 メニューの“Audyssey DSX™”(☞103 ページ)を“オン”に設定しているときも同様になります。
＊2 このサラウンドモードは、メニューの“アンプの割り当て”設定(☞106 ページ)が“NORMAL”のときに選択できます。
＊3 メニューの“スピーカー構成”⇨“S. バック”設定(☞106 ページ)が“無し”のとき、このサラウンドモードを選択できません。
＊4 メニューの“スピーカー構成”⇨“S. バック”設定(☞106 ページ)が“1 台”または“無し”のとき、このサラウンドモードを選択できません。
＊5 メニューの“スピーカー構成”⇨“フロントハイト”設定(☞107 ページ)が“無し”のとき、このサラウンドモードを選択できません。

サラウンドモード（☞53 ページ）	注意	入力信号の種類とフォーマット																		
		ANALOG	PCM		DTS-HD		DTS					DOLBY		DOLBY DIGITAL				MPEG-2 AAC		
			PCM（マルチチャンネル）	PCM（2 チャンネル）	DTS-HD Master Audio	DTS-HD High Resolution Audio	DTS EXPRESS	DTS ES DSCRT（フラグあり）	DTS ES MTRX（フラグあり）	DTS（5.1 チャンネル）	DTS 96/24	DOLBY TrueHD	DOLBY DIGITAL Plus	DOLBY DIGITAL EX（フラグあり）	DOLBY DIGITAL EX（フラグなし）	DOLBY DIGITAL（5.1/5/4/3 チャンネル）	DOLBY DIGITAL（2 チャンネル）	AAC（5.1 チャンネル）	AAC（2 チャンネル）	AAC（1+1 チャンネル）
DOLBY SURROUND																				
DOLBY TrueHD	∗1											●								
DOLBY DIGITAL+	∗1												●							
DOLBY DIGITAL EX	∗2∗3													○	○	○				
DOLBY (D+) (HD) +EX	∗2∗3											○	○							
DOLBY DIGITAL	∗1													○	●	●				
DOLBY (D) (D+) (HD) +PLIIx CINEMA	∗2∗4											○	○	●◎	○	○				
DOLBY (D) (D+) (HD) +PLIIx MUSIC	∗2∗3											○	○	○	○	○				
DOLBY (D) (D+) (HD) +PLIIz	∗5											○	○	○	○	○				
DOLBY PRO LOGIC IIx CINEMA	∗2∗3	○		○													○		○	
DOLBY PRO LOGIC IIx MUSIC	∗2∗3	○		○													○		○	
DOLBY PRO LOGIC IIx GAME	∗2∗3	○		○													○		○	
DOLBY PRO LOGIC IIz	∗2∗5	○		○													○		○	
DOLBY PRO LOGIC II CINEMA	∗1	○		○													○		○	
DOLBY PRO LOGIC II MUSIC	∗1	○		○													○		○	
DOLBY PRO LOGIC II GAME	∗1	○		○													○		○	
DOLBY PRO LOGIC	∗1	○		○													○		○	
DOLBY PRO LOGIC II CINEMA A-DSX		○		○													○		○	
DOLBY PRO LOGIC II MUSIC A-DSX		○		○													○		○	
DOLBY PRO LOGIC II GAME A-DSX		○		○													○		○	
DOLBY PRO LOGIC A-DSX		○		○													○		○	
Audyssey DSX™												○	○	○	○	○				

∗1　メニューの“Audyssey DSX™”(☞103 ページ）を“オン”に設定しているときも同様になります。
∗2　このサラウンドモードは、メニューの“アンプの割り当て”設定(☞106 ページ)が“NORMAL”のときに選択できます。
∗3　メニューの“スピーカー構成”⇨“S. バック”設定(☞106 ページ)が“無し”のとき、このサラウンドモードを選択できません。
∗4　メニューの“スピーカー構成”⇨“S. バック”設定(☞106 ページ)が“1 台”または“無し”のとき、このサラウンドモードを選択できません。
∗5　メニューの“スピーカー構成”⇨“フロントハイト”設定(☞107 ページ)が“無し”のとき、このサラウンドモードを選択できません。

サラウンドモード (☞53 ページ)	注意	入力信号の種類とフォーマット																		
			PCM		DTS-HD		DTS					DOLBY		DOLBY DIGITAL				MPEG-2 AAC		
		ANALOG	PCM (マルチチャンネル)	PCM (2 チャンネル)	DTS-HD Master Audio	DTS-HD High Resolution Audio	DTS EXPRESS	DTS ES DSCRT (フラグあり)	DTS ES MTRX (フラグあり)	DTS (5.1 チャンネル)	DTS 96/24	DOLBY TrueHD	DOLBY DIGITAL Plus	DOLBY DIGITAL EX (フラグあり)	DOLBY DIGITAL EX (フラグなし)	DOLBY DIGITAL (5.1/5/4/3 チャンネル)	DOLBY DIGITAL (2 チャンネル)	AAC (5.1 チャンネル)	AAC (2 チャンネル)	AAC (1+1 チャンネル)
MULTI CH IN																				
MULTI CH IN	＊1		●																	
MULTI CH IN + PLIIx CINEMA	＊2＊4		○																	
MULTI CH IN + PLIIx MUSIC	＊2＊3		○																	
MULTI CH IN + PLIIz	＊2＊5		○																	
MULTI CH IN + Dolby EX	＊2＊3		○																	
MULTI CH IN 7.1	＊2＊3		● (7.1)																	
Audyssey DSX™			○																	
MPEG2 AAC																				
AAC + DOLBY EX																		○		
AAC + PLIIx CINEMA																		○		
AAC + PLIIx MUSIC																		○		
AAC + PLIIz																		○		
MPEG2 AAC																		●		●
Audyssey DSX™																		○		
DIRECT																				
DIRECT		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			
PURE DIRECT																				
PURE DIRECT		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
DSP SIMULATION																				
MULTI CH STEREO		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ROCK ARENA		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
JAZZ CLUB		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
MONO MOVIE		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
VIDEO GAME		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
MATRIX		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
VIRTUAL		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
STEREO																				
STEREO		●	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

＊1 メニューの"Audyssey DSX™"(☞103 ページ) を"オン"に設定しているときも同様になります。
＊2 このサラウンドモードは、メニューの"アンプの割り当て"設定(☞106 ページ)が"NORMAL"のときに選択できます。
＊3 メニューの"スピーカー構成"⇨"S. バック"設定(☞106 ページ)が"無し"のとき、このサラウンドモードを選択できません。
＊4 メニューの"スピーカー構成"⇨"S. バック"設定(☞106 ページ)が"1 台"または"無し"のとき、このサラウンドモードを選択できません。
＊5 メニューの"スピーカー構成"⇨"フロントハイト"設定(☞107 ページ)が"無し"のとき、このサラウンドモードを選択できません。

映像信号とモニター出力の関係

ビデオコンバート	入力端子				メインゾーンモニター出力 出力端子			メニュー表示		
	HDMI	D	S-VIDEO	VIDEO	HDMI	D	VIDEO	HDMI	D	VIDEO
オン / オフ	×	×	×	×	×	×	×	メニュー表示のみ		
オン	×	×	×	○	○ <VIDEO>	○ <VIDEO>	○ <VIDEO>	○ (VIDEO)	○ (VIDEO)	○ (VIDEO)
オン	×	×	○	×	○ <S-VIDEO>	○ <S-VIDEO>	○ <S-VIDEO>	○ (S-VIDEO)	○ (S-VIDEO)	○ (S-VIDEO)
オン	×	×	○	○						
オン	×	○ (1080p)	×	×	○ <D>	○ <D>	×	○ (D)	× (D) ＊2	× ＊2
オン	×	○ (1080i ～ 480p)	×	×					○ (D)	×
オン	×	○ (480i/576i)	×	×			○ <D>			○ (D)
オン	×	○ (1080p)	×	○			○ <VIDEO>		× (D)	× (VIDEO)
オン ＊1	×	○ (1080p)	×	○	–			–	○ (VIDEO)	○ (VIDEO)
オン	×	○ (1080i ～ 480p)	×	○	○ <D>			○ (D)	○ (D)	× (VIDEO)
オン	×	○ (480i/576i)	×	○			○ <D>			○ (D)
オン	×	○ (1080p)	○	×			○ <S-VIDEO>		× (D)	× (S-VIDEO)
オン ＊1	×	○ (1080p)	○	×	–			–	○ (S-VIDEO)	○ (S-VIDEO)
オン	×	○ (1080i ～ 480p)	○	×	○ <D>			○ (D)	○ (D)	× (S-VIDEO)
オン	×	○ (480i/576i)	○	×			○ <D>			○ (D)
オン	×	○ (1080p)	○	○			○ <S-VIDEO>		× (D)	× (S-VIDEO)
オン ＊1	×	○ (1080p)	○	○	–			–	○ (S-VIDEO)	○ (S-VIDEO)
オン	×	○ (1080i ～ 480p)	○	○	○ <D>			○ (D)	○ (D)	× (S-VIDEO)
オン	×	○ (480i/576i)	○	○			○ <D>			○ (D)
オン	○	×	×	×	○ <HDMI>	×	×	○ (HDMI)	× ＊2	× ＊2
オン	○	×	×	○			○ <VIDEO>			× (VIDEO) ＊2
オン	○	×	○	×			○ <S-VIDEO>			× (S-VIDEO) ＊2
オン	○	×	○	○						
オン	○	○	×	×		○ <D>	×		× (D) ＊2	× ＊2
オン	○	○	×	○			○ <VIDEO>			× (VIDEO) ＊2
オン	○	○	○	×			○ <S-VIDEO>			× (S-VIDEO) ＊2
オン	○	○	○	○						
オフ	×	×	×	○	×	×	○ <VIDEO>	メニュー表示のみ		
オフ	×	×	○	×			○ <S-VIDEO>			
オフ	×	×	○	○						
オフ	×	○	×	×		○ <D>	×			
オフ	×	○	×	○			○ <VIDEO>			
オフ	×	○	○	×			○ <S-VIDEO>			
オフ	×	○	○	○						
オフ	○	×	×	×	○ <HDMI>	×	×			
オフ	○	×	×	○			○ <VIDEO>			
オフ	○	×	○	×			○ <S-VIDEO>			
オフ	○	×	○	○						
オフ	○	○	×	×		○ <D>	×			
オフ	○	○	×	○			○ <VIDEO>			
オフ	○	○	○	×			○ <S-VIDEO>			
オフ	○	○	○	○						

○：映像入力あり
×：映像入力なし
＊1　HDMI モニターが接続されていないか、HDMI モニターの電源が入っていないとき

○＜＞：＜＞の中の入力信号を出力します。
×　：映像出力なし

○ ( )：( ) 内の映像にスーパーインポーズ
× ( )：( ) 内の映像のみ出力
×　映像、メニューともに出力なし
＊2　HDMI モニターが接続されていないか、HDMI モニターの電源が入っていないときに、メニューのみ表示します。

次のページへ

ゾーン 2 モニター出力		
入力端子		出力端子
S-VIDEO	VIDEO	VIDEO
×	×	×
×	○	○ <VIDEO>
○	×	○ <S-VIDEO>
○	○	○ <S-VIDEO>

○ < > : < > の中の入力信号を出力します。
× : 映像出力なし

ビデオコンバージョン機能は、NTSC、PAL、SECAM、NTSC4.43、PAL-N、PAL-M および PAL-60 のフォーマットに準拠しています。

ご注意

- コンピューター解像度（例：VGA）の映像または一部の 3D ビデオコンテンツの再生中は、状態表示画面を表示できません。
- コンピューター解像度（例：VGA）の映像または一部の 3D ビデオコンテンツを再生中にメニューを操作すると、再生映像はメニュー画面の映像に切り替わります。

次のページへ

映像信号解像度変換表

メニューの"ビデオコンバート"(☞94 ページ)を"オン"、"i/p スケーラー"(☞94 ページ)を"アナログ"、"アナログ &HDMI"または"HDMI"に設定した場合は、入力された映像信号の解像度を別の解像度に変換して出力することができます(☞8 ページ「入力された映像信号を変換して出力する(ビデオコンバージョン機能)」)。
変換可能な映像信号の解像度と HDMI 出力解像度の関係は次表のとおりです。

	出力解像度 / 入力解像度	HDMI 出力					
		480i/576i＊1	480p/576p	1080i	720p	1080p	1080p 24Hz
ビデオ /S ビデオ入力	NTSC/NTSC4.43/PAL-M/PAL-60	○(480i)	○(480p)	○	○	○	○
	PAL/PAL-N/SECAM	○(576i)	○(576p)	○	○	○	–
コンポーネントビデオ(D)入力	480i	○(480i)	○(480p)	○	○	○	○
	480p	–	○(480p)	○	○	○	○
	1080i 60Hz	–	–	○	○	○	○
	720p 60Hz	–	–	○	○	○	○
	1080p 60Hz	–	–	–	–	○	○
HDMI 入力	480i	○(480i)	○(480p)	○	○	○	○
	480p	–	○(480p)	○	○	○	○
	1080i 60Hz	–	–	○	○	○	○
	720p 60Hz	–	–	○	○	○	○
	1080p 24Hz	–	–	–	–	○＊2	○＊3
	1080p 60Hz	–	–	–	–	○	○

○　メニューの"解像度"(☞94 ページ)で設定された解像度で出力します。
( )　( )内の解像度で出力します。
–　入力された映像信号の解像度と同じ解像度で出力します。
＊1　メニューの"i/p スケーラー"が"オフ"(☞94 ページ)のときのみ出力します。
＊2　メニューの"解像度"(☞94 ページ)を"オート"に設定し、1080p 24Hz の映像信号に対応していないテレビを接続している場合
＊3　メニューの"解像度"(☞94 ページ)を"オート"に設定し、1080p 24Hz の映像信号に対応しているテレビを接続している場合

ご注意

- ビデオ / コンポーネントビデオ(D)出力には、入力された映像信号の解像度と同じ解像度で出力します。
- HDMI に入力される、3D ビデオ信号、コンピューター解像度、"x.v.Color"、sYCC601 color、Adobe RGB color や Adobe YCC601 color の映像信号は、入力された映像信号の解像度と同じ解像度で出力します。
- メニューの"ビデオモード"(☞93 ページ)を"ゲーム"に設定している場合、または"オート"に設定しゲームコンテンツを再生している場合は、入力された映像信号の解像度と同じ解像度で出力します。
- メニューの"解像度"(☞94 ページ)を"オート"に設定している場合、HDMI 出力端子に接続しているテレビのパネル画素数を自動的に検出し、上表に従い適切な解像度で出力します。

用語の解説

A

Adobe RGB color/Adobe YCC601 color
x.v.Color 同様、これらのカラースペースは、従来の RGB よりも広い色空間を定義します。

AirPlay
iTunes または iPhone/iPod touch/iPad に収録されているコンテンツを、ネットワーク経由で対応する機器に転送（再生）する機能です。

AL24 Processing Plus
AL24 Processing Plus は、DVD 規格の最高スペックであるサンプリング周波数 192kHz にも対応するアナログ波形再現技術で、その音が自然界に存在したはずのアナログ波形に近付け、ホールに吸込まれるような残響音などの小音量時の音楽再生能力を高めます。
本機では、全チャンネルに採用しています。

App Store
アップル社が運営している iPhone や iPod touch 向けのアプリケーションソフトの販売サイトです。

Audyssey Dynamic Surround Expansion™ (Audyssey DSX)
臨場感のあるサラウンドシステムの構築はオーディオシステムがどのように人間の聴覚特性に適した環境を再現するかという再現能力に依存しています。現在考えられる３つの重要な要素は（1）周波数特性、（2）ダイナミックレンジ、（3）正確な空間の再現があげられます。（1）周波数特性については既に人間の聴覚特性を超えているような高いサンプリングレート（96kHz や 192kHz など）で実現されており、（2）のダイナミックレンジについても 120dB に達するような信号レベルを再生させるオーディオシステムで実現されています。しかし、（3）正確な空間の再現については既存の 5.1ch システムによって実現している環境では人間の聴覚特性の限界にはまだ到達しておらず、リスナーはまだまだ多くのオーディオ信号の指向性を感じることが可能です。
Audyssey DSX™ はこれまでの 5.1ch サラウンドフォーマットで限界だと思われていた空間再現能力の限界を打ち破るべく開発されました。ITU による 5.1ch 規格では 3 つのフロントスピーカーと 2 つのリアスピーカーの設置を推奨しています。フロント（L/R）スピーカーはそれぞれ視聴ポイントから見て± 30°の位置に、センター（C）スピーカーは± 0°の位置に、サラウンド（LS/RS）スピーカーはリスニングポイントから見て± 100 ～ 120°の間に設置されることが推奨されています。このようなすべてのスピーカーはリスニングポイントから等距離に配置されるか、もし等距離が不可能な場合はタイムディレイ（時間遅延）によって相殺されるような配置に設置されなければならないとされています。また低周波数帯域に対する効果（LFE）は低域成分を再現するチャンネルとしてサブウーハーが使用されます。
2ch のステレオシステムと比較すると 5.1ch のサラウンドシステムでは確実にサラウンド環境は高まります。例えば前方を流れるように行き来するような信号やリスナーの背面に対する効果音などを作り出すことにおいて十分効果を生み出しています。しかし 5.1ch システムはリスナーを違和感なく包み込むような音場・サラウンド空間を作り出す為に必要とされる反射信号を生み出すには不十分なシステムです。残念ながら既に利用されているサラウンドバックを追加したような 7.1ch のシステムは正しい位置にスピーカーが配置されておらず、サラウンド空間を聴覚特性を生かした上で十分に向上させているシステムとは言えません。
Audyssey DSX™ がチャンネルを追加すると言っても特別なエフェクトや疑似的効果をかけるようなものではありません。正確な臨場感のあるサラウンド空間の構築には直接耳に入る音声信号の流れと間接的に耳に入る信号の流れの２つが必要となります。壁などへの反射を経由して耳に届く音声信号は、直接耳に入った後に伝達しサラウンド空間に広さと奥行きを実現する為に非常に重要な役割を担っています。また、5.1ch が作り出すサラウンド空間・効果よりも更に大きな効果を生み出す為には、追加されたサラウンドチャンネルが耳に入る際のオーディオ信号の流れや耳への信号到達時間、正確な周波数特性の制御が重要です。
横（ワイド）方向のオーディオ信号源に対する聴覚特性の研究において、サラウンド空間の横（ワイド）方向への広がりやサラウンド空間そのものに広がりを認知する力と反射信号には強いつながりがあることが分かっており、最も重要な信号は± 60°で横の壁などから作りだされる反射信号です。Audyssey DSX™ はこの± 60°の場所にワイドチャンネル（LW/RW）を作り出し、リスニングに必要とされる正しい聴覚特性への補正と周波数補正を併せ持ちます。事実として、このワイドチャンネルはより臨場感のあるサラウンド空間を実現する上で 7.1ch システムの持つサラウンドバックチャンネルよりも非常に重要な要素です。
包み込まれるようなサラウンド空間を作るためには 7.1ch システムではサラウンドバックの代わりにワイドチャンネルを使用したシステムの方がはるかに効果的です。サラウンド空間を作る上では、リスナーの背面にサラウンドチャンネルを追加することによる効果は、ワイドチャンネルによって生み出される効果よりもずっと小さなものです。
この横方向からの信号の次に重要な要素は前方の上方向（高さ方向）から届く聴覚信号です。Audyssey DSX™ はリスニングポイントから水平方向± 45°の位置で、さらに垂直方向に 45°の角度をつけたハイトチャンネル（LH/RH）を作り出します。
また、Audyssey DSX™ は今まで述べた最適なサラウンド空間を作り出す際に既存のサラウンドに対しても効果を高める“サラウンドプロセッシング”をおこないます。Audyssey DSX™ の“サラウンドプロセッシング”はサラウンドシステムで使用されるそれぞれのスピーカーの関連性や、サラウンド空間に対する聴覚特性を高める為、周波数特性・タイムドメイン（時間軸）の観点から補正をおこなう処理です。Audyssey DSX™ はユーザーが本当に求める今までにないサラウンド環境を生み出す新しい技術です。
まとめとして、サラウンド空間・環境をより高める為には 1 番重要な点はワイドチャンネルを追加することであり、次にハイトチャンネルを追加することです。ワイドチャンネル・ハイトチャンネルそれぞれを追加することが実現可能であればサラウンド空間は今までに感じたことのないくらい高められます。Audyssey DSX™ は 5.1ch 以上のシステムを作ることができるスピーカーシステムをお持ちであれば今まで以上のサラウンド空間を作り出すことが可能です。

Audyssey Dynamic EQ®
Audyssey Dynamic EQ® は、人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、音量レベルを下げた際に発生する音質の低下を防ぐ技術です。Dynamic EQ® は、Audyssey MultEQ® XT 技術と連動することによりすべての音量レベルに対して最適なバランスの音質をすべてのリスナーに提供します。

Audyssey Dynamic Volume®
Audyssey Dynamic Volume® は、テレビや映画など再生されるコンテンツ内における音量レベルの変化（静かな音のシーンと大きな音のシーンの間など）をユーザーの好みの音量設定値に自動的に調節する技術です。
また、Audyssey Dynamic Volume® は、Audyssey Dynamic EQ® の技術をアルゴリズムの中に取り込むことにより音量レベルの調節時やテレビチャンネルの切り替え時、ステレオコンテンツからサラウンドコンテンツなどの切り替え時でも低域特性や音質バランス、サラウンド効果、ダイアログの明瞭さを保っています。

Audyssey MultEQ® XT
Audyssey MultEQ® XT は、広いリスニングエリア内のどのリスナーにも最適なリスニング環境を提供する補正技術です。
Audyssey MultEQ® XT は、複数位置での測定に基づいて、時間特性と周波数特性の双方を補正すると共に、全自動でサラウンドシステムセットアップを実行します。

D

Deep Color
従来の 8 ビットの色数を超える色調表現が可能な技術で、色縞のない、より自然に近い色を再現することができます。

DLNA
DLNA および DLNA CERTIFIED は Digital Living Network Alliance の商標 / サービスマークです。コンテンツには DLNA CERTIFIED™ 製品と適合しないものがある可能性があります。

Dolby Digital
Dolby Digital は、ドルビーラボラトリーズにより開発されたマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。
再生チャンネルは、フロント 3 チャンネル(FL、FR、C)とサラウンド 2 チャンネル(SL、SR)、低音域専用の LFE チャンネルの合計 5.1 チャンネルで構成されています。
このため、チャンネル間のクロストークもなく、音の遠近感、移動感、定位感など立体感のある音場をリアルに再現することができます。AV ルームでの映画ソフト再生においても、リアルで圧倒的な臨場感を生み出します。

Dolby Digital EX
Dolby Digital EX は、ドルビー研究所とルーカスフィルム社が共同で開発した音響フォーマット“DOLBY DIGITAL SURROUND EX”を、家庭で楽しむためにドルビー研究所が提案した6.1 チャンネルのサラウンドフォーマットです。
サラウンドバックチャンネルを含めた6.1 チャンネルでの音場再生により、空間表現力、定位感が向上します。

Dolby Digital Plus
Dolby Digital Plus は、Dolby Digital を改良した信号フォーマットで、最大 7.1 チャンネルのデジタルディスクリート音声対応とともに、データビットレートに余裕を持たせることにより音質の向上が図られています。従来の Dolby Digital に対して上位互換であるため、ソース信号や再生機器の状況に応じて、より柔軟性の高い運用が可能となっています。

Dolby TrueHD
Dolby TrueHD は、ドルビーラボラトリーズの高精細音声技術で、ロスレス符号化技術を用いることによりマスター音声の忠実な再現を可能としています。
このフォーマットはサンプリング周波数 96kHz/24bit では最大 8 チャンネル、サンプリング周波数 192kHz/24bit では最大 6 チャンネルの音声に対応しており、特に音質を重視したアプリケーションに採用されています。

Dolby Pro Logic II
Dolby Pro Logic II は、ドルビーラボラトリーズにより開発されたマトリクスデコード技術です。
CD のような通常の音楽は 5 チャンネルの信号にエンコードし、優れた立体音域効果を発揮します。
サラウンドチャンネルはステレオ化、フルバンド化(周波数特性 20Hz～20kHz 以上)し、あらゆるステレオ音源を臨場感豊かな立体音像でお楽しみいただけます。

Dolby Pro Logic IIx
Dolby Pro Logic IIx は、Dolby Pro Logic II をさらに改良したマトリクスデコード技術です。
2 チャンネルで記録された音声をデコードし、自然な最大 7.1 チャンネルの音声を再生できます。
音楽再生に適した“Music”モードと映画再生に適した“Cinema”モード、ゲームをお楽しみになるときに最適な“Game”モードがあります。

Dolby Pro Logic IIz
Dolby Pro Logic IIz は、ソースに収録されている高いところで鳴っている「空間的な手がかり」を持った音響成分から、フロント・ハイトチャンネル信号を生成し出力するデコード技術です。2 チャンネルソースや 7.1/5.1 マルチチャンネルソースなどのあらゆるソースに対応します。
リスニング空間の前方上の左右にハイトスピーカーを加えることで、映画 / 音楽 / ゲームなどの再生により一層の空間の広がり感や奥行き感をお楽しみいただけます。
フロントハイトスピーカーは本棚などに設置できますので、サラウンドバックスピーカーのようにフロアスペースを使わずに、より簡単に理想的なサラウンド環境をつくることができます。

DTS
Digital Theater System の略で、DTS 社が開発した、デジタル音声システムです。DTS 対応アンプなどと接続して再生すると、映画館のような正確な音場定位と臨場感のある音響効果が得られます。

DTS 96/24
DTS 96/24 は、DVD-Video 上でサンプリング周波数 96kHz/ 量子化ビット数 24bit の高音質再生を可能としたデジタル音声フォーマットです。チャンネル数は 5.1 チャンネルとなります。

DTS Digital Surround
DTS™ Digital Surround は、DTS 社の標準デジタルサラウンドフォーマットで、サンプリング周波数が 44.1kHz または 48kHz、再生チャンネル数が最大 5.1 チャンネルのデジタルディスクリートサラウンド音声フォーマットです。

DTS-ES™ Discrete 6.1
DTS-ES™ Discrete 6.1 は、DTS デジタルサラウンド音声に加えて SB チャンネルを追加した 6.1 チャンネルのデジタルディスクリート音声フォーマットです。デコーダーに応じて従来の 5.1 チャンネル音声としてデコードすることも可能です。

DTS-ES™ Matrix 6.1
DTS-ES™ Matrix 6.1 は、DTS デジタルサラウンド音声に SB チャンネルをマトリクスエンコードにて挿入した 6.1 チャンネル音声フォーマットです。デコーダーに応じて従来の 5.1 チャンネル音声としてデコードすることも可能です。

DTS Express
DTS Express は、最大 5.1 チャンネルの 24kbps～256kbps までのロービットレートをサポートする音声フォーマットです。

DTS-HD
ブルーレイディスクのオプション音声として採用された、従来の DTS をさらに高音質・高機能化したデジタル音声技術です。多チャンネル、高データ転送速度、高サンプリング周波数や、ロスレス・オーディオ再生をサポートしています。ブルーレイディスクでは、最大 7.1 チャンネルまで対応しています。

DTS-HD High Resolution Audio
DTS-HD High Resolution Audio は、従来の DTS、DTS-ES、DTS96/24 フォーマットを改良した信号フォーマットで、サンプリング周波数の 96kHz/48kHz 対応に加えて最大 7.1 チャンネルのデジタルディスクリート音声に対応しています。余裕あるデータビットレートによって高音質化を図るとともに、従来の DTS デジタルサラウンド 5.1 チャンネルのデータも含むため従来製品との完全な互換性を有しています。

DTS-HD Master Audio
DTS-HD Master Audio は、DTS 社のロスレス音声フォーマットで、サンプリング周波数 96kHz/24bit では最大 8 チャンネル、サンプリング周波数 192kHz/24bit では最大 6 チャンネルに対応しています。また、従来の DTS デジタルサラウンド 5.1 チャンネルのデータも含むため従来製品との完全な互換性を有しています。

DTS NEO:6™ Surround

DTS NEO:6™ は、2 チャンネルソースを 6.1 チャンネルのサラウンド再生するマトリクスデコード技術です。映画再生に適した“DTSNEO:6 Cinema”と、音楽再生に適した“DTS NEO:6 Music”があります。

F

FLAC

可逆圧縮方式のフリーの音声ファイルフォーマットです。可逆圧縮のため、原音からの音質の劣化がありません。
FLAC のライセンスについては、次のとおりです。

H

HDCP

機器間でデジタル信号を送受信する際に、信号を暗号化し、コンテンツが不正にコピーされるのを防止する著作権保護技術の 1 つです。

HDMI

High-Definition Multimedia Interface の略で、テレビやアンプなどと接続できる AV 用のデジタルインターフェースです。映像信号と音声信号を 1 本のケーブルで接続できます。

I

iTunes

アップル社が提供しているマルチメディアプレーヤーの名称です。
音楽をはじめとしてビデオなどのコンテンツを管理・再生することができます。AAC をはじめとして WAV や MP3 など主要なファイル形式に対応しています。

L

LFE

Low Frequency Effect の略で、低音部の効果音を強調するための出力チャンネルです。20Hz～120Hz の重低音を出力することで、サラウンド音声に迫力を加えることができます。

M

MP3 (MPEG Audio Layer-3)

音声データ圧縮方式の 1 つで、国際的な標準規格です。映像圧縮方式の「MPEG-1」に採用されています。音楽 CD 並の音質を保ったままデータ量を約 1/11 に圧縮できます。

MPEG (Moving Picture Experts Group)、MPEG-2、MPEG-4

デジタル圧縮形式として映像や音声を符号化するために使用される規格群の名前です。ビデオの規格には、「MPEG-1 Video」、「MPEG-2 Video」、「MPEG-4 Visual」、「MPEG-4 AVC」などがあります。音声の規格には、「MPEG-1 Audio」、「MPEG-2 Audio」、「MPEG-4 AAC」などがあります。

MPEG-2 AAC

MPEG-2 AAC（Advanced Audio Coding）は、MPEG（Moving Picture Experts Group）により開発されたマルチチャンネル音声フォーマットです。
高音質・高圧縮率を確保できることが特長です。MPEG-2 AAC により地上デジタル放送や BS デジタル放送などで配信される高音質音楽番組やマルチチャンネル音声の映画など、臨場感あふれるサラウンド再生が楽しめます。

【米国におけるパテントナンバー】

08/937,950	5,579,430	5,299,238
5848391	08/678,666	5,299,239
5,291,557	98/03037	5,299,240
5,451,954	97/02875	5,197,087
5 400 433	97/02874	5,490,170
5,222,189	98/03036	5,264,846
5,357,594	5,227,788	5,268,685
5 752 225	5,285,498	5,375,189
5,394,473	5,481,614	5,581,654
5,583,962	5,592,584	05-183,988
5,274,740	5,781,888	5,548,574
5,633,981	08/039,478	08/506,729
5 297 236	08/211,547	08/576,495
4,914,701	5,703,999	5,717,821
5,235,671	08/557,046	08/392,756
07/640,550	08/894,844	

S

sYCC601 color

x.v.Color 同様、これらのカラースペースは、従来の RGB よりも広い色空間を定義します。

V

vTuner

インターネットラジオの有料オンラインコンテンツサービスです。
本サービスに関するお問い合わせは、下記 vTuner のサイトまでお願い致します。
vTuner ホームページ：
http://www.radiodenon.com

本製品は、Nothing Else Matters Software and BridgeCo の知的財産権により保護されています。当該技術の本製品以外での使用または配布は、Nothing Else MattersSoftwareand BridgeCo の許諾がない限り禁止されています。

W

Windows Media DRM

マイクロソフト社が開発した著作権保護技術です。
コンテンツプロバイダは、自らのコンテンツ（“セキュアコンテンツ”）の完全性を保護するために、本デバイス（“WMDRM”）に内蔵された Windows Media 用デジタル権管理技術を使用し、当該コンテンツに対する自らの知的財産権（著作権を含む）が悪用されないようにしています。
本デバイスは、セキュアコンテンツを再生するため、WMDRM ソフトウェア（“WM-DRM ソフトウェア”）を使用しています。本デバイス内の WM-DRM ソフトウェアのセキュリティがあやうくなった場合、セキュアコンテンツの所有者（“セキュアコンテンツオーナー”）は、マイクロソフト社が、セキュアコンテンツをコピー・表示・再生する新たなライセンスを得る WM-DRM ソフトウェアの権利を取り消すよう要請することができます。この取り消しは、保護されていないコンテンツを再生する WM-DRM ソフトウェアの能力には影響がありません。インターネットまたはパソコンからセキュアコンテンツのライセンスをダウンロードするときはいつも、取り消された WM-DRM ソフトウェアのリストがデバイスに送られます。マイクロソフト社は、セキュアコンテンツオーナーに代わって、当該ライセンスとともに、取り消された WM-DRM ソフトウェアのリストをデバイスにダウンロードすることができます。

Windows Media Player Ver.11
マイクロソフト社が無料で提供しているメディアプレーヤーです。
Windows Media Player のバージョン 11 以降で作成されたプレイリストや WMA, DRM WMA, WAV ファイルなどが再生可能です。

WMA（Windows Media Audio）
米国 Microsoft Corporation によって開発された音声圧縮技術です。
WMA データは、Windows Media® Player Ver.7、7.1、Windows Media® Player for Windows® XP、または Windows Media® Player 9 Series を使用してエンコード（符号化）することができます。
WMA ファイルは、米国 Microsoft Corporation より認証を受けたアプリケーションを使用してエンコードしてください。もし、認証されていないアプリケーションを使用すると、正常に動作しないことがあります。

X

x.v.Color
色の表現がより正確になり、自然で生き生きとした映像を表現することが可能になります。
“x.v.Color”はソニーの登録商標です。

あ行

オートリップシンク
オートリップシンク機能対応のテレビと接続すると、映像と音声のずれを自動的に補正します。

さ行

サンプリング周波数
サンプリングとは、音の波（アナログ信号）を一定時間の間隔で刻み、刻まれた波の高さを数値化（デジタル信号化）することです。
1 秒間に刻む回数をサンプリング周波数といい、この数値が大きいほど原音に近い音を再現できます。

スピーカーインピーダンス
交流抵抗値のことでΩ（オーム）という単位であらわします。この値が小さいほど大きな電力が得られます。

ゾーン 2
本機は、本機が設置されている部屋（メインゾーン）以外の 1 つの部屋でも本機の再生をおこなうことができます（ゾーン 2 再生）。ゾーン 2 再生をおこなう部屋をゾーン 2 と呼びます。

ゾーン 3
本機は、本機が設置されている部屋（メインゾーン）以外のひとつの部屋でも本機の再生をおこなうことができます（ゾーン 3 再生）。ゾーン 3 再生をおこなう部屋をゾーン 3 と呼びます。

た行

ダイナミックレンジ
機器が出すノイズに埋もれてしまわない最小音と、音割れしない最大音との音量差のことです。

ダウンミックス
サラウンド音声のチャンネル数を、より少ないチャンネル数に変換して再生する機能です。

は行

プログレッシブ（順次走査）
映像の 1 フレームを 1 つの画像として表示する映像信号の走査方式です。インターレース方式に比べ画像のちらつきやにじみが少ない映像を再生できます。

保護回路
何らかの原因で過負荷や過電圧、高温状態などの異常が起きたときに、電源内部の部品が破損するのを防止する機能です。
本機では、異常発生時には電源表示が点滅し、スタンバイ状態になります。

ま行

メインゾーン
本機が設置されている部屋をメインゾーンと呼びます。

故障かな？と思ったら

- ❏ 各接続は正しいですか
- ❏ 取扱説明書に従って正しく操作していますか
- ❏ スピーカーやプレーヤーは正しく動作していますか

本機が正常に動作しないときは、次の表に従ってチェックしてみてください。
なお、この表の各項にも該当しない場合は本機の故障とも考えられますので、お買い上げの販売店にご相談ください。もし、お買い上げの販売店でおわかりにならない場合は、当社のお客様相談センターまたはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。

【共通】

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
電源が入らない。 または、入れてもすぐに切れる。	• コンセントへの電源プラグの差し込みを点検してください。 • 保護回路がはたらいています。このような場合、一度電源プラグをコンセントから抜き、5 ～ 10 秒後に再びコンセントに差し込んでください。	📖 9 148
ディスプレイの表示が消える。	• メニューの“ディスプレイの明るさ”設定を“消灯”以外の設定にしてください。	118
本機を使用中に突然電源が切れ、電源表示が約 2 秒間隔で、赤色に点滅している。	• 機器内部の温度上昇により、保護回路がはたらいています。一度電源を切って、本体の温度が十分下がってから、電源を入れ直してください。 • 本機を風通しの良い場所に設置し直してください。	– –
本機を使用中に突然電源が切れ、電源表示が約 0.5 秒間隔で、赤色に点滅している。	• 指定されたインピーダンスのスピーカーを使用してください。 • スピーカーケーブルの芯線どうしが接触したり、芯線が端子から外れたりして、芯線が本機のリアパネルに接触したため、保護回路がはたらいています。電源コードを抜き、芯線をしっかりとよじり直すか、端末処理をするなどしたあとで、接続し直してください。	📖 10、62 📖 10
電源を入れても、電源表示が約 0.5 秒間隔で、赤色に点滅している。	• 本機のアンプ回路が故障しています。電源を切り、当社の修理相談窓口までご連絡ください。	–
本機が正常に動作しない。	• マイコンを初期化してください。	152

【HDMI】

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
HDMI で接続したときに、音声が出力されない。	• HDMI 端子の接続を確認してください。 • HDMI の音声信号をスピーカーから出力するときは、メニューの“HDMI 音声出力”の設定を“アンプ”に設定してください。 • HDMI の音声信号をテレビから出力するときは、メニューの“HDMI 音声出力”の設定を“TV”に設定してください。	11 109 109
HDMI で接続したときに、映像が映らない。	• HDMI 端子の接続を確認してください。 • 接続した HDMI 端子に合わせて、入力ソースを設定してください。 • テレビが著作権保護（HDCP）に対応しているか確認してください。HDCP に対応していない機器を接続した場合、映像が正しく出力されません。	11 11、31 10
HDMI コントロール対応機器に次の操作をすると、本機も同じ動作をする。 • 電源のオン / オフ • 音声を出力する機器の切り替え • 音量の調節 • 入力ソースの切り替え	• メニューの“HDMI コントロール”⇨“コントロール”を“オフ”に設定してください。また、本機の電源オフを HDMI コントロール対応機器と連動させない場合は、メニューの“パワーオフコントロール”を“オフ”に設定してください。	71、109

【映像】

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
映像が映らない。	• 本機の映像出力端子とテレビの入力端子の接続を確認してください。 • 本機に接続したテレビの入力端子と入力設定を合わせてください。	📖 7 📖 7

【音声】

症　状	原　因／対　策	関連ページ
音が出ない。	• すべての機器の接続を確認してください。 • スピーカーの接続とスピーカー構成の設定を確認してください。 • 音声の接続をしている機器の電源が入っているか確認してください。 • 主音量を適切な大きさに調節してください。 • ミューティング（消音）モードを解除してください。 • 再生機器との接続を確認し、適切な入力ソースを選んでください。 • デジタル入力端子を割り当てた端子と入力モードを合わせてください。 • 本機の PHONES 端子からヘッドホンのプラグを取り外してください。ヘッドホンのプラグを挿入していると、スピーカーや PRE OUT 端子から音が出なくなります。	7、11、13、14、15、16、17、18、19、20、21、22、23 10、62、63、64、65、66、67 － 32、83 32、83 31、83 95 130
サラウンドスピーカーから音が出ない。	• SURROUND 端子にサラウンドスピーカーを接続しているか確認してください。	－
サラウンドバックスピーカーから音が出ない。	• メニューの"アンプの割り当て"設定で、サラウンドバックスピーカーを使用する設定になっているか確認してください。 • メニューの"スピーカー構成"⇨"S. バック"設定が"無し"以外になっているか確認してください。 • メニューの"サラウンドパラメーター"⇨"サラウンドバック"設定が"オフ"以外になっているか確認してください。 • サラウンドモードが"STEREO"および"VIRTUAL"以外になっているか確認してください。	106 106 100 53
フロントハイトスピーカーから音が出ない。	• メニューの"サラウンドパラメーター"⇨"PLⅡz Height"設定が"オン"になっているか確認してください。 • メニューの"アンプの割り当て"設定で、フロントハイトスピーカーを使用する設定になっているか確認してください。 • メニューの"スピーカー構成"⇨"フロントハイト"設定が"無し"以外になっているか確認してください。	100 106 106
サブウーハーから音が出ない。	• サブウーハーの接続を確認してください。 • サブウーハーの電源を入れてください。 • メニューの"スピーカー構成"⇨"サブウーハー"を"有り"に設定してください。 • メニューの"スピーカー構成"⇨"フロント"、"センター"の設定が"大"で、なおかつ"SW モード"の設定が"LFE"の場合は、入力信号やサラウンドモードによってサブウーハーから音声が出力されない場合があります。	10、62、63、64、65、66、67 － 106 106、107
DTS 音声が出力されない。	• メニューの"デコードモード"を"オート"または"DTS"にしてください。	95
Dolby TrueHD、DTS-HD、Dolby Digital Plus の音声が出力されない。	• HDMI で接続してください。	11
Dolby PLⅡ モードや DTS NEO:6 モードが選択できない。	• メニューの"スピーカー構成"⇨"センター"または"サラウンド"を"無し"以外に設定しているか確認してください。スピーカーシステムが 2.0/2.1 チャンネルの場合は選択できません。 • ヘッドホン使用時は、Dolby PLⅡ または DTS NEO:6 を選択できません。	106 －
Audyssey DSX™が選択できない。	• メニューの"スピーカー構成"⇨"フロントハイト"または"フロントワイド"を"無し"以外に設定しているか確認してください。 • メニューの"スピーカー構成"⇨"センター"を"無し"以外に設定しているか確認してください。 • サラウンドモードをドルビーリスニングモードまたは DTS リスニングモードに切り替えてください。 • ヘッドホン使用時は、Audyssey DSX™ を選択できません。	107 106 53 －
Audyssey MultEQ® XT、Audyssey Dynamic EQ® および Audyssey Dynamic Volume® が選択できない。	• サラウンドモードを"DIRECT"、"PURE DIRECT"以外に切り替えてください。 • ヘッドホン使用時は、Audyssey MultEQ® XT、Audyssey Dynamic EQ® および Audyssey Dynamic Volume® を選択できません。	53 －
Dynamic EQ および Dynamic Volume が選択できない。	• Audyssey® Auto Setup を実行してください。	24、68
RESTORER（リストアラー）が選択できない。	• アナログ信号または PCM 信号（fs=44.1/48kHz）が入力されているか確認してください。Dolby Digital や DTS サラウンドなどのマルチチャンネル信号の再生は RESTORER（リストアラー）を使用することができません。 • サラウンドモードを"DIRECT"、"PURE DIRECT"以外に切り替えてください。	104 53

【FM/AM チューナー】

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
受信できない。または、雑音や歪みが多い。	• アンテナの向きや位置を変えてください。 • 本機から AM ループアンテナを離してください。 • FM 屋外アンテナを使用してください。 • アンテナと他の接続ケーブルを離してください。	19 19 19 19

【iPod 用コントロールドック】

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
iPod が再生できない。	• iPod の接続を確認してください。 • iPod 用コントロールドックの AC アダプターをコンセントに挿入してください。 • 入力ソースを"DOCK"に切り替えてください。	17 – 31

【iPod/USB メモリー / インターネットラジオ / メディアサーバー /Flickr】

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
iPod が再生できない。	• USB 端子に iPod を直接接続して使用する場合、対応していない iPod があります。	18
ファイル名が"…"など、正しく表示されない。	• 本機で表示できない文字は、". (ピリオド)"に置き換えて表示します。	–
USB メモリーを接続したとき、メニュー画面に"USB"が表示されない。	• 接続不良などで、本機が USB メモリーを認識できない場合があります。接続を確認してください。 • 本機は、マスストレージクラスまたは MTP 対応の USB メモリーに対応しています。それ以外の USB メモリーは認識できません。 • 本機が認識できないデバイスを接続しています。すべての USB メモリーに対して、動作や電源の供給を保証するものではありません。 • USB ハブを経由した接続はできません。	18 – – –
USB メモリーのファイルを再生できない。	• USB メモリーのフォーマットを FAT16 または FAT32 に設定してください。詳しくは、USB メモリーの取扱説明書をご覧ください。 • USB デバイス内が複数のパーティションに別れている場合は、第 1 パーティション以外は再生できません。 • ファイルが対応しているフォーマット以外で記録されています。対応しているフォーマットで記録してください。 • 本機では、著作権保護のかかったファイルを再生することはできません。	– – 51 51

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
インターネットラジオが再生できない。	• イーサネットケーブルが正しく接続されていないか、ネットワークが切断されています。接続状態を確認してください。 • 対応していないフォーマットで放送されています。本機で再生できるインターネットラジオのフォーマットは MP3 と WMA のみです。 • パソコンまたはルータのファイアウォールがはたらいています。接続しているパソコンまたはルータのファイアウォールの設定を確認してください。 • ラジオステーションが放送を停止しています。放送中のラジオステーションを選んでください。 • IP アドレスが違っています。本機の IP アドレスを確認してください。	22 42 – 43 115
パソコンに保存してある音楽ファイルが再生できない。	• ファイルが対応しているフォーマット以外で記録されています。対応しているフォーマットで記録してください。 • 本機では、著作権保護のかかったファイルを再生することはできません。 • 本機の USB 端子は、パソコンと接続することはできません。	42 42 –
サーバーが見つからないか、サーバーに接続できない。	• パソコンまたはルータのファイアウォールがはたらいています。接続しているパソコンまたはルータのファイアウォールの設定を確認してください。 • パソコンの電源が入っていません。電源を入れてください。 • サーバーが起動していません。サーバーを起動してください。 • 本機の IP アドレスが正しくありません。本機の IP アドレスを確認してください。	– – – 115
プリセットまたはお気に入りに登録したラジオステーションに接続できない。	• ラジオステーションが放送を休止しています。しばらく時間をおいてやり直してください。 • ラジオステーションがサービスを停止しています。放送中のラジオステーションを選んでください。	– –
"ラジオステーションのサーバーが混雑しています"または"接続が途切れました"と表示され、接続できないラジオステーションがある。	• 放送局が混雑しているか、現在放送を休止しています。しばらく時間をおいてやり直してください。	–
再生中に、音が途切れることがある。	• ネットワークの通信速度が遅いか、通信回線またはラジオステーションが混雑しています。ビットレートの高い放送データを再生している場合や、通信の状況によっては、音が途切れることがあります。	–

次のページへ

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
音質が良くない。または再生中にノイズが入る。	• 再生しているファイルのビットレートが低いです。	–
ファームウェアのアップデートをおこなったあとに、ネットワークへの接続ができない。	• メニューの“ネットワーク設定”で、ネットワークへもう一度接続してください。	112

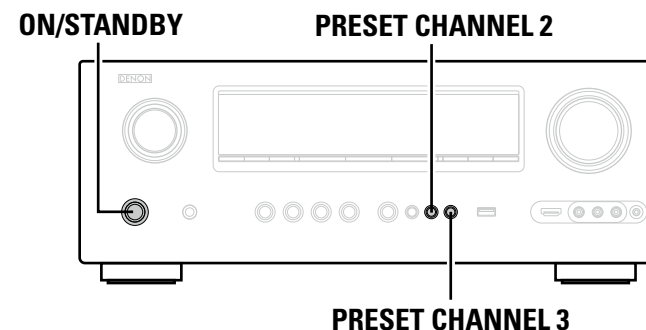
【AirPlay】

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
iTunes または iPhone/iPod touch/iPad 上に AirPlay のアイコン が表示されない。	• 本機とパソコンまたは iPhone/iPod touch/iPad が同一のネットワーク(LAN)に接続されていません。パソコンまたは iPhone/iPod touch/iPad を本機と同一の LAN に接続してください。 • iTunes または iPhone/iPod touch/iPad が AirPlay 対応のファームウェアではありません。最新のファームウェアにアップデートしてください。	22 118
音が出ない。	• iTunes または iPhone/iPod touch/iPad の音量が最小になっています。音量を適切な値に設定してください。 • iTunes または iPhone/iPod touch/iPad を起動したあとに表示される画面で本機を選択していません。iTunes または iPhone/iPod touch/iPad を起動し、表示された画面で AirPlay アイコン をクリックして、本機を選択してください。	– 76

【 リモコン 】

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
リモコンを操作しても、正しく動作しない。	• 乾電池が消耗しています。新しい乾電池と交換してください。 • リモコンは、本機から約 7m および 30° 以内の範囲で操作してください。 • 本機とリモコンの間の障害物を取り除いてください。 • 乾電池の ⊕ と ⊖ を正しくセットしてください。 • 本機のリモコン受光部に強い光(直射日光、インバーター式蛍光灯の光など)があたっています。受光部に強い光があたらない場所に設置してください。 • 操作するゾーンの設定が合っていません。**ZONE SELECT** を押して、操作するゾーンを選んでください。 • 操作モードと操作したい機器の設定が合っていません。操作モードを確認してください。	134 134 134 134 134 122 122

マイコンの初期化

表示が正しくない場合や操作ができない場合などにおこないます。
マイコンを初期化すると、各種設定内容がすべてお買い上げ時の設定になります。

1 **ON/STANDBY を押して、電源を切る。**

2 **PRESET CHANNEL 2 と PRESET CHANNEL 3 を同時に押しながら、ON/STANDBY を押す。**

3 **ディスプレイの表示が約 1 秒間隔で点滅したら、2 つのボタンから指を離す。**

手順 3 でディスプレイの表示が約 1 秒間隔で点滅しない場合は、手順 1 からやり直してください。

保証と修理について

❏保証書について

この製品には保証書が添付されております。保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの上、大切に保管してください。

保証期間はご購入日から 1 年間です。

保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。
詳しくは保証書をご覧ください。

ご注意

保証書が添付されない場合は、有料修理になりますので、ご注意ください。

保証期間経過後の修理

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料修理致します。
有料修理の料金については、「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」に記載の、お近くの修理相談窓口へお問い合わせください。

❏修理を依頼されるとき

修理を依頼される前に

- 取扱説明書の「故障かな？と思ったら」の項目をご確認ください。
- 正しい操作をしていただけずに修理を依頼される場合がありますので、この取扱説明書をお読みいただき、お調べください。

修理を依頼されるとき

- 添付の「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」に記載の、お近くの修理相談窓口へご相談ください。
- 修理を依頼されるときのために、梱包材は保存しておくことをおすすめします。

❏依頼の際に 連絡していただきたい内容

- お名前、ご住所、お電話番号
- 製品名 ……… 取扱説明書の表紙に表示しています。
- 製造番号 … 保証書と製品背面に表示しています。
- できるだけ詳しい故障または異常の内容

❏補修部品の保有期間

本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後 8 年です。

❏お客様の個人情報の保護について

- お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- この商品に添付されている保証書によって、保証書を発行している者（保証責任者）およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

主な仕様

❑ オーディオ部

• パワーアンプ部

定格出力：	フロント： 125W+125W（負荷 8 Ω、20Hz～20kHz T.H.D 0.05%） 165W+165W（負荷 6 Ω、1kHz T.H.D 0.7%） センター： 125W（負荷 8 Ω、20Hz～20kHz T.H.D 0.05%） 165W（負荷 6 Ω、1kHz T.H.D 0.7%） サラウンド： 125W+125W（負荷 8 Ω、20Hz～20kHz T.H.D 0.05%） 165W+165W（負荷 6 Ω、1kHz T.H.D 0.7%） サラウンドバック / フロントハイト / フロントワイド： 125W+125W（負荷 8 Ω、20Hz～20kHz T.H.D 0.05%） 165W+165W（負荷 6 Ω、1kHz T.H.D 0.7%）
実用最大出力：	フロント： 195W+195W（負荷 6 Ω、1kHz T.H.D 10%、JEITA） センター： 195W（負荷 6 Ω、1kHz T.H.D 10%、JEITA） サラウンド： 195W+195W（負荷 6 Ω、1kHz T.H.D 10%、JEITA） サラウンドバック / フロントハイト / フロントワイド： 195W+195W（負荷 6 Ω、1kHz T.H.D 10%、JEITA）
ダイナミックパワー：	130W × 2 チャンネル（負荷 8 Ω） 190W × 2 チャンネル（負荷 4 Ω）
出力端子：	6～16 Ω

• アナログ部

入力感度 / 入力インピーダンス：	200mV/47k Ω
周波数特性：	10Hz～100kHz：+1、–3dB（DIRECT モード時）
S/N 比：	102dB（IHF-A、DIRECT モード時）
ひずみ率	0.005%（20Hz ～ 20kHz）（DIRECT モード時）
定格出力	1.2V

• デジタル部

D/A 出力	定格出力：2V（0dB 再生時） 全高調波ひずみ率：0.008%（1kHz、0dB） S/N 比：102dB ダイナミックレンジ：100dB
デジタル入力	フォーマット：デジタルオーディオインターフェース

• フォノ・イコライザー部（PHONO 入力　REC OUT）

入力感度：	2.5mV
RIAA 偏差：	± 1dB（20Hz～20kHz）
S/N 比：	74dB（JIS-A、5mV 入力時）
ひずみ率：	0.03%（1kHz、3V 出力時）
定格出力：	150mV

❑ ビデオ部

• 標準ビデオ端子

入出力レベル / インピーダンス：	1Vp-p、75 Ω
周波数特性：	5Hz～10MHz：0、–3dB （メニューの"ビデオコンバート"設定が"オフ"のとき）

• コンポーネントビデオ（D）端子

入出力レベル / インピーダンス：	Y（輝度）信号：1Vp-p/75 Ω PB/CB（青色）信号：0.7Vp-p/75 Ω PR/CR（赤色）信号：0.7Vp-p/75 Ω
周波数特性：	5Hz～60MHz：0、–3dB （メニューの"ビデオコンバート"設定が"オフ"のとき）

❑ チューナー部

• FM 部

受信周波数範囲：	76.0MHz～90.0MHz
アンテナ端子：	75 Ω
実用感度	1.2 μ V/75 Ω（12.8dBf）
S/N 比：	モ　　ノ：72dB（IHF-A、DIRECT モード時） ステレオ：67dB（IHF-A、DIRECT モード時）
ひずみ率	モ　　ノ：0.3%（1kHz、100% 変調時） ステレオ：0.7%（1kHz、90% 変調時）

• AM 部

受信周波数範囲	522kHz～1629kHz
アンテナ	ループアンテナ（付属）
実用感度	18 μ V

❑ 総合

電源：	AC 100V、50/60Hz
消費電力：	670W（電気用品安全法による） 0.1W（スタンバイ時） 2.2W（CEC スタンバイ）

＊ JEITA：（社）電子情報技術産業協会（略称：JEITA）が制定した規格です。

• 仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。
• 本機を使用できるのは日本国内のみで、外国では使用できません。
• 本機は国内仕様です。
必ず AC 100V のコンセントに電源プラグを差し込んでご使用ください。AC 100V 以外の電源には絶対に接続しないでください。

索引

☞ し

☞ す

☞ せ

☞ そ

☞ た

☞ ち

☞ て

☞ と

☞ に

☞ ね

☞ は

☞ ひ

☞ ふ

☞ へ

☞ ほ

☞ ま

☞ み

☞ め

☞ も

☞ ら

☞ り

☞ る

寸法

単位：mm

質量：11.8 kg

DENON

デノンお客様相談センター

☎ 044-670-5555

【電話番号はお間違えのないようにおかけください。】

受付時間　9：30 ～ 12：00、12：45 ～ 17：30
（当社休日および祝日を除く、月～金曜日）

〒210-8569　神奈川県川崎市川崎区日進町 2 番地 1　D&M ビル 3F

故障・修理・サービス部品についてのお問い合わせ先（サービスセンター）については、次の当社ホームページでもご確認いただけます。

http://denon.jp/jp/support/pages/servicecenter.aspx

株式会社 ディーアンドエムホールディングス

V00

3520 10054 002DA